

増訂 ウイルタ口頭文芸原文集

Publications on Tungus Languages and Cultures 16

UILTA ORAL LITERATURE

A Collection of Texts

translated and annotated

by

Jirô IKEGAMI

Revised and Enlarged Edition

2002

ツングース言語文化論集 16

増訂 ウイルタ口頭文芸原文集

池上 二良 採録・訳注

平成 14 年

序

サハリン(カラフト)のウイльта(旧称オロツコ)族は文字をもたなかった。そのはなすウイльта(旧称オロツコ)語は文字がないので、すべて口頭によった。したがってウイльта族が言語によってうみだす文芸というものは、すべて口頭におけるものであり、ウイльта人によって書かれることがなかった。

ウイльта族の口頭文芸には、少なくとも南の地方では、つぎのいくつかの種類(ジャンル)がある。¹⁾

1. テールグ(təəlugu) これは、いいつたえ、伝説、むかしばなしである。テールグには、たとえば、ウイльта人とアイヌ人とのたたかいのいいつたえやある人物の逸話、あるいはおおおとこ(kaljami)やばけもの(amba)などの妖怪にであったはなし、きつねにばかされたはなしなどがある。テールグは、ウイльта人によってその内容が実際にあったことと信ぜられ、実話とかがえられているようである。

2. サフリ(saxuri) これはものがたり、おとぎばなしである。これには動物を擬人化したはなしもある。ウイльта人は、サフリをその内容が架空であるつくりばなしとかんがえているようである。サフリの形式的特徴は冒頭に daa xajilaččee のことばをおいてはじまることである。

3. ニグマー(nigmaa) これは語りものである。語りの部分とふしをつけてうたう部分とからなる。前者はウイльта語、後者はキーリン語(エウエンキー語の一方言)である。ニグマーはキーリン人からつたえられたものであろうが、一篇のながさもながく、ウイльта族の口頭文芸では重要なものである。ニグマーのことは本書の3にもあらわれる。

サフリとニグマーが語られる際には、語りてが語るきれめきれめに、これをきくききてがあいのてに gəə という発声をする。テールグにおいてはこれがない。

4. なぞなぞ(gajau) なぞ問答において、なぞをかけるはじめに gan gan gajawoo のことばをおく。

5. ハーガ(xəəgə) これは歌謡であり、即興歌といえよう。その場かぎりできえずに伝承されてきたハーガの採集されたかずはすくない。²⁾ 冒頭および末尾に、また中間において節のおわりに gənnəngəkkə gəənənə の句があらわれる。

しかしこのほかにこどものためのはなしとうたがある。これらが口頭文芸のうちでも上にあげたものとはまた別の種類をなすことはこれらの篇の提供者もみとめており、童話、童謡とよぶことができよう。なお子もり歌もこの童謡の一つとみられよう。

北の地方でも、またこれらのジャンルが立てられよう。しかし、おとなの歌謡には xəəgə と異なる別のジャンルも立てられるだろう。

ウイльта語は、ほぼ北緯 50 度を境として、南サハリンのポロナISK(敷香)を主要点としてふくむ地方のウイльтаが話す南方言と北サハリンのワール村を主要点としてふくむ地方のウイльтаが話す北方言に大別されよう。

本編は、3 部に分けられている。第 1 部は南方言の資料である。第 2 部は、やはり南方言である 5, 6, 7, 8, 14, 15 番を除くと、すべて北方言の資料である。なお、第 3 部の 1, 2, 3 番は、第 1 部の 12, 4, 11 番と同じ語り手が語った同じ話の別の原文である。ただし、4 番の原文は第 1 部の 19 番と同じである。第 3 部はウイльта語テキストの英訳を付してある。

なお、ここに掲載するウイльта語原文のうち、第 1 部の 28 番、第 2 部の 16 番は

はじめて発表するものであるが、他の原文はすでに発表したものの再録である。初出は本文末尾に記す。ウイльта語原文はすべて音声 CD に複製して付録とする。

本研究の資料採集は多年の文部省科学研究費補助金を受けておこなった。本書の刊行に際して、北海道大学教授津曲敏郎氏と小林香与さんの尽力を得たことを深く感謝する。

注

- 1) 山本祐弘『北方自然民族民話集成』(東京 相模書房 1968 年)も参照。
- 2) オロコ語で採集された *xəəgə* の 1 編は川村秀弥『土語と土俗』(稿)(『川村秀弥採録カラフト諸民族の言語と民俗』(池上二良編)(昭和 57 年度ウイльта民俗文化財緊急調査報告書 5)札幌・網走 1983, 41-43 ページ)にのる。

Summary

The Uiltas (=Oroks) inhabit Sakhalin and speak Uilta (=Orok), a Tungus language. They have no script. Accordingly they have no written literature, only an oral one. In the region of the southern dialect of Uilta it comprises the following kinds :

1. *təəlunū* — a tradition or a legend. Among them we find, for instance, a tradition of the conflict between Uiltas and Ainus, anecdotes about famous figures, stories of a giant (*kalʹjami*), stories of devils (*amba*) and the story of enchantment by a fox. The Uiltas seem to believe that the *təəlunū* are true stories.
2. *saxuri* — a story or a fairy tale, e. g., stories of personified animals. It seems that the Uiltas think *saxuri* are fictitious stories. Every *saxuri* begins with the introductory phrase *daa xajʹilačʹee*.
3. *niymaa* — a recited story. This consists of the successive alternation of two parts, one in Uilta and the other in Kilin, a dialect of Evenki. Only the Kilin part is recited to a tune.

During the telling of *saxuri* or *niymaa* the audience puts in the interjectory word *gəə* at the end of every paragraph.

4. *gajau* — a riddle. This opens with the introductory phrase *gaŋ gaŋ gajawoo*.
5. *xəəgə* — an improvised song. At the beginning of a *xəəgə* and at the end of each stanza of a *xəəgə* the line *gənnəŋgəkkə gəənənə*, or one of its prolonged variants, appears.

In addition, the Uiltas have nursery tales and songs. The cradle song seems to be one of the nursery songs.

目 次

序	i
第 1 部	
まえがき	1
昔 話 (təəluŋu)	
1 火の神	2
2 虎のばけもの	4
3 きつね	7
4 廃物から化した悪魔	10
5 廃物から化した悪魔	11
6 カルジャメ (おおおとこ)	16
7 ナルンゲーヌ	19
8 ショクショーヌ	26
9 シャラ	32
10 バビリナイ	40
11 アイヌとウイルタのたたかい	45
おとぎ話 (saxuri)	
12 きつね	49
13 からすとわたりがらす	52
14 マーシとマギとボート	54
15 ふいごのおなかのばあさん	56
16 アルガッチャとプクシャガ	62
17 ゲオハート	66
語り物 (niŋmaa)	
18 シーグーニ物語 〈冒頭部分〉	81
なぞなぞ (gajau)	
19 なぞなぞ 1-12	85
童 話	
20 ねずみの母親とかえるの母親	87
21 とりたちといなくなったこども	92
童 謡	
22	96
子もり歌	
23	97

即興歌 (xəəgə)		
24	ハーガ I	98
25	ハーガ II	99
26	ハーガ III ^K	100
27	ハーガ III ^N	101

昔話		
28	くずり (食肉目の獣) のぼけもの	102

第 2 部

まえがき		107
1	くま祭りの思い出	108
2	オンゲーガ	109
3	老人のつくってくれた舟で無事帰った漂流者	110
4	石になった妻	115
5	叙情歌 1	122
6	叙情歌 2	123
7	叙情歌 3	123
8	叙情歌 4	124
9	叙情歌 5	125
10	叙情歌 6	126
11	そりをつくってワールへ行こう	127
12	おれもいっしょに連れて行け	127
13	踊ろう 踊ろう	128
14	客をもてなす歌	131
15	子もり歌	132
16	連れ去られた妻をとり返した話	132

第 3 部 (英文)

まえがき		139
1	きつね	139
2	悪魔のしわざ	142
3	アイヌとウイльтаのたたかい	143
4	なぞなぞ	146

Contents

Foreword	i
 Part One	
Preface	1
 <i>Təəluŋu</i>	
1 The God of Fire	2
2 Tiger Devils	4
3 A Fox	7
4 Devils' from Abandoned Articles	10
5 Devils' from Abandoned Articles	11
6 <i>Kaljami</i> (A Giant)	16
7 <i>Narungeenu</i> who Defeated <i>Kaljami</i>	19
8 <i>Səksəənu</i> , the Man who Could See through Deep Water	26
9 <i>Sələ</i> 's Revenge on a Sea Lion for His Son's Death	32
10 <i>Bəbirinəi</i> , the Strong Man who Met a Stronger Man in Sakhalin	40
11 The Conflict between Ainus and Uiltas	45
 <i>Saxuri</i>	
12 A Fox	49
13 The Settled Crow and the Wandering Crow	52
14 The Idols <i>maasi</i> , <i>maŋi</i> and <i>bəətə</i>	54
15 The Witch with a Belly Made of Bellows	56
16 <i>Argačča</i> , the Swindler and <i>Puksəŋə</i> , the Foolish Imitator	62
17 The Adventures of <i>Geuxaatu</i> , a Poor Man who Eventually Acquired Two Wives and Two Towns	66
 <i>Niŋmaa</i>	
18 The Story of <i>Siiŋuuni</i> (the beginning)	81
 <i>Gajau</i>	
19 Riddles 1 -12	85
 Nursery Tales	
20 The Mother of Rats and the Mother of Frogs	87
21 Birds and the Lost Child	92
22 A Nursery Song	96
23 A Cradle Song	97

Folk Songs		
24	A Folk Song, an Old Improvisation (xəəgə) I	98
25	A Folk Song, an Old Improvisation (xəəgə) II	99
26	A Folk Song, an Old Improvisation (xəəgə) III ^K	100
27	A Folk Song, an Old Improvisation (xəəgə) III ^N	101
<i>Təəluŋu</i>		
28	<i>Ailiga</i> , a Beast of Prey	102

Part Two

Preface	107
1 Recollections of the Bear Festival in My Childhood	108
2 The Witch <i>Oŋgeəŋa</i>	109
3 The Return of the Marooned Seal Hunting Brothers Helped by a Strange Old Man	110
4 The Uilta Wife Who Changed into a Stone	115
5 A Lyrical Song 1	122
6 A Lyrical Song 2	123
7 A Lyrical Song 3	123
8 A Lyrical Song 4	124
9 A Lyrical Song 5	125
10 A Lyrical Song 6	126
11 Shall We Make a Sledge and Go to Val	127
12 Take Me with You	127
13 Let's Dance! Let's Dance!	128
14 A Song of Welcome	131
15 A Cradle Song	132
16 Two Uiltas Who Took Back Their Kidnapped Wives	132

Part Three (in English)

Preface	139
1 A Fox	139
2 Devils' Doing	142
3 The Conflict between Ainus and Oroks	143
4 Riddles	146

第 1 部

まえがき

第1部のウイльта語原文は、1955年から1959年にかけておよび1966年に、北海道上尾幌，網走および東京において北海道在住のウイльта族出身者三人の方がたから磁気録音器によってテープに録音したものである。ほかに、1949年から1954年にわたり口述を筆記した原文もときに参照のため引用される。三人ともウイльта語と日本語をはなす。そのうち佐藤チヨ(Napka)さんと中川カヨさん(Nuuči Sөөkto xalani 小ショークト氏族)のふたりの婦人はともに1910年ごろ南カラフト(佐藤さんは留久玉，中川さんは敷香海岸)に生まれ、1947年まで南カラフトに住んでいたが、同年北海道へ引揚げ者として移住した。北川五郎(Görgulu)さん(Daaxinneeni xalani ダーヒの者の氏族)は1897年ごろ南カラフトの留久玉に生まれ、のち野頃，オタスにうつったが、1958年北海道へ引揚げ者として移住した。中川さんと北川さんは1978年に、佐藤チヨさんは1985年に亡くなられた。

ウイльта語原文は、音韻記号によって表記し、逐語的に日本語訳をそえてしめす。¹⁾

表記については、それだけで語形をなすと思われない断片的な音は表記しない。しかしそうした音でも、ある語形の言いそこないとみられるものは表記して注をつけたが、ただしその語が正しい形ですぐあとにあらわれる場合やその語がよけいな語であるとみられる場合は表記しない。なおある語形のはじめの一部とみられる音は表記した。

なお注記で、ある語がよけいな語であるとか、ある語のかわりに別のある語があるのがよいと記してあるのは、発話を結果的にみた上のことである。それは話し手の言いあやまりによる場合もあるが、また話し手が発話中にその語とつぎの語とのあいだで表現のしかたや内容を変更したことによって文脈上前後が結びつかぬ場合もあると考えられる。

うたと語りものうたう部分は、いずれもふしをつけてうたった発音によって表記したものであるが、ウイльта語原文の語中の[]のなかの音素は、うたわれるときある音が通常の発音におけるより余計にながくのばされた部分に該当し、本来の語形にならない部分である。それぞれの語は通常の発音では[]のうちの部分をとった形となる。

ウイльта語においては、語形のおわりの部分が、語連続の際、特にあとに他の語が連続し、はやく発音されるときなどに、粗略に発音されて脱落することがしばしばある。その場合、つぎに来る語の頭の子音と調音点が同じか、またはこれに近い先行する語の子音以下またはそのあとの部分が省略されることも多い。語末の i は特に脱落する。

koŋgor (12 の 49 ページ 7 行) = koŋgori (ふいりあざらし)

um (12 の 50 ページ 9 行) = umi (言いながら)

puttəb (5 の 11 ページ 9 行) = puttəbi (自分のこどもを)

gorop (11 の 48 ページ 7 行) = goropči (むかしの)

その他の例をあげると、

jee (6 の 18 ページ 2 行) = jeejji (自分のあいぼうに)

geed (6 の 18 ページ 4 行) = geedara (一度)

tuttau (3 の 9 ページ 1 行) = tuttauxani (かれが逃がした)

なお ddaa (3 の 8 ページ 7 行) では xaiddaa (なにか) のはじめの部分が脱落している。

脱落した音の直前の t は、しばしば t となる、例 mooluutudut (11 の 47 ページ 14 行) = mooluutuduči (かれらのまきとり場で)、mapaat (12 の 51 ページ 8 行) = mapaačča (じいさん)。

しかし、第 1 部の 18 を除くすべての原文は、発音上省略された部分を、それを発音した本人にたずね、なお 3, 5-10, 28 の原文については佐藤チヨさんにもたずねて、イタリック体の文字で表して補い加えてある。

なお、t, d のあとに i が来る ti, di の表記は、正しくはそれぞれ či, ĵi とあるべきもので、このように読みかえていただきたい。また、t のあとに ě が来る tč, d のあとに ĵ が来る dĵ の表記は、本書の表記ではそれぞれ čč, ĵĵ とすべきところである。(上を参照。)

これらのはなしをきかせて下さり、種々の点について教示をいただいた故北川五郎 (Görgulu) さん、故佐藤チヨ (Napka) さんと故中川カヨさん、ならびに録音、表記、翻訳に協力して下さった故中川和四郎 (Jəuriŋənu) さん、故小川明 (Unigara) さん、故北川アツ子さん、その他の方がたに深く感謝の意を表わし、亡くなられた皆様の御冥福をお祈りする。

注

1) オロッコ語の音韻・文法 (形態論的分析) については下記の拙文を参照されたい。

池上二良 「ウイльта語の発音概略」「ウイльта語の音韻と発音」(『ウイльта語辞典』札幌北海道大学図書刊行会 1997 年 xi, xii-xxi ページ)

——— 『ツングース語研究』(東京 汲古書院 2001 年) 1-135 ページ

Summary

The present Uilta texts were collected by the present writer in Hokkaido from three Uiltas. Mr. KITAGAWA Gorô (Görgulu), Mrs. SATÔ Chiyo (Napka) and Mrs. NAKAGAWA Kayo, who speak both Uilta and Japanese. These two Uilta women were both born about 1910 in southern Sakhalin and immigrated to Hokkaido in 1947. Mr. KITAGAWA was born about 1897 in southern Sakhalin and immigrated to Hokkaido in 1958. They passed away, Mr. KITAGAWA and Mrs. NAKAGAWA in 1978 and Mrs. SATÔ in 1985. The present writer recorded these texts on magnetic tape in 1955-1958 and 1966, and presents them here with the Japanese verbatim translation.

In Uilta a word-final phoneme, especially i, or word-finals which exist in a word said by itself are often dropped when the word is said together with other words, especially in fast speech before another word. The following are examples from the present texts.

koŋgor = *koŋgori* 'a kind of seal', *um* = *umi* 'while saying',

puttəb = *puttəbi* 'one's own child', *gorop* = *goropčĭ* 'old-time',

Besides, *t* appears often instead of *č* which is immediately before the dropped word-final or word-finals. E.g., *mapaat* = *mapaaččĭa* 'old man', *moolootudut* = *moolootudučĭ* 'at their fire-wood cutting place'.

In the present texts dropped sounds are represented in italics. *ti* represents *či*, *di* represents *ĵi*, *tč* represents *čč*, and *dĵ* represents *ĵĵ*.

1. 火の神

佐藤チヨ(Napka)口述

goropčĭ	təənu.	asimuna	nari	purəttəi ¹⁾	bəiŋdəxəniŋdəə.
ふるい	むかしばなし。	妻をつれた	ひとが	やまへ	猟に行ったんだと。

bəiŋdəgəčči čii biččinindəə. xaiddəə bəjəmbəni mastaa baramba
 獵に行つて ずうつと いたと。 どんなけだものをも 大変 たくさん

waaganinda. andailli nari nimərixəninndəə. təjəbuŋgi
 とつたと。 そのひとのともだちである ひとが あそびにきたと。 御馳走するために

geeda wəŋgaiwa²⁾ waaxanindaa. bargixanindaa. bargigačči
 一匹の 子をうまないめすとなかいを ころしたと。 食事の支度をしたと。 支度して

təjəxəninndəə. mittəi dulləə əŋŋee bəərə uččinindəə. tawatakki dulləə
 御馳走したと。 「おれに さき くれるな」 と 言ったと。 「自分の火へ さき

bəeru.³⁾ əsiwi bəərə uččinindəə. məənə dəpčiwi. munalisiwi.
 やれ。」 「おれはやらない」 と 言ったと。 「自分で おれは食う。 おれはおいしい。」

tari nari čaa dolbonne čadu aundaxanindaa. geeda mama unjiwəni
 その ひととは その よる そこに とまったと。 ひとりの 老婆が 言うのを

tolčičixanindaa. xaiwaddaa gapeedaa xaiwaddaa waapeedaa mittəi
 ゆめにみたと。 「なにか 買つても なにか とつても わしに

əččeeli bəərə. xumanami ələə bujiwi. čimanaa sindu
 まだくれたことがない。 やせて もうすこしで わしは死ぬ。 あす おまえと

gəəə ŋənneləmi. isumi itəttəərii. əri duxu gəəm
 一緒に わしは行こう。 かえつてきて あとでみろ。 この いえは 全部

taullillaa. seeltəə punəktəə omi taullillaa
 火事でやけるだろう。 炭と 灰とに なつて 火事でやけるだろう」 と

unjiwəni tolčičixanindaa tari nari. čimanaani čimai təəgəčči
 それが言うのを ゆめにみたと、 その ひととは。 翌日 あさ おきて

ŋənəxəninndəə. geedara aundagačči isuxanindaa. tədəddəə tari duxu
 行つたと。 一晩 とまつて かえつてきたと。 本当に その いえは

gəəm anaanda. laxəə isuwačči itəxəninndəə. seeltəə punəktəə
 全部 ないと。 ずっとちかくまで かえつてきて みたと。 炭と 灰とに

omi gəəm tauluxanindaa. čikəə biččindəə goropči təəluŋu.
 なつて 全部 火事でやけたと。 それだけだつたと、 ふるい むかしばなしは。

佐藤チヨさんから 1955 年録音した。このはなしは佐藤さんがムイガッタ氏族 (Muigatta xalani) の Loŋiŋgeenu (別名 Amunaana, Kanda) からきいたものであるという。

1) purə は住居のある場所に対して生活資料をうる山野 (やま) をいう。

2) wəŋgai 《不妊のめすとなかい》はふとつていてその肉がおいしい。

3) 火の神 (tawa ədəni) にそなえる意 (佐藤による)。主人は火の神にそなえるのをおしんだばちで火事にされた。

2. 虎のばけもの

佐聴チヨ(Napka)口述

goropči ふるい	təəlunu. むかしばなし。	geeda ひとりの	mapaačča じいさんが	puttəmunə 自分のこどもと	purəttəi やまへ
putandaxanindaa ¹⁾ . わなをかけに行ったんだと。	geeda ある一つの	unnee 川を	solomi さかのぼって	tari その	uni 川の
dərəmbəni みなもとに	aaptuxanindaa. ついたと。	puttaa わなを	putaxanindaa. かけたと。	puttəni かれのこどもは	xaiddəə どんな
ambambani ばけものをも	gəəm みんな	jaasixanindaa. よわいとみていたと。	narijiddaa 「人間も	əsiwi おれはこわくないし	ŋəələrrəə
ambanjiddaa ばけものも	əsiwi おれはこわくない。」	ŋəəlləə.	kalaŋarree 獵小屋を	andučičindaa. かれらはつくつたと。	kalaŋarree 獵小屋を
anduwəččeeri つくつて	akpaččičindaa. かれらはねたと。	čimanaani 翌日	čimai あさ	təəgəččeeri おきて	itəəčində. かれらはみたと。
xaiddaa なによりも大きい	jiini 虎の	duusə ばけものが	uttəəni そのこやの戸口を	lip ぴっしやりと	likpixənindəə. とじたと。
xooniddaa なんとかしようとしても	xaijitamari かいなく	idamari 三晩	ilaalta かれらはとまつたと。	aundaačinda. 三日めの	illee
dolboniŋulli よるに	tolčičixandaa ゆめをみたと、	tari その	mapaačča じいさんが	tari その	amba ばけものが
unjiwəni. いうのを。					
mapaačča 「じいさんよ	sindulələkkə おまえには	xaiddəə なんにも	baitala わるくおもうことが	anakki. おれはない。	ojuukanji すこし
niirittəə. あげよう。	jəkki ここから	nəəduṭtəəri. あとででてこい。」	čimanaani 翌日	čimai あさ	təəgəčči おきて
itəxənindəə. みたと。					
	ojuukanji すこし	niixənindəə あげたと、	tədəddəə. 本当に。	mapaačča じいさんは	čakki そこから
sula さつとこ	jobomi 苦労して	nəəduxənindəə. でてきたと。	čakki じいさんが	nəəduxəni そこから	xamarakkeeni でてきた
					あと
xooniddaa なんとかしようとしても	xaijitami かいなく	idami 自分のたばこ入れのふくろへ	padutakki 葉たばこを	maŋbu saŋnambani ²⁾	
čakkagəə いっぱい	pəkpuxəndəə こなにしたと、	tari その	puttə. こどもは。	amba ばけものの	jiiliduni あたまたに
taaččinindaa. あがったと。					
pəəjəduni そのひたいに	taaččinda. あがったと。	saŋnaŋubi 自分のたばこを	pəəkčirəxəndəə. まいたと。	isaltaini ばけものの	目へ

čakkaa iixənində. utəni tulleekeeni pee laapani
 いっぱい はいったと。 そのこやの戸口の そとに しらかばの 木のまたが

biččinində. tari laapa uwweekkeeni dərīččinində tari puttə.
 あったと。 その 木のまたの 上を はねてとんだと、 その こどもが。

tari xamarakkeeni tari amba dərīččinində. pee laapattaini
 その あとを その ばけものが はねてとんだと。 しらかばの 木のまたへ

dəs dəskərexənində. puttə jaajamii mөө
 きゅつと はさまったと。 こどもの方は うたをうたいながら みずを

mөөličinində. mөө mөөligəətčī dəptubujji bargixanda.
 なんどもくんだと。 みずを なんどもくんでから 食事するため 支度したと。

dolboduxanindaa. akpaččini. dolbo tolčičixanindaa tari amba
 よるになったと。 ねむった。 よる ゆめをみたと、 その ばけものが

unjiwəni. əsiləkkəə sinji bultai dabdaxambi. mimbee xuriroo.
 いうのを。 「いまこそ おまえに すっかり まけた。 おれを たすけてくれ。

simbee čimanaa məənə naatakki gaǰǰlami. čimai təəxənində. čimai
 おまえを あす 自分の 土地へ つれて行こう。」 あさ おきたと。 あさ

təəgəčči čaa ambamba atuxanindaa. xurixani. naatai tugbuxəndə tari
 おきて その ばけものを はずしたと。 たすけた。 地へ おろしたと、 その

puttə. puttə baaruni itəpəčirrəə attambi ilərrəə
 こどもが。 こどもの 方を なんどもみたり 自分のせなかを なめたり

oččinindaa.³⁾ amba attenduni uuxaninda. čii ɣənuxənində tari
 したと。 ばけものの せなかに のったと。 はるばる かえったと、 その

amba. čii ɣənumi məənə dugbi aaptuduxandaa. duktakki
 ばけものが。 はるばる かえって 自分の いえに かえりついたと。 自分のいえへ

iiwuxəndə čaa puttə. amba amini mapaačča biččinində.
 いれたと、 その こどもを。 ばけものの ちちおやである じいさんが いたと。

nilau narree ǰaasigačči xaibuǰǰi gorolon naatai
 「毛のはえていない 人間を あまくみていて なにしに とおい 土地へ

pinaladuwačči gaduwasiga uččinində. tari amba xujunnee
 しょつてもどつて つれてきたか」 と 言ったと。 その ばけものは 九人

balǰxa narindaa. čimanaa ambattai
 うまれた（九人兄弟の）ひとだと。 あす 別の ばけものと

sorindabuddoori akpaččičindaa məənə məənə xudutəkkeeri
 けんかをしに行くために かれらはねたと、 めい めい 自分のしっぽを

čireləməri. čimanaani čimai təəgəččeeri ɲənəəčindəə čaa narree
 まくらにして。 翌日 あさ おきて かれらは行つたと、 その 人間を
 pinalagaččeeri oronmori. ɲənəgəččeeri xujunnee xujumbə tawwaa iwaččičindaa.
 しょって つれて。 行つて 九人が 九つの 火を たいたと。
 čadu amba sindaxanda.⁴⁾ gidaʃi gidamari sorigačindaa.
 そのとき ばけものが きたと。 やりで さしながら かれらはたたかったと。
 tari amba ambanʃi dabdaačindaa. nilau narree
 その ばけものは 相手の ばけものに まけたと。 毛のはえていない 人間を
 xəwəčixənindəə. nilau nari ɲənəgəčči gəəm gidaʃi gidami
 よんだと。 毛のはえていない 人間が 行つて みんな やりで さして
 waaxanindaa. duktakki isuxanindaa. pundadubi bəəxənindəə
 ころしたと。 自分のいえへ かえつてきたと。 自分のいもうとを くれたと、
 nilau naritai. amba pundaddooni gadumi naatakki
 毛のはえていない 人間へ。 ばけものの いもうとを つれて 自分の土地へ
 isuxanindaa miirəmbudumi. čikəə biččindəə goropči
 かえつてきたと、 よめさんにもらつてつれて。 それだけだったと、 ふるい
 təəluŋu.
 むかしばなしは。

佐藤チヨさんから 1955 年録音した。このはなしは佐藤さんが自分の父からきいたもので、オルチャ人に由来するものだろうという。虎のばけもの(duusə ambani)とは amba《ばけもの、魔もの、悪魔、妖怪》の一種である。その他種々の amba がある。čagdu ambani については本書の 4, 5 参照。また日本語によるコヨーチ・アンバというはなしとアンバのもう一つのはなしが服部健「南樺太民譚集(一・二)」(『樺太時報』48, 49 1941 年)にのる。なお服部健「ギリヤークの神々と悪魔」(『北方文芸』4 1942)6, 7 ページも参照。kaljami(本書の 6, 7 参照)は北川さん、中川さんによれば amba であるが、佐藤さんによれば amba ではない。

- 1) puta《わな》は小川にわたした丸木の上に仕掛け、おもに貂をとり、ほかにきねずみもとる。
- 2) maŋbu saŋnani《オルチャたばこ(葉たばこ)》はふくろに入れて手でもんでこなにする。往時これをオルチャ人(maŋbu)から入手した。(以上佐藤による。)その名はこのことに由来するのであろう。ウイльта人ないし樺太土人のたばこその他の生活用品のかつての入手先については羽太正養「休明光記」巻之三「カラフト嶋見分として中村小市郎・高橋次太夫相越事」の条(また「休明光記附録」巻之七)、松田伝十郎「北夷談」第三、間宮林蔵「北蝦夷図説」巻之三交易の条、松浦竹四郎「北蝦夷余誌」六月十八日の条、その他の書にもものる。
- 3) そのばけものは人間のことがばはなせないから、せなかにのれという意を身ぶりであらわした(佐藤による)。
- 4) 相手のばけものは火のなかからでてきた(佐藤による)。1950 年おなじ語り手から口述をかきとったこのはなしの原文には dolbo amba sindaxani. tawatai sorriči.《よる ばけものが きた。火と かれら(虎のばけもの)はたたかっている。》とある。

3. き つ ね

北川五郎 (Görgulu) 口述

geeda gasanneeni biččini taani čat¹⁾ čii gasanneeni
ある むらのひとたちが いた そうな。 そこに そうして むらのひとたちが

biiduči əsigdələkkə andaxagdaa sindaxani taani əsigdələkkə.
いると いまや 客が きた そうな いまや。

puktuni mastaa ŋonimi. tučiji ŋindaŋi²⁾
かれのそりにつけたいぬの列は 大変 ながい。 いぬぞりで いぬで

kauriičimi sindaxani. pakkam saari tətuwəni kiltom biini.
はどめをかけながら きた。 まっくろ くらな かれのきものは ぴかぴかひかっている。

ənəjjee nari ajani. anuni xosseeni
あれまあ ひとのなかでもひどく立派なひとだ。 かれのえーとあれは かれのはかまは

ələ³⁾ xəsəmji. geuksa⁴⁾ geuksaji
ひろがっている。 当才のごまふあざらし 当才のごまふあざらしの皮の

xosseelu. irgani⁵⁾ mastaa manga⁶⁾. əri baja nari
はかまをつけている。 それの模様は ひどく 大変ある。 これは 裕福な ひと

billə. manga baja manga bajannee. nauramji ŋindaduuni
だろう。 大変 裕福な 大変 裕福な人だ。 客の 先導の いぬから

xamasai puldulani ŋindani⁷⁾. nauramjikkeeni čooraa biini.
あとへ かざりがある、 かれのいぬの。 いぬのなかの先導犬には すずがある。

čowočči⁸⁾ bookkeekkeeti uixəni taani.
そして その客は むらのひとたちの いえのそとに いぬを つないだ そうな。

nari sindaati. itəndəči⁹⁾. nəəgəči. itəči baannee¹⁰⁾
ひと(むらのひとたち)が きた。 みに来た。 そとへ だた。 みた、 ものもちが

sindaxambani xailakka. bajaranŋoori duktaini iiwəeti taani
きたのだから。 自分たちのむらのものもちの いえへ いれた そうな

əsigdələkkə əlləunneepə xailakka ɟangeenŋoori duktaini iiwəəči
いまや。 えらいひとだから 自分たちのおもだったひとの いえへ いれた、

ŋinjiłbani uirrə. čowočči čaa səksədələ təəluŋučixəni
そのひとのいぬどもを つなぐとすぐ。 そして その 晩まで むかしばなしをした

taani. təəluŋučixəni dəppee dəpturrə təəluŋučirrə
そうな。 むかしばなしをした。 たべものを たべたり むかしばなしをしたり

omi biččini tari andaxaŋuči. čomjee tari geeda
して いた、 その かれらの客は。 そうしてずっといると そのむらびとの 一匹の

bəisəčči 獵犬,	nooči 例のかれらの	tari その	duŋneeni いえのひとの	gasanneeni むらのひとたちの	bəisəčči 獵犬,	tari その	
duŋneeni いえのひとの	bajaŋuči かれらのむらのものもちの		bəisəni ¹¹⁾ 獵犬である		ŋinda いぬが	bultai しきりに	
waajiččeeni かみころそうとしている,		čawa. そのひとを。	narree ひとに	əsi いつもはくいつこうとしない	waajittaa		
ŋinda. いぬだ。	čowočči そして	səksəə 晩	təəluŋučiŋjee ずーっとむかしばなしをしていて				
təəluŋučiŋjee, ずーっとむかしばなしをしていて		əri 「これは	əri これは	xaiddaa なにかの(ただびとでない)	xaiddaa		
nari ひと	billəə だろう,	əri, これは。	əri このひとの	təəluŋuččiwəni むかしばなしをするのから		pərgəumi かんがえると	
əri このひとは	niŋmaaladda 語りものがよくできるひとか		xaiddaa なにか(ただびとでない)		billəə. だろう」 と		
omoi, おもい,		niŋmaamba 「語りものを	utullisijjuu あなたはできるでしょうか」と		uččini 言った	taani そうな,	tari その
duŋneeni. いえのひとは。	xuu 「おお	niŋmaambalakka 語りものなら	əri この	boo 天の	pəjjeekkeeni 下に	naa 地の	ojokkeeni 上に
miniŋəčee わしほどに	niŋmaanda ¹²⁾ 語りもののよくできる		nada ¹³⁾ ひとは	anaa いない」	uččini と 言った	taani. そうな。	ga 「さあ
čomilakka それなら	niŋmaanu 語りものをしてください,		əsi 今夜は	dolbo	innəumi. 夜をあかして。」		ga さて
dooljindaŋu ききにきたひとびとは	dugba いえを		xəəliməri とりまいて	təəməri すわって	təəməri すわって	təəməri すわって	
dooljiči. きいている。	ənəjee 「ああ	səbdənee. おもしろいなー。	nari ひとの	əəwurun うたいごえのうちでも大変いいのだ。	aani ¹⁴⁾ .		
jildani そのひとのこえは	mastaa 大変	xəmbəəru. ひびきがいい。	ənəjee ああ	səbdənee おもしろいなー	səbdənee. おもしろいなー。」		
səbdəniməri おもしろがっていて	pooninneeni あとのひとは		akpaččini ¹⁵⁾ . ねむった。	akpandaa ねむったり	dooljinnee きくひとは	dooljirraa きいたり	
oiči. ¹⁶⁾ している。	əkkee あんまり	xaunimi ¹⁷⁾ やかましくて	tari その	mamagdaa ¹⁸⁾ 老婆が	nəərrəə でるとすぐ	čak ¹⁹⁾ そこから	
ŋindabi 自分のいぬを	anuxani ²⁰⁾ えーとあれした		taani そうな	əsigdəələkkə いまや,		uibuŋji. よそに つなぐために。	

čomjikəə ŋaalikki tupturam tuttauxani čaa ŋindaa čaa
 そうして 自分の手から つながはずれて にがしてしまった, その いぬを その

bəisə ŋindaa. čorroo čakki niŋmaanji andaxa
 獵犬を。 そうするやいなや そこから 語りものを語っている 客の

baaruniganaa pukčitəxəni taani tarigdaa seexani əsigdəə čawa.
 方へ かかって行った そうな。 それは かみついた, いまや その人に。

pakkam saari suli tariŋuči. dapulačimi
 まっくろ くの きつねだ, かれらの相手したそれは。 つかまえていながら ——

ŋindabi andaxxa waarakkaa muraxani taani
 自分のいぬを——, 「お客さんを かみころしているよー」 と さげんだ そうな

əsigdəələkkə. čačča²¹⁾ nari təəduwəti suli²²⁾ sullee seerini
 いまや。 そのとき ひとが おきた。 きつね きつねに かみついている,

ŋindači. dapulačimjee xaulee tərrouwəsi²³⁾ ŋindaari. pakkam
 かれらのいぬが。 つかまえていて やっと とめた, 自分たちのいぬを。 まっくろ

saari suli. čowoččeeri čimanaani puktumbani itəəti
 くの きつねだ。 そして 翌日 それのそりにつけたいぬの列を みた

taani oksokkoonni²⁴⁾ ŋindaannii. ŋindabi²⁵⁾ ŋindani bičči
 そうな, それのそりと それのいぬとを。 自分のいぬ それのいぬ だったのは

gəəm moo xamdattaniimali. ŋinjiłni kəkəkə²⁶⁾ kəkəkəji
 みんな 木の 葉ばかり。 それのいぬどもは カッカ カツカの

anulluu tučilu. nooči čeennee
 えーとあれがついている いぬぞりがついている。 例のひとびとが きのう そりを

əksəxəkkeeči lambarak xəduŋjiči²⁷⁾ čalaa biččində
 おいたところには つなにつるさがった葉がさらさらと そよいでいる。 そこまでだったと,

tari təəluŋu.
 その むかしはなしは。

北川五郎さんから 1958 年録音した。このはなしは北川さんが自分の父や兄 (Wasilai) やそのほかのひとからきいたものであり、オルチャ人に由来するものだろうという。きつねが客にばけてきたがいぬにみやぶられてかみころされるはなしである。なおきつねはばけても尾と小指だけはそのままのこるという(北川による)。

- 1) čat は čadu《そこに》だろう(佐藤による。)čadu の末尾の u が発音されないうえに特に d がつぎの čii の無声の č の影響で無声に発音されているようである。
- 2) tučiji とってからおなじことを言いかえしてさらに ŋindaŋi と言っている。
- 3) ələ はこの文脈における意義不明(北川, 佐藤による)。
- 4) geuksa とってつぎに geuksaŋi と言いなおしている(北川, 佐藤による)。

- 5) irgani のかわりに ononi とあるのがいい(北川, 佐藤による)。irga は衣服など身につけるものや食器, 道具にかざりとしてつけられた模様。あざらしの毛の模様が ono である。
- 6) 佐藤さんはこの箇所には manga という語をおくのは適当でないという。北川さんも manga でなく aja《よい, うつくしい》というのがいいという。
- 7) ɲindani は puldulan (=puldulani) にかかるこの語をあとからおぎなっているのである(北川, 佐藤による)。すなわち, いぬのかざりの意。
- 8) この箇所は čowoččikkeeni のようにきこえ(北川による), čowočči……《そして……》とみられるが, čowočči のあとの部分は不明(北川, 佐藤による)。北川さんは čowoččigdaa《そうしてつぎには》の言いそこないともいう。
- 9) itən は, 佐藤さんによれば itəndəgəčči を, 北川さんによれば itəndəgəčči を略して発音したものであるという。
- 10) baannee とは bajannee《ものもち(が)》のこと(北川, 佐藤による)。
- 11) tari geed……bəisəni は獵犬についてなんとも言いなおしている。
- 12) niɲmaanda は niɲmaala《語りもののよくできる》をあやまって発音した形(佐藤による)。ただしこの録音をききなおした北川さん自身は niɲmaala の発音にきこえるという。
- 13) nada は nari《ひと(は)》をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。
- 14) aani とは ajani《そのうちで大変いいもの》のこと(北川, 佐藤による)。
- 15) akpaččini は佐藤さんによればかわりに akpanjīnee《ねむるひと(は)》(あとへつづく)とあるのがいい。
- 16) おなじ語り手から 1959 年録音したこのはなしの別の原文では, 語りものをしているあいだに客はきつねがなくようなカウカウ(kau kau)のこえをしたとある。
- 17) いぬがほえるのでやかましくおもっての意。
- 18) tar (=tari) mamagdaa とあるが, この mama はこの本文にははじめてあらわれたものである。
- 19) čak ɲindab は čaa ɲindab《その, 自分のいぬを》の言いあやまりであるともいう(北川, 佐藤による)。
- 20) atuxani《といた》というべきところ(北川による)。
- 21) čačča は čadu《そのとき(に)》をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。
- 22) suli とやってつぎに sullee と言いなおしている(北川, 佐藤による)。
- 23) tərrouwəsi は tərrouwəči《かれらがとめた》をあやまって発音した形(佐藤による)。ただしこの録音をききなおした北川さん自身は tərrouwəči の発音にきこえるという。
- 24) oksokkoonnii のかわりに tuččeennii《そのいぬぞりとを》とあるのがいい(北川, 佐藤による)。oksoo は《となかいにひかせるそり》, tuči は《いぬにひかせるそり》である。
- 25) ɲindab は言いあやまりでつぎに ɲindani と言いなおしている(北川, 佐藤による)。
- 26) kəkkə《カツカ(草の一種)》。この箇所では kəkkəと言つてつぎに kəkkəji と言いなおしている(北川, 佐藤による)。kəkkəの日本語名は, えぞごぜんたちばな。実は振ると音がする。
- 27) xədunjiči は佐藤さんによればそのかわりに xədunjini《かぜがふいている》とあるのがいい。

4. 廃物から化した悪魔

中川カヨ 口述

ənijjəətəkki	nimərixəni	ulaaji.	ulaabi
自分の母親たちのところへ	かの女はお客に行った,	となかいで。	自分のとなかいを

bookki	uigəčči	puttəbi	atuwačči	əmuɡə	məgdəmbə
そとへ	つないで,	自分のこどもを	となかいの背からといて,	ゆりかごの	まま

iiwuxəni.	nari	mastaa	bara	biččiči.	tutadumi	ɲənuxəni.	čimanaani
家のなかへ入れた。	人が	大変	たくさん	いた。	にげて	帰った。	翌日

čimai	itəndəduxəni.	xaiddaa	anaa.	soŋomi	ŋənuxəni.
朝はやく	見にもどった。	なにも	ない。	泣きながら	帰った。

中川カヨさんから 1956 年録音した。同じく中川カヨさんから同年録音したこの話の別のテキスト *Devils' Doing* は J. IKEGAMI, *Orok Texts, Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 17, 1958 にのる。čagdu という悪魔がその子を食べた話で、本書の 5 とおなじ təəluŋu だろう。中川カヨさんは čagdu というが、佐藤チヨさん、北川五郎さんはこれを čagju という。

5. 廃物から化した悪魔

北川五郎 (Gərgulu) 口述

əəktəə ¹⁾	oisaildukko ²⁾	miirəččindukkee	goi	gasattai
おんなが	自分の実家から	自分がよめに行ってから	ほかの	むらへ

miirəččindukkee dөөrөijuu ilaaltaijuu puličini taani oisailtakki tuwə
 自分がよめに行ってから 二度か 三度 行った そうな, 自分の実家へ 冬

ulaaji. gəə nəŋnəni baaruni əbuŋji doondo niməriduxəni
 となかいい。 さて 春 ちかく あとでこいしくおもわぬように あそびにかえった

taani əsigdələkkə nəŋnəni baan³⁾ tuwa beelani⁴⁾.
 そうな いまや, 春 ちかく わたりどりのからすの 月に。

tuwa beelani niməritəxəni⁵⁾. čiiənnəe⁶⁾ xaalanda
 わたりどりのからすの 月に あそびに行ってきた。 このあいだ いつか

niməritəxəni duŋni. təkkə biini čaa duktai gəxə da. ga ulaaji
 あそびに行ってきた いえだ。 みちが ある, その いえ までは。 さて となかいいで

ŋənəxəni taani. čii ŋənəmi pəskəpsuuli ulaani toŋdo
 行った そうな。 ずーっと 行って おどろいたなー かの女のとなかいは まっすぐの

toŋdonda⁷⁾ toŋduu sagji ulaa xailakka.
 まっすぐも 実にまっすぐはしるとなかいいだ, としとった となかいい だから。

puttəbi oksookki suurrəə ŋənəxəni. suun ələə
 自分のこどもを となかいいぞりへ しばりつけると 行った。 日が もうすこしで

tuuŋjiduni aaptuxani taani əsigdələkkə. dugbani⁷⁾ aaptuxani
 しずむころに ついた そうな いまや。 そのいえに ついた,

oisailbi dugbani. oisailni duŋni duŋni punaa da biini.
 自分の実家の いえに。 かの女の実家の いえは そのいえは けむりがでて いる。

guiptəŋini その(円錐形の)こやのおおいは		məənə ⁸⁾ 自分の		nooni 例のひとの		guiptəŋini. こやのおおいだ。		taiik がやがや							
dairajjiči さわいでいる、		nari ひとが		duxu いえの		dooloni. なかで。		gə さて		puttəbi 自分のこどもを		atuxani といた		taani そうな	
əsigdəələkkə. いまや。		puttəbi 自分のこどもを		aturraa とくとすぐ		əmuwə ゆりかごの		məgdəmbə まま		orokčini もって行った					
taani そうな		əsigdəələkkə. いまや。		iiwuxəni. いれた。		uttə 戸口を		niirrə あけるとすぐ		iiwuxəni. いれた。		ga さて		duxu いえの	
dookčeeduuni ⁹⁾ なかの方から		dapaati だれかが		taani. つかんだ		taani. そうな。		dappaumii つかまれて		puttət ¹⁰⁾ こどもは		eeččeeččee おぎゃーっと			
oččini いった		taani. そうな。		soŋoxoni. それがないた。		čowočči それから		itəxəni かの女はみた		taani. そうな。		ulingaji よく			
ittəəjini みると		duxu 実家の		tari いえ		duxu その		duxu いえは		seesinimali. ほねぐみの棒だけだ。					
seesinimali ほねぐみの棒だけの		duxu. いえだ。		puttəni かの女のこどもは		soŋonokto ¹¹⁾ ないたとたんに		čiptamji. だまった。							
čadu そのとき		boljomi かの女は		tuksadumi あわてて		ŋənumi ⁷⁾ かけもどり		ulaatakki かえり		uuduxani 自分のとなかいへ		またのった			
taani そうな		əsigdəələkkə. ¹²⁾ いまや。		ulaadu となかいに		uumiddaa のってすぐ		čeennee ¹³⁾ おとつい		čee おとつい		čigaapani おとつい			
ŋənəxə 行った		poktokki みちを		čakki そこから		čuul まっすぐ		puk ¹⁴⁾ かけ		pukčipiččini 一気にかけた、		ulaani. となかいへは。		sul ¹⁵⁾ やっと	
ulaabi 自分のとなかいを		sulaa やっとこ		sulaa さっとこ		dapadumi またつかまえて		kətəəttə ⁷⁾ もうすこしで							
xamarimi のりおくれそうになりながら		oksootokki 自分のとなかいぞりへ		uuxani のった		taani. そうな。		čakki そこから							
ŋənəgətči 行って		tuksarraa はやあししたり		pukčirrə かけあししたり		dəəŋurrə だくあししたり		tuksarraa はやあししたり							
pukčirrə かけあししたり		dəəŋurrə だくあししたりして		ŋənneeni 行く、		ulaani. かの女のとなかいへは。		ənəjje 本当に							
səbdənee. 気晴しだなあ。		čii ずっと		ŋənəmi 行って		čii ずっと		ŋənəmi 行って		dolboni よ		taldaani なかが			
əččeeli まだ来ぬうちに		aaptaduni ⁷⁾ ついた		aaptuxani そうな、		taani 自分の実家の		oisailbi いえに。		dugbani. 自分のとなかいを		ulaabi 自分のとなかいを			

bookki uixəni taani əsigdələkkə sojoxoni taani. puttəbi
 そとへ つないだ そうな いまや。 ないた そうな。 「自分のこどもを

puttəbi ambattai bəəxətci¹⁶⁾ sindaambi uččini taani.
 自分のこどもを ばけものへ やって わたしはきました」 と 言った そうな。

xaimi sojəesee. ambattai bəəwəčci sindaxambi.
 「どうして おまえはなっているか。」 「ばけものへ やって わたしはきました。」

xai ambattaini. sunu nuljigəsu¹⁷⁾ xamarakkeeni sunu
 「どんな ばけものへ。」 「あなたたちが 引越した あとに あなたたちの

duktaisu sindaxambi uččini taani. sindaxanduwwee
 いえへ わたしはきました」 と 言った そうな。 「わたしがきたとき

guiptəni məgdə biččee uččini taani niixəčč¹⁸⁾ sindaxanduwwee.
 こやのおおいの まま でした」 と 言った そうな、 「あけて わたしがきたとき。」

čorroo puttəbi aturraa iiwu¹⁹⁾ iiwuxəmbi duxu
 「そうしてすぐ 自分のこどもを とくやいなや いれ わたしはいれました、 いえの

dooduni. čowotci iiguxənduwwee puttəbi eeččeeččee
 なかに。 そして わたしがいれたとき わたしのこどもは おぎや一つと

sojopiččini uččini taani. čorroo sojneeduni tuksa²⁰⁾
 急になきました」 と 言った そうな。 「そうしてすぐ それがないとき はしり

tuksajjiduwwee duk²¹⁾ xamasai itəjjiduwwee duxu
 わたしがはしってもどるとき いえ あとへ わたしがふりかえってみると いえは

seesijibal²²⁾ oččini taani²³⁾ oččinee uččini taani.
 ほねぐみの棒ばかりに なった」 そうな。 「なったの」 と 言った そうな。

čorroo ŋəələmi⁷⁾ əwəsəi⁷⁾ čəte²⁴⁾ čii sindaxambi. gəə
 「そうしてすぐ こわくて こっちへ 一目散に わたしはきました。」 「さあ

čagju ambani əri²⁵⁾ ga čomilakka ŋənnəumi əsi dolbo
 チャグジュの ばけものだ、 これは。 さあ それなら 行けば ―今夜―、

čagju ambani been²⁶⁾ taani. ilaalta aundaxani
 チャグジュの ばけものが いる だろう。」 三晩 すごした、 実家のひとびとが

nuljixəttəiçi tari duxu.²⁷⁾ čowotci ŋənəəti taani dolbo. dolbo
 引越して以来 その いえは。 父親たちは そうして 行った そうな、 よる。 よる

ŋənərrəə garpanačiti taani əsigdələkkə. pondoo bičči
 行くとき かれらはなんども矢を射た そうな いまや。 「くつ だったやつが

budəkkə. keuri bu²⁸⁾ bičči
 死んで行く。 あぶら入れ(あざらし、とどの胃ぶくろ) 死 だったやつが

budəkkə. 死んで行く」	と	言	つ	て、	チャグジュが	olonosini びっくりしている、	tari その	tari その	duxu いえの
dooloni. ²⁹⁾ なかで。	tari ³⁰⁾ その	čagdun ³¹⁾ チャグドを	waagači. かれらはころした。	čoro ³²⁾ そうしてすぐ					
ŋənuwəti. かれらはかえった。	tari その	čagju チャグジュは	utta もと	くつ	biččii だったやつと				
keuri あぶらいれのふくろ	biččii. だったやつだ。	nari ひとが	biččini もといた場所の	čagduni. チャグドだ。					
čagdu チャグドの	ambambani ばけものを	waagati ころした、	tari. そのひとらは。	tari そのひとらの	duktaini ³³⁾ いえへ				
duktakkeeri 自分たちのいえへ	ŋənuwəči かえった、	čorroo ³⁴⁾ そうしてすぐと。	da. おんなは	əəktəgdəə なきながら	əmi かえらずに	ŋənnəə ⁷⁾			
いることもできず	gasattakki 自分のむらへ	ŋənumi ³⁵⁾ かえり	nooči 例のひとたちは	birrəə. いのこった。					
tari そのひとらは	čagju チャグジュの	ambambani ばけものを	waaxanda ころしたと、	tari. そのひとらは。	čarital ³⁶⁾ そのひとたちは				
waagači ころした、	čari ³⁷⁾ その	čagju チャグジュの	ambambani. ばけものを。	čai ³⁸⁾ その	təəluŋŋəəni いいつたえを	čala そのできごとから			
saapula. はつきりと	tari 知ってわかった。	čalaa それは	biččini そこまでだった	taani そうな、	tari その	təəluŋu. むかしばなしは。			

北川五郎さんから1958年録音した。北川さんはこれをJawaiというじいさん(Muigatto氏族)からきいたが、また自分の父親からもきいたよしである。本来ウイルタ族のはなしだという。なお本書の4はこれとおなじtəəluŋuであろう。ただし服部健「南樺太民譚集(二)」(『樺太時報』49 1941年)にはキーリン民譚としてこれに類する「ぼろの化物」というのはしがる。

- 1) əəktəə《おんなを》はəəktə《おんな(が)》の言いあやまり(佐藤による)。
- 2) oisaildukko は oisaildukki《自分の実家から》の言いあやまり(佐藤による)。
- 3) baan とは baaruni のこと(北川, 佐藤による)。
- 4) tuwa beeni(陰暦による)は北川さんによれば4月, 佐藤さんによれば3月であるという。春になってゆきがとけるとそりで行けず行きにくくなるからの意(北川による)。
- 5) niməritəxəni《かの女はあそび(訪問し)に行ってきた》のかわりに niməriduxəni《かの女はあそび(訪問し)にかえった》とあるのがいい(佐藤による)。
- 6) čiiisən(=čiiisənnē)と言ったのを xaaan(=xaalanda)と言いなおしている(北川による)。
- 7) 佐藤さんの聴取による。
- 8) məən(=məənə《自分の》)と言ったのを noon(=nooni《例のかれ(の)》)(ここでは実家のひとの意)と言いなおしている(北川, 佐藤による)。
- 9) dookčeeduuni ときこえるのは dookkeeduuni《それのなかの方から》のこと(佐藤による)。
- 10) puttət(=puttəči《かれらのこども(は)》)のかわりに puttəni《かの女のこども(は)》とあるのがいい(北川, 佐藤による)。

- 11) sojonokto の語形はまだ十分に分析されていない。
- 12) このはなしでは本当はとなかいにのって行ったのではなく、となかいぞりにのって行った。sul 以下に言いなおしている。(北川による。)
- 13) čeennee čigaapani《おとつい》を言うのに čeennee と言ってまたくりかえして čee と言った。いつとおったかはゆきのうえにのこるとおったあとでわかる。(以上北川、佐藤による)。
- 14) puk と言いかけてあらためて pukčipiččini と言っている(北川による)。
- 15) sula sula《やっこさっこ》を sul と言いかけた(北川による)。
- 16) bəəxət とは bəəxəčči《やって》のこと(佐藤による)。以下実家の父親たちとの会話である(北川、佐藤による)。
- 17) オロッコ人は一年のあいだにつぎのような住居移動をする。秋から冬まで丘陵地で aundau 《円錐形のこや》にすみ、狩猟をおこなう。冬には住居を移動して湿地で aundau にすみ、狩猟をつづける。さらに住居を移動して、春から秋には水辺で kaura《木のかわでふいたこや》にすみ、さかな、あざらしをとる。秋にはふたたび住居を移動して kaura から aundau へうつる。このはなしは春 aundau から kaura にうつったときのはなしである。(以上北川による)。nulji-は《住居を移動する》の意義をもつ。
- 18) niixəččə とは niigəčči《あけて》のこと(佐藤による)。ここでは戸をあけての意。
- 19) iiwu と言いかけてあらためて iiwuxəm (= iiwuxəmbi) と言っている(北川による)。
- 20) tuksa と言いかけてあらためて tuksaǰǰiduw と言っている(北川による)。
- 21) 北川さん、佐藤さんの聴取による。二人によれば duk と言いかけたのは duxu《いえ》のこと。
- 22) seesinibal ときこえるのは seesinimali《ほねぐみの棒(円錐形のこやの)ばかり(に)》のこと(佐藤による)。
- 23) oččīn taan と言ったのを oččīnee uččīn taan と言いなおしている(佐藤による)。
- 24) 佐藤さんの聴取による。čak (= čakki) のこと(北川による)。
- 25) 住居移動の際いえあとにすてて行った廃物が čagdu (または čagǰu) という amba《ばけもの》になる(北川、佐藤による)。
- 26) been ときこえるのは biini《それがいる》のこと(佐藤による)。
- 27) 廃物は住居移動してから三晩たつて čagdu になる。なお廃物はいえのなかにおかずにかたづけられて木のねもとか、木のえだのまたにおけば čagdu にならない(北川による)。
- 28) bu (bul-~bu-《死ぬ》) と言つてつぎに bičči と言いなおしている(北川、佐藤による)。
- 29) くつだったやつが射られて死ぬと "Pondoo bičči budəkkə." と言つてほかのやつらがおどろき、またあぶらいれだったやつが射られて死ぬと "Keuri bičči budəkkə." と言つてほかのやつらがおどろく意(北川による)。なおこの原文の録音のあと北川さんはここに wəltəli bičči budəkkə. 《さかなのかわ製のむかしのきもの だったやつが 死んで行く。》をおぎなつた。
- 30) tari は čaa《その》の言いあやまり(北川、佐藤による)。
- 31) čagdun ときこえるのは čagdum (= čagdumba《チャグドを》) のこと(佐藤による)。
- 32) čoro ときこえるのは čorro (= čorroo《そうしてすぐ》) のこと(佐藤による)。ただしこの録音をききなおした北川さん自身は čorro の発音にきこえるという。
- 33) tari duktaini と言ったのを duktakkeeri と言いなおしている(北川による)。
- 34) čorroo《そうしてすぐ》はここでは waarraa《ころしてすぐ》の意(北川、佐藤による)。
- 35) 佐藤さんの聴取による。ŋənum (= ŋənumi) は佐藤さんによればかわりに ŋənurrəə とあるのがいい。ŋənurrəə は birrə (= birrəə) と呼応する。ただしこの録音をききなおした北川さん自身は ŋənum の箇所は ŋənuxəni《かの女はかえつた》と言っていると言う。
- 36) čarital は tarisal《そのひとたちは》をあやまって発音した形(佐藤による)。
- 37) čari は čaa《その》をあやまって発音した形(佐藤による)。
- 38) čai は čaa《その》か čagdu《チャグド(の)》をあやまって発音した形(佐藤による)。

6. カルジャメ（おおおとこ）

北川五郎(Görgulu) 口述

ga¹⁾ mapaačča puri purigə nari²⁾ suṇdattaa waṇḍaxandaa
 さて じいさんが わか わかい ひとが さかなを とりに行ったんだと、

geeda omoottoi. tari suṇdattaa waṇḍagatči ṇəṇəgatči čaa
 ある一つの みずうみへ。 そのひとは さかなを とりに行つて 行つて ーその

omoottoi tuləxəni taani. xaiddəə suṇdattani čəsi bara
 みずうみへー、 刺し網をした そうな。 どんなさかなも とても たくさんいる、

čakki xaiddəə suṇdattani. čaa suṇdattaa tuləčimi tuləxačči³⁾ waaxani.
 そこに どんなさかなも。 その さかなを 刺し網をし 刺し網をして とつた。

əṇəṇəə ajaa inəṇiwo. ajaa inəṇi. namaa namaa⁴⁾ inəṇi. mastaa
 「あーあ いい 日だな。 いい 日。 あたたかい あたたかい 日。 とても

aja namauli inəṇi. əṇəṇəə aamaa aamaa. akpaččini
 いい あたたかい 日。 あーあ ねむいなー ねむいなー。」 ねむってしまった

taani taluma ugdabi dookkeeni. taluma
 そうな、 しらかばの皮でできた 自分のふねの なかで。 しらかばの皮でできた

ugdabi dookkeeni akpakkatči xaiwa tolčičixanijjuu
 自分のふねの なかで ねむってしまった なにを ゆめでみたのだろうか

xaixanijjuu. koos dərəlbəni⁵⁾ dərəlki koos
 どうしたのだろうか。 ざらざら かれのかおを 自分のかおを ざらざら 木の葉が

oilani meelčini taani. əṇəjje nari gugdani nari
 さわるときに めをさました そうな。 あれまあ 人間のうちでもひどくたけの高い人間が

noomboni waapikkatči orogjini. geeda daajee moo pəjjeekkeeni
 例のかれを かついで つれて行く。 一本の 大きそうな 木の 下を

ṇəṇəxəni. tari tari moo garana⁶⁾ manga jiktu gara biini. tari
 行った。 その その 木の えだである ひどく ふとい えだが ある。 その

pəjjeekkeeni ṇəṇneeni. təəduwəčči nandəə dapaxani taani
 下を 行きつつある。 じいさんは おきなおつて そつと つかまつた そうな、

čaa moodu. čowotči čadu dərəjixəni. tamačču ṇəṇəni taani
 その 木に。 そして そこに のこつた。 おおおとこは それから 行った そうな。

pokto doorongo⁷⁾ goropči dooroṇ⁷⁾ biččikki čuul kəəkku ugdaa
 みち こみち ふるい こみちが あつたところを まつすぐ からの ふねを

oroṇmi. ṇəṇəxəni xamarakkeeni tuuduxəni taani. ṇəṇə⁸⁾
 はこびながら。 行った あとで じいさんは おりてきた そうな。 行

ɲənəxəni xamarakkeeni anu ojoduni tuuxəni səiktə
 行った あとで えーとあれの 上に おりた、 葉のついたえだの
 ojoduni. səiktə ojoduni təəgəčči təəjiduni⁹⁾
 上に。 じいさんが 葉のついたえだの 上に こしをおろして すわっていると
 solleeduu isuxani taani. ugdala anaa¹⁰⁾. xaidoo
 おおおとこが 川上から きた そうな。 ふねをもっていない。 「どのあたりで
 xənumi. xaidoo xənumi. issini. kəsəniməli
 かるくなつたろう。 どのあたりで かるくなつたろう。」 来つつある。 かれのことばだけが
 dooljipčini. xaidu xənumi oččini umi saarilakka. jələə
 きこえる。 「どこで かるく なった」 と 言って わからばこそ。 ここまで 来させて
 laxaji ittəəjini ənəjee sinaktaamali kaljamiŋuni issini.
 ちかくで みれば あれまあ 毛だらけの かれの相手のカルジャメが くる。
 jələ¹¹⁾ issookkaatči garpaxani dөө tunəni aldaanduni¹²⁾. pəkčəə
 ここまで 来させて 矢を射た、 二つの むねの あいだを。 ばったり
 tuuxəni. čowotči nandəə tuuduwətči poktokkeeni
 たおれた。 じいさんは そして そつと おりてきて カルジャメの みちを
 čuul ɲənəxəni. čuul ɲənərrəə ugdaa taatadu
 まっすぐ 行った。 まっすぐ 行つてすぐ カルジャメが ふねを あそこに
 wəədəduxəni wəədəxəni¹³⁾ čaa ugdabi gadumi irumi isuxani.
 おいてきた なくした その 自分のふねを もって ひいて きた。
 omoonutakki isuwačči suŋdattaani adulibi
 自分のさかなとりしているみずうみへ きて さかなを 自分のあみの
 suŋdattaani aturraa goči tuləbuŋji naatai xaakčini.
 さかなを はずすとすぐ また 刺し網をするために おかへ ふねをつけた。
 gussaa gəlbeeduni kəiik kəiik
 刺し網を水中に固定する杭棒を きていると 「コエーク コエーク」 と
 kəjəəččini. əri kaljami. xaiwa
 なんどもくちぶえをふいている。 これは カルジャメだ。 「なにを
 waajičceesi uččini taani xai mini waajičceewi
 とうとうしているんだ」 と 言った そうな。 「なに、 おれの とうとうしているのが
 baitai. suŋdattaə waajičceewi uččini taani.
 わるいことか。 さかなを とうとうしているのだ」 と 言った そうな。 じいさんは
 čorroo naatai xaagdaa gussaa gəlbəxəni taani.
 そうしてすぐ おかへ ふねをつけるやいなや 刺し網の棒を きた そうな。

xoldottoini sindaxani taani. gə sii mini jeewi
 カルジャメは そのわきへ きた そうな。 「さあ おまえは おれの あいぼうに
 osu. mini jeewi osu. xee¹⁴⁾ bii jeejji əs gəndəə¹⁵⁾
 なれ。 おれの あいぼうに なれ。」 「ふん おれは 自分のあいぼうに ほしくない、
 sindu¹⁶⁾ xaidu naadaa biw¹⁷⁾ bii əsiwi naaddaa simbee. əsi
 おまえを。 なにに 必要か、おれが。 おれはいらない おまえを。」じいさんは いまや
 geedara bultai geexani taani əsigdəə kučigənji gusabi
 一気に けずった そうな いまや、 小刀で、 自分の刺し網の棒の
 gusabi daatambani sulimi. čomjikəə ŋaalibi
 自分の刺し網の棒の ねもとを とがらせながら。 そうしていて 自分の手を わざと
 miixəni. səəksəni čor miixəni. tari səəksənigdəə
 きった。 かれの血が どくつと出るほど きった。 そのひとの 血は
 gdəə¹⁸⁾ taa naak¹⁹⁾ pətəəmi səəm səəgdəččini. səəksə xəjəxəni taani
 あちこちへ はねて まっかに あかくなった。 血が ながれた そうな、
 ŋaalani səəksəni. nooni baani²⁰⁾ itəmi səəksəni
 かれの手の 血が。 カルジャメは 例のかれの 方を みて かれの血を
 itəmiddə saram suumi buččini taani.²¹⁾
 みただけで あおむけに手足をのばして 気絶して 死んだ そうな。 じいさんは
 čorroo ug²²⁾ ugdatakki uuđuwatči gusabi adu²³⁾
 そうしてすぐ ふね 自分のふねへ もどつてのり 自分の刺し網の棒を 自分のあみを
 tupulduwət²⁴⁾ adulibi tumuduwəčči tari ŋənuxəni. čalaa biččini
 ぬいてもどし 自分のあみを またたんで そのひとは かえった。 そこまでだった、
 əsigdəə.
 いまや。

北川五郎さんから1958年録音した。このはなしは北川さんが自分の父からきいたものであり、大ショークト氏族(Daaji Səəktə xalani)のものであるという。カルジャメ(kaljami)とはおにとかおおとことかいいうべき妖怪の一種である。たけがたかく(本文参照)、あたまがとがっており(この本文とおなじ語り手から1958年録音したこのはなしのもう一つの原文でもそのあたまのとがったことを *suluŋ suluŋ očči* とある)、血をこわがり(本文参照)、またみずたまりをわたらない。人間のこどもをさらひ、目、口、鼻へやにをぬりつける(以上佐藤による)。石のいえに住む。このいえを *kaljami duwasuni* という。こしに小さいいれものをさげると、それには人間やけだものをつめがはいっている。(以上佐藤、北川による。)この小容器(*siltuu*)をまた *kaljami* ともいう。人間がこの人間のつめにさわると死ぬという。しかしけだものをつめはこれをえるとめでたいさずかりものとなる。(以上北川による。佐藤さんは一般にそのつめはめでたいさずかりものであるとだけ報告した。)日本語によるカルジャメのもう一つのはなしとカルジャメの説明が服部健「南樺太民譚集(一)」(『樺太時報』48 1941年)にのる。

- 1) ga のこと(北川, 佐藤による)。
- 2) puri とって、つぎに purigə といいなおしている(北川, 佐藤による)が, purigə nari《わかいひとが》もいあやまりで余計な語(北川による)。わかいひとはこのはなしにはでてこない。
- 3) tuləxəčči とは tuləgəčči《刺し網をして(から)》のこと(北川, 佐藤による)。
- 4) 北川さんによれば namaa inəŋi は namauli inəŋi すなわち, あたたかい日という意であるというが, 佐藤さんによれば namaa《あたたかいな》の語をそのようにはつかわないという。
- 5) dərəlbəni はいあやまりでつぎに dərəlki といいなおしているのであり, この文脈において dərəlki という再帰形でよいという(北川, 佐藤による)。
- 6) garana は garani《そのえだ(である)》をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。
- 7) dooroŋgo, dooroŋ はともに doorima《こみち(が)》をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。ただし dooroŋgo は doorima をいそこなった dooroŋ のあとに goropči の go がつづいているのかもしれない。そしてつぎに gorop (=goropči) といいなおしているのかもしれない。
- 8) ŋənə とってつぎに ŋənəxən (=ŋənəxəni) といいなおしている(北川, 佐藤による)。
- 9) təəjiduni は təəsidiuni《かれがすわっているときに》をあやまって発音した形(佐藤による)。ただしこの録音をききなおした北川さん自身は təəsidiuni の発音にきこえるという。
- 10) ugdal (=ugdala) anaa は《それ(カルジャメ)はふねがない》。佐藤さんはここは ugdani anaa《かれ(じいさん)のふねがない》とあつた方が適当だという。
- 11) この箇所は tədələə のような発音にもきこえるが, 語り手の北川さんはのちにこの録音をきいて, 舌がもつれてあやまった発音をしたあと jələə とだけ言っているという。なお佐藤さんはここは čowot (=čowočči) jələə《そうして ここまで》の発音をしているという。
- 12) dəə tuŋən (=tuŋəni) aldaanduni とは, それのみずおちをの意(北川による)。ただし佐藤さんはこういう表現はしないという。
- 13) wəədəduxən (=wəədəduxəni) とつたあとで wəədəxəni といいかえている(北川, 佐藤による)。
- 14) xəə は ee《ふん(さげすむ)》だろう(北川による)。
- 15) gəndəə は gəlləə《ほしい》をあやまって発音した形(佐藤による)。
- 16) sindu《おまえに》は simbee《おまえを》(カルジャメをさす)のいあやまり(北川による)。
- 17) biw は bii《おれが》(じいさんをさす)をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。
- 18) gdəə は əsigdəə《いまや》かもしれないが不明(北川, 佐藤による)。
- 19) taa naak は naa naak (=naakki)《あちこちへ》をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。
- 20) baani とは baaruni《その方へ(を)》のこと(北川, 佐藤による)。
- 21) おなじ語り手から 1958 年録音したこのはなしの(上に引用したとはまた別の)さらにもう一つの原文では gə kalʃam təəluŋgəən saarin xuraʃʃiwan noon.《さて カルジャメの むかしはなしを かれは知っている, それがいきかえることを 例のかれは。》とある。すなわちカルジャメはすぐまたいきかえる。
- 22) ng とってつぎに ugdatak (=ugdatakki) といいなおしている(北川, 佐藤による)。
- 23) adu (=adulibi) はいあやまりで余計な語(北川, 佐藤による)。
- 24) tupulduwət とは tupuliduəwət (=tupuliduəwəčči)《ぬいてもどし》のこと(北川, 佐藤による)。

7. ナルンゲーヌ

北川五郎(Gərgulu)口述

narungeenugda ¹⁾ ナルンゲーヌは	əsigdəələkkə いまや	uniŋubi 自分の(毎年行く)川を	soloxoni のぼった	taani そうな,		
bəjəmbə くまを	waanɖami とりに行くために	bolo. 秋に。	čii ずーつと	solomjee さかのぼって	uniŋubi 自分の川を	čii ずーつと

solomjee	ga	bəjə	dubj̥isukkeeni	čuul	soloxoni	taani.
さかのぼって	さて	くまの	とおりみちを	まっすぐ	さかのぼった	そうな。
geeda ²⁾	suduwə	duwəduni	daundaxani ³⁾	duwweedu ⁴⁾		
一つの	平地につき出した山地の	さきで	とまった、	やまてから		
suduwə	duwəduni.	ga	čakki	bəjə	guppəə	
平地につき出した山地の	さきで。	さて	そこから	くまが	毎日	
əupəččičii. ⁵⁾	tari	duwəduni	aundaxani.	čowotči	aundagačči	
おりて行ったりきたりする。	それの	さきに	とまった。	そうして	とまって	
čimanaani	uniŋubi	baaruni	ŋənneeduni	duwweeləni	kəiik	
あくる日	自分の川の	方へ	行くときに	やまてから	コエークと	
kəjəəčixəni	taani.	xaiwadda	taŋgam.	əri	xaiga	
なんどもくちぶえをふいた	そうな。	「なんだかわからなくて	こまる。	これは	なにか、	
kəjəəčči.	nəəčigəijuu.	xaiga.	gasaijuu.			
なんどもくちぶえをふいているのは。	ことりだろうか。	なんだろうか。	とりだろうか。			
itəŋjeeləmi	bii	jəwə ⁶⁾ .	itəndəxəni	taani.	itəndəmi	ŋənəxəni.
見に行こう、おれは	これを。」	見に行った	そうな。	見に	行った。	見に行つて
itəxəni.	ənəjje	nari	gugdaanee.	mastaa	gugda	nari.
見た。	あれまあ	ひとのうちでもひとくたかいひとだ。	大変	たかい	ひとだ。	
dərən ⁷⁾	sinaktaamali.	suluŋ	suluŋ	očči	nari.	čop
それのかおは	毛だらけだ。	あたまがとがった	ひとだ。	あたまがほそく	上へ	uisəi
čop	otuxa ⁹⁾	ŋaalini	gəəm	sinaktaamallii.	nooni	baaruni
ほそく	なっている、	その手は	全体	毛だらけだし。	そのかれの	方へ
sindami	noomboni	bultai	ŋaaliŋji	ullini ¹⁰⁾ .		
きて	そのかれに	一所懸命	自分の手で	あいずしている。	ナルンゲーヌは	
ŋənəxəni	taani	əsigdəə.	gəə	əri	kaljami	billəə.
行った	そうな	いまや。	さて	これは	カルジャメ	だろう。
təəluŋuni	ərəŋəti	biini.	əməčigə	kaljami	umburi.	tamačee
いいつたえは	このようで	ある。	こんなだ、	カルジャメと	いうのは。	そんな
billəə.	gəə	jəwə ¹¹⁾	əməčigə	kaljami	umburi	umulkeeni
だろう。	さて	これを	こんな	カルジャメと	いうものの	おびに
baijaakki	biinindəə.	sak ¹²⁾	təəluŋəəni	saarini	nooni.	
さずけものが	あるんだと。		そのいいつたえを	知っている、	そのかれは。	
xaiddəə	čipal	xosiktani	biinində.	kə ¹³⁾	jəə	geeda
なんでも	すべてのものの	つめが	あるんだと。	「さあ	この	一つ

umulkeeni それのおびに	biiwə あるのを	geeddaa 一つ	xooni なんとか	xətuččimbičee ¹⁴⁾ ひきちぎれないか」 と	
mərəpiččini ひよつとかんがえた	taani そうな	əsigdəə いまや、	geeda 「一つの	siltukkəə. いれものを。」	čii xərəlixəni ず一つと まわった
taani そうな、	kaljamimba. カルジャメのまわりを。	kaljami カルジャメが	naamaččini だきついた	taani そうな、	
xərəllidunigdə. まわるそのときに。	xərəlliduni ¹⁵⁾ まわるときに	xaimi 「どうして	xərəllisigə おまえはまわるか」	uččini と 言った	
taani そうな、	kaljami. カルジャメが。	na ¹⁶⁾ 「いや	məənə 自分で	xərəlliwi. おれはまわっているだけだ。」	čorro ¹⁷⁾ そしてすぐ
kaljamitai カルジャメと	ηootoxoni すもうをとった	taani そうな	əsigdəələkkə. いまや。	kaljami ¹⁸⁾ カルジャメと	ηootomi すもうをとって
ηootomi すもうをとって	kaljammeeni そのカルジャメ(つめの容器)を	kaljamme カルジャメ(容器)を	təktəs ぷつぷつ		
ときれるほどに	məətələxəni なげた	taani そうな	əsigdəə. ¹⁹⁾ いまや。	geeda 一つの	kaljammeeni そのカルジャメ(容器)を
dapaxani つかんでとった、	təktəs ぷつぷつと	ηənneeduni. ²⁰⁾ きれるときに。	oondoi あおむけに	saram 手足をのばして	tuukkəl ²¹⁾ たおれる、
anununi かれの相手のえーとあれが	kaljamiηuni. かれの相手のカルジャメが。	kə ²²⁾ さて	kaljamiηuni かれの相手のカルジャメ		
が	təəduxəni. おきなおった。	ga さて	umul ²³⁾ おび	umulki 自分のおびを	gələdumi さがしながら
geeda 「一つの	kaljamibi カルジャメ(容器)が	geeda 一つ	čup 突然	wəədəptuxəni なくなった、	geeda ²⁴⁾ 一つの
kaljamibi. カルジャメ(容器)が」	と 言った。	siltuuni そのいれものが	geeda. 一つ。	čadu そこに	geeda moo 一本の 木の
muiktəni 根が	biččini あった、	čakki. そこに。	tari その	moo 木の	muiktəni 根に
ナルンゲーヌは	naamaččini だきついた	taani そうな	əsigdəə. いまや。	ga 「さあ	sii おまえは
manğa つよい	bimi から				
təəwuduwətči おこして	kaljamibi ²⁵⁾ 自分のカルジャメ(容器)を	dapaddu. とりかえせ。」	doolo なかに	bii ある	muiktə 根の
təŋgəmjī 地表にあらわれたのに	dəə 二つの	ŋaalijji ²⁶⁾ 自分の手で	naamaččini だきついた、	čakčəŋ しつかり	da. な。

kalĵamimba ²⁷⁾ カルジャメを	xətəitəmi おこしにかかっても	čiidəə びくともしない,	kalĵami カルジャメが	čaa その			
anu えーとあれ	anumba えーとあれを	narunġeenumba. ナルンゲーマを。	ee ²⁸⁾ 「ちくしょう	narunġeenoo ナルンゲーマやい	sii おまえは		
mimbee おれに	əɾəŋəti こんなに	xaimi どうして	kəddəən ²⁹⁾ ひどく	toisiga. するのか。	kalĵammee カルジャメ(容器)を		
bəəddu. かえしてくれ。」	kalĵamin ³⁰⁾ カルジャメ	kalĵammee カルジャメ(容器)を	bəəĵiwiiddə かえしてやるとも				
əsini かれは言わない。	undə. なんのことばも	kəsələddə ない。	anaa. 木の	moo 根に	muiktəəni čakčəŋ しっかりと		
naamaččini ³¹⁾ だきついている。	pakčim しゃくにさわって	paam かれのしりを	urakkeeni ひらてうちした	panadaxani そうな,	taani		
narunġeenu ナルンゲーマの	urani しりが	təik テイクと	umi おとがするほど	kalĵami. カルジャメは。			
xətəitəmjee ³²⁾ おこしにかかっている	idami はたせず	ga さて	tari ³³⁾ それは	čii ずーつと	ŋənuwəni かえった, カルジャメは。		
čorruu そうするとすぐ	narunġeema ナルンゲーマは	təəduurrəə おきなおると	unitai 川へ	əuduxəni おりてもどった	taani. そうな。		
unitai 川へ	əuɖuwətči おりてもどって	geeda 一つの	unitai 川へ	əuwəčči おりて行って	təəčini すわっていた	taani. そうな。	taa ずーつと
solleelani かわかみから	narunġeenuu 「ナルンゲーマー	kalĵammee カルジャメ(容器)を	bəəduurəə かえしてくれー」	umi と	umi 言って		
murreeni. さげんでいる。	seesiŋini そのおとが	biini. する。	narunġeenu ナルンゲーマは	xəməə だまって	xəməə ただだまって	biini. いる。	
narunġeenuu 「ナルンゲーマー	kalĵammee カルジャメ(容器)を	bəəduurəə. かえしてくれー。」	čii ずーつと	xəwəččini. よんでいる。			
čiptamĵi だまっている,	narunġeenu. ナルンゲーマは。	iiddə うんとも言わない。	anaa. すんとも言わない。	aadda さて	anaa. さて	ga さて	
čii ずーつと	təəmjee ³⁴⁾ すわっている	geeda 一匹の	bəjə くまが	xəjĵəččini ³⁵⁾ 川をくだって来た	əsigdə ³⁶⁾ いまや。	bəjə くまが	
xəjĵəŋĵiduni 川をくだって来るとき	garpaxani 弓を射た	taani. そうな。	xumus ³⁷⁾ うつぶせに	kəbdəm ³⁸⁾ からだをのばして			
tuuxəni. たおれた。	tamačču それから	b し	bəktəə しばらく	bimĵee して	geeda 一匹の	bəjə くまが	xəjĵəččini 川をくだって来た

taani. goti garpaxani. geeda dolboni dooloni nadamba bəjəmbə garpaxani
 そうな。 また 弓を射た。 ひと 晩の うちに 七匹の くまを 射た

taani əsigdəə³⁹⁾ unnee kas dauwoomi uktai
 そうな いまや、 とったくまを 川を 横切って 向こう岸までならべつつ ウクタイ

unneeni⁴⁰⁾ kas dauwoomi. ga solleelani xəwəčixəni
 川を 横切って 向こう岸までならべつつ。 さて かわかみから よんだ

taani. narunģeenoo xai bəjəmbəni manneesiga. ələt
 そうな。 「ナルンゲーヌやい どんな けだものを たくさんにとっているのか。 もう十分

taanee⁴¹⁾ kalģammee bəədureə. əə⁴²⁾ tari kalģami.
 だろう。 カルジャメ(容器)を かえしてくれー。」 「おお あの カルジャメだ。」

čowotči čawaddəə əmi dotomusi čimanaani čaŋŋulbi
 そして ナルンゲーヌは それを ききもせず 翌日 自分のとったそれらを

gəəm xaagbučixani⁴³⁾ taani əsigdəə⁴⁴⁾ xaagbučirraa čaa nada
 みな 岸にあげていた そうな いまや。 なんども岸にあげるとすぐ その 七匹の

bəjəŋubi gəəmyi təduččini taani əsigdəələkkə.
 自分のとったくまを みな かわとにくにきりはなした そうな いまや。

tamačču gasattakki dəuduxən⁴⁵⁾ taani. əudumi narree
 それから 自分のむらへ くだってもどった そうな。 くだってもどってひとを

gadumi g⁴⁶⁾ kaapaduxani.⁴⁷⁾ ga bəjəŋulbi əəwučixəni
 つれて つれて またのぼった。 さて 自分のとったたくさんのくまを おろした

taani čii əəwučimi čii əəwučimi čii bəjəmbə
 そうな、 ずーっと おろしつづけ ずーっと おろしつづけ ずーっと くまを

əəwučimi. ilaa ilaa dolboni ilaa dolboni⁴⁸⁾ ilaa inəŋi sarkamyi
 おろしつづけて。 三 三 晩 三 晩 三 日 がかりで

əəwuxəni bəjəŋubi ilaa ugdaŋi. ilaa ugdaŋi əəwuxəni.
 おろした、 自分のとったくまを 三そうの ふねで。 三そうの ふねで おろした。

gə čaŋŋulbigda əsə⁴⁹⁾ xurigačixani⁵⁰⁾ taani tuwə. tuwə
 さて 自分のとったそれらをば いま くままつりした そうな、 冬に。 冬に

xurigačimi⁵¹⁾ biččini aundauma dugdu. ga narunģeenuu
 くままつりして いた、 円錐形のこやの いえで。 「さあ ナルンゲーヌー

ələt taanee. xai bəjəmbəni baagatči tari čii
 もう十分だろう。 どんな くまを みつけて そうやってずーっと

manneesiga. ə⁵²⁾ kalģammee bəədureə. čii
 たくさんころしているのか。 さあ カルジャメ(容器)を かえしてくれー。」 ずーっと

murreeni. さげんでいる。	itəjjiwi 自分がまたみる	taunduni たびに	čii ずーっと	murreeni さげんでいる，		
kaljamiṇuni. かれの相手のカルジャメが。	gə さて	čomjee そうしていてから	əsigdəələkkə いまや	məənə 自分の	gasattakki むらへ	
əuduxənduni くだってもどったとき	geedara 一度	guiptəŋi こやのおおいの	aldaakkeeni あいだから	ṇaalini その手が	iirini はいる，	
kaljami カルジャメの	ṇaalini. 手が。	ga 「さあ	kaljami ⁵³⁾ カルジャメ	anu えーとあれ	narunḡeenu ナルンゲーヌ	
kaljamme カルジャメ(容器)を	bəəddu. かえしてくれ。	əsiləkkə いまなら	ələt もう十分だろう。	taanee.		
waagasidda おまえがとったのだけでも	ələ もういいでないか，	əsi beeji	bəjəmbə くまを			
manaasidda. おまえがたくさんころしたのだけでも。	nəə すぐ	bəəddu. かえしてくれ。	nəə すぐ	bəəddu. かえしてくれ。		
əutəssee おまえはかえしてくれなかったら	bəəddəə だめだー」	orkee と	uččini 言った	taani. そうな。	čorroo するとすぐ	
ナルンゲーヌは	sisə 日本の	masaarreeni ⁵⁴⁾ まさかりを	ča ⁵⁵⁾ その	keeltamidu 食器おきばに	bitči あった	sisə 日本の
masaarreeni まさかりを	tawala ⁵⁶⁾ 火に	iwaččini くべた	taani. そうな。	səəm まっかに	opoomi されて	siləptuxəni あかく熱せられた
taani そうな，	tari その	tawadu 火に	əksəxəni おいた	masaari. まさかりが。	čorroo そうしてすぐ	sələmi 鉄製の
səəkkeeni 柄をつけるそのあなへ	bagbalarraa ⁵⁷⁾ つきさすなり	tari その	panaduni てのひらに	əksəxəni おいた	taani. そうな。	
čorroo そうするやいなや	kəkəkəkkəə あっちっち	kəkəkəkkəə あっちっち	kəkəkəkkəə あっちっちと	xuməxəni おおごえをだした		
taani そうな，	tat ⁵⁸⁾ その	sələ ⁵⁹⁾ 鉄	sələmə 鉄製の	masaari まさかりが	dəḡjeeduni やけるとき	ṇaalibi 自分の手が
tamačču それから	čii ずーっと	wəədəptuxəni いなくなった，	tas. ⁶⁰⁾ それは。	narunḡeenu ナルンゲーヌは	čas ⁶¹⁾ かれは	kaljamme カルジャメを
dabjixani. まかした。	tari かれが	kaljamme カルジャメを	dabjixani まかした	təəlununi むかしばなしは	čalaa それまでだ。	biini.

北川 五郎さんから 1959 年録音した。このむかしばなしを北川さんはショークト

(Sookto) 氏族の老人からきいたが、北川さんの父親からもきいたよし。本来ショークト氏族のはなしだろうという。カルジャメ(kaljami)というおおとこの妖怪からそれがもっているつめのはいった小容器(これをまた kaljami という。これを手に入れると縁起がいい)を奪ったナルンゲヌ(Narungeenu)という人のむかしばなし。このはなしは川村秀弥『土語と土俗』(稿本) (『川村秀弥採録カラフト諸民族の言語と民俗』(池上二良編) 札幌・網走 1983 年)にも日本語で採録されている。この稿本については、池上二良「川村秀弥氏の覚え書『土語と土俗』について——樺太土着民族の研究のための一資料」(『北アジア民族学論集第1集』1965 年)も参照。カルジャメのもう一つのはなしは本書の 6 に載る。

- 1) narungeenu の r は佐藤さんの聴取による。
- 2) gee (= geeda《1》) は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 3) かしらに d がきこえるが、aundaxani《かれがやどった》のこと(佐藤による)。ただしこの録音をききなおした北川さん自身は aundaxani にきこえるという。
- 4) 佐藤さんは duwweedu《おかの方から》のかわりに duwwee《[川、海の方に対する]おかの方(の)》とあるのがいいという。
- 5) əpəčičii のはじめの部分は北川さん、佐藤さんの聴取による。川へおりる意(北川、佐藤による)。
- 6) bii jəwə は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 7) dərən ときこえるのは dərəlli (または dərəlni)《それのかおは》のこと(佐藤による)。北川さんは dərəln (= dərəlni) ときこえるという。
- 8) čə ときこえるのは čop のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は čop であるという。なお čop は一語だけでよい(佐藤による)。
- 9) otuxa (otu-《なおる》)のかわりに očči (o-《なる》)とあるのがいい(北川による)。
- 10) ullini の 2 つめの 1 は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 11) jəwə《これを》はよけいな語(北川、佐藤による)。
- 12) sak ときこえるのは čaa《その》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は čaa であるという。
- 13) kə ときこえるのは gə《さて》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は gə であるという。
- 14) xətuččimbičee (= xətuččimbičee) の末音は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 15) xərəlliduni の ll は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 16) na ときこえるのは anaa《いや》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は anaa であるという。
- 17) čorro (= čorro) は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 18) kaljami は kaljamitai とあるのがいい(佐藤による)。
- 19) əsigdəə のはじめの部分は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 20) ɣənneeduni のおわりの方の部分は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 21) tuukkəl はあやまりの発音で、tukkini《それがたおれる》とあるところ(佐藤による)。
- 22) kə ときこえるのは gə《さて》のこと(佐藤による)。
- 23) umul と言ってあらためて umulk (= umulki) と言っている(北川による)。
- 24) geeda のおわりの方の部分は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 25) kaljamib (= kaljamibi) の b は佐藤さんの聴取による。
- 26) ɣaaliǰji は北川さんの聴取による。しかし ɣaaliǰi《手で》ときこえる(佐藤さんにも)。
- 27) kaljamimba は narungeenumba《ナルンゲヌを》の言いあやまり(北川による)。kaljami《カルジャメ》なら kaljammee《カルジャメを》となる。
- 28) かしらに無声摩擦音がきこえるが ee だろう(佐藤による)。
- 29) kəddəən とは kətuddəən のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は kətuddəən であるという。
- 30) kaljamin と言ってつぎに kaljammee と言いなおしている(佐藤による)。
- 31) naamaččini《だいた》ときこえるのは naamaččeeni《だいている》のこと(佐藤による)。北川さんは naamaččeeni ときこえるという。
- 32) xətəitəmjee の j は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 33) 佐藤さんには tar でなく kaljami ときこえるという。
- 34) təəmjee は narungeenu がの意。təəmjee のかわりに təəsiduni とある方がいい(佐藤による)。

- 35) xəjjəəččini は川の水のなかをあっちへわたり、こっちへわたり、さかなをとりながらくだって来たの意(北川による)。
- 36) əsigdə は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 37) xumus (= xumusəi) の m は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 38) kəbdəm の頭音は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 39) この大収穫は baijaakki をえたため(北川、佐藤による)。
- 40) uktai unini《ウクタイ川》は səokto unini《敷香川》の支流。
- 41) ələt の t はまだ文法的分析ができていない。
- 42) これを北川さんは gəə《さて》であるといい、佐藤さんは əə (応答の間投詞)であるという。
- 43) xaagbučixan (= xaagbučixani) の頭音は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 44) s はほとんどきこえない。佐藤さんは əsigdəə のあとに n かなにか音があるという。əsigdəə, əsigdəələ《いまや》は不明瞭に発音されることがしばしばある。
- 45) かしらに d がきこえるが əuduxən (= əuduxəni) のこと(佐藤による)。北川さんは əuduxən ときこえるという。
- 46) g は gadumi《つれて》または gəə《さて》を言いかけた(佐藤による)。
- 47) 北川さんによれば川を丸木ぶね(ugda)でのぼる意。佐藤さんによれば地上を川にそってのぼるの意。川ならば kaapaduxani のかわりに soloduxani《また川をさかのぼった》とあるのがよい(佐藤による)。
- 48) ilaa と言って、さらに ilaa dolb (= dolboni《夜》)をくりかえし、つぎに ilaa inəŋi と言いなおしている(北川による)。二番めの dolb の b は佐藤さんの聴取による。
- 49) əsə ときこえるのは əsi《いま》のこと(佐藤による)。
- 50) xurigačixan (= xurigačixani) は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 51) xurigačim (= xurigačimi) は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 52) 北川さんは gəə《さあ》であるという。佐藤さんは ə のまえになにかある音がどんな音かわからないが、gə (= gəə) だろうという。
- 53) kaljami は narungeenu の言いあやまり(北川、佐藤による)。
- 54) masarreeni のおわりの方の部分は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 55) ča (= čaa)《その》は北川さん、佐藤さんの聴取による。ただし čak (= čakki)《そこに》ともきこえるという。
- 56) tawal (= tawala) の末音は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 57) bagbalarraa の末音は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 58) tat の t は佐藤さんの聴取による。ただし tas かともいう。どちらにしても tari のことであるという。またこれはあるいはそれ(カルジャメ)はの意かもしれない。
- 59) sələə と言ってあらためて sələm (= sələmə) と言っている(北川、佐藤による)。
- 60) tas ときこえるが tar (= tari)《それは》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は tar であるという。その s は実は r [ɽ] かもしれない。
- 61) čas ときこえるが tar (= tari)《かれは》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は tar であるという。

8. ショクショーヌ

北川五郎(Gərgulu)口述

ga	geeda	əəktə	bok	bok ¹⁾	əsərəi	bīčči	taani.	gə
さて	ひとりの	おんなが	はら	はらが	みおも	だった	そうな。	さて
əsərəiduni	gə	səksəə	waarraa	isalbani		dəpəəččiti	taani	
みおものときに	さて	たかを	ころすと	その目を	家人が	たべさせた	そうな、	

əsərəi əəktəə əsərəiduni. gə siltoonda
 みおも おんなに みおものときに。 さて 妊婦のからだをたかの血で あらったと、

təəluŋŋəə saabuddoori.²⁾ gə tari əəktə čii
 いいつたえを 本当かどうか 自分たちが知るために。 さて その おんなは ずーっと

əsərəigəčimjee ga puttəə baaxani taani əsigdəələkkə.³⁾
 おなかが大きくなってきて さて こどもを うんだ そうな いまや。

waalleetta. gə səksə səksə isaljiini isallu. nari
 ワーッレーッタ氏族だ。 さて たか たかの 目の 目をもっている。 人間の

isalni⁴⁾ xaŋgeetaini oččimba baaxani. ga čii bimi čii
 目と ちがったのを うんだ。 さて ずーっと くらして ずーっと

bimi əri čii bimi čii bimi tari puttə daaji
 くらして これは ずーっと くらして ずーっと くらして その こどもは 大きく

oččini taani əsigdəə. mөө dooni baani⁵⁾ itəpee xoondəə mөө dooni
 なった そうな いまや。 みずの なかの 方を みた どんな みずの なかの

suŋdattaani xoondəə əuləukki čat⁶⁾ čii iččeeni tari daaji oččinjī.
 さかなも どんな 淵でも かならず みる、 かれは、 大きく なったときに。

xoondəə soktoo mөөkki čat⁶⁾ čii suŋdattaa waarini. əri
 どんなに にごった みずからでも かならず さかなを とる。 これは

pakčirauli⁴⁾ baalanda⁷⁾ čii suŋdattaa iččeeni. gee⁸⁾ əri tədə
 くらい ところでも かならず さかなを みる。 さて これは 事実の

təəluŋu billəə. səksə isaljiini i⁹⁾ isal isal isalunnee. tədə
 いいつたえ だろう。 たかの 目の め 目 目 目をもつひとだ。 事実の

təəluŋu billəə. gə čii bimjee əsigdəənu¹⁰⁾ kə¹¹⁾
 いいつたえ だろう。 さて ずーっと くらしていて いまや、 さて ひとびとは

pəəttəə waamari dargiji waagati¹²⁾ waaluwati taani əsigdəələkkə.
 あざらしを とり、 もりで とった、 とりはじめた そうな いまや。

joosomori puliməri orokpočilooti¹³⁾ taani əsigdəə.
 海獣猟をしながら 移動しつつ かれらはつれてまわるようになった そうな いまや。

čii orokpočimari čii nooni nooni čii məəgdu
 ずーっと つれてまわり、 ずーっと 例のかれは 例のかれは ずーっと へさきに

osini. nooni məəgdu osini tari səksəənu. gə pəəttəə
 のる。 例のかれは へさきに のる、 その ショクショーヌは。 さて あざらしを

waajitami taisai ŋənəpee, gəə əri boonupu manga orkii,
 とうとうとして おきへ 行ったら、 「さあ この おれたちの天気は ひどく わるい。

mөө dooni soktoonjinee, mөө dooni soktooluxanee,
 みずの なかが にごってくるぞ。 みずの なかが にごりはじめたぞ。

boo osinee, boo osiwani gəəm saarini. čorruu
 天気がわるくなるぞ」と、 天気がわるくなるのを すべて 知る。 そうするとすぐ

xaagdujini naatai. təddəə boo osini taraṇati
 ふねをかえしてつける、 陸へ。 本当に 天気がわるくなる、 そのように

outanee. ga boo aja ottookkaačceeri goti čisaǰiti
 かれがしたあとは。 さて 天気が回復するのを待つて また かれらはのり出してもどる

taani əsigdəə nammoo taisai. ga čis¹⁴⁾ čisadupee jə¹⁵⁾
 そうな いまや、 うみを おきへ。 さて のり出し またのり出したら この

amuspee ajjiti taani
 当才のあごひげあざらしを かれらはもりをのばしてとろうとする そうな、

dargiji.¹⁶⁾ gə amuspi jəkki jəkki čakki⁷⁾
 もりで。 「さあ 当才のあごひげあざらしが ここを ここを そこを

ṇənnəəkkə. čakki čakki čakki čakki ṇənnəəkkə. čii
 行きつつある。 そこを そこを そこを そこを 行きつつある。」 ずーっと

allausini. eekkučceenučī tari čii nooni
 おしえている。 かじがいをとるものは そうやってずーっと 例のかれが

unjikkeeni ṇaaladji nuṇjiččikkeeni čii ṇənneni.
 言うところを 自分の手で かれがさしているところを ずーっと 行く。

naan¹⁷⁾ nuṇ¹⁸⁾ nuṇjiččikkeeni čuul eekkučceeni. əri
 自分の手で さ かれがさしているところを まっすぐ かじがいをとる。 「これが

agbindakka. əri agbindakka unjini. agbimboomi
 水面にあらわれるぞ。 これが 水面にあらわれるぞ」と 言う。 水面にあらわれさせて

bagballeeni dargiji. əri isalniddaa ələ kattannii. ga čomjee
 つく、 もりで。 この 目も ひどく つよいな。 さて そうしていて

čii taraṇačiimali waarini. ṇaalakkeeniimali waarini
 ずーっと そういう風にばかり とる。 あざらしの手のところではばかり とる、

səəksəni bara bara oṇojini səəksəni bara oṇojini.¹⁹⁾
 それの血が たくさん たくさん でないように、 それの血が たくさん でないように。

səəksə itəpee orki. orki osini. nari²⁰⁾ nari
 血を みたら わるい。 目が わるく なる。 ひと ひとのうちでも

maṅgani nari oččini əsigdəə. čəə²¹⁾ əlləu⁷⁾ daaji nari oččini taani
 大変つよい ひとに なった いまや。 本当の おとなに なった そうな

əsigdəə. xaiwadda məənə suul waaluxani əsiləkkə dargiji.
 いまや。 なんでも 自分 ひとりで とるようになった、 いまは もりで。

pəəttəə waaluxani. sirombədde waari⁴⁾ bəjəmbədde waari⁴⁾
 あざらしを とるようになった。 野生となかいも とり くまも とる

oluxani.²²⁾ gə taula²³⁾ orokčiti taani əsigdəə
 ようになった。 さて 北知床半島に ひとびとはつれて行った そうな いまや、

tau umbi²⁴⁾ naataini. mamala²⁵⁾ orokčiči mama
 北知床半島と いう 土地へ。 ばばいわに かれらはつれて行った、 ばばと

umbi²⁴⁾ jolotoini. ga mama umbi²⁵⁾ jolotoini ŋənəgəččeeri ga
 いう いわへ。 さて ばばと いう いわへ 行って さて

bajjee namukki²⁶⁾ joosooti taani əsigdəə. ənəjee mama
 かげのうみで かれらは海獣猟をした そうな いまや。 あれまあ ばば

jollooni jap aurini pəəttə jolokki. čowotči²⁷⁾ čisaati
 いわ 一面に ねている、 あざらしが いわに。 そうして かれらはのり出した

taani əsigdəələkkə. tugdar²⁸⁾ dawwauwaaččeeri²⁹⁾ čisaati
 そうな いまや。 自分たちのふねを おか越えさせて かれらはのり出した、

bajjee namu.³⁰⁾ čowočči čisagaččeeri mama jolokkeeni ugdaari
 かげのうみへ。 そうして のり出して ばば いわへ 自分たちのふねを

uigəččeeri aixani taani əsigdəə.⁷⁾
 つないで あざらしにむけてもりをのばしていた そうな いまや。

aimi ittəəjini taljee xoldokkeeniddaa ədə
 もりの柄をたしてのばしながら みると おきの 方でも しゃちが

xasu xasunda ədə pulisiči. tari pəəttəŋuči pə³¹⁾
 いくつも しゃちが うごいている。 その かれらのねらうあざらしは あ

ədəmbə itəməriddə saum tuuduwači gdəə³²⁾ tari səgdəə
 しゃちを みただけで みんな みずに またおりた いまや。 あれが みずけむり

əri səgdəə tari səgdəə əri səgdəə oiči.
 これが みずけむり あれが みずけむり これが みずけむりを たてている。

geeddaaddaa əsini⁷⁾ bagballaa səksəənu. səksəənu
 一匹も 突けない、 ショクショーヌは。 ショクショーヌは

gosiluxani taani əsigdəələkkə³³⁾ əri mittəi
 にくらしくなりだした そうな いまや。 「これは おれと

baačindaxanii uččini taani əri əri ədə geeddaaddaa
 はりあうために来たのか」 と 言った そうな、 「これは この しゃちは 一匹も

bөөрөми³⁴⁾. aburaxani taani əsigdəələkkə. mini waariwiŋači xajundi
 ぐれないで。」 けなした そうな いまや。 「おれが とるように 道具で
 əmi waara kərəkətəjji seemi dəptumi mittəi xoot³⁵⁾ baa³⁶⁾
 とらずに 自分の歯で かじって 食って おれと どのように はり
 baaččinee učču³⁷⁾. xooni baaččiniga mini mini waariwiŋati
 はりあうのか」 と 言った。 「どのように はりあうのか、 おれの おれの とるように
 dargiji əmi waara mimbee ittəumi əmi waara. čowočči mastaa aja
 もりで とらずに おれに みせて とらずに。」 それから 大変 いい
 baawui agbiččini taani əsigdəələkkə. bii pərgeeləmi əsi
 ごまふあざらしが あらわれた そうな いまや。 「おれは やってみよう、 いま、
 ədəə ədə bimiddə. bultai aixani taani
 しゃちやい、 しゃちが いても。」 一所懸命 もりをのばしてとろうとした そうな、
 səksəənu čadu baawukkee. čii aimi čii
 ショクショーヌは そのとき ごまふあざらしを。 ずーっと たしてのばし ずーっと
 aimi bultai kusundi aixani taani əsigdəə.
 たしてのばし 一所懸命 ちからを出して もりの柄をたしてのばした そうな いまや。
 əri laxəə oččini laaxu laaxuni.
 これが あざらしに ちかくまで せまった、 もりのうきのいたが もりのうきのいたが。
 jogboni laaxuni laxa oččini. laxa osiduniddaa
 もりさきについた うきのいたが ちかついた。 ちかづきつつあるときにもう
 pəətəŋuləni kiččomji tutuxani³⁸⁾ dargi səəgdə dargi³⁹⁾.
 かれのねらうあざらしに ささって あたった、 もりが あかい もりが。
 kobdom pəətə. laaxuni səəmə očči.
 死んでういている、 あざらしが。 そのもりのうきのいたは まっかに できている。
 gəə məkkeenneeji tari dabdaxani səksəənu. gə
 さて 海神(水人)に かれは まけた、 ショクショーヌは。 さて
 məkkeenneeni xajumbani čari⁴⁰⁾ itəxəni. təddəə məkkeenneeni
 海神の 道具を そのとき かれはみた。 本当に 海神の
 xajuni⁴¹⁾. čaa məkkeenneeji čiidəə dabdaxani səksəənu
 道具だ。 その 海神に とうとう まけた、 ショクショーヌが、
 səksəənu umburi maŋgani. tamačču xaawuduwati
 ショクショーヌと いう つわものが。 それから かれらは海獣獵からかえった
 taani čiidəə dabdagačči səksəənuuči. tamaččukee
 そうな、 とうとう まけて 同行者のなかまのショクショーヌが。 それから

tari	møø ⁴²⁾	søk	pə	pəəttəəni	møø	møø	ambambani	əmi	jaawuččee
かれは	水中の	シヨク	あ	あざらしを	水中	水中の	魔ものを	あまくみなく	
oččini	søksoənu.	tari	isalni	kattalanilakka	aja	katta.	boo		
なった,	シヨクショーヌは。	かれの	目は	つよいことでは	ひどく	つよい。	天が		
təwweeriwəni ⁷⁾	gəəm	saarini.	xoondəə	əuləukki	waajitamii				
くもるのを	みんな	知ってわかる。	どんな	淵でも	とろうとし				
xoondəə	soktookki	čii	iččeeni.	suṇdattaa	čii				
どんなに	にごったみずでも	そうやって	みる。	さかなを	そうやって				
waarini	nooni	əməəkə.	tari	čii	biččini	taani.			
とる,	例のかれ	ひとりは。	かれは	そうやって	いた	そうな。			
čalaa	biččini	tari	təəlununi	tari	søksoənu.				
そこまでだった,	かれの	いいつたえは,	その	シヨクショーヌの。					

北川五郎さんから 1959 年録音した。このはなしを北川さんは多くの老人からきいたよしである。本来は Waalleetta 氏族のはなしであるという。母親がiiiつたえにしたがって妊娠中にたかの目をたべ、その血でからだをあらうてうまれた Søksoənu (鷹丸のようなまえ。søkso は《鷹》)は、はたしてみずのなかをよく透視できる目をもち、つよい人間であったが、あざらしをとる際はりあつたしゃち(海神)にはかなわなかったはなしである。

- 1) bok (=bokko《はら(が)》)の 2 語を佐藤さんは余計な語であるという。
- 2) 妊婦が鷹の目をたべるとうまれる子の目がつよくなり、たかの血をのみ、それでからだをあらうてうまれる子はつよく丈夫になるというiiiつたえがウイльта族にある(北川による)。
- 3) 佐藤さんにはəsigdaən (n は l のあやまり)ときこえるという。
- 4) 佐藤さんの聴取による。
- 5) baani とは baaruni《それの方へ(を)》のこと(北川、佐藤による)。
- 6) 佐藤さんの聴取による。čat ときこえるのは čak (=čakki) のこと(佐藤による)。
- 7) 北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 8) 佐藤さんの聴取による。gee は gəə《さて》をあやまって発音した形(佐藤による)。
- 9) i isal isal と言ってつぎに isalunnee と言いなおしている(北川、佐藤による)。
- 10) 佐藤さんの聴取による。əsigdəəla (=əsigdəələkkə《いまや》)のあやまり(佐藤による)。ただし北川さんはəsigdəəlaときこえるという。
- 11) kəときこえるのは gə《さて》のこと(佐藤による)。
- 12) waagat (=waagači) と言ってつぎに waaluwat (=waaluwači) と言いなおしている(北川、佐藤による)。
- 13) シヨクショーヌをつれて行く意(北川、佐藤による)。
- 14) čis と言いかけてあらためて čisadupee と言っている(北川、佐藤による)。
- 15) 佐藤さんによれば gə (または ga)《さて》ともきこえるという。
- 16) もり(dargi)には浮きの板(laaxu)がついている。もりは柄を何本もつないでのばし、もりさきがねらうものへちかついてから突いてさす。
- 17) naan は ŋaalaŋŋi《自分の手で》をあやまって発音した形(北川による)。
- 18) nuŋ と言いかけてあらためて nuŋjiččikkeeni と言っている(北川、佐藤による)。
- 19) あざらしのまえのひれあしにばかりもりをさしてとるの意(北川、佐藤による)。
- 20) この nari は nari manġani nari のはじめの nari のくりかえし(北川、佐藤による)。ただし佐藤さんはシヨクショーヌがの意かともいう。

- 21) 佐藤さんによれば *ǰəə*《さあ》ともきこえるという。
- 22) *s.waarraa b.waarraa oluxani*.《……とったり……とったりしはじめた。》とあるのがいい(佐藤による)。
- 23) *tau naani* 北知床半島。
- 24) *umbi* とは *umburi*《言う》のこと(北川、佐藤による)。
- 25) *mama ǰoloni* 北知味半島東岸にあるいわ(*mama*《老婆》, *ǰolo*《いし, いわ》)
- 26) *baǰǰee namu* かげのうみ, 北知床半島のひがしがわのうみ(オホーツク海) (*baǰǰee*《むこうの方》*namu*《うみ》)。これを *xusə namu*《おとこうみ》ともいい, 同半島のにしがわのうみ(多来加湾)を *əəktə namu*《おんなうみ》という。
- 27) *čowočč* 以下は内容的にまえの部分のくりかえしである(佐藤による)。すなわちかげのうみへ行ってあざらし猟をすることがくりかえしのべられている。
- 28) 佐藤さんの聴取による。 *ugdaar* (= *ugdaari*)《自分たちのふねを》のこと(佐藤による)。
- 29) 北知床半島の多来加湾がわの船越からオホーツク海がわへふねをひいて陸を横断してこえる意。
- 30) *namu*《うみ》は *namutai*《うみへ》とあるのがいい(北川、佐藤による)。
- 31) *pə* (= *pəətə*《あざらし》)と言ってつぎに *ədəmbə* と言いなおしている(北川、佐藤による)。
- 32) *gdəə*は *əsigdəə*《いまや》(北川、佐藤による)。
- 33) 佐藤さんには *əsigdəən* (*n* は *l* のあやまり)ときこえるという。
- 34) *bəərəmi* の語形はまだ十分に分析されていない。あるいは *əmi bəərə* の逆の位置での融合形だろう。
- 35) *xoot* は *xooni*《どのように》とあるのがいい(北川、佐藤による)。
- 36) *baa* と言いかけてあらためて *baaččinee* と言っている(北川による)。
- 37) *uččuu* は *uččini*《かれが言った》をあやまって発音した形(佐藤による)。
- 38) *tutuxani* は《けだものやさかなが(わなやあみに)かかった》。ここは *dargi pəətələ naanbuxani*《もりがあざらしに あたった》とあるのがいい(北川による)。
- 39) あかいもりは海神のもりであり, しゃちは海神であった(北川による)。ウイльта人によれば, われわれ人間のすむこの世界は *taldaawu naa*《まんなかのくに》であり, それゆえわれわれは *taldaakki umulu nari*《まんなかにおびをしめているひと》である。そしてこの世界の上には *bookkeenneeni*《天人》がすみ, 下には *məəkkeenneeni*《水人, 海神》がすみ。*məəkkeenneeni* をまた *təəmunneneeni* という。(以上佐藤による。) *təəmunneneeni* は *məəkkeenneeni* と同義のシャマン(巫人)の用語であるという(北川による)。
- 40) *čari* ときこえるのは *čadu*《そこで, そのとき》のこと(佐藤による)。
- 41) *xaju*《道具》はここではもり(*dargi*)の意(北川による)。
- 42) *məə* と言ったあと *sək* (= *səksəənu*)と言いかけ, つぎに *pə* と言いかけてあらためて *pəəttəən* と言っているが, そのあとで *məə* をくりかえして *məə ambambani* と言いなおしている(北川による)。なお, *tamaččukee* は *tamaččukoo*《それから》のこと(佐藤による)。

9. シ ャ ラ

北川五郎(*Gərgulu*)口述

<i>ga</i> さて	<i>sələ</i> シャラ という	<i>golǰii</i> ゴリジ人が	<i>biččini</i> いた	<i>taani.</i> そうな。	<i>čii</i> ずーっと	<i>bimi</i> いて
<i>čii</i> ずーっと長く	<i>bimiddəə</i> いても	<i>nari</i> 人間のうちで	<i>manǰani</i> 一番つよい	<i>nari</i> 人間,	<i>ambandula</i> ばけものに村して	<i>manǰa</i> つよい,
<i>dooni</i> そのからだの	なかが	<i>pilǰi</i> かたい	<i>nari</i> 人間,	<i>sələmə</i> 鉄でできた	<i>nari.</i> 人間だ。	<i>čomi</i> そうだから

sələji¹⁾ gəlbulu nari bičči. əčəl²⁾ čii bimjee itərrəə³⁾
 シャラという 名をもつ ひと だった。 ずーっと いてから 見るとすぐ
 ĵeesilbi oronmi ugdatakki ugdatakki adullee təuwəətči
 自分のなかまを つれて 自分のふねへ 自分のふねへ あみを つんで
 xəjjəəččini taani əsigdələkkə dawwaa waandami geeda p⁴⁾
 川をくだった そうな いまや、 鮭を とりに行くために ひとりの こ
 geeda puttəbi oronmi xusə puttəbi oronmi. ga
 ひとりの 自分のこどもを つれて おとこの 自分のこどもを つれて。 さて
 čii xəjjəəmjee ittəəjiči⁵⁾ geeda tusigəkki xaakčini.
 ずーっと 川をくだって行ってから 見ると ひとつの みさきへ ふねをつけた。
 anani anani čakki čii waarini nooni ča čaa tusigəkki.
 毎年 そこで ずーっと とっている、 そのかれは その その みさきで。
 geeda⁶⁾ pudal aan⁷⁾ pudal biini. ga čakki waarini. ə⁸⁾
 ひとつの 大変いいよどんだとおろが ある。 さて そこで とる。 さて
 tusigəmbəni⁹⁾ tusigə tonjoo¹⁰⁾ tonjooduni gə¹¹⁾
 みさきを みさきの 川のまがるところ 川のまがるところで さて
 puttətəkki uččini taani. sii¹²⁾ naajjee siigbəni¹³⁾
 自分のこどもへ 言った そうな。 「おまえは おかの方の (あみについた)つなを
 dappau. jədu dapputattaari. gə gəsə¹⁴⁾ xəjjəəttəəri¹⁵⁾ gə buu
 つかめ。 ここで つかんでいろ。 さあ 一緒に あとでくだれ。 さあ おれたちは
 jəə tusigəmbə xuulimari xaagjilup taani uččini taani.
 この みさきを まわって ふねをつけることになるだろう」と 言った そうな。
 ga kau bittəəri jədu.¹⁶⁾ dapputattaari¹⁷⁾ jəwə.¹⁸⁾ ga puttəə
 「さあ じーっとして いろ、 ここで。 つかんでいろ、 これを。」 さて こどもに
 naajjee siigbəni dappaukkatči adulle čissauxani taani čakki. adulle
 おかの方の つなを とらせて あみを はった そうな、 そこで。 あみを
 tugbuməri čii xəjjəəməri tugbuməri xəjjəəməri tugbuməri
 おろし ずーっと くだりながら おろし くだりながら おろし
 xəjjəəməri adulči¹⁹⁾ suwə²⁰⁾ dugətəini gəxə ɣənəxəni. ga xaa naa
 くだりながら あみが こずえ それのはじ まで 行った。 さて あが おか
 xaa²¹⁾ naatai xaakčiti taani əsigdəə. naatai xaakkaččeeri tooččiti
 あが おかへ かれらはあがった そうな いまや。 おかへ あがって ひいた
 čii tooččiti čii tooččiti. aduličiddəə əsini²²⁾ xəjərrəə.
 ずーっと ひいた ずーっと ひいた。 かれらのあみは 川をさがらない。

xaixakka. xəjjəənəθ muraxati taani. čiptamji. xəjjəənəθ
 どうしたのか。 「くだれ」 と かれらはさけんだ そうな。 だまっている。 「くだれ」 と
 murraajiti²³⁾ čiptamji. xaixakka puttə. gəə jēeltak²⁴⁾
 よぶと だまっている。 どうしたのか、 こどもは。 さて 自分のなかまへ
 uččini taani. itəndəu. itəndəu. xaigakka tari²⁵⁾. ga
 言った そうな。 「見に行け。 見に行け。 どうしたのか、 あれは。」 さて
 itəndəutčini taani. ga geedanneepa²⁶⁾ ɲənnəuččini. geedannee ɲənəxəni
 見に行かせた そうな。 さて ひとりを 行かせた。 ひとりが 行った
 taani. jeeči ɲənəgəčči itəxəni taani. anuni
 そうな。 かれらのなかまのひとりが 行って みた そうな。 えーとあれの
 adulini siɲni tuu taljɪnu billə.²⁷⁾ bəjəni naadu
 かれのあみの つなは すぐその おきに あるようだ。 かれのからだは おかに
 billə. jilini²⁸⁾ ulaptuččeeni. mөөdu biini.
 あるようだ。 かれのあたまだけが みずにつかっている。 みずのなかに ある。
 xaaan bučči. bultai muraxani taani. nari²⁹⁾ buččinee
 いつかに 死んでいる。 おおごえで さけんだ そうな。 「ひとが 死んでいるよう」と
 muraxani taani. aduli siigbəni dapaduxani. dapaxani nooči³⁰⁾.
 さけんだ そうな。 あみの つなを とりもどした。 つかんだ、 そのかれらが。
 paaji³¹⁾. geeda moo garalani taagatči biini aduli siɲni³²⁾. čowot
 浅い。 一本の 木の えだに ひつかかっている、 あみの つなが。 そうして
 čowočči siigduni³³⁾ dapagatči čii xəjjəəččini taani. ga
 そうして それのつなを つかんで ずーっと 川をくだった そうな。 さて
 amini³⁴⁾ sindaxani taani. xooni toilakka puttəbi
 こどもの父が きた そうな。 「どう するものぞ、 自分のこどもが
 buččimbə. gə puttəbi buččimbəni uisəi tooččini taani. xooni
 死んだものを。」 さて 自分のこどもが 死んだのを 上へ ひいた そうな。 「どう
 toilakka. adullee xaagbumi aja. naatai xaagbumi aja. ga xaagbuwati
 するものぞ。 あみを あげよう。 おかへ あげよう。」 さて かれらはあげた
 taani. suɲdatta iixəni adulitaiči. gəəmji iixəni. gəəm
 そうな。 さかなが はいった、 かれらのあみへ。 みんな はいった。 全部
 xaagbuwači. suɲdatta iixəni dootoini. ga suɲdattaani čakki
 かれらはあげた。 さかなが はいった、 それのなかへ。 さて それのさかなを そこへ
 xaagburraa, ə³⁵⁾ xərə xərə naatai məətəččirrəə xərə xərə
 あげるや 「さあ おまえたちは すこし おかへ なげ すこし

giččini. gitumi sindami čii gitumi sindami gitupsii⁵³⁾ kaapami
 あゆむ。 あゆんで きて ずーっと あゆんで きて あがって

čii kaapami čii kaapami čii ŋoomi čii⁵⁴⁾ xaap⁵⁵⁾
 ずーっと あがって ずーっと あがって ずーっと かぎながら ずーっと あがって

xuriganji ŋoomi⁵⁶⁾ kaappeeni. kaapami čii kaapami noombonidda⁵⁷⁾
 自分のはなで かぎながら あがる。 あがって ずーっと あがって そのかれをも

ojokkeenidda sindami puttæddə iktæmændə⁵⁸⁾ tæwwini⁵⁹⁾ koop
 かれの上にまでも きて こどもにまでも かみついて おこす、 ぐっと

da. taraŋači oiduniddaa dœ xoldokkeeni kučilærræ
 な。 そう するおりしも シャラは 両 がわから 小刀でさすや

xarpiččini taani juk. ŋaalikkini⁶⁰⁾ giltaramji⁶¹⁾
 きてさいた そうな、 血がどつとでる。 とどは かれの手から はずれて

mœ baaruni čauk dæringxændə xooddo⁶²⁾ xoo tawa tawanami
 みずの 方へ どぶんと はねてひきかえしたと、 ホーとほえて、 火が 出ながら

ixaldulan⁶³⁾. čorruu puttæbi čakki uisæi mætæl⁶⁴⁾
 それの目から。 そうすると 自分のこどもを そこから 上へ(おかの方へ) な

mætælægæčči jabdæar geewannaumi ŋænuxæni taani.
 なげあげてから ほんのりあかるく しらんできて かれはかえった そうな。

ŋænuwætči⁶⁵⁾ duktakki ŋænuxæni. mamaŋutakki ænæjje pæk⁶⁶⁾ gosipsigbaa
 かえって 自分のいえへ かえった。 自分の老妻へ 「あーあ しゃく しゃくだ」 と

uččini taani. puttæ waagačči isuxambi uččini taani.
 言った そうな。 「こどもを ころして おれはかえってきた」 と 言った そうな。

ambaa waaxanee uččini puttæwwæ.
 「ばけものが ころしたんだ」 と 言った、 「おれのこどもを。」 「とどが

puttæbbeeddə⁶⁷⁾ waagaččiddaa mini puttæbi dulleekkeeni puttæbi
 おれのこどもを ころしても おれの こどもの さきに おれのこどもが

ŋænæbuddœni⁶⁸⁾ poktoo andumi dullæ ŋænæŋættæ uččini xaiddaa
 行くために みちを つくって さきに 行くがよい」 と 言った、 「なにかの

ambani biwwuri siin⁶⁹⁾. bii bai æsiwi bææ⁷⁰⁾ bai
 ばけもので あるのならば。」 「おれは ただ やらない。 ただ

æččimbi bææ uččini noottoini puttæbi. aldooni
 やらなかつた」 と 言った、 「あのあれへ 自分のこどもを。 消息を

saajiččeelami æsi. ga čii ukkæčči ugdabi ugdatakki⁷¹⁾
 知りたいものだ、 いま。」 さて そう 言ってから 自分のふねを 自分のふねへ

anadurraa⁷²⁾ ugdaŋi geedanneeŋi geulimjĩŋi gaattaxani
 おしてくると ふねで ひとりのひとを 自分のふねのこぎてにして むかえに行ってきた

taani puttəbi. duktakki gaduxani. ənini ələə sonŋeeni.
 そうな, 自分のこどもを。 自分のいえへ つれてきた。 母親は なきそうである。

xooni⁷³⁾ buččiddə⁷⁴⁾ buččəxə⁷⁵⁾ xuradubuddooni sonŋeesii
 「どのように。 死んだものは死んだものだ。 あれがいきかえるように おまえはなくの

uččini taani. ga čimanaani saagati taani ga solleeduu⁷⁶⁾.
 か」と 言った そうな。 さて あくる日 知った そうな, さて 川上から。

ga sagji goropči sama ənəjje dəə xoldokkeeni
 さて としとった ふるい シヤマン(巫者)が あれまあ 両 わきから

səəksə xəjəmi aŋmakkeeni səəksə xəjəmi bujinindəmə. gə
 血が ながれ くちから 血が ながれ 死にかけているんだとき。 さて

sələtəi sindaači ga sələmbə gaanimari.
 シヤラのところへ ひとびとがきた, さて シヤラを むかえに。

ambaldubuddooni sələ waaxani. sələ
 「『ひとをころしたばけものを ころすために シヤラが ころした。 シヤラが

waaxani kum⁷⁷⁾ tulčinee uččini
 ころした』 と 言って そのシヤマンが わからぬことをしゃべる」と 言った

taani. čakki⁷⁸⁾ ŋənəxəni taani. itəxəni. təddəəddə dəə
 そうな。 そこから かれは行った そうな。 かれはみた。 本当に 両

xoldokkeeni sup noonni kučigəŋji kučiləxəni pujaŋi biini.
 わきに ながくきられて そのかれが 小刀で さした きずが ある。

čari⁷⁹⁾ nəədurrəə isuxani. tari čii daa. isuwaččigda čaa
 かれは でてくるとすぐ かえった。 かれは そうしたんだ。 かえってくと その

puttəbi əpsijixəni. əpsijigəəčči ulingaji əpsijigəčči
 自分のこどもを ほうむった。 「ほうむってから ねんごろに ほうむってから

xooni xooni sonŋeelakka sonjoitaxanda. xooni sonŋee. baljib⁸⁰⁾
 どのように どのように なくものぞ なきたくとも。 どのように なく。 うまれて

ulinga obuddoo⁸¹⁾ sonjoŋoiuu xuradubuddooni sonjoŋoiuu.
 元気に なるように なくのだろうか, いきかえるように なくのだろうか。」

asitakki uččini taani. əjje sonjoro. məəpigdəə waami⁸²⁾
 自分の妻へ 言った そうな。 「なくな。 自分のからだをば こわすために

xaimi sonŋeesiga. čalaa biččini taani tari puttə
 どうして おまえはなくのか。」 そこまでだった そうな, その こどもの

təəlununi.

いいつたえは。

北川五郎さんから 1959 年録音した。このはなしを北川さんは父君からきいたよし。このはなしは、あるシャマン(sama)に憑る神がとど(dəəŋə)に化身してこどもを殺すということをしたが、その父親であるシャラ(Səla)という名の豪胆な男に傷つけられ、その神は傷をそのシャマンに負わせ、そのシャマンが死んだというはなし。シャラはゴリジ人(ナナイ人)であるが、南カラフトに交易に来ていたという。北川さんの父親がつかっていたふいご(kəədə)はシャラのものだったという。

- 1) səla は《鉄》。
- 2) əčəl ときこえるのは čowočči《そして》のことだろう(佐藤による)。北川さんもここは čowočči であるという。
- 3) itərrəə は北川さんによれば、川がどんな様子かほかの者に見に行かせた結果いいとわかるとすぐの意であるという。
- 4) geed p と言ってあらためて geeda puttəb(=puttəbi)と言っている(北川による)。
- 5) ittəəji(=ittəəjiči)は北川さんによれば、みさき(tusigə)をみる意だという。佐藤さんはこの語は言いあやまりであるという。
- 6) gee(=geeda)は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 7) aan ときこえるのは ajan(=ajani)《そのうちでも大変いいもの》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は ajan であるという。
- 8) ə ときこえるのは gə《さて》だろう(佐藤による)。
- 9) tusigəmbəni と言ってつぎに tusigə と言いなおしている(北川による)。
- 10) toŋdoo と言ってあらためて toŋdooduni と言っている(北川による)。ただし toŋdoo《くぼ地》は toŋdokto の言いあやまり(北川、佐藤による)。なお toŋdokto は北川さんによれば川のまつすぐな箇所、佐藤さんによれば川のまがった箇所だという。
- 11) gə は佐藤さんの聴取による。
- 12) sii の s は北川さんの聴取による。
- 13) このつな(sixə)とは引網(kəərəkku)のつな(北川による)。
- 14) adulidu gəsə《あみとともに》の意であり、あみを引いて川下へくだれとこどもに言った(北川による)。
- 15) おかの上(川岸)を川下へくだる意(北川、佐藤による)。
- 16) jədu は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 17) daputattaar(=daputattaari)のおわりの r は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 18) jəwə は naaŋjee siigbəni《おかの方のつな》をさす(北川による)。
- 19) adulči ときこえるのは aduli《あみが》のこと(佐藤による)。北川さんは aduli ときこえるという。
- 20) suwə《こずえ》は言いあやまりで、つぎに duwətəini と言いなおしている(北川、佐藤による)。
- 21) xaa(=xaakčiči) naa(=naatai) xaa(=xaakčiči) と言ってあらためて naatai xaakčit(=xaakčiči)と言っている(北川による)。
- 22) əsini の si は北川さんの聴取による。
- 23) murraajit(=murraajiči)は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 24) jeeltak とは jeesiltak(=jeesiltakki)のこと(佐藤による)。
- 25) tar(=tari)は puttə《こども》をさす(北川による)。
- 26) geedanneep(=geedanneepa)の p は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 27) あみはこどもの手からはなれている(佐藤による)。
- 28) jiliniməl ときこえるのは jiliniimal(=jiliniimali)がよい(北川による)。
- 29) nari はここではそのこども(puttə)の意(北川による)。
- 30) nooči《そのかれら》でなく nooni《そのかれ》とあるのがいい(北川による)。
- 31) paaji はつなが流木にひっかかったところまで水が浅い意(北川による)。

- 32) siij(=siijni)の η は北川さん、佐藤さんの聴取による。ここにいる木は dasu《流木》の意。
- 33) siigduni のおわりの方の部分は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 34) amin(=amini)はシャラ(səla)の意(北川による)。
- 35) əときこえるのは gə《さあ》だろう(佐藤による)。
- 36) ふねにまたつんだのはすぐもちかえり、おかへあげたのはあとでまたとりにきてもちかえるため(北川による)。2 か所の xərə xərə《すこしずつ》はそれぞれかわりに poowoni《一部を》とある方がいいし、mətəčirraə《なぜ》のかわりに pulləurraə《のこし》とある方がいい(佐藤による)。
- 37) goč(=goči)は佐藤さんの聴取による。
- 38) 佐藤さんによれば gə《さあ》の言いそこないだろう。
- 39) bit と言ってつぎに biinee と言いなおしている(北川による)。
- 40) nari と言ってつぎに narilakka と言いなおしている(北川による)。
- 41) こどもへむかってつかう語である otokou《あとで》をつかっている(佐藤による)。普通の語は otokoo《あとで》。
- 42) issilit《かれらがかえってくるだろう》のはじめの部分は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 43) təduwəət(=təduwəəččeri)は佐藤さんの聴取による。
- 44) ta は佐藤さんの聴取による。ただしこれよりまえの聴取では tar ときこえると言った。
- 45) pooninneeni の ee は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 46) 北川さんは puttəbi のつぎに biiduni《いるときに》があるべきであるというのが、佐藤さんは puttəbi のかわりに puttəjji biiduni《自分のこどもといるときに》とあるのがいいという。
- 47) oondoi は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 48) daparra(=daparraa)《とと》の rr は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 49) oondoi は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 50) geer geer gee(=geer)《波が岸によせる音》の g は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 51) tar(=tari)《それが》はなみがおとをたてていること(laata uisini)をさす(北川による)。
- 52) こどもを殺したとどが、死体を食いにもどってきた(佐藤による)。
- 53) gitupsii ときこえるのは言いそこない(佐藤による)。北川さんは gitumi čii《あゆんで ずーつと》と言っているか、あるいは gitumi jiišəi《あゆんで おかへ》と言っているという。
- 54) čii は佐藤さんの聴取による。ただし əsi《いま》かともいう。
- 55) xaap ときこえるのは kaap(=kaapami)のこと(佐藤による)。北川さんもここは kaap であるという。
- 56) ŋoom(=ŋoomi)《かぎながら》の m は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 57) 佐藤さんは noombonidda のかわりに nooniddaa《そのかれの》とあるのがいいという。
- 58) iktəmə は、佐藤さんによれば iktəməm(=iktəməmi)《かみつきながら》ときこえるという。北川さんによれば iktəməndəə《かみつくやいなや》のおわりの方の部分を省略した発音だという。
- 59) təəwwin(=təəwwini《それがおこす》)の n は佐藤さんの聴取による。
- 60) ŋaalikkini ときこえるのは ŋaalikkeeni《かれの手から》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は ŋaalikkeeni であるという。
- 61) 切り傷が大きくなって小刀からとどの体はずれての意(北川による)。
- 62) xoo はとどのなきごえ。-ddo は語尾だろう。
- 63) ixaldulan ときこえるのは isaldulan(=isaldulani)《その日から》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は isaldulan であるという。
- 64) məətəl と言いかけてあらためて məətələgəčči と言っている(北川による)。
- 65) ŋənuwət(=ŋənuwəčči)の t は北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 66) pək は pəkkəm paami《しやくにさわって》を言いかけたもの(佐藤による)。
- 67) puttəbbeeddəə ときこえるのは puttəəwweeddəə《おれのこどもをも》のこと(佐藤による)。北川さんもこの語は puttəəwweeddəə であるという。
- 68) よみの国(死者の国)へ(buni naataini)行く意(北川による)。
- 69) siin ときこえる(佐藤さんにも)。しかし北川さんによれば osiini《それがなるならば》である。佐藤さんは beejiini《それがあんならば》とあるのがいいという。
- 70) b(=bəərə)は佐藤さんの聴取による。bai əsi(=əsiwi)b(=bəərə)と言ってつぎに bai əččim(=əččimbi)bəərə と言いなおしている(佐藤による)。

- 71) ugdatak (=ugdatakki) はよけいな語 (佐藤による)。
 72) anadurra (=anadurraa) はうちのまえから川へふねをおしてくるの意 (北川による)。
 73) xo (=xooni) はどのように泣くのかの意 (佐藤による)。
 74) buččiddə のさきの d は佐藤さんの聴取による。
 75) buččəxə は bučči の発音のあやまり (北川による)。
 76) solleeduu のかわりに solleela《川上から》とあるのがいい (北川, 佐藤による)。
 77) kum ときこえるのは um (=umi)《言って》のこと (佐藤による)。北川さんもここは um であるという。
 78) čak (=čakki) の k は佐藤さんの聴取による。
 79) čari ときこえるのは tari《かれが》のこと (佐藤による)。北川さんもこの語は tari であるという。
 80) baljib ときこえるのは baljim (=baljimi)《うまれて》のこと (佐藤による)。北川さんもこの語は baljim であるという。
 81) 佐藤さんによれば obuddoon (=obuddooni)《かれがなるように》ときこえるが otubuddooni《かれがもとのようになるように》とあるのがいい。北川さんによれば otubuddooni と言っている。
 82) waam (=waami) の m は佐藤さんの聴取による。

10. バビリナイ

北川五郎(Gərgulu)口述

- | | | | | | | |
|-----------|----------|-------------------|---------|-------|-------|----------|
| bəbirinəi | mapaačča | sii ¹⁾ | bəjembə | waami | məənə | uwweekki |
| バビリナイ | じいさんは | いつも | くまを | とっていて | 自分の | 上に |
-
- | | | | | | | |
|--------|-------|---------|--------|---------------------------|---------------------|---------|
| narree | əsini | bakkaa. | naridu | xuxalaxanda ²⁾ | məənə ³⁾ | əččimbi |
| ひとを | みない。 | | ひとと | くみになって | 自分の | ような |
-
- | | | | | | | | |
|--------|---------------------|---------|-----|---------|-------|-----|---------|
| narree | əsini ⁴⁾ | baarrəə | čii | bəjembə | waami | čii | pulimi |
| ひとに | であわない, | | いつも | くまを | とっていて | いつも | あるきまわって |
-
- | | | | | | |
|----------|------|-----|----------|---------------------|---------|
| narildu | gəsə | čii | xupalami | pulum ⁵⁾ | bəjembə |
| ほかのひとたちと | 一緒に | いつも | くみになって | あるきまわって | くまを |
-
- | | | | | | | |
|---------|--------|------------------------|---------|--------|----------|------------|
| waami. | čomjee | əsigdəən ⁶⁾ | čowotči | suun | naataini | sindagačči |
| とっぴながら。 | そうして | いまや | そうして | 南カラフトへ | | 来て |
-
- | | | | | | | | |
|-------------------------|--------|----------|------------|---------|--------|---------|-------|
| waasinduu ⁷⁾ | suun | naataini | sindagatči | purigəə | narree | baaxani | taani |
| ワシから | 南カラフトへ | | 来て | まだまだわかい | ひとを | みつけた | そうな, |
-
- | | | | | | | |
|------------------------|-----|--------------------|-------------|---------------------------|--------------|---------|
| əsigdəən ⁸⁾ | jəə | suun ⁹⁾ | suunneepəni | dorojjeela ¹⁰⁾ | naanneepəni. | čowočči |
| いまや | この | 南カラフトのひとを | | 北カラフトの方で | 土地のひとを。 | そうして |
-
- | | | | | |
|---------|---------------|--------|------|--------------------|
| maparil | təəlunučixəti | taani. | gəsə | čak ¹¹⁾ |
| じいさんたちが | むかしばなしをした | そうな。 | 一緒に | そこから |
-
- | | | | | |
|----------------|-----------|--------|-----|-----------|
| təəlunuččiduči | pərgəxəni | taani. | naa | bəjembəni |
| むかしばなしをしているとき | かれはかんがえた | そうな。 | 「陸の | けだものを |
-
- | | | | | | |
|---------|---------|-----------|------------------------|-----------|-------|
| waawuri | purəndu | waawurrii | dələndu ¹²⁾ | waawurrii | anu |
| とることは | やまで | とることより | 墓で | とることより | えーとあれ |

xagju dooduni waawuri manga umi tæaluŋučixəni taani
 くまのあなの なかで とることが むずかしい」と 言って はなしをした そうな、
 bəbirinəi. čowotči uččini taani tarinne. ¹³⁾ əə xagju
 バビリナイが。 そうして 言った そうな、 そのひとは。 「ほう くまのあなの
 dooduni biiləkkə kətuddəəni goči. omo ¹⁴⁾ dooduni biiləkkə səbdələə
 なかに おいてとは あんまりだ ね。 巢の なかで なら らくで
 bimiddə oon ¹⁵⁾ taani uččini taani. purəndu waawurigdaa taak
 あることにも なる だろう」と 言った そうな。 「やまで とることなら らくに
 tučči tari ¹⁶⁾ manga billəə uččini taani. čowotči bokkoni
 うごく それは むずかしい だろう」と 言った そうな。 そうして はらが
 orkiləə oččini taani bəbirinəi. ədədəə jənnēpə xooniddaa purəndu
 たった そうな、 バビリナイは。 「うむ このひとを どうにかして やまで
 itəxəmbiçee. purəndu baaxambiçee. xoonee bii narigaa pər ¹⁷⁾
 みたいなあ。 やまで あいたいなあ。 うでまえがどのくらい な ひとか」と かんが
 mərəčixəni taani əsigdəə. jənnēpə čak čii baajičceelami xaiddəə
 おもった そうな いまや。 「このひとに どうしても あうようにしよう、 なにかの
 ərunduni. ga čii tamačču čii bimjee əsigdəən ¹⁸⁾ dəəbə ilaamba
 ときに。」 さて ずーっと それから ずーっと いて いまや 二 三
 anannee bigəčči ga čanneepa baaxani taani əsigdəələkkə suun naataini
 年 いて さて そのひとに あった そうな いまや、 南カラフトへ
 sindagačči dorojjeela ¹⁰⁾. purigəə nari. ga anda buu
 来て 北カラフトの方で。 まだまだわかい ひとだ。 「さあ あんた われわれは
 bəjəmbəə sirəmbəə anu bəjəmbəə sirəmbəə waanɟaumi
 くまや 野生となかいを えーとあれ くまや 野生となかいを とりに行くと
 aja. mөөdөөwөөda. waajitami bəičibuji ¹⁹⁾ əsisi xupallaaji ²⁰⁾
 いい。 かろうそをもな。 とりに 獵をするために あんたはくみになって獵に行かないか、
 minu gəsə. ga xupalaxanda aja taani. ga ɲənnēsu.
 わしと 一緒に。」 「さあ くみをくんで獵に行っても いい だろう。 さあ 行こう。」
 ga orokčini taani əsigdəələkkə. ga čii ɲənəməri čii
 さて バビリナイは つれて行った そうな いまや。 さて ずーっと 行って ずーっと
 ɲənəməri duga duga ɲənnēči. orokto ɲoolee oččini. bədəl ²¹⁾ beeni. bədəl
 行って 夏 夏 かれらは行く。 くさは あおく なった。 七 月だ。 七
 beelani ɲənəəči. bəjə ɟawalni taldaani. čowotči ɲənəgəčceeri ²²⁾ bəjə
 月に 行った。 くまの 発情期の 最中だ。 そして 行って くまが

xullənnini²³⁾ taldaani. oroktoo dəpčini²⁴⁾. čowočči itəxəni taani.
土をほりおこす 最中だ。 くまが くさを 食う。 そして みた そうな。

geeda əəktə bəjə xullənniwəni itəxəni taani bəbirinəi.
一匹の めすの くまが 土をほりおこすのを みた そうな、 バビリナイが。

jaandagatči garpaxani čai²⁵⁾ əəktə bəjəmbə
かくれてしずかにすすんで行って 射とめた、 その めすの くまを

xaus. čorroo xoldokkeenidda geeda xaiddaa jīni xusə
一回でごろっと。 するとすぐ それのわきからも 一匹の なにより 大きい おすの

bəjə. čikčiktə tuuxəni ojoduni tuuxəni təpəmji biini.²⁶⁾
くまが でてきた。 針葉が おちたのが その上に おちたのが そのまま ある。

sinaktani səəm očči kadaraa mastaa daaji bəjə. čowotči ə²⁷⁾
その毛が まっかに なった 大きな 大変 大きい くまだ。 そして いまや

čaa tuuxə bəjəttəi bučči bəjəttəi sindamidā iixənjeepəni²⁸⁾
その たおれた くまへ 死んだ くまへ 来るや 矢の はいった方を

nəxənjeepəni ŋooxalamid²⁹⁾ jee puipumi iixənjeepəni ŋooxalamidā²⁹⁾
でた方を かぐとすぐ また うらがえして はいった方を かぐや

poktokki³⁰⁾ čuul sindaxani taani. pukčitəxəni. itəxəni čaa
あとを まっすぐ 来た そうな。 かかっていた。 それがみた、 その

bəbirinəipə³¹⁾ bəbirinəi³²⁾. ənənəə pukčiččeeni. pukčiččeeni³³⁾ čadu
バビリナイを バビリナイが。 「あれ かかってくる。 かかってくる。」 そのとき

uččini taani.³⁴⁾ xoldonduni iličini tari purigəə nari.
言った そうな。 かれのわきに たっていた、 その まだまだわかい ひととは。

əə andəə čaa kərəktənee andəə čaa xosiktaanee
「ほう あんた あの 歯を あんた あの つめを みろ」 と

unjinində. anda čaa xosiktaanee kərəktənee. gossinda
言うんだと。 「あんた あの つめを 歯を。」 にくらしく思うんだと、

bəbirinəi. əri xama xamačee bi nari³⁵⁾ ərəŋəti
バビリナイは。 「このひとは どんな どんな で ひと このように

oinigaa mərəčimi məənji³⁶⁾ minjee inəsini billəə
するのかわか と おもって 「自分を わしをば わらっているの だろう」 と

mərəpiččini taani. bəbirinəi jələ sindaukkaačči toowo
ひよっとおもった そうな。 バビリナイは ここへ 来させて たおれた木の

ojottoi³⁷⁾ tərəŋələwətči gidadidi bəəpiččini taani. gidaŋi bəəpikkəčči
上へ ふんばって やりで かまえた そうな。 やりで かまえて

gidalaxani taani ataptai. čadanandaa³⁸⁾ tari ĵeeni
 さした そうな、 真正面からむかって。 そのときまでも その あいぼうは

čii ilisini ooropči³⁹⁾ maŋgaŋuni. čowotči bejəŋunigdəə
 ずーっと たっている、 さっきの 剛のものは。 そして かれの相手であるくまは

toowo ojotoini tuumi tuuxəni. ulingadi gidalaxani
 くちてたおれた木の 上へ たおれかかってきて たおれた。 うまく さした、

bəbirinəigdəə. čowotči ĵeetakki itəduxəni taani.
 バビリナイは。 そして 自分のあいぼうの方を ふりかえてみた そうな。

ĵeeni gidabi xaučimee biini. naatai xaurini.
 かれのあいぼうは 自分のやりを 拭いて いる。 地へこすりつけて 拭いている。

čowotči bejəŋutəkki itəxəni taani. dəə
 そして バビリナイは 自分の相手であるくまの方を みた そうな。 両

xoldokkeeni bejə səəksəni xəjjeeni. aanĵee xoldokkeeni geedara
 がわに くまの 血が ながれている。 みぎ がわに 一度

gidalarraa dəuŋĵee xoldokkeeni geedara gidalarraa oččini tarinne ča⁴⁰⁾
 さし ひだり がわに 一度 さし した、 そのひとが その

purigəndumə. čawa⁴¹⁾ məgdənĵi əččini ittəə. tari suu naaduni məənə
 わかい方が。 それを まるきり かれはみなかった。 かれは 南カラフトで 自分の

uwweekki narree baaxanda tari bəbirinəi naa narilani.
 上に ひとを みつけたと、 その バビリナイは 方方の土地の ひとのなかから。

xaikkiddəə kiilləəmbə xərəlixəndəə jokkoo
 そこいら中 キーリン人のところを まわったけれども ヤクート人のところを

xərəlixəndəə ma⁴²⁾ maŋboo xərəlixəndəə məənə uwweekki
 まわったけれども オ オルチャ人のところを まわったけれども 自分の 上に

biiwə təŋŋəə geedanəepamali baaxani. čalaa biččini tari
 あるひとを たった ひとりだけ みつけた。 そこまで だった、 かれの

təəlununi.
 いいつたえは。

北川五郎さんから 1958 年録音した。このむかしばなし(təəlunu)を北川さんは Mikəəsi というじいさんからきいたよしである。この人は、父がキーリン人(エウエンキー人)、母がウイльта人(Waalleetta 氏族)で、南カラフトで生れ、そこで一生を送ったよしである。バビリナイ(Bəbirinəi)はキーリン人、かれが自分よりさらに剛胆なウイльта人に出会ったはなしである。

1) sii ときこえるのは čii《いつも》のこと(北川、佐藤による)。

- 2) xuxalaxanda と聞こえるのは xupalaxanda《くみになって猟に行ったけれども》のこと(北川, 佐藤による)。
- 3) 北川さん, 佐藤さんの聴取による。
- 4) 北川さん, 佐藤さんの聴取による。筆者にはəni に聞こえる。ただし佐藤さんもはっきり発音していないという。
- 5) pulim《あるきまわって》をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。
- 6) 佐藤さんの聴取による。əsigdəən と聞こえるのはəsigdəəl(=əsigdəələkkə《いまや》)のこと(佐藤による)。以下同様。しかしこの録音をききなおした北川さん自身はこの部分は ittəəjini《かれがみると》と聞こえるが, これは itəxəni《かれがみた》(ここでは「そのわかい人をみた」の意)のあやまりであるという。
- 7) waasi は黒竜江右岸の河口にちかいところの地名。間宮林蔵「東韃紀行」巻之下にも「ワーシ」とある。
- 8) 佐藤さんの聴取による。
- 9) suun と言ってつぎに suunnee(=suunneepəni)《南カラフトのひとを》と言いなおしている(北川による)。
- 10) dorojjeela は《北カラフトまたはカラフト西海岸の方で》であり, ここは suunjeela《南カラフトの方で》のまちがいだろう(佐藤による)。
- 11) ここは čak でなく čadu《そこで(場所), そのとき(時間)》とあるのがいいという(北川, 佐藤による)。ただしこの čadu は北川さんにおいては場所の意, 佐藤さんにおいては時間の意である。
- 12) 巫人に憑るわるい神霊は人を殺し, 動物に化身して墓にその死体を食いに來ることがある。墓で見張っていてその動物をうちとる意。(佐藤による)。
- 13) そのわかいひとの意(北川による)。
- 14) ここは omo《とりの巣 きつねのあな》でなく, xagju《くまのあな》とあるのがいいという(北川による)。
- 15) oon は意義不明。
- 16) beje《くま》をさす(北川, 佐藤による)。
- 17) pər(=pərgəxəni《かれがかんがえた》)と言いかけてつぎに mərəčixən(=mərəčixəni)と言いなおしている。pərgəxəni でもいい(佐藤による)。
- 18) 佐藤さんの聴取による。筆者には s がきこえない。
- 19) bəiči(=bəičibuji《自分が猟をするために》)は北川さんの聴取による。しかし佐藤さんには əsi《いま》と聞こえるという。
- 20) 北川さん, 佐藤さんの聴取による。
- 21) bədəl beeni は北川さんによれば《7月》であるが, 佐藤さんによれば《11月》である。
- 22) 北川さんは ɣənəgəčceeri のあとに ittəəjiči《かれがみると》の語を入れるのがいいという。
- 23) くろゆりの根(karka)やべこのちちの根(jolo=jolo)を食うためにほり出す意(北川による)。
- 24) aasi《ふき》, xapa《すいば》などのくさを食う。くまがくろゆり, べこのちちの根やこれらの植物を食うのは, 発情期の7月だけで, あとはさかなを食うという(北川による)。
- 25) čai は čaa《その》をあやまって発音した形(北川, 佐藤による)。
- 26) くまの毛が秋は落葉松の針葉の枯葉のいろそっくりで, 針葉の枯葉がその上におちたままあるようだの意(北川による)。
- 27) このəは佐藤さんはəsigdəə《いまや》か, əri《これが》(ここではくまの意)か, あるいは jələ《ここへ》かという。
- 28) iixənjeepəni と言ってつぎに nəxənjeepəni と言いなおしている(北川による)。
- 29) ɣooxalamid(da) は ɣooxilamid(da) をあやまって発音した形(佐藤による)。
- 30) poktokki は矢のきたあとの意(北川による)。
- 31) bəbirinəipəでなく, bəbirinəiwəがいい(北川による)。
- 32) bəbirinəi は言いあやまり(佐藤による)。
- 33) 北川さん, 佐藤さんの聴取による。なおここはバビリナイの言ったことば(北川による)。
- 34) そのわかい人が以下のことばを言った意(北川, 佐藤による)。
- 35) 佐藤さんは bi nari でなく, nari bimi《ひとであって》とあるのがいいという。ただしこの録音をき

- きなおした北川さん自身はこの部分が nari bimi と聞こえるという。
 36) mæənʃi と書いてつぎに minʃee と言いなおしている(北川, 佐藤による)。
 37) ojottoi と聞こえるのは ojotoini のこと(北川, 佐藤による)。
 38) čadalaniddaa のあやまり(北川による)。
 39) 末尾の p は北川さん、佐藤さんの聴取による。
 40) ča は tari《その》をあやまって発音した形(佐藤による)。
 41) ここの ča (= čawa)《それを》はくまにやりをさすことをの意(佐藤による)。
 42) ma と言いかけてあらためて maŋboo と言っている(北川, 佐藤による)。

11. アイヌとウイルタのたたかい

佐藤チヨ(Napka)口述

goropčidu むかし	kuujjii アイヌ人と	uiltəə ウイルタ人が	waaligači 戦いをした	təəlunundəməə. 昔話だとよ。			
goropčinnee 昔(の人)の	uilta ウイルタ人が	geeda 一	duxu 軒	biččinindəə. あったんだと。	puttəni かれのこどもの	dəə ふたりの	
xusa 男の	puttə 子が	biččinindəə. いたんだと。	nəudumə 弟の方の	puttəni 子は	duridu 嬰兒籠に	biččinində. いたんだと。	aagduma 兄の方の
puttəni 子は	ambaa すこし	daajindaa. 大きいんだと。	andailli その人のともだちの		kuuji アイヌ人が		
nimərixənindəə. お客に來たんだと。	təjəbuŋji 御馳走するために	čaiwa 茶を	puijuuxənindəə. わかししたんだと。	čaiwa 茶を	puijuuwəčči わかつて		
təjəxənindəə. 御馳走したんだと。	ulaa となかいの	numissəəni 反芻胃を	təjəxənində. 御馳走したんだと。	əmiddəə 食わずに			
ŋənuxənindəə. 帰ったんだと。	tari その	xamarakkeeni あとから	puttəmunə こどもと	dəəbə 二頭の	ulaaba となかいを	dapaačindaa つかまえたんだと,	
kuujitəi アイヌ人のところへ	niməribudəəri. お客に行くために。	niməriməri お客に	ŋənəəčindəə. 行ったんだと。	kuuji アイヌ人の			
gasambani 村に	aaptuwačinda. 着いたんだと。	kuuji アイヌ人の	bookkeeni おもてへ	ulaabi 自分のとなかいを	əksəxənindəə おいたんだと,		
puttabi 自分のこどもに	əttəuwəəmi. 番をさせて。	andailbi 自分のともだちの	duktaini 家へ	iixənindəə. 入ったんだと。	iigəčči 入って		
təəŋdəxənindəə. すわりに行ったんだと。	geeda ひとりの	mama 老婆が	soŋomii 泣いて	əəktənnē 女の人の	alimattooni 子宮を		
miinəččinindəə. 切っていたんだと。	čadu そのとき	ulaabi 「おれのとなかいを	itəndəjiləmi みに行く」	と	uččinindəə. 言ったんだと。		

aapumbi 自分の帽子を	dapaduxanda. ふたたびとったと。	tamačču それから	nəəduxənindəə. またそとへ出たんだと。	
ulaatakki 自分のとなかいへ	isuxaninda. 帰ってきたんだと。	puttəmunə こどもと	məənə めい	məənə めい
ulaatakkeeri 自分たちのとなかいへ	uuduwačindaa. ふたたび乗ったんだと。	tamačču それから	tuksaudumari うちの方へ走らせて	
tutaduwačindaa. 逃げて帰ったんだと。	čaa その	dolbonne 夜	kuuji アイヌ人は	kaaičičindaa. しのびよったんだと。
			kuuji アイヌ人は	
kaalkaččeeri しのびよって	gidaži やりで	gidamari さして	waaričindaa. 殺すんだと。	tari その
			puttə こどもは	kəikkəi まる
			nilau はだかで	
əltələkki 戸口の上の部分から	nəəxəndə 出たと、	pəččəmi. 跳んで。	ulaabi 自分のとなかいの	okkotoini 放牧地へ
			ḡənəḡəčči 行って	ulaa となかいの
tuksami. 走って。	ulaabi 自分のとなかいの	okkotoini 放牧地へ	ḡənəḡəčči 行って	ulaa となかいの
			durambani なかを	
tuksaxanindaa. 走ったんだと。	kuuji アイヌ人は	taagda 白い	soondoo となかいの子が	tukseeni 走っている
				uməri と 言って
itəčḡəčindəə みていたんだと、	ulaa となかいの	soondooni. 子が。	tamačču それから	inəxənindəə. あかるくなったんだと。
inəxənduni あかるくなって	duktakki 自分の家へ	isuxaninda. 帰ったんだと。	aminonii 父と	əninnii 母は
			xaalan いつかに	buččil. 死んでいる。
duridu 嬰兒籠に	bii いる	nəuni 弟は	bultai ひどく	soḡoxonindaa. 泣いたんだと。
				soḡeeninda. 泣くんだと。
				nəuwi 自分の弟を
duriduuni 嬰兒籠から	təəwuxənindəə. おこしたんだと。	nəuni その弟は	kosonji 金属製のかざりのついた	
anaalundaa. くびかざりがあるんだと。	kuuji アイヌ人の	gidani やりは	kosondulani かれの金属製のかざりで	
turpaččinindaa. とまったんだと。	ulaa となかいの	kəəmbəni ちちを	kəkkəuxənindəə. すわせたんだと。	ulaa となかいの
				xumambani 骨髓を
kəkkəuxənində. すわせたんだと。	ulaa となかいの	xumambannii 骨髓と	ulaa となかいの	kəəmbənnii ちちを
				kəkkəučiimi すわせて
uḡixənindəə 育てたんだと、	nəuwi. 自分の弟を。	ambaa すこし	daaji 大きく	oččinindaa なったんだと、
				nəuni. その弟は。
				ulaa となかいの
ojoduni 上に	təəluxənində. こしかけるようになったんだと。	doro 北の	naataini 土地へ	ḡənneenindəə. 行くんだと。
				doro 北の

naataini ḡəṇəgəčči nəuwi uḡixəṇindəə. nəuniddəə mastaa daaji
 土地へ 行って 自分の弟を かれは育てたんだと。 かれの弟も 大変 大きく
 oččinindaa. nooniddaa mastaa daaji oččinindaa. daaji omori
 なったんだと。 かれの方も 大変 大きく なったんだと。 大きく なって
 nari suuwani aaptuwačindaa. naatakki isubuḡḡi ulaabi
 成年に 達したんだと。 自分の土地へ 帰るために 自分のとなかいを
 silmaččinindaa. geeda xaktawwəə geeda namiwwəə silmaččininda.
 えらんだと。 一匹の おすと 一匹の めすを えらんだと。
 aḡdainneepa geedanneepa ḡeelaččinindaa. xakta ulaabi
 よその氏族の人を 一人 道連れにもとめたんだと。 おすの となかいの
 puḡṇəpukkeeni əṇinə səəppəə uixəṇindəə. nami ulaabi puḡṇəpukkeeni
 むち棒に めすの 貂を つないだと。 めすの となかいの むち棒に
 amina səəppəə uixəṇindəə. tamačču isuxanindaa. tuksauduxanda
 おすの 貂を つないだと。 それから 帰ったんだと。 走らせて来たと、
 dolbonḡinnii inəḡḡinnii. isuxanindaa naatakki suu naataini.
 夜も 昼も。 帰ったんだと、 自分の土地へ 南の 土地へ。
 xamačikkaaddaa boowoddoo xamačikkaaddaa lamussoodaa ḡəəm luktulimi
 どんな 天気をも どんな 積雪をも すべて 突破して
 isuxanindaa tuksaudumi. tamačču səəktə gasattaini¹⁾ isuxanindaa
 帰ったんだと、 走らせて来て。 それから 敷香の 村へ¹⁾ 帰ったんだと、
 naataini. tamačču saudaanula²⁾ manaxanindaa kuujjee.
 かれの土地へ。 それから 新聞まで みな殺しにしたんだと、 アイヌ人を。
 tamačču mutudumi kuuji nəətəini³⁾ manaxanindaa. suḡdattaa
 それから 戻って 多来加 川へ向って みな殺しにしたんだと。 魚を
 ločokkeenneepa siikkeeti ḡidami waaxanindaa. moo
 つっている人を 氷の穴へ(入れて) やりでさして 殺したんだと。 まきを
 moolisinneepa mooluutuduti waaxanindaa. tamačču geeda kuuji
 とっている人を まきとり場で 殺したんだと。 それから ひとりの アイヌ人が
 biččinindəə. buččinnee xoldoskotoini ḡəṇəxəṇindəə. geeda tadawwəə geeda
 いたんだと。 死んだ人の 棺へ 行ったんだと。 ひとつの 矢じりと 一本の
 burixəwwəə dapaxanindaa. dapagačči dapiččindaa. dapiḡḡiduni xulini
 弓を つかんだと。 つかんで 引いたんだと。 引くときに その弦は
 təktəs xəṭudəxəndəə. tamačču tau duwətəini⁴⁾
 プスンと きれたと。 それから 北知床半島の さきへ向って

managačindaa. みな殺しにしたんだと。	manneeduči みな殺しにしていると		geeda ひとりの	mama 老婆が	duxu 家の	dooloni なかで	
sojoxonindaa. 泣いていたんだと。	nimmaa 「まだ、	naaxuu なまだ」	køttøn コットン	køttøn ⁵⁾ コットンと	činəpundəmi つえをつきながら		
sojoxonindaa. ⁶⁾ 泣いていたんだと。	čadu そこに	geeda ひとりの	patala むすめが	biččinindəə いたんだと、	patala むすめのなかでも		
ajani いい	patala. むすめが。	čaa その	patallaa むすめを	pulləuwəčindəə のこしたんだと、	kuuji アイヌの	xaapambani. 美人を。	čaa その
patallaa むすめを	pulləuwəčceeri のこして	doro 北の	naataini 土地へ	gaduwačindaa. 連れて行ったんだと。	doro 北の	naataini 土地へ	
gaduwačceeri 連れて行って	əəktəə 女を	bəəməri くれるとき	əəktəə 女に	činəpulləuččičindəə. つけてやったんだと。	čikəə そこまで		
biččinda だったんだと、	goropči むかしの	təəluŋu. はなしは。					

佐藤チヨさんから 1955 年録音した。同じく佐藤チヨさんから同じ年録音したこの話の別のテキスト The Conflict between Ainus and Oroks は J.IKEGAMI, Orok Texts, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 17, 1958 に載る。この言い伝えはつぎの文献にも記されている。

石田英一郎「邦領南樺太オロッコの氏族に就いて(一)」『民族学年報』3, 東京, 1940-1941, 369-371 ページ。

石田収蔵「オロッコとアイヌとの戦物語」『人類学雑誌』294, 東京, 1910, 476-477 ページ。

川村秀弥『土語と土俗』(稿本)(『川村秀弥採録カラフト諸民族の言語と民俗』(池上二良編)札幌 網走, 1983, 55-56 ページ)。

関口龍嗣「オロッコ曾我物語(多来加のアイヌとオロッコの闘争)」『樺太時報』38, 豊原, 1940, 62-67 ページ。

中目覚『樺人の話』東京, 1917, 78-83 ページ。

J.BATCHELOR, *Ainu Life and Lore*, Tokyo, 1927, pp.29-33.

B.PIŁSUDSKI, *Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore*, Cracow, 1912, pp. 66-76.

1) Səəktə gasani は数香のこと, 今日のロシア語名では Поронайск である。

2) Saudaanu は新問のこと, 今日のロシア語名では Новое である。

3) Kuuji nəəni は多来加川のこと, 多来加湖から多来加湾に注ぐ。

4) Tau duwəni は北知床岬のこと, ロシア語名は мыс Терпения である。

5) つえをつく音。

6) 1951年おなじ話し手からこの話の口述を筆記した原文では, ウイルタ人はアイヌ人をみな殺しにし, かれらの家を焼いた (…kuujjee manamari dugbači dægjičiməri…) とある。

12. き つ ね

佐藤チヨ(Napka)口述

goropčinnee saxurixani saxurindamaa. daa xajilaččee. geeda
むかしの人が おとぎ話した おとぎ話だとさ。 ダー ハジラッチェー。 一匹の

suli namu kirraani dөөрөхөнindəə. wasaa gasa
きつねが 海 岸を あさってあるいていたんだと。 ワサー 鳥が

sindaxanindaa. sullee taapalarraa nammoo taisai orokčininindaa.
来たんだと。 きつねを つかんで 海を 沖の方へ つれて行ったんだと。

nammoo taisai orokkootči namu buwaatattaini tugbuxənindəə. suli
海を 沖の方へ つれて行って 海の 島へ 落したんだと。 きつねは

namu kirataini əurrəə soŋoxonindaa. ammaijaa ənnəijəə naaduči
海 岸へ 下りて 泣いたんだと。 「父や 母の 土地に

biwwiləxəmbə sijoo sijoo¹⁾ wasaa əpəə²⁾ pukuuxəni sijoo
いればよかったものを ショー ショー ワサーが ウプー さらって来た ショー

sijoo umi soŋoxonindaa suli. geeda koŋgori³⁾
「ショー」 と 言って 泣いたんだと、 きつねが。 一匹の ふいりあざらしが

agbiččinindaa namukki. jeeji sulee xaimi soŋgeesee. soŋgeewii
現れたんだと、 海に。 「イエーイ きつねよ なにして 泣くのかい。」 「泣くものか

bii. jaajjaamee goči. čaəŋjaamee⁴⁾ goči uččinindəə.
おれが、 うたっているんだ よ、 チャーガってしているんだ よ」 と 言ったんだと。

koŋgori čuup iiduxəndəə. gočiddaa soŋoxoninda suli.
あざらしは すっぽり 入ったんだと。 ともや 泣いたんだと、 きつねが。

ammaijaa ənnəijəə naaduči biwwiləxəmbə sijoo sijoo wasaa
「父や 母の 土地に いればよかったものを ショー ショー ワサーが

əpəə pukuuxəni sijoo sijoo umi soŋoxoninda suli.
ウプー さらって来た ショー ショー」 と 言って 泣いたんだと、 きつねが。

gočiddaa koŋgori agbinduxanindaa. jeeji sulee xaimi
ともや あざらしが また現れたんだと。 「イエーイ きつねよ なにして

soŋgeesee. soŋgeewii bii. jaajjaamee goči.
泣くのかい。」 「泣くものか おれが、 うたっているんだ よ。

čaəŋjaamee goči uččinindəə suli. koŋgoree
チャーガってしているんだ よ」 と 言ったんだと きつねが。 「あざらしよ

jeesilči barai. mini jeesilbi nammoo čakkaa biiči
おまえの仲間は たくさんかい。」 「おれの 仲間は 海 一杯 いる」 と

uččində kongori. sulee sini ĵeesilči barai uččində
 言ったと、 あざらしが。 「きつねよ おまえの 仲間 たくさんかい」 と 言ったと、

kongori. mini ĵeesilbi jəə buwaatamba čakkaa biiči uččində
 あざらしが。 「おれの 仲間 この 島 一杯 いる」 と 言ったと、

suli. kongoree ĵeesilbi gaanduu. biiddəə ĵeesilbi
 きつねが。 「あざらしよ 自分の仲間を つれに行け。 おれも 自分の仲間を

gaanĵittaa. kongori čuup iiduxənindəə. suli čakkii bultai
 つれに行く。」 あざらしは すっぽり また入ったんだと。 きつねは そこを 一所懸命

pukčixənindəə pokto barambani poktoo andumi. təddəəddəə kongori
 馳けたんだと、 大変 たくさんの 跡を つくって。 本当に あざらしは

mastaa bara agbiččičindaa. nammoo čakkaa agbiččičindaa. saa sulee
 大変 たくさん 現れたんだと。 海 一杯 現れたんだと。「サー きつねよ

ĵeesilči. mini ĵeesilbi simbee xalačimĵee idamari ŋənuwəči.
 おまえの仲間は。」 「おれの 仲間 おまえを 待っていて 待ちぼうけて 帰った。

jəə poktooči itəndəu uččində suli. kongoree xoonee
 この かれらの跡を 見に来い」 と 言ったと、 きつねが。 「あざらしよ どれほど

baraččo. bii taunĵittaa. ɵmmənĵɵer ɵmmənĵɵer umi
 おまえたちはたくさんかい。 おれが かぞえよう。 一つ二つ 一つ二つ」 と 言って

tauččindaa. ɵmmənĵɵer ɵmmənĵɵer taumi nammoo dauduxandaa
 かぞえた。 「一つ二つ 一つ二つ」 と かぞえて 海を 渡って帰ったと、

naatakki kongorree taumi.
 自分の土地へ あざらしを かぞえながら。

gočiddaa nammoo dəɵrɵxəndə suli. geeda ɵmməə⁵⁾
 またもや 海を あさってあるいたんだと、 きつねは。 一つの おおばんひざら貝を

baaxanindaa. dəptuitəxənindəə. əsiwi dəpɵəndə uččinindəə.
 みつけたんだと。 たべようとしたんだと。 「おれは たべさせない」 と 言ったんだと。

dəɵnee gəĵjisuu. sinĵi dabdapee dəpɵəŋittə uččinində əmə.
 「ふたりで 競争しよう。 おまえに まけたら たべさせよう」 と 言ったんだと、 貝が。

suli bultai pukčimi guuliččinindəə. suli xudutəini liŋas
 きつねは 一所懸命 馳け 出したんだと。 きつねの しっぽへ ぴったりと

daksaxanindaa əmə. pukčigəəčči pukčigəčči xamasai itəduxənindəə
 はりついたんだと、 貝は。 馳けて 馳けてから あとを ふりかえってみたんだと、

suli. taa dulleeləni. saa sulee mimbee dabĵisi
 きつねが。 ずっと 前だ。 「サー きつねよ おれを お前はまかすのか」 と

uččinindəə 言ったんだと	əmə. 貝が。	gočiddaa またもや	guuliččində 出発したと、	bultai 一所懸命	pukčimi. 馳けて。	suli きつねの
xudutəini しっぽへ	liŋas ぴったりと	daksaxaninda はりついたんだと、	əmə 貝は	gočiddaa. またもや。	pukčigəəčči 馳けて	
pukčigəəčči 馳けてから	xamasai あとを	moris くると	itəduxəndə みかえしたんだと、	suli. きつねは。	əmə 貝が	sinjeewani 来るのを
xalačixanindaa. 待ったんだと。	əmə 貝は	taa ずっと	dulleeləni 前だ	gočiddaa. またもや。「サー	saa sulee きつねよ	mimbee おれを
dabjisi お前はまかすか」	と	uččinindəə. 言ったんだと。	suli きつねは	əmməə 貝を	əmi 食わずに	dəpturəə
xoŋixanindaa しまったんだと、	əməŋi 貝に	dabdaačči. まけて。				
tamačču それから	ŋobbee 貧乏な	mapaačča おじいさんが	kaattuwanbi 自分の落しわなを	itəndəduwčči 見にもどってきて		
auriwani ねむっているのを	baaxanindaa みつけたんだと、	suli. きつねは。	ŋobbee 「貧乏な	mapaatča おじいさんが	buččinii 死んだ	
boglos ボグロシ	booktonjeeduu 天の方に	boglos ボグロシ	naa 地の	illuumbənii イッルーを	boglos ⁶⁾ ボグロシ」	umi と 言って
soŋoxoninda 泣いたんだと、	suli. きつねは。	lalunji 「飢で	buččini 死んだと	umbummii 言えば	mauriŋulluu 魚の背骨にそった切身があるし、	
suŋunji こごえて	buččini 死んだと	umbummii 言えば	nauktaŋulluu 靴につめる草がある」	umi と 言って	soŋoxonindaa. 泣いたんだと。	
bəjə 大変	barani たくさんの	bəjə くまが	sindaxačindaa. 来たんだと。	sirə 大変	barani たくさんの	
sirə やまとなかいが	sindaxačindaa. 来たんだと。	səəpə 大変	barani たくさんの	səəpə てんが	sindaxačindaa. 来たんだと。	
məədəə 大変	barani たくさんの	məədəə かわうそが	sindaxačindaa. 来たんだと。	xələ 大変	barani たくさんの	
xələ きねずみが	sindaxačindaa. 来たんだと。	uŋəə 大変	barani たくさんの	uŋəə じゃこうしかが		
sindaxačindaa. 来たんだと。	suli 大変	barani たくさんの	suli きつねが	sindaxačindaa. 来たんだと。	tukša 大変	
barani たくさんの	tukša うさぎが	sindaxačindaa. 来たんだと。	ŋobbee 貧乏な	mapaaččamba おじいさんを	ŋilini あたまの	niruktəni かみの毛の

taunduni おのおので	ḡaalani 手の	taunduni おのおので	ḡaalani 手の	kotooni 指の	taunduni おのおので	xosiktani 爪の
taunduni おのおので	bəḡḡini 足の	taunduni おのおので	bəḡḡini 足の	kotooni 指の	taunduni おのおので	xosiktani 爪の
taunduni おのおので	dapaačindaa. つかんだと。	tətuwəni 着物の	taunduni 各所で	dapagaččeeri つかんで	duktaini 家へ	
iraduwačindaa. つれて帰ったんだと。	duktaini 家へ	iraduwaččeeri つれて帰って	duktaini 家へ	čakkagəə 一杯	iigəčindəə. 入ったんだと。	
mamaḡuni そのおばあさんが	nəərrəə 出るとすぐ	čokkombii 煙出しと	utəbbii 戸口に	dakkačixanindaa. おおいをしたんだと。	ḡəəm みんな	
dakkačixanindaa. おおいをしたんだと。	mamaḡumuna おばあさんと	mastaa 大変	baramba たくさんのを	paačimari たたいて		
waagačindaa 殺したんだと、	xaiddaa あらゆる	bəḡəmbəni. けだものを。	čikəə それまで	biččinindəə だったんだと、	goropči むかしの	
saxuri. おとぎばなしは。						

佐藤チヨさんから 1955 年録音した。同じく佐藤チヨさんから同じ年録音したこの話の別のテキスト A Fox は J.IKEGAMI, Orok Texts, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 17, 1958 に載る。ギリヤク族の同じ話は高橋盛孝『樺太ギリヤク語』大阪, 1942, 128-129, 131-133 ページにみられる。なお、この話の第一段は日本の『古事記』の稲羽の素兎の話と同類である。

- 1) sijoo はきつねのなきごえ。
- 2) əpəə は意味不明。ウイльта語北方言に əpəkə《дед》の語があり, əpəə も《じいさん》の意でここは《ワサーじいさんが》の意か。
- 3) koḡgori – *Phoca hispida ochotensis* Pallas.
- 4) 動詞語幹 čaaḡa- は意味不明。
- 5) əmə – *Cryptochiton stelleri* Middendorff.
- 6) boglos, booktonjeeduu および naa illuumbəni は意味不明。ただし boo(天), naa(地)参照。

13. からすとわたりがらす

佐藤チヨ(Napka)口述

goropčinnee むかしのひとが	saxurixani 語った	saxurindamaa. ものがたりだとさ。	daa ダー	xajilačče ハジラッチェー,
------------------------	-------------------	----------------------------	-----------	-----------------------

gaajijjaa	tugaijaa	baljigačindaa.	gaajijjaa	tugaijaa	baljigaččeeri
からすと	わたりがらすが	うまれたと。	からすと	わたりがらすが	うまれて

bəjəmbə	waanɖaačindaa.	tuwa	dulləə	ŋənəxəndə.	oksokkoori
くまを	とりに行ったと。	わたりがらすは	さきを	行ったと。	自分たちのそりを

irumari	ŋənəəči.	geeda	xagjumba	baaxandaa	tuwa.	tari
ひいて	行った。	一つの	くまのあなを	みつけたと、	わたりがらすが。	その

dooduni	bəjə	biččinindəə.	tuwa	tari	xagju	bookkeek ¹⁾
なかに	くまが	いたと。	わたりがらすは	その	くまのあなの	そと

bookkeeni	tuuχixənindəə.	bəjə	xoo	dəəkpəččində.	gaaji
そとで	まちぶせていたと。	くまが	うおーと	たちむかってきたと。	からすは

čuup	tutaxandaa.	bəjə	xoo	dəəkpəmi	nəəxənindəə.	tuwa
一目散に	にげたと。	くまは	うおーと	たちむかって	出たと。	わたりがらすは

gidaji	gidami	waaxanindaa.	waagatči	puixənindəə.	čadoo
やりで	さして	ころしたと。	ころして	皮をはいだと。	そのときやっ

isuxandaa	gaaji.	oksootokkeeri	təuduwaččeeri	tuwa
もどってきたと、	からすは。	自分たちのそりへ	つみこんで	わたりがらすは

irurraa	gaaji	anarraa	omori	isuwačindaa.	gaaji	təgdəəmi
ひき	からすが	おし	て	かえってきたと。	からすは	一心不乱になって

muduxənində.	gaajee	xairisee	uččində	tuwa.	
食いちぎったと。	「からすよ	おまえはなにしているか」	と	言ったと、	わたりがらすは。

əjje	annaa	uččində.	tuwa	tagdaxani.	tuwa	məənə
「おすな」	と	言ったと。	わたりがらすは	おこった。	わたりがらすは	自分の

duktakki	ŋənuxəni.	bəjəmbə	xurigačibuŋji	gaajijjaapa	ənimunəmbə
いえへ	かえった。	くまを	くままつりするために	からすたちと	その母親を

ŋaalaxanindaa	tuwa.	gaajijjaa	ənimunə
むかえに行ったと、	わたりがらすは。	からすと	その母親は

xurigamaačindaa.	gaaji	gočiddaa	doromočinda	bəjə
くままつりによばれて行ったと。	からすは	またも	ぬすんだと、	くまの

ulissəəni.	tuwa	ənimbi	uktəni	sinaktaŋini	uixənindəə
にくを。	わたりがらすは	自分の母親の	陰部の	毛で	しばったと、

gaajimba.	koŋ	pətəŋ	taktas	koŋ	pətəŋ	taktas	təktəs ²⁾	xətumi
からすを。	コン	パタン	タクタシ	コン	パタン	タクタシ	タクタシと	きって

tutaduxanda	gaaji.	gaaji	ənini	isuxanindaa.	gaaji
にげかえったと、	からすは。	からすの	母親が	かえってきたと。	からすが

isuxanindaa. ənnəə xoo waagačči isuxambi uččində
 かえってきたと。「かあさん くまを とって おれはかえってきた」と 言ったと、

gaaji. gaaji ənini nəəxəni. gaaji oksokkooni atundaxani.
 からすは。からすの 母親が そとへ出た。からすの そりを ほどきに行った。

ənnəə wəččəni jilikkaani ənnəə wəččəni bətaxəkkəəni
 「かあさんの めすいぬの あたま、 かあさんの めすいぬの あし」と

umi iigučixəndə gaaji ənini. ənnəə wəččəni
 言って いえへいれていたと、 からすの 母親は。 「かあさんの めすいぬの

dəwəkkəəni umi iiwučixəni. siiməktə dookkeeni
 こし(のすぐ下のところ)」と 言って いれていた。 はまなすの木の なかへ

kitaamba əksəxəndəə gaaji ənini. gaajimba uixəndə siiməktə
 針を おいたと、 からすの 母親は。 からすを しばったと、 はまなすの木の

dookkeeni. əɲəgəə gaak gaak tarəŋači əjje undəə gaak
 なかへ。 「かあさん ガーク ガーク そんなように 言うな ガーク

gaak umi soŋoxondaa gaaji. ilaamuu gaak gaak xoo
 ガーク」と 言って ないたと、 からすは。 「はずかしい ガーク ガーク 『くまの

ulisəni unuu gaak gaak umi soŋoxondaa gaaji. səpəree
 にく』と 言え ガーク ガーク」と 言って ないたと、 からすは。 「シャパレー

gaparee³⁾ gaak gaak umi soŋoxonda gaaji. čikəə biččində
 ガパレー ガーク ガーク」と 言って ないたと、 からすは。 それだけだったと、

goropči saxuri.
 むかしの ものがたりは。

佐藤チヨさんから 1955 年録音した。これは母君から聞いたよし。

1) 佐藤さんによれば, bookkeek は言い誤り。

2) あばれて、しばったのが切れて逃げる音。

3) チクチクするさま。

14. マーシとマジとボート

佐藤チヨ(Napka)口述

daa xajilačcee xuju əəktə baljigačindaa. baljigačceeri
 ダー ハジラッチェー, 九人の 女が 生れたと。 生れて

čii biičindəə. namu buwaatattaini siduxumbə gatanničindaa. čii
 ずーっと いるんだと。 海の 島 いちごを とりに行くんだと。 ずーっと

ʎənnēčindəə. namu buwaatattaini xaakkaččeeri siduxumbə gatasičindaa.
 行くんだと。 海の 島へ ふねをつけて いちごを とっているんだと。

siduxumbə gatagaaččeeri ətuu nəudumə nəuwəri namu buwaatanduni
 いちごを とってから 一番 下の いもうとを 海の 島に

wəədəduməri isuwačindaa. nəudumə nəuči bultai namu kirataini
 おいて 帰って来た。 下の いもうとは 一所懸命 海 岸へ

əuwəətči soŋgeenindaa. maasiimali geeda ugda
 くだって行って 泣いているんだと。 マーシばかりで一杯の 一そうの ふねが

sinjeečindaa. maasii mimbee uuwwusoo. mimbee xurruşoo
 来るんだと。 「マーシよ、 わたしを 乗せて。 わたしを たすけて」 と

uččinindəə. simbee əsipu uuwwoo xai. pəlindu ʎənnēpu xai. turgəndu
 言ったと。 「おまえを わしらは乗せない ぞ。 急いで 行く んだ。 大急ぎで

ʎənnēpu xai uməri bultai geulimari suu ʎənnēčindəə.
 行く んだ」と 言って 一所懸命 かいをかいで 寄らずまっすぐ 行くんだと。

gočidda maŋiimali geeda ugda sinjeečindaa. maŋee mimbee
 またも マギばかりで一杯の 一そうの ふねが 来るんだと。 「マギよ、 わたしを

uuwwusoo. mimbee xurruşoo uččinindəə. simbee əsipu uuwwoo
 乗せて。 わたしを たすけて」 と 言ったと。 「おまえを わしらは乗せない

xai. pəlindu ʎənnēpu xai. turgəndu ʎənnēpu xai uməri bultai
 ぞ。 急いで 行く んだ。 大急ぎで 行く んだ」と 言って 一所懸命

geulimari suu ʎənnēčindəə maŋi. gočidda geeda ugda
 かいをかいで 寄らずにまっすぐ 行くんだと、 マギは。 またも 一そうの ふねが

sinjeečindaa bəətəəmoli. bəətəə mimbee uuwwusoo. mimbee
 来るんだと、 ボートばかりで一杯の。 「ボートよ、 わたしを 乗せて。 わたしを

xurruşoo uččinindəə. bəətəə uuwoočinda čaa əəktəə. bəətəə ugdani
 たすけて」と 言ったと。 ボートは 乗せた、 その 女を。 ボートの ふねは

uuwuwatči čii ʎənnēenindəə. čii ʎənəmjee geeda xottottoi
 乗せて ずーっと 行くんだと。 ずーっと 行ってから 一つの まちへ

xaakčինinda tari ugdaa. tamačču onboxombi.
 つけたんだと、 それは ふねを。 それからは わたしは忘れてしまった。

佐藤チヨさんから1966年録音した。この話は、あとは忘れたよしで、完結していない。
 maasi, maŋi, bəətəə は、ウイルタのひとびとの間に神像としてある。

15. ふいごのおなかのばあさん

佐藤チヨ(Napka) 口述

goropčinneē saxurixani saxurindamaa. daa xajilaččee
むかしのひとが ものがたった ものがたりだとさ。 ダー ハジラッチェー,
ilaa əəktə baljigačindaa. dəə nəuni moo mooloočindaa.
三人の おんなが うまれたと。 ふたりの いもうとが まきを とりに行ったと。
ətuu əigədumə əəktə dugdu biččinindəə. kəədəji bokkolu mama
一番 うえの姉の おんなは いえに いたと。 ふいごの おなかの ばあさんが
xinjeenindaa. kəədəji bokkonji xappusi xappus¹⁾ ənudəji ŋaaliŋji
くるんだと。 ふいごの おなかで ハップシ ハップシ, やつとこの 手で
xəssəə xəssəə²⁾ paluwaji jiliŋji təŋgəə təŋgəə³⁾ itəŋgiŋi isaljiŋi
ハッシャー ハッシャー, 槌の あたまで タンガー タンガー, 梔の 目で
təŋgill təŋgil⁴⁾ xinjeenindaa kəədəji bokkolu mama. əəktə
トンギルー トンギルと くるんだと, ふいごの おなかの ばあさんが。 おんなは
sədəxi pəjjeekkeeni čuup sirixanindaa. duktai iixənindəə.
ゆかの したへ すーつと かくれてしまったと。 老婆は いえへ はいったと。
ponjiŋi pototoxo⁵⁾ əsələmbə luup⁶⁾ ponjiŋi pototoxo udalamba luup
ポンジー ポトトホ とかげを ぼとん, ポンジー ポトトホ かえるを ぼとんと
məurinindəə. ittombo kaltaram pook
出して おどるんだと。 すりつぶす木製料理具を まっぷたつに ぷーつと
peuččinindaa. əəktə kikikiik inəčinindəə. ənnəə bəjja bəjja
おならをしたと。 おんなは くすくすと わらったと。 「嬢や おいで おいで」 と
uččinindəə jilleesi itəitəbuddəəri. əəktə
言ったと, 「おまえのあたまを しらみがいないかどうか さがすから。」 おんなは
nəəduxənindəə. jilibi itəitəučinindəə. geeda čiktəə
でてきたと。 自分のあたまを さがさせたと。 老婆は 一匹の しらみを
baaxanindaa. xaidu əkseewee uččinindəə. puutaanduwwē
みつけたと。 「どこに わしはおこうか」 と 言ったと。 「わたしのふくろ(のうえ)に
əksəu uččinindəə. puutaa tixxee sinnii⁷⁾. ŋaaladuwwē
おけ」 と 言ったと。 「ふくろは すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「わたしの手に
əksəu uččinindəə. ŋaala tixxee sinnii. xuwədu
おけ」 と 言ったと。 「手は すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「炉ぶちの木に
əksəu uččinindəə. xuwə tixxee sinnii. beedu
おけ」 と 言ったと。 「炉ぶちの木は すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「すわる席に

əksəu uččinindəə. bee tixxee sinnii.
 おけ」と 言ったと。「すわる席は すっかりおおわれ なおもはみでる。」

attanduwwee əksəu uččinindəə. atta tixxee sinnii.
 「わたしのせなかに おけ」と 言ったと。「せなかは すっかりおおわれ なおもはみでる。」

ĵiliduwwee əksəddu uččinindəə. ĵili tixxee
 「わたしのあたまに またおけ」と 言ったと。「あたまは すっかりおおわれ

sinnii. tawadu əksəu uččinindəə. tawa tixxee
 なおもはみでる。」「たきびに おけ」と 言ったと。「たきびは すっかりおおわれ

sinnii. xaidu əksəumi ajaa uččinindəə. sinu tənəə
 なおもはみでる。」「どこに おけば いいか」と 言ったと。「舌が 一番

ajaa uččinindəə. sinubi ee osuu.⁸⁾ sinubi ee oččinindaa.
 いい」と 言ったと。「自分の舌を エーと しろ。」自分の舌を エーと 出したと。

sinnəəni tooččinindaa. sinnəəni tookkootĉi təpədəə təəwəəččinindəə
 かの女の舌を ひきぬいたと。かの女の舌を ひきぬいて きちんと すわらせたと、

kitaanĵi urpixəmbəni təpəmĵi. təəwəəkkətĉi ĵənuxənindəə kəədəĵi bokkolu
 はりで めったのを そのまま。すわらせて かえったと、ふいごの おなかの

mama. dəə nəuni moo moolotomori issičindaa.
 ばあさんは。ふたりの いもうとは まきを とりに行ってきた かえってくるんだと。

əəččuwəə bələindərəə uməri xəwəččičindəə. xooniddaa xəwəččeejini
 「ねえさん てつだいにきて」と 言って よぶんだと。どんなに よんでも

čiptam biččinindəə. isuwaččeeri duktai iiduwaččindəə. əikkəəri
 だまって いたと。かえってきた いえへ またはいったと。自分たちの姉を

laxəə itəəččindəə. xaaan buččindəə. aŋmakkeenĵi
 ずっとちかくで みたと。いつかに 死んでいるんだと。かの女のくちからは

səəksə təp təp sabdamii təəsinindəə. tari čimanaani goči ətuu
 血が ぼた ぼたと したたりながら すわっているんだと。その あくる日 また 一番

nəudumə nəuči moo mooloxonindaa. kəədəĵi bokkolu mama gočiddaa
 したの いもうとが まきを とりに行ったと。ふいごの おなかの ばあさんが またも

issinindaa. kəədəĵi bokkonĵi xappusi xappusi ənudəĵi ŋaalĵi
 かえってくるんだと。ふいごの おなかで ハップシ ハップシ、やっこの 手で

xəssəə xəssəə paluwaĵi ĵilĵi təŋgəə təŋgəə itaŋĵi isalĵi
 ハッシャー ハッシャー、槌の あたまで タンガー タンガー、腕の 目で

təŋgill təŋgil issinindaa. tari əəktə gočiddaa sədəxi
 トンギルー トンギルと かえってくるんだと。その おんなは またも ゆかの

pəjʃeekkeeni čuup sirixanindaa. kəədəʃi bokkolu mama
 したへ すーっと かくれてしまったと。 ふいごの おなかの ばあさんは

gočiddaa duktai iixənindəə. poŋʃii pototoxo əsələmbə luup poŋʃii
 またも いえへ はいったと。 ポンジー ポトトホ とかげを ぼとん、 ポンジー

pototoxo udalamba luup məurininđəə. ittombo kaltaram
 ポトトホ かえるを ぼとんと 出して おどるんだと。 木製料理具を まっふたつに

pook peuččinindaa. kikikiik inəčinindəə. ənnəə bəjʃə bəjʃə
 ぷっーと おならをしたと。 くすくすと わらったと。 「嬢や おいで おいで」 と

uččinindəə jilleexi ⁹⁾ itəitəbuddəəri. tari
 言ったと、 「おまえのあたまを しらみがいないかどうか さがすから。」 その

əəktə agbinduxanindaa. jilibi itəitəuččinindəə. geeda čiktəə
 おんなは できたと。 自分のあたまを さがさせたと。 一匹の しらみを

baaxanindaa. xaidu əkseewee uččinindəə. puutaanduwwee əksəu
 みつけたと。 「どこに わしはおこうか」 と 言ったと。 「わたしのふくろに おけ」 と

uččinindəə. puutaa tixxee sinnii. ŋaaladuwwēe əksəu
 言ったと。 「ふくろは すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「わたしの手に おけ」 と

uččinindəə. ŋaala tixxee sinnii. xuwədu əksəu
 言ったと。 「手は すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「炉ぶちの木に おけ」 と

uččinindəə. xuwə tixxee sinnii. beedu
 言ったと。 「炉ぶちの木は すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「すわる席に

əksəu uččinindəə. bee tixxee sinnii.
 おけ」 と 言ったと。 「すわる席は すっかりおおわれ なおもはみでる。」

attanduwwee əksəu uččinindəə. atta tixxee
 「わたしのせなかに おけ」 と 言ったと。 「せなかは すっかりおおわれ

sinnii. jiliduwwēe əksəddu uččinindəə. jili
 なおもはみでる。」 「わたしのあたまに またおけ」 と 言ったと。 「あたまは

tixxee sinnii. tawadu əksəu uččinindəə. tawa.
 すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「たきびに おけ」 と 言ったと。 「たきびは

tixxee sinnii. xaidu əksəumi ajaa uččinindəə.
 すっかりおおわれ なおもはみでる。」 「どこに おけば いいか」 と 言ったと。

sinu tənəə aja uččinindəə. sinubi ee osuu. sinubi
 「舌が 一番 いい」 と 言ったと。 「自分の舌を エーと しろ。」 自分の舌を

ee oččinindaa. sinnəəni tooččinindaa. gočiddaa təpədəə təwəəkkətəi
 エーと 出したと。 かの女の舌を ひきぬいたと。 またも きちんと すわらせて

ɲənuxənindəə kəədəʃi bokkolu mama. nəuni issinindaa
 かえったと、 ふいごの おなかの ばあさんは。 いもうとが かえってくるんだと、

moo moolotomi. əɬčəʊəə bələindərəə umi xəwəččinindəə.
 まきを とりに行ってきた。 「ねえさん てつだいにきて」 と 言って よぶんだと。

xooniddaa xəwəččeejini čiptam biččinindəə. sulagəə ʃobomi məgʃimbə
 どんなに よんでも だまって いたと。 やっと 苦勞して 急なかわぶちを

kaapaduxanindaa. duktai iiduxənindəə. əigəbi laxəə
 のぼってもどったと。 いえへ かえってはいったと。 自分の姉を ずっとちかくで

itəxənindəə. xaaan buččindəə. aŋmakkeeni səəksə xəjəmi
 みたと。 いつかに 死んでいるんだと。 かの女のくちからは 血が ながれて

təəsinindəə. gočiddaa kəədəʃi bokkolu mama sinjeenindaa.
 すわっているんだと。 までも ふいごの おなかの ばあさんが くるんだと。

kəədəʃi bokkonʃi xappusi xappusi ənudəʃi ɲaalijji xəssəə
 ふいごの おなかで ハップシ ハップシ、 やっとこの 手で ハッシャー

xəssəə paluwaji jilijji təŋgəə təŋgəə itəŋgijji isaljii tɔŋgill
 ハッシャー、 槌の あたまで タンガー タンガー、 椀の 目で トンギルー

tɔŋgil silopunʃi bəgʃijji čikoo¹⁰⁾ čikoo xinjeenindaa. gočiddaa
 トンギル、 焼きぐしの あしで チーコー チーコーと くるんだと。 までも

duktai iixənindəə. poŋjii pototoxo əsələmbə luup poŋjii pototoxo
 いえへ はいったと。 ポンジー ポトホ とかげを ぼとん、 ポンジー ポトホ

udalamba luup məurinindəə. pook peuččinindaa
 かえるを ぼとんと 出して おどるんだと。 ぷーっと おならをしたと、

ittombo kaltaram. əəktə lautamba daparraa pukčitəxənindəə.
 木製料理具を まっぶたつに。 おんなは かたなを つかむや かかっているんだと。

pukčitəgəčči xooxonindaa. ɲaallaani bəgʃeeni gəəm xooxonindaa.
 かかっている 行きまわったと。 それの手を それのあしを みんな きたと。

ətuu əigədumə pujii mangaa opooččimbii xəərii uččinindəə.
 「一番 うえの姉の おんなが つよいと わしはおもってた ハーリー」 と 言ったと。

ətuu pujaŋguu pujii mangaa maanjii xəərii uččinindəə. paluwama
 「一番 末子の おんなが つよいんだ ハーリー」 と 言ったと。 槌の

jilleeni čigalixanindaa. koliga mastaa bara agbiččičindaa
 あたまを きたと。 むしが 大変 たくさん でてきたと、

sinjuuli. agbikkaččeeri soŋneečindaa. məənə
 シンジューリ(むし)が。 でてきて なくんだと。 槌のあたまは 自分の

sindaxami poktokki puṅḡalidumi ṇənninində. xamarakkeeni xasami
きた みちを ころがってもどって かえるんだと。 そのあとを 追いながら

xoorinindaa. geeda duxu utətəini puṅḡaliduxənində. nooni
きりまくるんだと。 一軒の いえの 戸口へ ころがりこんでかえったと。 そのかの女

jiinii əəktə puttə geeda puttə biinində. mimbee
ぐらいの おんなの こが, 一人の こどもが いるんだと。 「わたしを

nučaiikandulawwee amimbawwee ənimbəwwee waagačči gaattagatči
わたしのちっちゃいときから わたしの父親と 母親を ころして つれてきて

ujjini uččinində. əri paluwama jilini əsini budə uččinində.
そだてている」と 言ったと。 「この 榎の あたまは 死なない」と 言ったと。

duṇni maluduni nučiikə andumatai ərgəni
「ここの いえの 正座に ちっさい 榎がわ製の食器へいれて それのいのちが

biini uččinində. tari puttə. nari ujixəni puttə
ある」と 言ったと, その こどもが。 榎のあたまは 「ひとが そだてた こども

bakkaa narree waarini uččinində. činagəənnnee waawilaxamba
でも ひとを ころす」と 言ったと。 「ずっとまえに ころせばよかったものを

bai bai ujipulə uččinində. mallooni xuləməri
むだに そだてた」と 言ったと。 いえの 正座を かの女たちは 掘って

agbumuwačindaa nučiikə andummaa. tari dooduni udallə əsəllə
だしたと, ちっさい 榎がわ製の食器を。 それの なかに かえると とかげが

čakkaa biinində. čawa gəəm čipimari waagačindaa. čadu
一杯 いるんだと。 それを みんな かの女らは つぶして ころしたと。 そこで

buččinində paluwama jilini. tamačču duktai iixənində. duktai iigəčči
死んだと, 榎の あたまは。 それから いえへ はいったと。 いえへ はいって

uisəi itəxənində. dəə sinnəə loopula biinində səəksəni təəp təəp
うえを みたと。 二つの 舌を 掛けて あるんだと, それの血が ぼた ぼた

sabdami. čawa dapaduxanindaa. tari əəktə puttə uččinində.
したたりながら。 それを とりかえしたと。 その おんなの こは 言ったと。

bii bakkaa sindu gəsə ṇəneeləmi uččinində. tamačču dəənnnee
「わたし も あんたと 一緒に 行こう」と 言ったと。 それから ふたりは

isuwačindaa. dugbi aaptuduxanindaa. əigəijəəpi sinnəəči
かえってきたと。 自分のいえに かえりついたと。 自分の姉たちの 舌を

tuləčidumi xuriduxanindaa. jiin əəktə owoččeeri
もとどおりにとりつけて いきかえらせたと。 四人の おんなと なって

行ったと、それから。ずーっと行ってから 一軒の いえを みつけたと。 その
 dugba uttəəni niigəčindəə iibuddəəri. nooči waagači mama
 いえの 戸口を あけたと、 はいるために。 そのかの女らが ころした ばあさんに
 əččini biinindəə kəədəji bokkolu mama. mini
 そっくりのひとが いるんだと、 ふいごの おなかの ばあさんが。 「わしの
 əikəəwwee waagaččeeri sindaxasu uččinindəə. čeennee čimai
 姉を ころして おまえたちはきたんだ」と 言ったと。 「きのう あさ
 geeda sinjuuli soṇondotoxoni uččinindəə
 一匹の シンジュウリが なきにきてかえった」と 言ったと、
 keeltamitaiwwee. bultai goččeenindaa. mapəjuni
 「わしんとこの食器おきばへ。」 老婆は ひどく あばれるんだと。 老婆の じいさんが
 bultai dapulaččinindaa. tari naanneeni mapaaččani
 一所懸命 つかまえているんだと。 その 土地のひとである その土地のじいさんが
 uččinindəə. suu xawasai ṇənnēsəə uččinindəə. bala bala
 言ったと。 「おまえたちは どっちへ 行くか」と 言ったと。 「はやく
 ṇənnəusu. tamačču bultai tuksamari ṇəṇəčindəə. čii
 行け。」 かの女らは それから 一所懸命 はしって 行ったと。 ずーっと
 ṇəṇəmjee geeda dugba baagačindaa. čaa duktai iigəčindəə. samannee
 行ってから 一軒の いえを みつけたと。 その いえへ はいったと。 巫人の
 səwəniijuu nariijuu mastaa bara biččičindəə tari duxu dooduni. čadu
 神像か ひとか 大変 たくさん いたと、 その いえの なかに。 そこに
 biččičindəə. tamačču oṇboxombi.
 かの女らは いたと。 それからは わたしはわすれてしまった。

佐藤チヨさんから1956年録音した。このはなしは佐藤さんが自分の母親から聞いたもので、もとはオルチャ人のはなしだという。なお、このはなしは佐藤さんが途中までしかおぼえていないため完結していない。

- 1) xappusi xappusi とおとがする意。
- 2) xəssəə xəssəə あるとき手をふるさま。
- 3) təṅgəə təṅgəə くびがよこにゆれるさま。
- 4) toṅgill toṅgil ぎろぎろするさま。
- 5) poṅjii pototoxo おどるとき腰のかっこう。
- 6) 肛門から出す意(佐藤による)。
- 7) とった一匹のしらみが大きすぎた意(佐藤による)。
- 8) 舌を出す意。
- 9) jilleexi は jilleesi《おまえのあたまを》をあやまって発音した形(佐藤による)。
- 10) čiiṇoo čiiṇoo とおとがする意。

16. アルガッチャとプクシャガ

佐藤チヨ(Napka) 口述

goropčinne むかしのひとが	saxurixani ものがたった	saxurindamaa. ものがたりだとさ。	daa ダー	xajilaččee ハジラッチェー,		
argaččajaa アルガッチャと	pukšəŋəijəə プクシャガが	baljigačindaa. うまれたと。	čii ずっと	biččičindəə. くらしていたと。		
argačča アルガッチャが	seeltaa 炭を	seeltuxanindaa. やいたと。	seeltaa 炭を	seeltuwaatči やいて	səktənji ¹⁾ 荷のおおいを	
beeltuwaatči 敷いて	tučitakki いぬぞりへ	čakkaa 一杯	təuxənindəə. つんだと。	təuwəəčči つんで	suuxanindaa. しばったと。	suuwaatči しばって
xottoni まちの	baaruni 方へ	xudaxindaxanindaa. あきないに行ったと。	xottonneenee 「まちのひとよ,	seelta 炭が	xudəə 重いよー,	seelta 炭が
xudəə 重いよー」と	irumi ひいて	ŋənəxənindəə. 行ったと。	xottombo まちに	aaptuxanindaa. ついたと。	daajee おーつきな	duxu いえの
bookkeeni そとに	əksəxənindəə. おいたと。	čaa その	duktai いえへ	iixənindəə. はいったと。	xaiddaa 「どんな	nattaani けだものの皮も
mastaa 大変	baramba たくさん	orokčimbi もってきた」	と	uččinindəə. 言ったと。	そのいえのひとたちは	
nattaŋubi 「自分のけだものの皮の	tamambani 代償に		xaiwa なにを	gəlleesigə ほしいか」	と	uččičindəə. 言ったと。
jakkaa 「たからものを	gəlleewi ほしい」	と	uččinindəə. 言ったと。	bussoo 「布を	gəlleewi. ほしい。	tətukkəə きものを
gəlleewi ほしい」	と	uččinindəə. 言ったと。	mastaa 大変	baramba たくさん	bəəwəčindəə. くれたと。	mini 「わしの
uččinindəə. 言ったと。	mastaa 大変	baramba たくさん	bəəwəčindəə. くれたと。	mini 「わしの	ŋənuutəwwee かえったのちに	
nattaŋpoowwee わしのけだものの皮を	atuttaarisu ほどけ」		と	uččinindəə. 言ったと。	ŋənuxənindəə かえったと,	argačča アルガッチャは
duktakki. 自分のいえへ。	tari その	čimanaani 翌日	mastaa 大変	baramba たくさん	silixənindəə 干したと,	bookki そとへ
jakkawwəə たからものや	tətuwəwwəə きものや	busuwwəə. 布を。	puskəŋə ²⁾ プシカガが	nimərixənindəə. あそびにきたと。		
argaččaa 「アルガッチャやい,	xaila どこから	baagasiga みつけたか」	と	uččində 言ったと,	jakkaa. 「たからものを。」	seeltaa 「炭を
seeltuwaatči やいて	seeltaji 炭で	xudaxindataxambi あきないしに行ってきた」	と	uččinindəə. 言ったと。	xottonneeni 「まちのひとは	

seeltaa mastaa naajjeeči uččinindəə. puskəŋə ɣənurrəə seeltaa
炭を 大変 必要とするのだ」 と 言ったと。 プクシャガは かえるなり 炭を

seeltuxanindaa. seeltaa seeltootči xottoni baaruni irumi³⁾ ɣənəxənindəə.
やいたと。 炭を やいて まちの 方へ ひいて 行ったと。

xottonneene seeltaa naajjeesuijo irumi ɣənəxənindəə.
「まちのひとよ、 炭を 必要とするのじゃないでしょうか」 と ひいて 行ったと。

ɣui seeltaa naajjeewani xudaxindaxanee
まちのひとたちは 「だれが 炭を 必要とするか、いらぬものを あきないにきたぞ」 と

uččičindəə. uməri paačigačindaa. isuxanindaa puskəŋə. argačča
言ったと。 言いながら ぶったと。 かえってきたと、 プシカガが。 アルガツチャは

gočiddaa puisi čaanikkatai tərəŋələmi⁴⁾ waaxandaa ənimbi.
またもや にえたっている やかんへむけて 蹴って 殺したと、 自分の母親を。

ənimbi waagaatči ulinga ulinga tət⁵⁾ jakkaa
自分の母親を ころして たくさんの立派な き たからもの(豪華な衣裳)を

tətuwəlla⁵⁾ təttuuxənindəə. ulinga ulinga tətukkəə təttuuxənindəə.
き きせたと。 たくさんの立派な きものを きせたと。

ulinga ulinga bilaatuji bilaatullauččinindaa. tučitakki təwəəkkəəčči
たくさんの立派な 頭布で あたまをおおわせた。 いぬぞりへ すわらせて

suuxanindaa. suuwaatči xottoni baaruni irumi ɣənəxənindəə. xottombo
しばったと。 しばって まちの 方へ ひいて 行ったと。 まちへ

aaptuxanindaa. gočiddaa daajee duxu bookkeeni əksəxənindəə. mastaa
ついたと。 またも お一つきな いえの そとへ おいたと。 大変

daaji mœluutu biččinindəə. tari mœluutu kiraduni əksəxənindəə⁶⁾. čaa
大きい いどが あったと。 その いどの ふちに おいたと。 その

duktai iixənindəə. patala ajani patala biččinindəə.
いえへ はいったと。 むすめのうちでも一番いいむすめが いたと。 いえのひとたちが

čaiwa tɔjœəčindəə argaččatai. mini asibi anaaduni bildakkeewwee
お茶を 御馳走したと、 アルガツチャへ。「わしの 妻が いないと わしののどへ

dəppiddəə čaiddaa əsini iirə uččinindəə. andaxa mə⁷⁾ mərgə asseeni
たべものも お茶も はいらない」 と 言ったと。 「お客さんの おくさんを

xəwəindəu uččičindəə čaa patalatai. xəwəindəxənindəə. andaxa mərgə
よびに行け」 と 言ったと、 その むすめへ。 よびに行ったと。 「お客さんの

asinee čaiwa uminjeesindaa umi xəwəčixənindəə. xooniddaa
奥さ一ん、 お茶を のみにきなさいと」 と 言って よんだと。 どのように

xəwəččeejini čiptam biččinindəə. laxəə ɲənəxənindəə. muirəduni
 よんでも だまって いたと。 ずっとちかくまで 行ったと。 その肩を

nandəə nandəə tuttuxənindaəə. mœluututəi čauk tuuxənindəə.
 そーっと そーっと うごかしたと。 いどへ どぶんと おちたと。 むすめは

bultai olomi soɲomi isuxandaa duktai. andaxa mærgə
 ひどく おどろいて なきながら かえってきたと、 いえへ。 「お客さんの

asini mœluututəi tuuxəni uččinindəə. bultai
 おくさんが いどへ おちた」 と 言ったと。 いえのひとたちは ひどく

baittaa baaxambari uččinindəə. čaa patallaa argačcatai
 わるいことを 自分たちはしたと 言ったと。 その むすめを アルガッチャへ

bœwəčindəə. əəktəə miirəmbudumi isuxanindaa duktakki.
 くれたと。 おんなを よめにもらってつれて かえってきたと、 自分のいえへ。

puksəɲə gočiddaa nimərixənindəə. argačča əəktəlu aumee
 プクシャガは またもや あそびにきたと。 アルガッチャは おんなと ねて

biinindəə. argačča asijji xaila baagasiga⁸⁾
 いるんだと。 「アルガッチャやい、 自分の妻にするのに どこで みつけたか」 と

uččinindəə. bii ənimbi waagaačči əninji duwəlīdətəxəmbi
 言ったと。 「おれは 自分の母親を ころして 自分の母親と 交換した」 と

uččinindəə. xottonneeni buččinneepə mastaa naajjeeči uččinindəə.
 言ったと。 「まちのひとは 死人を 大変 必要とするのだ」 と 言ったと。

puksəɲə ɲənurrəə ənimbi waaxanindaa⁹⁾. ənimbi
 プクシャガは かえるなり 自分の母親を ころしたと。 自分の母親を

waarraa xottoni baaruni irumi orok¹⁰⁾ ɲənəxənindəə. xottonneenee
 ころすとすぐ まちの 方へ ひいて つれ 行ったと。 「まちのひとよ、

buččinneepə naajjeesuijo umi irumi gituxanindaa.
 死人を 必要とするのじゃないでしょうか」 と 言って ひいて あるいたと。

ənəjje ɲəələpsee uččičindəə. əri
 まちのひとたちは 「やあ おそろしいな」 と 言ったと。 「こいつは

buččinneepə orokčini. bultai paačimari ɲənnəəččičindəə puksəɲəmbə.
 死人を つれてきた。」 ひどく ぶって かえらせたと、 プクシャガを。

puksəɲə soɲomii isuxanindaa duktakki. bultai tagdaxandaa
 プクシャガは なきながら かえってきたと、 自分のいえへ。 ひどく おこったと、

puksəɲə. argaččamba waəndaxanindaa. mimbee xaiji
 プクシャガは。 アルガッチャを ころしに行ったと。 「おれを なにをつかって

waarisiga uččində argačča. dægjimi waariwi uččinindəə.
 ころすか」と 言ったと、 アルガッチャが。 「やいて ころす」と 言ったと。

mimbee dægjibuŋji moo moolisuu uččinindəə. moo mooličinindaa
 「おれを ころすのに まきを あつめろ」と 言ったと。 まきを あつめたと、

puksəŋə. moo mooligaačči argaččamba korixanindaa¹⁾.
 プクシャガは。 まきを あつめて アルガッチャを まるたを井桁にくんでかこんだと。

korigaatči duktai tawwaa gaanduxanindaa. činagəənnē
 まるたを井桁にくんだかこいをつくって いえへ 火を とりにもどったと。 ずっとまえに

məəluututəi tuumi bučči argačča ənini mama sindaxandaa dədəree
 いどへ おちて 死んだアルガッチャの 母親である老婆が きたと、 ぶるぶる

sildumi¹²⁾. bii sini məətə əččisi owočči jədu təərittə
 ふるえながら。「わしは おまえと まったく そっくりに なって ここに すわろう」と

uččinindəə. sii xanŋee osuu uččinindəə argaččatai. xanŋee
 言ったと。「おまえは わきへ よれ」と 言ったと、 アルガッチャへ。 わきへ

oččinindaa. argačča məətə əččini owočči təəxənindəə. puksəŋə
 よったと。 アルガッチャと まったく そっくりに なって すわったと。 プクシャガは

isuwatči gəəm dægjixənindəə. dægjigəətči argačča duktaini
 かえってきて すっかり やいたと。 やいて アルガッチャの いえへ

ŋənəxənindəə. argačča bimee biinindəə. biiddəə simbee
 行ったと。 アルガッチャが いきていて いるんだと。 「おれも おまえを

dægjittə uččindəə puksəŋətəi. moo moolisuu. puksəŋə moo
 やこう」と 言ったと、 プクシャガへ。「まきを あつめろ。」 プクシャガは まきを

mooličinindaa. puksəŋəmbə moo moolipookkaatči korixanindaa
 あつめたと。 プクシャガに まきを あつめさせて まるたを井桁にくんでかこんだと、

argačča puksəŋəmbə. korigaatči gəəm
 アルガッチャが プクシャガを。 まるたを井桁にくんだかこいをつくって すっかり

dægjixənindəə. čikəə biččinindəə goropči saxuri.
 やいたと。 それだけだったと、 むかしの ものがたりは。

佐藤チヨさんから 1956 年録音した。このはなしは、佐藤チヨさんが自分の祖父の妹からウイльта語で聞いたもので、本来オルチャ人のはなしだろうという。ウイльта人から日本語で採集したおなじはなしが山本祐弘『北方自然民族民話集成』(1968)63-67 ページにのる。Argačča の arga は蒙古語などで奸計の意。

1) səktə はけだものやさかなの皮でつくり、その上に敷いてにもつをつつむのにつかう。

2) puksəŋə はあやまって puksəŋə の k と s が転倒した形。

- 3) そりでひいて行ったの意。
 4) 佐藤さんの聴取による。
 5) *tət* と言ってつぎに *ǰakkaa* と言いなおし、さらに *tətuwəllə* と言って *təttuuxənindəə* と言いなおしている(佐藤による)。(*tətuwə* 《きもの》。)
 6) 母親をのせたままそりをおいたの意。
 7) *mə* と言いかけてあらためて *mərgə* と言っている(佐藤による)。
 8) おんなをみつけたかの意。
 9) *waaxanindaa* の発音 [wa:xaŋndā:] における [ŋ] は音節主音的につよさのやまがあるようにきこえ、そしておわりの部分がやや口蓋化している。佐藤さんはここは *waaxanindaa* とも *waaxandaa* ともきこえると言う。このほかにも *nin* の部分の [i] がみじかいかな、あるいはきこえず…
 …*nindaa*, ……*nindəə* が ……*ndaa*, ……*ndəə* にちかくきこえる例がある。
 10) *orok* (*orog-* 《つれて行く》) と言ってつぎに *ɣənəxənindəə* と言いなおしている(佐藤による)。
 11) あつめたまきを井桁にくんでかこんだの意。1950 年おなじ語りてから口述をかきとったこのはなしの原文には *puksəŋə argaččamba təwəəkkəčči mooǰi korixani*。《プクシャガは アルガ ッチャを すわらせて まきで 井桁にくんでかこんだ。》とある。
 12) いどにおちてみずにぬれたため(佐藤による)。

17. ゲオハート

佐藤チヨ(Napka)口述

<i>daa</i>	<i>xajilaččee</i>	<i>ilaa</i>	<i>dupči</i>	<i>xotto</i>	<i>balǰixanindaa.</i>	<i>tari</i>	<i>xotto</i>
ダー	ハジラッチェー、	三本通りのある	まちが	うまれたと。	その	まちの	

<i>sooduni</i>	<i>geeda</i>	<i>oroktomo</i>	<i>duxu</i>	<i>biččinində.</i>	<i>tari</i>	<i>duxu</i>	<i>dooduni</i>	<i>geeda</i>
はずれに	一軒の	くさぶきの	いえが	あったと。	その	いえの	なかに	ひとりの

<i>geuxaatu</i> ¹⁾	<i>biččinindəə.</i>	<i>oroktoo</i>	<i>pusirraa</i>	<i>oroktoǰi</i>	<i>xudasirraa</i>	<i>dəpturrəə</i>
ゲオハートが	いたと。	くさを	刈り	くさを	あきなって	たべたり

<i>moo</i>	<i>moolissii</i>	<i>mooǰi</i>	<i>xudasirraa</i>	<i>dəpturrəə</i>	<i>omi</i>	<i>biččinindəə.</i>	<i>tari</i>
まきを	とり	まきを	あきなって	たべたり	して	いたと。	その

<i>oroktomo</i>	<i>duxu</i>	<i>bookkeeni</i>	<i>ilaa</i>	<i>təilə</i>	<i>tuuru</i> ²⁾	<i>biččinindəə.</i>	<i>tari</i>
くさぶきの	いえの	そとに	三	かかえある	はしら	あったと。	その

<i>tuuru</i>	<i>təkkəkkeeni</i>	<i>oondoi</i>	<i>toroočixandaa.</i>	<i>inəŋi</i>	<i>ajani</i>	<i>inəŋidu</i>
はしらの	ねもとに	あおむけに	なっていたと。	一番いい	天気	日に

<i>geuxaatu</i>	<i>uisəi</i>	<i>kargaxanda.</i>	<i>geeda</i>	<i>gasa</i>	<i>daajini</i>	<i>gasa</i>
ゲオハートは	上の方を	みわたしたと。	一羽の	とりのうちでも一番大きい	とりが	

<i>sinǰeenindaa.</i>	<i>sələmə</i>	<i>koori</i> ³⁾	<i>dalū</i>	<i>ǰiini</i>	<i>gasa</i>
くるんだと。	鉄でできた	コーリ	という	倉	ほどの

<i>duučikkuǰi</i>	<i>xoxoolluu</i>	<i>lautanǰi</i>	<i>xasalluu</i>
さきかな具のついた氷にあなをあける棒の	くちばしがあり	刀の	つばさがあり

gidaji xudurəllu. čaa tuurudu dooxonindaa. tari gasa attenduni
やりの 尾羽がある。 その はしらに とまった。 その とりの 背に

əəktə ajani əəktə biinindəə. geuxaatoo uččinində
おんなのうちでも一番美しい おんなが いるんだと。 「ゲオハートよ」 と 言ったと、

əri gasa mimbee xaikkiddəə gajjiwani ulingaji
「この とりが わたしを どこへ つれてかえって行くかを よく

itəčissəəri. mini amittaiwwee ənittəiwwee
これからみていてください。 わたしの 父と 母へ

aldurissaari. dəunjee isalkeeni aisi mœni⁴⁾ bəter
あとでしらせてください。」 左の 目から 金の 水を ぼろぼろおとして

soŋoxondaa. aanjee isalkeeni məŋu mœni bəter soŋoonda. tari
ないたと。 右の 目から 銀の 水を ぼろぼろおとして ないたと。 その

gasa guulinuxənindəə. suun agbinjiwani təŋŋəə ŋənnēenindəə
とりが とびたってかえって行ったと。 日の 出る方へ まっすぐ 行くんだと、

tari gasa. čaa tuurutai muktami čii kargeendaa
その とりが。 その はしらへ のぼりながら ずーっと ながめているんだと、

geuxaatu. tuuru suwəmbəni aapčinnii gaaji jiiinii
ゲオハートは。 はしらの こずえに とどくかとどかぬに からす ほどに

oččinindaa. nəəčigəŋ jiiinii omi boo saŋakkeeni iiduxəndə.
なったと。 ことり ほどに なって 天の あなへ はいってかえって行ったと。

čadoo doonduxanda geuxaatu. dəpčini xaiddəə anaandaa.
そのとき 思い出したと、 ゲオハートは。 たべるものが なにも ないんだと。

tuuduxəninđə. xagjimi akpaččinindaa. čimanaani dœə ʃangee
おりてきたと。 たべずに ねたと。 あくる日 ふたりの 役人が

gaanixačindaa geuxaatumba. geuxaatoo ədə gaannooččini.
迎えに行ったと、 ゲオハートを。 「ゲオハートよ 王さまが 迎えによこした。」

ədəndu xaiddəə baitala anakki uččinindəə.
「王さまに なにも わるいことをしたことが おれはない」 と 言ったと。

əməčigə durunjii əməčigə tətuwəjjii xooni ŋənnēewee uččindəə.
「こんな すがたで こんな きもので どのようにして おれは行くか」 と 言ったと。

ədəttəi əsiwi ŋənnəə. ŋənuwəčində. gočiddaa dœə
「王さまのところへ おれは行かない。」 かれらはかえったと。 またも ふたりの

ʃangee sindaxačindaa lautalu ʃangee. geuxaatoo ədə
役人が きたと、 刀をもった 役人が。 「ゲオハートよ、 王さまが

gaannooččini. ee əsiwi ŋənnəə uččinindəə. dəə ŋaaladuni
 迎えによこした。」 「いやだ、おれは 行かない」 と 言ったと。 両 手を

daparraa uippə gaduwačindaa naadu əməri taamboonda. ədə
 つかむと もち上げたまま つれかえったと、 地を ふませずに。 王さまの

duktaini iiwəəčində. bultai meexuraččindaa geuxaatu. pəəjəbi
 いえへ はいらせた。 一所懸命 叩頭したと、 ゲオハートは。 自分のひたいに

səəksə saar səəksə saar meexuraččininda.
 血が さっと一面に流れるほど 血が さっと一面に流れるほど 叩頭したと。

geuxaattoo xai baittaani baagatči meexuraččisee
 「ゲオハートよ、 どういう わるいことを して おまえは叩頭したのか」 と

uččindəə ədə. baljixandukki əsidələə boodu bimi xaiwaddaa
 言ったと、 王さまは。 「うまれたときから いままで そとに いて なにか

əččisi ittəəji uččinində. xaiwaddaa əččimbi ittəə
 おまえはみなかったか」 と 言ったと。 「なにも わしはみませんでした」 と

uččinindəə. anaa xaiwaddaa itəxəsi billəə uččinindəə. geeda
 言ったと。 「いや、 なにか おまえはみた だろう」 と 言ったと。 「一羽の

gasa daajini gassaa itəxəmbi uččinindəə.
 とりのうちでも一番大きい とりを わしはみました」 と 言ったと。

duučikkuji xoxooluwwəə lautanji xasaluwwəə gidaji
 「氷にあなをあける棒の くちばしがあり 刀の つばさがあり やりの

xudurəluwwəə sələmə koorree dalu jiiwəni gassaa itəxəmbi
 尾羽がある 鉄でできた コーリ という 倉 ほどある とりを わしはみました」 と

uččinindəə. tari gasa attanduni əəktə ajani əəktə
 言ったと。 「その とりの 背に おんなのうちでも一番美しい おんなが

biččini uččinindəə. geuxaattoo mimbee əri gasa xaikkiddəə
 いました」 と 言ったと。 『ゲオハートよ、 わたしを この とりが どこへ

gaŋjiwani ulingaji itəčissəəri. mini amittaiwwee
 つれてかえって行くかを よく これからみていてください。 わたしの 父と

ənittəiwwee aldurissaari uččini uččinindəə. aanjee
 母へ あとでしらせてください』と 言いました」 と 言ったと。 「右の

isalkeeni mənɟu məəni bəter soŋoxoni uččinindəə. dəunjee
 目から 銀の 水を ぼろぼろおとして なきました」 と 言ったと。 「左の

isalkeeni aisi məəni bəter soŋoxoni. tari gasa suun
 目から 金の 水を ぼろぼろおとして なきました。 その とりは 日の

agbinjiwani təŋŋəə ŋənəxəni uččinindəə. čaa tuurutai muktami
出る方へ まっすぐ 行きました」と 言ったと。 「その はしらへ のぼりながら

čii itəčixəmbi. tuuru suwəmbəni aapčiwwii
ずーっと わしはみていました。 はしらの こずえに わしがとどくかとどかぬに

gaaji jiinii oččini uččinindəə. nəəčigən jiinii omi boo
からす ほどに なりました」と 言ったと。 「ことり ほどに なり 天の

saŋakkeeni iiduxəni uččinindəə. ədə jilibi
あなへ はいってかえって行きました」と 言ったと。 王さまは あたまを

pəisəi tugbuwəčči bojjeenindaa. geuxaatumba čəsi daaji jangee
下へ ふせて 考えているんだと。 ゲオハートを たいした 大 将に

opooččindaa. geuxaatu pəjjeekkeeni geeda jangee biinində. nada
したと。 ゲオハートの 下に ひとりの 将校が いるんだと。 七

tanɡu saldaawa bargixandaa. səgdəm poro⁵⁾ səgdəmi pulisi poroxoottoo
百人の 兵隊を 用意したと。 飛んで 汽船 飛んで 行く 汽船を

andupooččinindaa sələmə poroxoottoo. čimanaa ŋənnəečindəə. čimanaani
つくらせたと、 鉄製の 汽船を。 あす かれらは行くんだと。 あくる日

ŋənəəčində. čii ŋənnəečindəə. tari gasa poktokkeeni čii uisəi
行ったと。 ずーっと 行くんだと。 その とりの 通ったあとを ずーっと 上へ

kaapamari čii ŋənnəečində. boo saŋaani aaptuwačindaa. geuxaatu
のぼって ずーっと 行くんだと。 天の あなに ついたと。 ゲオハートは

məəpi xorkoŋi taldaakki uiwəəkkəčči tugbəəččinindəə pəisəi. čii
自分を つなで まんなかを しばらせて おろさせたと、 下へ。 ずーっと

tukkinində. naawani aaptuxandaa. ilaan jaadara pokto biinindəə.
おりて行くんだと。 地に ついたと。 みつ またの みちが あるんだと。

buni baaruni pulipuri poktuu suun baaruni pulipuri poktuu amba
黄泉の 方へ 行く みちと 日の 方へ 行く みちと 怪物の

poktoni biinindəə. pənəndulə⁶⁾ bii doorima. tari doorima
みちが あるんだと。 怪物のみちは ひぎまで ある みちだ。 その みちの

təkkənduni geeda mugdəə biinindəə. čaa mugdəəkki uixəndəə
起点に ひとつの 木の株が あるんだと。 その 木の株へ しばったと、

xorkoŋubi. uigəčči ŋənnəenindəə. čaa amba poktokkeeni čii
自分のつなを。 しばって 行くんだと。 その 怪物の みちを ずーっと

ŋənnəendə. geeda duxu tawani səgdədəə biinindəə. čaa duktai
行くんだと。 一軒の いえの いろり火が けむりをたてて いるんだと。 その いえへ

iixənində. *čɪŋagəənnē* *nooni* *itəxəni* *əəktə* *biinindəə.*
 はいったと。 ずーっとまえに そのかれが みた おんなが いるんだと。

geuxaatoo *xaiwa* *xanɖami* *sinjēese* *uččɪnindəə* *aldoo*
 「ゲオハートよ、 なにを しに あなたはくるんですか」 と 言ったと、 「あたら

ulisəbbii *aldoo* *girapsabbii* *irami.* *geuxaatumba* *bokkomboni*
 自分のにくと あたら 自分のほねとを はこんで。」 ゲオハートを はら

čakkaa *dəpəəččɪnindəə.* *amba* *ələ* *issini* *laxa* *uččɪnindəə.*
 一杯 たべさせたと。 「怪物が もう くるのが ちかい」 と 言ったと。

issoojini *əri* *naa* *gəəm* *tuččini* *uččɪnindəə.* *əri* *duxu*
 「かえってくれば この 地が みんな うごきます」 と 言ったと。 「この いえが

gəəm *tuččini.* *tawa* *taldaakkeeni* *agbinduŋjini*
 みんな うごきます。 たき火の まんなかから かれがあらわれてもどってきます」 と

uččɪnindəə. *aanjē* *xawanikki* *narree* *geedanneedə* *gaŋjini*
 言ったと。 「右の わきの下へ 人間を ひとり 運んできます」 と

uččində *kapilagačči.* *dəunjē* *xawanikki* *geu*⁷⁾ *soondoomboni* *kapilagačči*
 言ったと、「はさんで。」 「左の わきの下へ しかの 子を はさんで

gaŋjini *uččɪnindəə.* *isupee* *kəikkəi* *nilau* *tawatai* *uungisini*
 運んで来ます」 と 言ったと。「かえってきたら まっぱだかで 火へ あたっています」 と

uččɪnindəə. *čadu* *bii* *uŋittə.* *mimbee* *waabuŋji* *gaattapeeddaa*
 言ったと。「そのとき わたしが 言いましょう。『わたしを 殺すために つれに行ってきたなら

waawumidda *ajjəə* *asilabuŋji* *gaattapeeddaa* *asilaumidda* *ajjəə.*
 殺しても いいし 妻にするために つれに行ってきたなら 妻にしても いい。

əri *jiini* *gorolonjini* *xaibuŋji* *buisigə*
 これ ほど ながく なにするために あなたはとっておくのですか』 と

uŋittə *uččɪnindəə.* *dəənnē* *gəsə* *obuddoori* *jilleesi*
 言いましょう」 と 言ったと。 「『ふたり 一緒に なるために あなたのあたまを

itəiččeesuu. *čiktəddəə* *waarini* *taani.*
 しらみがないかどうか さがしましょう。 しらみだって ひとを殺す でしょう。

əri *jiini* *gorolonjini* *pulisi* *uŋittə*
 これ ほど ながく あなたは歩きまわっているんですよ』 と 言いましょう」 と

uččɪnindəə. *amba* *narree* *waakkuni* *lautani* *biini* *uččɪnindəə.*
 言ったと。 「怪物の 人間を 殺す道具 である 刀が あります」 と 言ったと。

čaa *lautamba* *dapagačči* *sirissaari.* *jilleeni* *itəiččeeduwwee*
 「その 刀を とって あとでかくれなさい。 それのあたまを わたしが見にかかると

kooto liimi akpanjini uččinindəə. akpakkutannee
 ぐうぐう いびきをかいて それはねます」 と 言ったと。 「ねたら

utumukkeeni səəgdə sinakta⁸⁾ nəəriini uččinindəə. tari sinakta
 そのうなじから 赤い 毛が 出ます」 と 言ったと。 「その 毛が

naatai bagbalautannee xaus akpanjini uččinindəə. tari sinakta
 地を 突いたら ぐっすり かれはねます」 と 言ったと。 「その 毛が

naatai bagbalautannee geuxəətu umi xəwəčiŋittə. kus pəččərrəə
 地を 突いたら 『ゲオハート』 と 言って よびましょう。 さつと はねおきて

sinaktaa pəŋ xoopulassaari uččinindəə. čaa sinaktaa tuttaupee
 毛を ふつつり きりなさい」 と 言ったと。 「その 毛を にがしたら

baljigasi əri uččinindəə. daajiji əjjeə əəri
 あなたのうまれたいのちは これだけです」 と 言ったと。 「大きく いきをしないように」と

uččinindəə. geuxaatumba daixanindaa amba narree waakkuni
 言ったと。 ゲオハートを かくしたと、 怪物の 人間を 殺す道具 である

lautamba dappaukkačči. tədəddəə amba issinindaa. naa tuččininda.
 刀を とらせて。 本当に 怪物が かえってくるんだと。 地が うごくんだと。

duxu tuččininda. tawa taldaakkeeni agbinduxanindaa. aanjee
 いえが うごくんだと。 たき火の まんなかから あらわれてもどってきたと。 右の

xawanikki narree geedanneepe gaduxanindaa kapilagačči. dəunjee xawanikki
 わきの下にひとをひとり 運んできたと、 はさんで。 左の わきの下へ

geu soondoomboni kapilagačči gaduxanindaa. əəktə kus pəččərrəə
 しかの 子を はさんで 運んできたと。 おんなは さつと はねおきて

pəŋ pəŋ xoorroo oromuččataini čauk čauk iičixəndəə. xuruxəninə.
 ふつ ふつ きるとすぐ 怪物の釜へ どぶん どぶん いれたと。 にえたと。

ittotoi⁹⁾ urigaatči mokčom¹⁰⁾ irumi iraxanindaa.¹¹⁾
 木製の横長の容器へ 盛って まえかがみに ひいて かの女はもって行っったと。

gaksee pulčikki girapsaani nəəwudumi dəpčinindəə. dəptumi xojixaninda.
 片方の ほほへ ほねを 突き出して たべるんだと。 たべ おわったと。

mokčom irumi¹²⁾ xəənixəndəə¹³⁾ boo baaruni. kəikkəi nilau
 まえかがみに ひいて かの女はあけに行っったと、 そとの 方へ。 まっぱだかで

uungisindəə tawatakki. čadu əəktə uččinindəə. mimbee
 あたっているんだと、 自分の火へ。 そのとき おんなは 言ったと。 「わたしを

xaibuji gaattagačči buisisigə uččinindəə
 なにするために つれに行って来て あなたはとっておくのですか」 と 言ったと、

əri ĵiini gorolonĵini. asilabuĵĵi gaattapeeddaa asillaumidda
「これ ほど ながく。 妻にするために つれに行って来たなら 妻にしても

ajjəə waabuĵĵi gaattapeeddaa waawumidda ajjəə. dəonnee gəsə
いいし 殺すために つれに行って来たなら 殺しても いい。 ふたり 一緒に

obuddoori ĵilleesi itəiččeesuu. čiktəddəə
なるために あなたのあたまを しらみがいないかどうか さがしましょう。 しらみだって

waarini taani. əri ĵiini gorolonĵini pulisisi.
ひとを殺す でしょう。 これ ほど ながく あなたは歩きまわっているんですよ。」

ĵilibi itəittəuččininindəə. kooto liimi akpaččininindaa.
自分のあたまを さがさせたと。 ぐうぐう いびきをかいて ねたと。

utumukkeeni səəgdə sinakta nəərinində. naatai bagbalaxandaa.
そのうなじから 赤い 毛が 出るんだと。 地を 突いたと。

geuxəətu uččininində. xaikkaa sok sop təəduxəndəə. sook
「ゲオハートよ」 と 言ったと。 「なんだあ」 と あわてて おきなおったと。 くん

sook ŋoosinda. iiməu bəjə puuni biini billəə
くん かいでいると。 「いきのいい けだものの においが する ようだ」 と

uččininində. anakaa uččininindəə. sula pəččənosijini
言ったと。 「いいえ」 と 言ったと。 「のみが なんどもはねるので

olonosiwi. sini ooronnee gaduwasi bəjə
わたしはおどろいているのです。 あなたが さっき 運んで来た けだものの

puuni əsi beeji. xaiddaa anaa uččininində. gočiddaa
において ないですか。 なにも ありません」 と 言ったと。 またも

akpanduxandaa. ĵilleeni itəiččeenində. əəktə kətəxə kətəxə
それはねたと。 そのあたまを 見にかかるんだと。 おんなは ぶすん ぶすん

niččeenindaa. gočiddaa kooto liimi akpanduxandaa. utumukkeeni
つぶすんだと。 またも ぐうぐういびきをかいて ねたと。 そのうなじから

səəgdə sinakta nəəĵĵininindəə. naatai bagbalaxaninda. geuxəətu
赤い 毛が 出てくるんだと。 地を 突いたと。 「ゲオハートよ」 と

uččininindəə. geuxaatu kus pəččərrəə čaa sinaktaa pəŋ
言ったと。 ゲオハートは さっと はねおきて その 毛を ぶつつと

xoopulaxanindaa. oromuččajini ələgəəččeri gəəm dəgĵigəčindəə. čaa əəktəndəə
きったと。 怪物の釜で 煮てから 全部 やいたと。 その おんなと

ŋənničindəə. čii ŋənəmi xorkoŋubi biiwəni aaptuduxandaa.
かえるんだと。 ずーっと 行って 自分のつなが あるところに かえりついたと。

tari əəktə uččinindəə. sii uuwu osuu. mini uuwu
 その おんなは 言ったと。 「あなたが 上に なりなさい。 わたしが 上に

outawwee sinnii minnii aldaakkeppoo xorkoo čigalliči
 なったら あなたと わたしの あいだで つなを かれらはきります」 と

uččinindəə. mimbeeməli gaŋjiči. simbee waariči.
 言ったと。 「わたしだけを かれらはつれてかえます。 あなたを かれらは殺します。」

anaa bii uuwu əsiw osi uččinindəə. sii uuwu osu.
 「いや わしは 上に ならない」 と 言ったと、 「あなたが 上に なりなさい。」

aisima xunaaptumbi tupuligačči ŋaalakkeeni gidalaxandaa. əəktəə
 金の ゆびわを はずして かれの手に かの女ははめたと。 おんなを

uuwuŋji məəpi pəduuŋji uixəndə geuxaatu. uisəi xorkoo
 上に 自分を 下に しばったと、 ゲオハートは。 上へ つなを

toonisinda. uwweedu toonduŋjičindaa. čii toonduŋjičinda.
 なんども引くんだと。 上から 引きもどすんだと。 どんどん 引きもどすんだと。

əəktəə toondoočindaa. əəktəə geuxaattuu aldaakkeeni təktəs
 おんなを 引きもどしたと。 おんなと ゲオハートとの あいだで ぶつつり

čigaligačinda xorkoo. geuxaatu činagaəpči ambaŋubi utəkkeeni
 きったと、 つなを。 ゲオハートは ずっとまえの 自分の相手した怪物の 戸口を

miččillee saaduxanindaa. amba tuuləduni geeda səəgdə mөөkkuu
 這っているとき われにかえったと。 怪物の 戸口のそとに 一つの 赤い 水と

geeda taagda mөөkku biččinindəə. səəgdə mөөkki čimutəəmbi gidalaxandaa.
 一つの 白い 水とが あったと。 赤い 水へ こゆびを 入れたと。

činguram čigadaxanda. taagda mөөkki gidalaxandaa. kopildur xooduxanda.
 おれて きれたと。 白い 水へ 入れたと。 すぐ もとどおりなおったと。

taagda mөө umixanda. mөөnə xaaalan biččimbiŋəči uliŋga oččinda
 白い 水を のんだと。 自分が ずっとまえに そうだったように よく なったと、

geuxaatu. čaa amba duktaini iixəninđəə. xai čiiŋgeewəniŋjuu
 ゲオハートは。 その 怪物の いえへ 入ったと。 なにが 小声でなくののだろうか

xai čiiŋgeewəniŋjuu dooljixandaa. xooniddaa dooljееjini
 なにが 小声でなくののだろうか なにかおとを きいたと。 どんなに きいても

bookkeela uisinindəə. bootoi nəəduwəətči dooljееjini dugjeela
 そとの方で おとがするんだと。 そとへ もどって出て きくと いえの方で

uisinindəə. čakkii kargaxanindaa. geeda tuuru biinindəə. tari
 おとがするんだと。 そっちを みわたしたと。 一本の はしらが あるんだと。 その

tuuru daatanduni nari girapsani øksøm biinində. čaa tuurroo
 はしらの ねもとに 人間の ほねが うずたかく あるんだと。 その はしらを
 uisəi itəxənindəə. geedanneepa katarapula biinindəə. tuuru
 見上げて みた。 ひとりのひとを からげてしばって あるんだと。 はしらに
 baaruni čakčəŋ katarapula. girapsabi baaruni čakčəŋ
 むかって かく かく からげてしばってある。 ほねばかりになって かく
 xoldoxondoo. isalmali ujuundə. kəsənji kəsənji¹⁴⁾
 かわいていたと。 目ばかり いきているんだと。 自分のことばで 自分のことばで
 sulagəə nəərinində. andaa mimbee xuriroo uččinindəə. geuxaatu
 やつと 出るんだと。 「友よ、 わたしを たすけてくれ」 と 言ったと。 ゲオハートは
 atuxanindaa. atuwatči taagda mөө ummooččininda. xaaan biččimbi
 といたと。 といて 白い 水を のませたと。 ずっとまえに そうだった
 uwweekkeeni ulinga oččindaa tari nari. xuraduxanda. andaa xawasai
 以上に よく なったと、 その ひと。 いきかえたと。 「友よ、 どっちへ
 ɣənnēsee uččinindəə geuxaatutai. xawasaiddəə ɣənnēewi anaa
 行くか」 と 言ったと、 ゲオハートへ。 「どっちへも おれの行くところは ない」 と
 uččinindəə. mini duktaiwwee ɣənnēesuu uččinində. gəə ɣənnēesuu.¹⁵⁾
 言ったと。 「おれの いえへ 行こう」 と 言ったと。 「さあ 行こう。」
 čii ɣənnəəččindəə. čii ɣənnəmjee geeda uni kiraduni
 どんどん かれらは行くんだと。 ずーっと 行ってから 一つの かわの きしで
 dərukpiğəččindəə. mini amittaiwwee ənittəiwwee ɣənnəutəppəə
 やすんだと。 「おれの おやじと おふくろのところへ われわれが行ったら
 mini puttəbəwwee xurixandulli xaiwa gəlleesigə unjilit taani.
 『わしの こどもを たすけたかわりに なにを ほしいか』 と 言うだろう。
 aisimbaamali tunda poroxootu dauwani gəlleesii unjilit taani. əsiwi gəlləə
 『金ばかりを 五隻の 汽船 分 ほしいか』と 言うだろう。『おれはほしくない』と
 ussəəri uččinindəə. məɣumbəəməli tunda poroxootu dauwani gəlleesii
 言え」 と 言ったと。 「『銀ばかりを 五隻の 汽船 分 ほしいか』と
 unjilit taani. əsiwi gəlləə uss¹⁶⁾ ussəəri uččinindəə. mini
 言うだろう。 『おれはほしくない』 と 言 言え」 と 言ったと。 「おれの
 amimbii ənimbii aldaakkeeči nuuksəəməli səwə biini uččinindəə.
 おやじと おふくろの あいだに すすだらけの 神像が ある」 と 言ったと。
 čawa gəlleewi ussəəri uččinindəə. tawasai nuɣičissəəri. mini
 「『それを ほしい』 と 言え」 と 言ったと。 「そっちを ゆびさせ。 おれの

amimbii ənimbii jilleeri pəisəi tugbillt taani. mini ŋaaladuwwēe
おやじと おふくろが あたまを 下へ ふせるだろう。 おれの 手を

dapagačči andaa bala ŋənnisu umi jēelasi jēelači¹⁷⁾
つかんで 『友よ、はやく 帰ろう』と 言って 同行するようさそう 同行するようさそった

jēelatuttaari uččinində. čadu mini ənimbi ilirraa
同行するようさそえ」と 言ったと。 「そのとき おれの おふくろが 立つなり

səwəmbi təktəs xətundə sittəi bəəril taani. čaa
自分の神像を ぶつつり ひっぱってきつてすぐ おまえへ くれるだろう。 その

səwəmbə ɔltəkki gidalagatči bultai tuksami ŋənussəəri
神像を 自分のふところへ 入れて 一所懸命 走って 帰ろ」と

uččinində. tamačču jiin urəktə čigalixanindaa. liŋas tupindaa
言ったと。 それから 四本の やなぎの棒を きつたと。 びったり つばをして

geuxaatu bəgʒini panataini liŋas daksauččinindaa. dəə panataini
ゲオハートの あしの うらへ びったり はりつけたと。 ふたつの あしのうらへ

dəə urəktə daksauččininda. tamačču məənə bəgʒibi panataini
二本の やなぎの棒を はりつけたと。 それから 自分の あしの うらへ

dəə panataini dəə urəktə daksauččinindaa. jəə urəktəji
ふたつの あしのうらへ 二本の やなぎの棒を はりつけたと。 「この やなぎの棒で

jəə nammoo daurisuu uččinində. ee ŋəələpsee. xooni
この 海を わたろう」と 言ったと。 「いやだ、おそろしい。 どのようにして

dauwuriga uččində jəə urəktəji jəə nammoo. ajaa
わたるのか」と 言ったと、 「この やなぎの棒で この 海を。」 「できるよ、

ajaa¹⁸⁾ uččinində. ŋaaladuni dapagačči čisaxanindaa.¹⁹⁾ ənəjje
できるよ」と 言ったと。 かれの手を つかんで 沖へのり出したと。 「やあ

səbdənee. piččəm čisseečindaa nammoo taisai. namu
おもしろいなあ。」 ずんずん のり出て行くんだと、 海を おきへ。 海の

bajjēepani aaptuwačindaa. tari nari duktaini ŋənəəčində. aminnii əinnii
むこう岸に ついたと。 その ひとの いえへ 行ったと。 かれの父と 母が

bultai agjēēčindaa. mini puttəbəwwee xurixandulli xaiwa
大変 よろこんでいるんだと。 「わしの こどもを たすけたかわりに なにを

gəlleesigə uččičində. aisimbaamali tunda poroxootu dauwani gəlleesii.
ほしいか」と 言ったと。 「金ばかりを 五隻の 汽船 分 ほしいか。」

əsiwi galləə uččinində. məŋumbəəmali tunda poroxootu dauwani
「おれはほしくない」と 言ったと。 「銀ばかりを 五隻の 汽船 分

galleesii. əsiwi gəlləə uččinindəə. dəə aldaakkeeti geeda
 ほしいか。」 「おれはほしくない」 と 言ったと。 ふたりの あいだに 一つの

nuuksəəmali səwə biinindəə. čawa galleewi uččinindəə.
 すすだらけの 神像が あるんだと。 「それを おれはほしい」 と 言ったと。

tawasai nuŋjičixənində. jilleeri pəisəi tugbuwəčindəə.
 そっちを ゆびさしたと。 自分たちのあたまを 下へ ふせたと。

jeewi ŋaaladuni dapaxandaa. andaa bala ŋənnisu uččinində.
 自分のあいぼうの 手を つかんだと。 「友よ はやく かえろう」 と 言ったと。

ənini ilirraa səwəmbi təktəs xətundəə bəəxənindəə.
 かれの母が 立つなり 自分の神像を ぷつぷつ ひっぱってきつてすぐ くれたと。

geuxaatu čaa səwəmbə ɵltɵkki gidalarraa bultai tuksami
 ゲオハートは その 神像を 自分のふところへ 入れるなり 一所懸命 走って

ŋənninindəə. čii ŋənumjee geeda mapaaččamba ataaliixandaa.
 かえるんだと。 ずーっと かえってから ひとりの じいさんに 会ったと。

ənəjee mapaatčaa bilaatuni ajjaanee. xoottoi maxa gupipindəini xotto
 やあ じいさんの 布ぎれは いいなあ。 どんなようにか ちよつとふると まちが

jaam agbinjinindaa. nari mastaa bara
 いえが立ちならんで あられるんだと。 ひとが 大変 たくさん

agbinjičinda. saldaa moiččani kičorok agbinjičindaa. mapaaččaa
 あられるんだと。 兵隊が 鉄砲を 林立させて あられるんだと。 「じいさんよ、

bilaattoosi jəə səwəŋji duwəllisuu uččinindəə. gəə
 あんたの布ぎれを この 神像と とりかえよう」 と 言ったと。 「さあ

duwəllisuu. duwəlixənində. tari mapaatčaa čaa səwəmbi
 とりかえよう。」 かれらはとりかえたと。 その じいさんは その 自分の神像を

ɵltɵkki gidagalatči bultai tuksami ŋənninindəə. geuxaatu tari
 自分のふところへ 入れて 一所懸命 走って かえるんだと。 ゲオハートは その

mapaatčaa bilaattooni gupipiččinindəə. xotto jaam
 じいさんの 布ぎれを ちよつとふるつたと。 まちが いえが立ちならんで

agbiččičindaa. nari mastaa bara agbiččičinda. saldaa moiččani
 あられたと。 ひとが 大変 たくさん あられたと。 兵隊が 鉄砲を

kičorok agbiččičinda. tari mapaaččaa səwəmbəwwee
 林立させて あられたと。 「あの じいさんが おれの神像を

gaddookka uččinindəə. gaattagaččeeri bəəddusu.
 もってかえりかけている」 と 言ったと。 「とりに行ってきて おまえらとりかえしてくれ。」

gaattagaččeeri bөөduwəčindəə. tamačču bilaatubbii səwəmbii
 とりに行ってきた とりかえしてくれたと。 それから 自分の布ぎれと 神像とを

ɵltɵkki gidalagatči čii ɣənninindəə geuxaatu. gočiddaa
 自分のふところへ 入れて どんどん かえるんだと、 ゲオハートは。 またも

geeda mapaaččamba ataaliḡanindaa. ənəjje mapaatča činəpunī ajjaanee.
 ひとりの じいさんに 会ったと。 やあ じいさんの つえは いいなあ。

xoottoi maxa muripindaini xotto jaam agbinjičindaa.
 どんなようにか ちよつとねじると まちが いえがたちならんで あらわれるんだと。

nari mastaa bara agbinjičinda. saldaa moiččani kičorok
 ひとが 大変 たくさん あらわれるんだと。 兵隊が 鉄砲を 林立させて

agbinjičindaa. mapaaččaa činəpumbəsi jəə səwənji duwəllisuu と
 あらわれるんだと。 「じいさんよ、 あんたのつえを この 神像と とりかえよう」

uččinində. gəə duwəllisuu. duwəlixənindəə. tari mapaatča
 言ったと。 「さあ とりかえよう。」 かれらはとりかえたと。 その じいさんは

ɵltɵkki gidalarraa bultai tuksami ɣənəxənindəə. tari mapaačča
 自分のふところへ 入れると 一所懸命 走って 行つたと。 その じいさんの

činəpumbəni muripiččindaa. ənəjje xotto jaam
 つえを ちよつとねじつたと。 やあ まちが いえがたちならんで

agbiččinindaa. nari mastaa bara agbiččičinda. saldaa moiččani
 あらわれたと。 ひとが 大変 たくさん あらわれたと。 兵隊が 鉄砲を

kičorok agbijičindaa. tari mapaačča mini səwəmbəwwee
 林立させて あらわれたと。 「あの じいさんは おれの 神像を

gaddookka uččinindəə. gaattagaččeeri bөөddusu.
 もつてかえりかけている」 と 言ったと。 「とりに行ってきた おまえらとりかえしてくれ。」

gaattarraa bөөduwəčindəə. tamačču səwə²⁰⁾ səwəmbi
 とりに行ってきたとすぐ とりかえしてくれたと。 それから 神像 自分の神像を

ɵltɵkki gidaladuwačči čii ɣənninindəə čaa činəpunī
 自分のふところへ また入れて どんどん かえるんだと、 その つえを

činəpuləgəčči. činagəəpči oroktomo duktakki ɣənuxənindəə. xottonneeni
 ついて。 ずっとまえの くさぶきの 自分のいえへ かえつたと。 まちのひとが

iččeečindəə. xaaḡan bučči geuxaatu tawani səgdədəə
 みているんだと。 ずっとまえに 死んだ ゲオハートの いろり火が けむりをたてて

biinindəə. mɵəkkeenneeni asini²¹⁾ uččinindəə. činagəənnnee sini
 いるんだと。 海神(水人)である かれの妻が 言ったと。 「ずっとまえに あんたの

xurigasi əəktəə čimanaa nari gajiči inəŋi uččinindəə.
 たすけた おんなを あした ひとが もらう 日です」 と 言ったと。

suwaibbaani dəpčiči uččinində. ŋənəpee ar²²⁾ arakkee
 「その婚礼の御馳走を ひとびとはたべます」 と 言ったと。 「行ったら さ 酒を

xərəlləəkkutənee məətəkki aaptuutənee urumukkəəni taldaakkəə
 まわしたら 自分のところへ ついたら コップを まんなかまで

umigačči urumukkəduni urumukkəni pəragduni aisima xunaaptumbani əksəgəčči
 のんで コップに コップの 底に 金の ゆびわを おいて

bəədussəəri uččinindəə. čimanaani nari gaanigačindaa.
 かえしてやりなさい」 と 言ったと。 あくる日 ひとが 迎えに行ったと。

ŋənəxənindəə geuxaatu. ədə duktaini iixənində. ənəjee nari
 行ったと、 ゲオハートは。 王さまの いえへ 入ったと。 やあ ひとが

baračči mastaa bara nari biičindəə. činagəənee noonduni gəsə
 大勢 大変 たくさんの ひとが いるんだと。 ずっとまえに そのかれと 一緒に

puliči nari ədə xoldonduni təəsinindəə. nari duwweeti
 行った ひとが 王さまの わきに すわっているんだと。 ひとの うしろに

təəxənindəə geuxaatu. tari əəktə an²³⁾ andaxxaa andaxarreenindaa.
 すわったと、 ゲオハートは。 その おんなは きゃ 客を もてなしているんだと。

arakkee sirrininda. geuxaatutai aaptuxanindaa.
 酒を かの女はつぐんだと。 コップが ゲオハートに わたったと。

bəəxənində urumukkəə. koop umixanindaa. laussee
 かの女はくれたと、 コップを。 ぐっと一気に のんだと。 ちからをこめて

dapaduxaninda. gočiddaa sirrinindaa. geuxaatutai aaptuxaninda.
 かの女はとりかえしたと。 またも つぐんだと。 ゲオハートに わたったと。

gočiddaa bəəxənindəə. čadoo doonduxaninda. urumukkəəni
 またも くれたと。 そのときやっど 思い出したと。 かの女のコップを

taldaakkəə umigačči urumukkəni pəragduni əksəgəčči bəəduxəndəə
 まんなかまで のんで かの女のコップの 底に おいて かえしてやったと、

aisima xunaaptumbani. amittakki iraxanindaa. amma
 金の ゆびわを。 自分の父のところへ かの女はもって行ったと。 「父上よ、

əri. xaiga uččinində. saa xaidu biinigə uččinindəə.
 これは なんですか」 と 言ったと。 「どれ どこに いるか」 と 言ったと。

geuxaatumba ŋaaladuni əldəmi iraxanindaa. mimbee xurixa nari
 ゲオハートを かれの手を とって つれて行ったと。 「わたしを たすけた ひと

ərigə uččinindəə. tari nari²⁴⁾ jilləččinindəə ambamba məənə
このひとなんです」 と言ったと。 その ひと は うそをついたと, 「怪物を 自分で

xurixambi²⁵⁾ umi əəktəə gabuŋji. čaa narree
わたくしがたすけた」 と 言って おんなを 自分がもらうために。 その ひとを

waawoomi uččinindəə ədə. geuxaatu əəktəə
殺すように 言ったと, 王さまは。 ゲオハートは おんなを

miirəmbuŋjinindəə. miirəmbudumi ɣənuxənindəə.
よめさんにもらってつれてもどるんだと。 よめさんにもらってつれて かえったと。

geuxaatu oroktomi duŋni baŋjeetaali xotto oččinindaa.
ゲオハートの くさぶきの いえが むかいあいの ふたつの まちに なったと。

məəkkeenneeni asini baŋjeetaali xottombo andučinindaa. geuxaatu
海神の かれの妻が むかいあいの まちを つくったんだと。 ゲオハートは

čəsi bajaččinindaa. orki geuxaatu dəəji asilaxaninda. ədə
大変 裕福になったと。 貧賤の ゲオハートが ふたり 妻を娶ったと。 王さまは

məəkkeenneeni asseeni ɣələndəuččinindəə. xaljee
海神の かれの妻を ほしいと言いにいかせたと。 かれの妻は 「ハルジェー

irənčə²⁶⁾ uččinindəə əsiwi ɣənnəə. xaljee
イランチャー」 と 言ったと, 「わたしは 行きません。」 王さまは 「ハルジェー

irənčəə xamačigaga umi panunnooččinindaa.
イランチャーとは どんなものか」 と 言って たずねに行かせたと。

geuxaatu nučiikə xuldaamba bəəxəndəə aisima xuldaamba.
ゲオハートの妻は ちっちゃい 小箱を くれたと, 金の 小箱を。

xaljee irənčəə əməčigə uččinindəə.
「ハルジェー イランチャーとは こういうものです」 と 言ったと。 使者が

ədəttəi iraduxanda²⁷⁾. kuptambani niixənindəə. ɣəəm
王さまのところへ もって行くと。 王さまは それのふたを あけたと。 全部

tauluxaninda²⁸⁾. čikəə biččində goropči saxuri.
火事になったと。 それだけだったと, むかしの ものがたりは。

佐藤チヨさんから 1957 年録音した。このものがたり(saxuri)は佐藤さんが自分の母親からきいたよしである。本来はオルチャ人のはなしだろうという。しかしおそらく他民族からツングース族へ入ってツングース人によって変化を加えられたものであろう。このはなしにはツングース族以外の他民族の文化の多くの要素が含まれている。このものがたりのギリヤーク族におけるものは高橋盛孝『樺太ギリヤク語』(1942 年)140~150 ページにのる。

1) geuxaatu とは《貧賤のもの, こじき》である。人のわるぐちにもつかう。ただしこのものがたりに出

- てくる *geuxaatu* は無慾であり滑稽味も感ぜられる。満州語 *giohoto*《こじき》に対応する語。
- 2) これは、手のようにえだをのこし、それから下は樹皮をはいで立てた木（からまつやえぞまつ）である。そのえだには木幣（*illau*）をつける。上部には葉のついたえだをのこし、東面に人のかおをほってその上方に木幣の一種（*ebuski illau*）をつける。妖怪（*amba*）の鳥が人間のからだにやすむと人間は病気になるからこのはしらをたててとまらせやすませる。このはしらは人がはじめて巫者となったときその家のまえにたてるが、また病人があるとその家のまえにもたてる。この語はオルチャ語 *tugu*《столб》（Т.И.Петрова, Ульчский диалект нанайского языка, 1936）、エウエンキー語 *туру*《столб》（そのネルチンスク方言、ゼヤ川方言、興安嶺方言で《шаманское дерево, вершиной доходящее до неба》）（Г. М. Василевич, Эвенкийско-русский словарь, 1958）などに対応する。
 - 3) ものがたりにでてくる鳥。
 - 4) なみだの意（佐藤による）。
 - 5) *səgdəm poro* と言いかけてあらためて *səgdəm (=səgdəmi) pulisi poroxoottoo*《飛行船を》と言っている（佐藤による）。
 - 6) そのみちが地面より低く、深さがひざまであるの意（佐藤による）。
 - 7) けだもの（一種）（佐藤による）。オルチャ語の *giu*《a roe, a doe (Cervus capreolus)》（P.SCHMIDT (ŠMITS), The language of the Olchas, *Acta Universitatis Latviensis* VIII, 1923）やナーナイ語 *гну*《козуля》（Т.И.Петрова, Нанайско-русский словарь, 1960）、満州語 *gio*《麇》の語から推してこの *geu* もかかる種類のしかであろうとみられる。
 - 8) この赤い毛がこの怪物のいのち（*ərgə*）（佐藤による）。
 - 9) *itto* 木製の横長の容器。*moni* や *musi* という料理をつくるため漿果やくろゆりの根やすじこやさかなのかわをつぶす調理具。
 - 10) 肩につなをかけてまえかがみにひく意（佐藤による）。
 - 11) 肉をもって行った意（佐藤による）。
 - 12) *itto* をひいての意（佐藤による）。
 - 13) ほねをあけに行った意（佐藤による）。
 - 14) *kəsənji* をくりかえしているが *kəsəni*《かれのことばが》とあるのがいい（佐藤による）。
 - 15) ゲオハートが言ったことば（佐藤による）。
 - 16) *uss* と言いかけてあらためて *ussəəri* と言っている（佐藤による）。
 - 17) *jeelasi* と言い、また *jeelači* と言い、つぎに *jeelatuttaar (=jeelatuttaari)* と言いなおしている（佐藤による）。
 - 18) わたることができる（*dauwuri aja*）の意（佐藤による）。
 - 19) 水の表面をあるいての意（佐藤による）。
 - 20) *səwə* と言ってつぎに *səwəmbi* と言いなおしている（佐藤による）。
 - 21) これはゲオハートが手に入れた神像である。ゲオハートが助けた男とその親の老夫婦は海神（水人）（*məəkkeenneeni*）であり、その神像もその老人のむすめであった。その神像が人間のすがたとなってゲオハートの妻となった。（以上佐藤による。）
 - 22) *ar* と言いかけてあらためて *arakkee* と言っている（佐藤による）。
 - 23) *an* と言いかけてあらためて *andaxxaa* と言っている（佐藤による）。
 - 24) いつかゲオハートをつなを切っておとした人をさす（佐藤による）。
 - 25) *xurixam (=xurixambi)* は *waaxambi*《わたくしが殺した》の言いあやまり（佐藤による）。
 - 26) *xaljee irənčəə* とは王様がはじをかくの意だという（佐藤による）。*xaljee*-《はじをかく》。
 - 27) *iraduxani* は王様のものをかえしにもって行ったの意となる。ここは *iraxani*《かれがもって行った、とどけた》とあるのがいい（佐藤による）。
 - 28) 王様（*əda*）のまち（*xotto*）が火事になってやけてしまった意（佐藤による）。

18. シーグーニ物語 <冒頭部分>

佐藤チヨ(Napka)口演

dulin buwa siiduni siijuunikəən maataa baljixanindaa. |gəə| nada
 中つ 国の 地に シーグーニなる 剛の者が 生れたんだと。 七

aŋdai moojini koripula korima dooduni baljixanda. |gəə| čii
 種の 木で 井桁に組んだ 丸太小屋の なかで 生れたんだと。 ずっと

biččinində. ulaani binə xuju dətu daunindaa. |gəə| xee kin
 いたんだと。 かれのとなかいが いて 九つの やち 一杯だと。 かれの神柱が

binə uuwu buwala dalkitaxaninda. |gəə| nəuni biččinində
 あって 上の 国にまで 入りこんだんだと。 かれの弟が いたんだと、

ŋiiwəənəkəən puttə. |gəə| dəpturrəə aurraa amučirraa amuttak
 ギーワーニという 子が。 食べたり ねむったり 大便して 自分の大便へ

aurraa čigəčirraə čigəttək aurraa čii dəptum
 ねたり 小便して 自分の小便へ ねたりして ずーっと 食べて

auxaninda. |gəə| siijuunikəən sooniŋi čii dundəəŋju
 ねむっていたんだと。 シーグーニなる 剛の者は ずーっと 自分の土地の

bəiŋəəwən bəiŋəəxəndə. inəŋi inəŋi inəŋi inəŋi bəiŋəəxəndə. |gəə| naa
 けだものを 狩したんだと。 日 ごと 日 ごと 狩したんだと。 おかの

bəjəmbəni waami aminambani əninəmbəni pulləurindəə.
 けだものを とり おすと めすを(ひとつがい) (とらずに)のこしたんだと。

|gəə| uippə səgjee gassaa waami aminambani əninəmbəni
 上を 飛ぶ 鳥を とり おすと めすを(ひとつがい)

pulləurində. |gəə| nəəŋubi suŋdattaani waami aminambani
 (とらずに)のこしたんだと。 自分の川の さかなを とり おすと

əninəmbəni pulləurində. ¹⁾ |gəə| siijuunikəən sooniŋi
 めすを(ひとつがい) (とらずに)のこしたんだと。 シーグーニなる 剛の者の

uwweekkeeni xaiddəə anaanda. aapunimali ²⁾ biinindəə. |gəə| čii
 上に なにも ないと。 かれの帽子だけが あるんだと。 ずーっと

bəjjəurində. |gəə| inəŋi ajani inəŋidu ŋiiwəənəkəən
 獵をしてるんだと。 毎日のうちでも 一番いい天気の日 日に ギーワーニの

puttə xai kəssəəniŋjuu xai kəssəəniŋjuu dooljixaninda. |gəə|
 おきな子が なんの ことばか なんの ことばか 聞いたんだと。

amun xaraa təəxəninindəə. |gəə| baljixandukki bootoi əččeel
 大便を ふりおとして おきたんだと。 自分が生れて以来 そとへ まだ

nəpəččeenda. |gəə| təəgət bootoi nəərinda. |gəə| uttəə
 出歩いたことがないんだと。 おきて そとへ 出るんだと。 戸を

niixəninda. |gəə| suun suunneeʃini olomi oondoi kətəəttəə
 あけたんだと。 日が 照っているの おどろいて あおむけに もうすこしで

tuuxəninda. |gəə| bootoi nəəgət kargeenindaa dundəəŋju
 たおれるところだったと。 そとへ 出て 見渡すんだと、 自分の土地の

ojjooni. |gəə| xaiddəə anaanda. iiduwačči akpanduxanda. |gəə| amuk
 上を。 なにも ないんだと。 また入って よこになったんだと。 大便へ

akpandurrəə čokkok čuul uisəi kargaxandaa. |gəə| ŋoowu
 よこになって けむり出しを 通して 上の方を 見渡したんだと。 前の

tooksoo [n]ərgidəəwəni [n]ərguu tooksoo uigidəəwəni gasa ajani
 雲の 下の方を 下の 雲の 上の方を 鳥のなかでも よい

gasa koonʃeenda. kiltos kiltos kiltos kiltos
 鳥が つばさをひろげたままとんでいるんだと。 ピカリ ピカリ ピカリ ピカリ

kiltos koonʃeenindaa. |gəə|
 ピカリと輝いて はばたきもせずとんでいるんだと。

ŋuri ŋuri kaandaan ŋuri ŋuri ŋuri kaandaan
 ニュリ ニュリ カーンダーン ニュリ ニュリ ニュリ カーンダーン

du[u]lin dundəəŋju³⁾ si[i]gii jaanin⁴⁾ gə[i] daga[a]maačəək
 中つ 国の 地の きわみは 近づいた

[n]ə[ə]rəi gəə ŋuri ŋuri kaandaan ŋuri ŋuri ŋuri
 ああ ニュリ ニュリ カーンダーン ニュリ ニュリ ニュリ

kaandaan čuumə[i]⁵⁾ mə[ə]ŋu[u]məə [n]o[o]bdo[o]kinʃau gə
 カーンダーン くらがね しらがねの わたしの鳥舟さんよ

[n]u[u]kčaakinʃau⁶⁾ gə soodee soojaa gəə məndəu daajee⁷⁾ gə
 わたしのくくい舟さんよ 力強く 力を出して 元気に はげめ

ŋuri ŋuri kaandaan ŋuri ŋuri ŋuri kaandaan [n]ələəkkindəə
 ニュリ ニュリ カーンダーン ニュリ ニュリ ニュリ カーンダーン すっかり

jəədəinčəəldəə gə ŋuri ŋuri kaandaan ŋuri ŋuri kaandaan
 つかれても ニュリ ニュリ カーンダーン ニュリ ニュリ カーンダーンと

uččini əsigdəə. |gəə| ŋuri ŋuri kaandaan ŋuri ŋuri ŋuri
 言った いまや。 ニュリ ニュリ カーンダーン ニュリ ニュリ ニュリ

kaandaan čuumə[i] mə[ə]ŋu[u]məə [n]o[o]bdo[o]kinʃau gəə
 カーンダーン くらがね しらがねの わたしの鳥舟さんよ

[n]u[u]kčaakinjau わたしのくくい舟さんよ	gə 力を出して	sooja[i] 力強く	soodee 力強く	gəə 元気に	məndəu はげめ	gə はげめ		
mundukaan うさぎ	diikəəkandin ほどの	[n]ixa[a]n 目は	čolba[a]laama[a]kaan あお味をおびる	nuri ニユリ	nuri ニユリ			
kaandaan カーンダーン	nuri ニユリ	nuri ニユリ	nuri ニユリ	kaandaan カーンダーン	čuumə[i] くろがね	mə[ə]ŋu[u]mə しろがねの		
noorinjau つえ(婦人のとなかい騎乗用)の		mu[u]danjaadin さきで	gə さきで	gəə さきで	puŋnə[ə]rə[ə]kiu わたしがむち打てば			
gə ニユリ	nuri ニユリ	kaandaan カーンダーン	nuri ニユリ	nuri ニユリ	nuri ニユリ	kaandaan カーンダーン	soodee[i] 力強く	
soojaa 力を出して	gəə はげめ	da[a]psii ⁸⁾ 羽ばたけ	daajee はげめ	gə はげめ	da[a]psii 羽ばたけ	daajee はげめ	gə ニユリ	nuri ニユリ
kaandaan カーンダーン	nuri ニユリ	nuri ニユリ	nuri ニユリ	kaandaan カーンダーン	[n]ə[ə]rəi ああ	sə[ə]bjə[ə]nee おもしろや		
du[u]lin 中つ	dundəəŋju ³⁾ 国の	si[i]gii 地の	jaalan はてに	gə はてに	nəəldee (飛ぶ音が)こだまする	di[i]ŋəən こだまする	gə こだまする	
xəŋri[i]diŋəən (鳥舟が)となかいの子のようにハウフ・ハウフとなく				uččini と	əsigdəə. 言った	gəə いまや。	nuri ニユリ	
nuri ニユリ	kaandaan カーンダーン	nuri ニユリ	nuri ニユリ	nuri ニユリ	kaandaan カーンダーン	[n]ə[ə]rəi ああ		
sə[ə]bjə[ə]nee おもしろや	du[u]lin 中つ	dundəəŋju 国の	sigiidun 地に	baldi[n]čəə 出生の	siŋjuuni[i]kəən シーグーニさんという	gə シーグーニさんという		
soon[i]ŋii 強い方の	baldi[n]čaan 生れた	tu[u]ri[i]ŋin 地,	baldi[n]čaan 生れた	bu[u]wa[a]ŋin ところは				
čə[ə]jə[ə]mə[ə]ddəə 本当に	gə 本当に	[n]a[a]jaak よい	dundəəŋin 土地,	gə 土地,	[n]a[a]jaak よい	bu[u]wanjāa ところね		
nuri ニユリ	nuri ニユリ	kaandaan カーンダーン	nuri ニユリ	nuri ニユリ	nuri ニユリ	kaandaan カーンダーンと		
uččini 言った	əsigdəə. いまや。	gəə いまや。						
siŋjuuni[i]kəən シーグーニが	baljixan 生れた	nāa 土地は	tədəməddə 本当に	tədəddəə 本当に	aja いい	nāa 土地だと		
uččini 言った	əsigdəə. いまや。	gəə いまや。						

nuri ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	nuri ニュリ	nuri ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン
[n]uuwu[u] 上つ	bu[u]wa[a]ŋiu 国	juultə[ə] 太陽の	[n]ojo[o]mi[i]dun 上を	[n]i[i]li[n]čaadu[u]kii わたしが出立してから		
[n]i[i]laa 三	[n]aŋna[a]nii 年	[n]iltəčəən 過ぎた	[n]ə[ə]rəi ああ	gə ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン
nuri ニュリ	nuri ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	jəə この	nəəŋiu 自分の川の	məəŋi[i]wəndəə 水を
[n]omo ひと	[n]aŋma[a]xikta[a]du[u] 口も	[n]ə[ə]nə[i] 飲まず	ko[o]la[a]rəə ニュリ	nuri ニュリ		
kaandaan カーンダーン	nuri ニュリ	nuri ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	jə[ə]gbil たべものを	[n]aidiwandəə すこしも
[n]omo ひと	[n]aŋma[a]xikta[a]du[u] 口も	[n]ə[ə]nə[i] 食はず	jə[ə]u[u]rəə ニュリ	nuri ニュリ		
kaandaan カーンダーン	nuri ニュリ	nuri ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	[n]i[i]laa 三	[n]aŋnaniiwəə 年
dəi[i]lee 飛んでも(なおも)	u[u]riiddəə どのようにして	xoon よく	aja[a] あるものよ	bi[i]wu[u]kii ニュリ	nuri ニュリ	
kaandaan カーンダーン	nuri ニュリ	nuri ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	čuumə[i] くろがね	mə[ə]ŋu[u]mə しろがねの
kiidaaki 鳥舟の	də[ə]injə[i] 鳥さん	čuumə[i] くろがね	mə[ə]ŋu[u]məə しろがねの	ki[i]ta[a]lka[a]nja[a]n 羽根は	gə[i]	
nukkal 全部	səmkəəčəən すりへった	[n]ə[ə]rəi ああ	gə ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	nuri ニュリ
nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	[n]i[i]laa 三	[n]aŋnaniiwa 年	dəi[i]li[i]wu[u]riiddəə 飛んでも(なおも)		
xoon どのようにして	aja よく	bi[i]wu[u]kii あるものよ	nuri ニュリ	nuri ニュリ	kaandaan カーンダーン	nuri ニュリ
nuri ニュリ	kaandaan カーンダーンと	uččini 言った	əsigdəə. いまや。			
ilaa 三	anani 年	səgdəuriddəə 飛んでも(なおも)	xooni どのようにして	aja よく	biiləkkə あるものよと	uččini 言った
əsigdəə. いまや。	məŋumə しろがねの	kitaltani 羽根は	gəəm 全部	xaduxani すりへったと	uččini 言った	əsigdəə. いまや。

xoʃimi aalixaninda. |gəə|
 すっかり つかれてしまったんだと。

佐藤チヨさんから 1957 年に録音した。この一篇はこどものころ近くに住んでいた Loʃiŋgeenu 老人からききおぼえたものであるという。ここに掲載するのは、長篇である語りものの冒頭部分だけであり、中の国の Siinguuni(シーグーニ)がそとへ行っていて、幼い弟の ʒiwwəni(ギーワーニ)だけが家にいるところへ Juultə Kiliulin(日の姫)が天(上の国)からおとずれる場面である。niŋmaa のうたう部分では、それぞれの登場人物が一定の折返し句(refrain)をもち、その人物の登場するたびにその折返し句がくり返される。puri puri (puri) kaandaan は、日の姫の折返し句である。原文中の gə(ə)は、「さて、さあ」のような間投詞であるが、ここでは訳出しないことにする。文中に |gəə| と記されているのは、きき手(この口演では中川カヨさん)が間にはさむあいでのてである。なお、うたう部分では、母音を長くのばして発音することがあるばかりでなく、語頭の母音のまえなどに n の音が余分に加えられたり、語末に i がついたりすることがある。これらの音も[]に入れて示す。Siinguunikəən(シーグーニ), ʒiwwənikəən(ギーワーニ)の -kəən は指小辞である。

- 1) その動物が絶滅しないため(佐藤による)。
- 2) meetakaanigda 《かれの[となかひの頭の皮でつくった]帽子だけが》と言う方がよい(佐藤による)。
- 3) ここでは、dundəəŋiu(わたし[日の姫]の土地の意)でなく、dundəəŋin(かれ[シーグーニ]の土地の意)とあるのがよい(佐藤による)。
- 4) sigii jaanin は、佐藤さんによれば、ウイльта語の naa siŋni, naa kirani 《地のはて、地のきわみ》の意であるという。
- 5) čuumə はウイльта語の čuun《火打ちがね》と語幹が同じとみて、くろがねでできたの意にとっておく。
- 6) シーグーニの obdooki《空を飛行するのりもの》は gusi《わし》であり、また kiidaaki は obdooki と同義であるという(佐藤による)。ukčaaki は、エウエンキー語チュミカン方言で ŷkčə が白鳥(くひ)の意である(Г. М. Василевич, Эвенкийско-русский словарь, 1958)ので、くひ舟と訳した。
- 7) daajee は、佐藤さんによれば、本来は dəjee であり、ウイльта語の təgdəənu《はげめ》, ambaram səgdəu 《うんと飛べ》の意であるという(以下同様)。
- 8) dapsii は、佐藤さんによれば、ウイльта語の səgdəu《飛べ》の意であるという。

付記 シーグーニ物語のこのテキストでは発音されなかった語末部分は記入されていない。

19. なぞなぞ

佐藤チヨ(Napka)口述

goropčinne gajauxani gajaundamaa.
 むかしの人が なぞなぞをした なぞなぞだとさ。

1. gaŋ gaŋ gajawoo.¹⁾ boo toptongoor. naa toptongoor. xaigəək. toksiik
 ガン ガン ガヤオー。 天が 点々。 地が 点々。 なにか。 あてて

- unuu. boo unigərinnii suṇdatta xəsiktənnii. ²⁾ toksiik.
 ごらん。 天の 星と さかなの うろこ。 あたり。
2. gaṇ gaṇ gajawoo. nammoo taisai geeda xočči taptaččini.
 ガン ガン ガヤオー。 海を 沖へ向って 一羽の あいさが はばたいた。
- tari xaigəək. dargi laaxuniik ³⁾.
 それ なあに。 あざらしをとる銚の棒 についている 浮き板。
3. gaṇ gaṇ gajawoo. xujunnee jilimačigači. xaigəək. toksiik
 ガン ガン ガヤオー。 九人の人が あたまをつき合せた。 なにか。 あてて
- unuu. aundau čokkoniik.
 ごらん。 円錐形家屋の 先端の煙出しの口。
4. gaṇ gaṇ gajawoo. amimbii ənimbii andučimbani doorimmaa əmi itərəə
 ガン ガン ガヤオー。 自分の父 母が つくった 道を 見ずに
- sagdaččini. tari xaigəək. atta doorimaniik.
 としをとった。 それ なあに。 せなかの みち。
 (脊柱に沿ったせなかのくぼみ)
5. gaṇ gaṇ gajawoo. axaa xalačču. nuxəə xalačču. tari xaigəək.
 ガン ガン ガヤオー。 にいさん 待って。 若い者 待って。 それ なあに。
- giraxxuriik.
 歩くこと。
6. gaṇ gaṇ gajawoo. geeda omoo kiraduni xujunnee xuju urəktəji
 ガン ガン ガヤオー。 一つの 池の 岸に 九人の人が 九本の 柳の若技で
- sapčigaači. xaigəək. isal sirumuktaniik.
 むち打っていた。 なにか。 目の まつ毛。
7. gaṇ gaṇ gajawoo. dəə kada aldaakkeeni iirrəə geeda
 ガン ガン ガヤオー。 二つの 岩の あいだへ 入るや、 一匹の
- koŋgori buunixəni. xaigəək.
 ふいりあざらし(あざらしの一種)が ボーとほえた。 なにか。
- peumburiik.
 おならをすること。
8. gaṇ gaṇ gajawoo. amimbii ənimbii andučimbani jawaamba ⁴⁾
 ガン ガン ガヤオー。 自分の父 母が つくった 耳あてを
- əmi itərəə sagdaččini. xaigəək. seenkəək.
 見ずに としをとった。 なにか。 耳。
9. gaṇ gaṇ gajawoo. nammoo taisai tangu daa maatuji
 ガン ガン ガヤオー。 海を 沖へ向って 百 ひろの あざらしの皮のつなを

maatulapula. となかいをつかまえるため投げてある。			xaigəək. なにか。		piiriktəək. 氷(原)のひびわれ。										
10. gaŋ gaŋ gajawoo. ガン ガン ガヤオー。			taagdannee 白い人が		moo まきを		iwəčirräə 割り,		səəgdənnēe 赤い人が		moo まきを				
iigučirräə. 入れている。			tari それ		xaigəək. なあに。		kərəkтуu 歯と		sinnuu. 舌。						
11. gaŋ gaŋ gajawoo. ガン ガン ガヤオー。			geeda 一つの		omoombo 池		čakkagəə 一杯に		xujuu 九人の		bəkkə せむしが				
čolmoowoči. 体を屈伸してとびはねた。			tari それ		xaigəək. なあに。		ənuwə かまが		puisiniik. 煮えたっている。						
12. gaŋ gaŋ gajawoo. ガン ガン ガヤオー。			pəduu 下の		kumultə スキーの		poktoni 跡は		nəmdəə せまく,		uuwu 上の		kumultə スキーの		
poktoni 跡は		darammii. 広い。		tari それ		xaigəək. なあに。		pəduu 下の		kipərruu 段と		uuwu 上の		kipərruu. 段。 (魚を乾燥させるための火だなの)	

佐藤チヨさんから 1955 年録音した。これらのなぞなぞのあるものは、他のツングース族やギリヤク族に、同一のものや類似のものがある。ツングース族のなぞなぞについては、池上二良「ツングースのなぞなぞ」(『世界なぞなぞ大事典』東京 1984 年)参照。ギリヤク族のものについては、高橋盛孝『樺太ギリヤク語』大阪 1942 年, 113~116 ページおよび服部健『ギリヤークー民話と習俗』(札幌 1956 年)129 ページ参照。R.AUSTERLITZ 教授が 1954, 1956 年に採集したギリヤクのなぞなぞについての同氏の原稿にも、本書の 3, 5, 6, 10, 11 と共通するものがみられた。

- 1) なぞなぞ問答の冒頭のことば。gajawoo は gajau《なぞなぞ》の感歎形。gaŋ は gajau の ga-の重複といえよう。
- 2) このなぞなぞのこたえとして、1949, 1955 年につぎのこたえも採取した。boo unigərinnee naa siduxunnii《天の 星と 地の こけももの実》。
- 3) 2-9, 11 番のなぞの解答の発音の末尾の k は佐藤チヨさん、小川明(Unigara)さんの聴取による。
- 4) 佐藤さんの聴取による。口述者自身は jawaa の意味をはっきり知らないようである。かの女は、この語は「耳」を意味するものだろうと言ったが、P. SCHMIDT (ŠMITS), The Language of the Olchas (Acta Universitatis Latviensis VIII, 1923), p.248 によればオルチャ方言では džaua は 'hats or coverings for the ears in cold weather' を意味する。

20. ねずみの母親とかえるの母親

佐藤チヨ(Napka)口述

ačiga ねずみの	ənijjəəni 母親と	udala かえるの	ənijjəəni 母親が	baljigačindaa. うまれたと。	baljigaččeeri うまれてからのこと
---------------	------------------	---------------	------------------	--------------------------	----------------------------

sinəktə¹⁾ sinəlleəčindəə ugdaŋi. udala ənini eekkutarraa ačiga
シナクタを とりに行くんだと、 ふねで。 かえるの 母親が かじがいをとり ねずみの

ənini geulirraa omori ŋənnēčindəə. tomboo bok bok²⁾ tomboo bok
母親が かいをかいで 行くんだと。 トンボー ボッコ ボッコ トンボー ボッコ

bok geullindaa ačiga ənini. geeda sinəktə moowoni
ボッコ かいをかくんだと、 ねずみの 母親が。 一本の シナクタの 木を

itəəčindəə. čakki xaakčičindaa. xaakkaččeeri ugdaari
みたと。 そこへ ふねをつけたと。 ふねをつけて 自分たちのふねを

sumnaačindaa. ačiga ənini kaaparrəə sinəktə mootoini toogduu
つないだと。 ねずみの 母親は あがって シナクタの 木へ のぼると

kətəree³⁾ gatačinindaa. udala ənini kaapaitami⁴⁾
ぼとんぼとんと 漿果をとっていたと。 かえるの 母親は のぼろうとして

ŋobbeenindaa liŋas liŋas pəččəŋəmi. ačiga ənini
ほねおっているんだと、 ぺたり ぺたりと なんどもはねとんで。 ねずみの 母親は

geeda sinəktə tugbuxənindəə. udala ənini daparraa toŋilup
一つの シナクタを おとしたと。 かえるの 母親は つかむと ごくりと

nuŋbəxənindəə. tuudurrəə ugda sarinŋini
のみこんだと。 ねずみの母親は おりてくと ふねの こしかけで

kaumičimi⁵⁾ bokkomboni taasumi dapaduxanindaa.
のどをしめつけながら かえるの はらを なんどもふんで とりもどしたと。

unila silturraa kurkənŋi⁶⁾ əksədūxənindəə. tamačču
かわで あらうと 自分の櫓がわ製のいれものに またおいたと。 そこから

issičindaa. ačiga ənini geulirraa udala ənini
かえってくるんだと。 ねずみの 母親は かいをかき かえるの 母親は

eekkutarraa omori issičindaa. tomboo bok bok tomboo
かじがいをとって かえってくるんだと。 トンボー ボッコ ボッコ トンボー

bok bok geulijjinindaa. xalčinaambari⁷⁾ tixxee
ボッコ ボッコ かいをかいでもどってくるんだと。 「自分たちのふね いっぱい

siijin əətuddəəpəə tomboo bok bok bəədəə gəəsə
あまるほど おれたちはとってきた」 トンボー ボッコ ボッコ 「おれたちも 一緒に」

tomboo bok bok tomboo bok bok geulijjinindaa
トンボー ボッコ ボッコ トンボー ボッコ ボッコと かいをかいでもどってくるんだと、

ačiga ənini. isumari aaptuduwačindaa. udala ənini purillii
ねずみの 母親が。 かえってきて もどりついたと。 かえるの 母親の こどもたちと

ačiga ənini purillii bultai tuksamari agdamari əuwəčindəə
ねずみの 母親の こどもたちとが 一所懸命 はしって よろこんで おりて行ったと、

noisai.⁸⁾ udala ənini purilli soŋomorii
おもての方(かわの方)へ。 かえるの 母親の こどもたちは なきながら

kaapaduwačindaa. ačiga ənini purilli bultai agdamari
あがつかえってきたと。 ねずみの 母親の こどもたちは 大変 よろこんで

kaapaduwačindaa. akpaččičindaa. udala ənini čimanaani čimai
あがつかえってきたと。 ねたと。 かえるの 母親は 翌日 あさ

siir təəxənindəə. gisiruubi⁹⁾ daparraa miiktəmbə čigalindaxanindaa.
はやく おきたと。 自分のこがたなを とると たかねななかまどを きりに行ったと。

dalu pajjeeni xaiddaa jīini toowo auriwani
倉庫の 下に なによりおおきい(大変おおきい) おおしかが ねているのを

baaxanindaa. toowoo aŋmabi aa turrau uččinindəə.
みつけたと。 「おおしかよ、 自分のくちを アーと あけろ」 と 言ったと。

toowo aŋmabi aa turaxanindaa. aŋmakkeeni čuul
おおしかは 自分のくちを アーと あけたと。 それのくちへ まっすぐ

pəččəxənindəə. bokkoni doowoni gəəm gisiruūji miinəmi
とびこんだと。 それのはらの なかを みんな こがたなで きりまくって

waaxanindaa. ilmikkeeni nəəduxənindəə. udala ənini purilli
ころしたと。 それの肛門から でてきたと。 かえるの 母親の こどもたちは

bultai agdamari dəərisičindəə toowo ulissəəni. dəəriməri
大変 よろこんで はこんでいるんだと、 おおしかの にくを。 はこび

xoŋigačindaa. ačiga ənini andumatai¹⁰⁾ čakkagəə sinəktəə
おわったと。 ねずみの 母親は 樺がわ製の食器へ 一杯 シナクタを

irrauččindaa puttəbi. udala ənini andummaa daparraa
とどけさせたと、 自分のこどもに。 かえるの 母親は 樺がわ製の食器を とると

nezuimi nozomoni¹¹⁾ kaltaram kuuttulaxanindaa ačiga
ねずみのこどもの ひたいを まっぶたつにわるほどに なげつけたと、 ねずみの

ənini puttəəni. soŋomii ŋənuxənindəə. ənnəə¹²⁾ əjje soŋŋoo
母親の こどもへ。 なきながら かえったと。 「ぼうや、 なくな」 と

nezuimi nozomoni uččinində. otokoo dolbo gaaniŋitta. udala ənini
ねずみの母親が 言ったと。 「あとで 夜 わしがとりに行こう。」 かえるの 母親は

noŋweepi sələmə urəktəə əksərrəə akpaččinindaa.
自分のまえに かなものの やなぎのわか木(状の棒)を おくとすぐ ねたと。

ačiga ənini dolbo kətəəree¹³⁾ doromoxonindaa.
 ねずみの 母親は 夜 がりがりおとをたてて ぬすみに行ったと。 かえるの母親は

nandəə təəduxənindəə. nandəə təəduwəčči səərreeni
 そうっと おきなおったと。 そうっと おきなおって ねずみの母親の せぼねを

činguram duxiččinindəə sələmə urəktəji. čEEK čEEK
 おるほどに たいたと、 かなものの やなぎのわか木で。「チエーク チエーク」と

soŋomi ŋənuxənindəə. əŋəsəəl¹⁴⁾ xəərii¹⁵⁾ waan̄aa¹⁶⁾ waaxaniddaa
 ないて かえったと。 「こどもたちよ ハーリー、 けがしたのでも

beesii¹⁷⁾ xəərii ilamuu xəərii gaaji samambani
 ない ハーリー、 はずかしい ハーリー、 からすの シャマン(巫人)を

samallausuu xəərii tuwa samambani samallausuu xəərii
 よびにやれ ハーリー、 わたりどりのからすの シャマンを よびにやれ ハーリー、

nəəčigə samambani samallausuu xəərii umi soŋoxonindaa. gaaji
 こりの シャマンを よびにやれ ハーリー」 と 言っ ないた。 からすの

samambani samalataačindaa. tuwa samambani samalataačindaa.
 シャマンを よんできた。 わたりどりのからすの シャマンを よんできた。

nəəčigə samambani samalataačindaa. gaaji samani jaajjeenindaa.
 こりの シャマンを よんできた。 からすの シャマンが うたうんだ。

gaak gaak gaadangeenū ačiga əninii udala ənini toowoni
 「ガーク ガーク ガーダンゲーンヌ、 ねずみの 母親は かえるの 母親の おおしかの

ulissəənii doromomjikəə səəriibi činguram paačillaukkačči gaak
 にくを ぬすんでいて 自分のせぼねを おるほどに たたかれて ガーク

gaak xaiwa jaajjauččinigəə gaak gaak xaa xaa xaa
 ガーク なにを おれに うたわせたのか ガーク ガーク ハー ハー ハー」 と

inəčinindəə. əŋəsəəl xəərii mөөčigəŋji paačimari ŋənnəənusuu
 わらったと。 「こどもたちよ ハーリー、 もえのこりのまきで たたいて かえらせろ

xəərii ilamuu xəərii uččinindəə. puril mөөčigəŋji
 ハーリー、 はずかしい ハーリー」 と 言っ こどもたちは もえのこりのまきで

paačimari ŋənnəəčičindəə. tuwa samani jaajjeenindaa.
 たたいて かえらせた。 わたりどりのからすの シャマンが うたうんだ。

karr karr karr ačiga əninii udala ənini toowoni ulissəəni
 「カルル カルル カルル ねずみの 母親は かえるの 母親の おおしかの にくを

doromomjikəə səəriibi činguram paačillauččinii karr karr xaiwa
 ぬすんでいて 自分のせぼねを おるほどに たたかれた カルル カルル、 なにを

jaajjauččinigəə karr karr xaa xaa xaa xaa inəčinindəə.
おれに うたわせたのか カルル カルル ハー ハー ハー ハー」 と わらったと。

əpəsəəl xəərii mөөčigəŋji paačimari ŋənnəənusuu xəərii
「こどもたちよ ハーリー, もえのこりのまきで たたいて かえらせろ ハーリー,

ilamuu xəərii uččinindəə. puril mөөčigəŋji paačimari
はずかしい ハーリー」 と 言ったと。 こどもたちは もえのこりのまきで たたいて

ŋənnəəččičindəə. nəəčigə samani jaajjeenindaa. čiin čiin
かえらせたと。 ことりの シヤマンが うたうんだと。 「チーン チーン

čiruwaldas čiin čiin čiruwaldas čokkondullaa čoko
チルワルダシ, チーン チーン チルワルダシ, チョッコ(天窓)で おどって チョコ

čokkoo¹⁸⁾ keeltamillaa keel keeloo¹⁹⁾
チョッコー, ケールタミ(食器おきば)で おどって ケール ケーロー,

punəktəndulləə punə puunəə²⁰⁾ čiin čiin
プナクタ([たきびの]灰)で おどって プナ プーナー, チーン チーン

čiruwaldas xurigə xurigə niriktalbanii nirimii²¹⁾ čiin čiin
チルワルダシ, やま やまの おねを あるいて チーン チーン

čiruwaldas kaddaa pəisəi puŋgəlimii čiin čiin čiruwaldas
チルワルダシ がけを 下へ ころがって チーン チーン チルワルダシ

səəribi uŋdulixanii čiin čiin čiruwaldas jaajjeendaa.
自分のせぼねを うった チーン チーン チルワルダシ」 と うたうんだと。

nəəčigə samattaini xaiwaddəə čipal mastaa baramba bəəxəndəə.
ことりの シヤマンへ なんでも みんな 大変 たくさんのものを くれたと。

moŋokkeeni uičixənindəə. nəəčigə samani ŋənuxənindəə.
それのくびへ たくさんむすびつけたと。 ことりの シヤマンは かえったと。

čikəə biččinindəə.
それだけだったと。

佐藤チヨさんから1956年録音した。このはなしは佐藤さんが自分の母親からきいたもので、本来ウイルタ族のはなしだろうという。しかしこのはなしの原文には今日のウイルタ語にはなくナーナイ語、オルチャ語がもつ単語がふくまれている。

1) sinəktə 木にみのる漿果の一種。

2) tomboo はかいを水へいれるおと, bok (=bokko) はこいで水泡の出るおと。

3) kəteəree は siduxu《漿果》を kurkəへ入れるおと。

4) ここは木へのぼろうとしての意であり, kaapaitam (=kaapaitami) とあるのはよくない(佐藤による)。kaapa-《地形上たかいところへのぼる》, mukta- が《木へのぼる》, toog- 《(けだものが)木へのぼる》。

- 5) ふねのこしかけをあててのどをしめつけるの意(佐藤による)。
- 6) *kurkə* さげるてのついた樺のかわでつくったうつわ。みずをくんだり漿果をいれたりする。河野広道「樺太アイヌ, ギリヤーク, オロッコの工芸, 特に樹皮工芸に就て」(工芸 107 1942 年) 7 ページの 4, 5, 6 番の写真, 山本祐弘「樺太原始民族の生活」(東京 1943 年) 57 ページに樺皮製籠とある写真, および池上二良編「ウイльтаの暮しと民具」(札幌・網走 1982 年) 42, 43 ページの写真 69, 70, 71 が *kurkə* である。
- 7) *xalčinaa* という語はウイльта語で日常つかわれない(佐藤による)。しかしナーナイ語には *халико*《большая лодка; джонка(китайское парусное судно)》の語, オルチャ語には *halku*《большая лодка》の語がある(Т.И.Петрова, Нанайско-русский словарь (1960) およびおなじ著者の Ульчский диалект нанайского языка (1936) による)。
- 8) *ŋoisai*《まえの方〔かわまたはうみの方〕へ》は *jiisai*《うらの方〔おか, 山野 (*purə*) の方〕へ》の反対語。
- 9) *gisiruu*《女子の裁縫用のこがたな》
- 10) *anduma* 樺のかわでつくった食器。にくなどいれる。山本祐弘「樺太原始民族の生活」(既出) 57 ページに樺皮製椀とある写真および池上二良編「ウイльтаの暮しと民具」(既出) 43 ページの写真 72 が *anduma* である。
- 11) 佐藤さんの聴取による。
- 12) *ənnəə* は *ənnə*《母》のよびかけ形《母よ》であるとともに, 母がその子をよぶのにつかう語《坊や, 嬢や》である。
- 13) *kətəree* は歯でかじるおと。
- 14) *əpəsəl* という語はウイльта語で普通つかわれない(佐藤による)。*əpəsəl* (*əpə* は《母》という語幹とみられ, *səl* は複数の接尾辞)のよびかけ形《母たちよ》で, また母が二人以上のこどもをよぶ語《こどもたちよ》でもあるのであろう。注 12) を参照。
- 15) *xəərii* はなきごえ。
- 16) *waŋaa* は意義不明。
- 17) ウイльта語には一般にはかかる語はない(佐藤による)。しかしナーナイ語 *биэси*, オルチャ語 *biəsi* (どちらも *би-*, *vi-* 《ある》の能動現在形動詞の打消し形) (上記の Петрова の Нанайско-русский словарь, 192 ページ, Ульчский диалект нанайского языка, 66 ページによる) を参照。
- 18) *čoko čokkoo* とおとがした。
- 19) *keel keeloo* とおとがした。
- 20) *punə puunəə* とおとがして灰がとんだ。
- 21) *niriktalbanii nirimii* の意義はあきらかでない。*niriktal* の *nirikta* は《せぼね》, *l* は複数接尾辞。*niri-* は《ほねを関節できつて分離する》。佐藤さんはここは *xurigə xurigəmbə pulisini*《やま やまを あるく》の意であるという。

21. とりたちといなくなったこども

佐藤チヨ(Napka)口述

goropčinne むかしのひとが	puttəə こどもを	xuppəəčixənindəməə. あやしてしたはなしだとさ。	gaajee 「からすよ	gaajee からすよ	
puttəkəəmbə かわいい子を	bəədduu かえしてくれー	koojoldonŋ コーヨルドンー	koojoldon. コーヨルドン」	minduu 「おれのところには	
anakaa いないよー	gaak ガーク	gaak ガーク,	tuwadu わたりどりのからすのところに	biinii いるよー	gaak ガーク

gaak. tuwaa tuwaa puttəkəəmbə bəədduu
 ガーク 「わたりどりのからすよ わたりどりのからすよ かわいい子を かえしてくれー

koojoldon̄ koojoldon̄. minduu anakaa karr karr
 コーヨルドン̄ コーヨルドン̄ 「おれのところには いないよー カルル カルル,

oliduu biinii karr karr. olee olee
 おおがらすのところに いるよー カルル カルル 「おおがらすよ おおがらすよ

puttəkəəmbə bəədduu koojoldon̄ koojoldon̄. minduu
 かわいい子を かえしてくれー コーヨルドン̄ コーヨルドン̄ 「おれのところには

anakaa kook kook on̄golodu biinii kook kook. on̄goloo
 いないよー コーク コーク, かけすのところに いるよー コーク コーク 「かけすよ

on̄goloo puttəkəəmbə bəədduu koojoldon̄ koojoldon̄.
 かけすよ かわいい子を かえしてくれー コーヨルドン̄ コーヨルドン̄

minduu anakaa keek keek nəəčigədu biinii
 「おれのところには いないよー ケーアク ケーアク, ことりのところに いるよー

keek keek. nəəčigə nəəčigə puttəkəəmbə bəədduu
 ケーアク ケーアク 「ことりよ ことりよ かわいい子を かえしてくれー

koojoldon̄ koojoldon̄. minduu anakaa čiin čiin
 コーヨルドン̄ コーヨルドン̄ 「おれのところには いないよー チーン チーン

čiruwaldas kabbeeladu ¹⁾ biinii čiin čiin čiruwaldas.
 チルワルダシ, しろやまどりのところに いるよー チーン チーン チルワルダシ

kabbeelaa kabbeelaa puttəkəəmbə bəədduu koojoldon̄
 「しろやまどりよ しろやまどりよ かわいい子を かえしてくれー コーヨルドン̄

koojoldon̄. minduu anakaa kabeeek kabeeek kabeebeek
 コーヨルドン̄ 「おれのところには いないよー カベーク カベーク カベークベーク

kabeeek kabeeek kabeebeek pinuduu ²⁾ biinii kabeeek
 カベーク カベーク カベークベーク, やまどりのところに いるよー カベーク

kabeeek kabeebeek. pinəə pinəə puttəkəəmbə bəədduu
 カベーク カベークベーク 「やまどりよ やまどりよ かわいい子を かえしてくれー

koojoldon̄ koojoldon̄. minduu anakaa kəiik kəiik
 コーヨルドン̄ コーヨルドン̄ 「おれのところには いないよー コエーク コエーク」と

kəjəəčixəndəə pinu. aungadu
 なんどもくちぶえをふくようにないたと, やまどりが。 「あうな(かもの一種)のところに

biinii kəiik kəiik. aungaa aungaa puttəkəəmbə bəədduu
 いるよー コエーク コエーク 「あうなよ あうなよ かわいい子を かえしてくれー

koojoldoŋ koojoldoŋ. minduu anakaa aa aa aunga
 コーヨルドン コーヨルドン 「おれのところには いないよー アー アー アウンガ
 aa aa aunga apčidu biinii aa aa aunga.
 アー アー アウンガ, かも(の一種)のところに いるよー アー アー アウンガ」
 apčee apčee puttəkəəmbə bəədduu koojoldoŋ koojoldoŋ.
 「かもよ かもよ かわいい子を かえしてくれー コーヨルドン コーヨルドン」
 minduu anakaa aap aap xoččidu biinii aap
 「おれのところには いないよー アープ アープ, あいさのところに いるよー アープ
 aap. xoččee xoččee puttəkəəmbə bəədduu koojoldoŋ
 アープ 「あいさよ あいさよ かわいい子を かえしてくれー コーヨルドン
 koojoldoŋ. minduu anakaa xoot xoot
 コーヨルドン 「おれのところには いないよー ホート, ホート,
 keewudu biinii xoot xoot. keewoo keewoo puttəkəəmbə
 ごめ(かもめ)のところに いるよー ホート ホート 「ごめよ ごめよ かわいい子を
 bəədduu koojoldoŋ koojoldoŋ. minduu anakaa
 かえしてくれー コーヨルドン コーヨルドン 「おれのところには いないよー
 kumma kumma keewoo kumma kumma keewoo čaččaridu³⁾
 クンマ クンマ ケーオー, クンマ クンマ ケーオー しまごめのところに
 biinii kumma kumma keewoo. čaččaree čaččaree puttəkəəmbə
 いるよー クンマ クンマ ケーオー 「しまごめよ しまごめよ かわいい子を
 bəədduu koojoldoŋ koojoldoŋ. minduu anakaa
 かえしてくれー コーヨルドン コーヨルドン 「おれのところには いないよー
 kek kek kek kiičEEK kek kek kek kiičEEK
 ケアク ケアク ケアク キーチェーアク ケアク ケアク ケアク キーチェーアク,
 kəəkkudu biinii kek kek kek kiičEEK. kəəkkə kəəkkə
 白鳥のところに いるよー ケアク ケアク ケアク キーチェーアク 「白鳥よ 白鳥よ
 puttəkəəmbə bəədduu koojoldoŋ koojoldoŋ. minduu
 かわいい子を かえしてくれー コーヨルドン コーヨルドン 「おれのところには
 anakaa kəəkuŋ kəək kəək nuŋnadu biinii kəəkuŋ
 いないよー コークン コーク コーク, ひしくいところに いるよー コークン
 kəək kəək. nuŋnaa nuŋnaa puttəkəəmbə bəədduu
 コーク コーク 「ひしくいよ ひしくいよ かわいい子を かえしてくれー
 koojoldoŋ koojoldoŋ. minduu anakaa kae kaeek
 コーヨルドン コーヨルドン 「おれのところには いないよー カエー カエーアク,

minduu anakaa kae kaeek tuwweetudu⁴⁾
 おれのところには いないよー カエー カエーアク、 しぎ(の一種)のところに

biinii kae kaeek. tuwweetø tuwweetø puttəkæmbə bødduu
 いるよー カエー カエーアク」 「しぎよ しぎよ かわいい子を かえしてくれー

koojoldonj koojoldonj. minduu anakaa tuwwee
 コーヨルドンシー コーヨルドン」 「おれのところには いないよー トウウェー、

minduu anakaa tuwwee paamalduudu biinii
 おれのところには いないよー トウウェー、 しぎ(の別の一種)のところに いるよー

tuwwee. paamalduwoo paamalduwoo puttəkæmbə bødduu
 トウウェー」 「しぎよ しぎよ かわいい子を かえしてくれー

koojoldonj koojoldonj. minduu anakaa wəəččən gur
 コーヨルドンシー コーヨルドン」 「おれとのところには いないよー ワーッチャン グル

wəəččən gur gusiduu biinii wəəččən gur wəəččən
 ワーッチャン グル、 わしのところに いるよー ワーッチャン グル ワーッチャン

gur. gusee gusee puttəkæmbə bødduu koojoldonj koojoldonj.
 グル」 「わしよ わしよ かわいい子を かえしてくれー コーヨルドンシー コーヨルドン」

minduu anakaa kook kook puuraudu⁵⁾ biinii
 「おれのところには いないよー コーク コーク、 プーラウのところに いるよー

kook kook. puurawoo puurawoo puttəkæmbə bødduu
 コーク コーク」 「プーラウよ プーラウよ かわいい子を かえしてくれー

koojoldonj koojoldonj gaksee isalkaambani bødduu
 コーヨルドンシー コーヨルドン、 片方の 小さい目を かえしてくれー

koojoldonj koojoldonj. gaksee isalbani bøeduxəni. gaksee
 コーヨルドンシー コーヨルドン」 片方の 目を かえしてくれた。 「片方の

ŋaalakaambani bødduu koojoldonj koojoldonj. gaksee ŋaallaani
 小さい手を かえしてくれー コーヨルドンシー コーヨルドン」 片方の 手を

bøeduxəni. gaksee bəgʝikæmbəni bødduu koojoldonj
 かえしてくれた。 「片方の 小さい足を かえしてくれー コーヨルドンシー

koojoldonj. gaksee bəgʝeeni bøeduxəni. ʝilikaambani
 コーヨルドン」 片方の あしを かえしてくれた。 「小さいあたま(くびより上の全体)を

bødduu koojoldonj koojoldonj. ʝilleeni bøeduxəni. moŋokoomboni
 かえしてくれー コーヨルドンシー コーヨルドン」 あたまを かえしてくれた。 「小さいくびを

bødduu koojoldonj koojoldonj. moŋomboni bøeduxəni.
 かえしてくれー コーヨルドンシー コーヨルドン」 くびを かえしてくれた。

daramakaambani 「小さい腰を	bөөdduu かえしてくれー	koojoldoŋŋ コーヨルドンー	koojoldoŋ. コーヨルドン」	darammaani 腰を	
bөөduxəni. かえしてくれた。	bokkokoomboni 「小さい腹を	bөөdduu かえしてくれー	koojoldoŋŋ コーヨルドンー	koojoldoŋ. コーヨルドン」	
bokkomboni はらを	bөөduxəni. かえしてくれた。	dəwəkəəmbəni 「小さい腰のすぐ下(骨盤部)を		bөөdduu かえしてくれー	
koojoldoŋŋ コーヨルドンー	koojoldoŋ. コーヨルドン」	dəwwəəni 腰のすぐ下(骨盤部)を	bөөduxəni. かえしてくれた。	bəjəkəəmbəni 「小さい体を	
bөөdduu かえしてくれー	koojoldoŋŋ コーヨルドンー	koojoldoŋ. コーヨルドン」	bəjjəəni からだを	bөөduxəni. かえしてくれた。	čikəə それだけ
biččinda だったと、	goropčinne むかしのひとが	puttəə こどもを	xuppəəčixəni. あやしてしたはなしは。		

佐藤チヨさんから1955年録音した。このはなしは佐藤さんが自分の母親から聞いたもので、本来ウイльта族のはなしだろうという。こどもをかえしてくれといろいろなところをまわり、最後にプーラウというとりからだを一部分ずつだんだんにかえしてもらうはなし。いろいろのとりはなきごえの擬音語がこのはなしにあらわれるのが興味ぶかい。1953年おなじ語りてから口述を筆記したこのはなしの原文では、たずねて行くとりにはほかに *nudaa*, *kəŋədəi* (いずれもかも的一种, なきごえは *kəiik kəiik*), *kaakaldaaru* (へいけだおし, なきごえは *kaee kaee kae kaeek*), *xəən* (なきごえは *a a auu* ア ア アウー) がある。

- 1) *kabbeela* 《樺太雷鳥》。
- 2) *pinu* 《蝦夷雷鳥》。
- 3) *čaččari* 《しまごめ》は *kiičiga* ともいう。
- 4) *tuwweetu* 《しぎの一種》は *tuwweekkə* ともいう。
- 5) *puurau* (または *puurrau*) は樺太ではみられないとりようである。

22. 童 謡

佐藤チヨ(Napka) 口唱

goropčinne むかしのひとが	puttəə こどもを	xuppəəčixənin dəməə. あやしてうたったうただとき。
gaakee からすよ	mammajoo ¹⁾ たべなさい、	
nəəčikəə ことりよ	mammajoo たべなさい、	

ɲina[a]kaa いぬのこよ	mammajoo たべなさい,			
gaakinjuni こどものからすに	oonii ²⁾ なって	gaak ガーク	gaak ガーク	gaak ガーク,
nəəčikəɲuni こどものことりに	oonii なって	čiin チーン	čiin チーン	čiin チー,
ɲina[a]kaɲuni こどものいぬのこに	oonii なって	wau ワウ	wau ワウ	wau ワウ,
tək タック	aa アー	pək パック	aa. ³⁾ アー。	

佐藤チヨさんから1956年録音した。このうたは佐藤さんが自分の母親からきいたもので、本来ウイльта族のうただろうという。

- 1) mamma- 《たべる》は幼児語の動詞語幹。gaaki 《からす》, nəəčikə 《ことり》, ɲinaka 《いぬ》も幼児語。gaak, čiin, wau はこれらそれぞれの動物のなきごえ。
- 2) ……oonii を、佐藤さんははじめ……baaruni 《の方へ》と訳したが、のち……owočči 《になつて》の意だろうという。
- 3) tək aa pək aa ははやしのことばのようである。

23. 子もり歌

中川カヨ 口唱

bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ	nəgənii ぼうやは	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ
gaakkii ¹⁾ からすが	sinjeellaa くるよ	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ	əjje ないてはだめよ	sonjoroo ねんねんよ
bəəbəə. ねんねんよ。					
bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ	nəgənii ぼうやは	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ
ɲanaka[a]tai ²⁾ いぬのこと	gəikə[ə]mi ³⁾ 競争しながら	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ	nəəčikə[ə]tai ⁴⁾ ことりと	
gəikə[ə]mi 競争しながら	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ	gaakkii[i]tai からすと	gəikə[ə]mi 競争しながら	bəəbəə ねんねんよ
bəəbəə ねんねんよ	xaijji なにを自分に	gələmee ほしくて	sonjeesi[i]gaa おまえはなくの	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə. ねんねんよ。

中川カヨさんから1956年録音した。なおこのこもりうたにはふしが二種ある。一つはかなり単調である。

- 1) gaaki~gaakki は gaaji 《からす》の幼児語。
- 2) ŋinaka~ŋanaka は ŋinaa 《いぬのこ》の幼児語。
- 3) gəikəmi(動詞語幹 gəikə-) は gəimi 《競争しながら》(動詞語幹 gəi-)の幼児語。
- 4) nəəčikə は nəəčigə 《ことり》の幼児語。

24. ハーガ I

佐藤チヨ(Napka)口唱

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

gəənnə[ə]nnəə
ガーナーンナー

nootonoo
四才のおすとなかいの

ajjaannii
いいのを

pata[a]lakaa
むすめの

ajjaannii
いいのが

itə[ə]xəni
見た

maəŋi[i]jjoo
のよねー

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

gəənnə[ə]nnəə
ガーナーンナー

atta[a]ŋjeeduuni
背の方から

i[i]ttəu[u]mmii
見れば

ana[a]naulli
すきな

maəŋi[i]jjoo
のよねー

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

gəənnə[ə]nnəə
ガーナーンナー

ata[a]ptaai
面とむかつて

i[i]ttəu[u]mmii
見れば

gosi[i]psuulii
にくにくしい

maəŋi[i]jjoo
のよねー

dərə[ə]lbəni
かおを

i[i]ttəu[u]mmii
見れば

duuruulii
すかない

maəŋi[i]jjoo
のよねー

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

gəənə[ə]nnə
ガーナーンナー

佐藤チヨさんから 1959 年録音した。若い女が若い男のかお，すがたをからかってうたったものである。3 行めの「が」の訳は佐藤さんによる。

25. ハーガ II

佐藤チヨ (Napka) 口唱

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

gəənə[ə]nnə
ガーナーンナー

undi[i]ləkkəə
わたしが言いましょう

goi[i]ru[u]mbani ¹⁾
(普通のうたと)ちがったのを

um[m]burii
言っていいでしょう

bi[i]ŋəi[i]jəə

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

gəənə[ə]nnə
ガーナーンナー

oxo[o]liŋaa ²⁾

nooto[o]nnoo ³⁾
四才のおすとなかいいよ

moto[o]liŋaa
まるい

po[o]ro[o]kkeeni ⁴⁾
いただきへ

xara[a]lukaa
ひものついた

lau[u]ta[a]mba ⁵⁾
刀を

waannau[u]duutawweela ⁶⁾
わたしがまたつるしてからは

əŋə[ə]sikəə
あんたがぬらすことはさせません

dəl[l]bi[i]rə

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

gəənə[ə]nnə
ガーナーンナー

sitə[ə]rikəə ⁷⁾
あたらしい

iŋuwə[ə]ttai
わか木へ

siisulləurii
ひかれて行く

mə[ə]rə[ə]mbə
きもちを

əs[i]wikəə

わたしはもちません

mə[ə]rəči[i]rə

gənnə[ə]ŋgəkkəə

ガンナーンガッカー

gənnə[ə]nnə

ガーナーンナ

undi[i]ləkkəə

わたしが言いましょう

goi[i]ru[u]mbani

(普通のうたと)ちがったのを

u[u]ppuləə

言ったっていいでしょう

bi[i]ŋəi[i]jəə

gənnə[ə]ŋgəkkəə

ガンナーンガッカー

gənnə[ə]nnə

ガーナーンナ

佐藤チヨさんから1957年録音した。本来ウイльта族のうただという。おんなが言いよるおとこをこばんでうたったもの。

- 1) この行は goiwa unjiləmi 《ちがったのを わたしは言おう》の意(佐藤による)。ウイльта語の音韻構造では一般には i のまえに d はたたない。
- 2) oxoliŋa は意義不明, つののないの意かとも言う(佐藤による)。
- 3) xəəgəə では, 普通, わかいおとこを nootono 《四歳のおすとなかい》とよぶ。
- 4) poro 《あたまのてっぺん》はここでは恥丘の意(佐藤による)。
- 5) おんながひもにつけて腹部にたらしめたかな具の意(佐藤による)。
- 6) 末尾の la は lakka をきった発音(佐藤による)。
- 7) sitəu 《あたらしい》の意(佐藤による)。

26. ハーガⅢ^k

中川カヨ 口唱

gənnəŋgəkkəə

ガンナンガッカ

gənnənnə

ガーナンナ

doso[o]buwaji

火になべをかける棒の

xu[u]jəlləə¹⁾

つのがあり

muxu[u]maiji²⁾

ほっき貝の

pəjəlləə³⁾

ひたいがあり

itaŋgi

椀の

i[i]salloo⁴⁾

目があり

kulaučji⁵⁾

さら貝の

si[i]nulləə

舌があり

siruktəji

蟻の

xə[ə]ŋgəjəlləə⁶⁾

胴まわりをもち

silo[o]punji
焼きぐしの

bə[ə]gʃillə⁷⁾
足がある

gənnəŋgəkkə
ガンナンガッカ

gənnənnə
ガーナンナ

中川カヨさんから 1956 年録音した。あるむすめが自分をほしがるあるおとこをきらい、
そのかおかたち、すがたをからかってうたったもの(中川, 佐藤による)。

- 1) あたまがながく(中川による), つのようである(あたまがたりない)(佐藤による)意。
- 2) muxumai ほっき貝 *Spisula (Pseudocardium) sachalinensis* (SCHRENCK).
- 3) おでこがつきでている意(中川, 佐藤による)。
- 4) 目がまるく, 大きい意(中川, 佐藤による)。
- 5) kulauči さら貝 *Peronidia venulosa* (SCHRENCK).
- 6) 胴まわりがほそい意(中川, 佐藤による)。
- 7) 足がほそい意(中川, 佐藤による)。

27. ハーガ III^N

佐藤チヨ(Napka)口唱

gənnəŋ[ŋ]gəkkə
ガンナンガッカー

gənnə[ə]nnə
ガーナンナー

xee[e]dargaa¹⁾
ヘーダルガよ

nooto[o]nnoo
四才のおすとなかいよ

noo[o]tonoo
四才のおすとなかいの

aj[j]jaannii²⁾
いいのを

gənnəŋ[ŋ]gəkkə
ガンナンガッカー

gənnə[ə]nnə
ガーナンナー

dosobu[u]wajii
火になべをかける棒の

xu[u]jə[ə]llə
つのをもち

muxu[u]majii
ほっき貝の

pəjə[ə]llə
ひたいをもち

ita[a]ŋgijii
椀の

i[i]sa[a]lloo
目をして

kulau[u]čijii
さら貝の

si[i]nu[u]llə
舌をもつ

gənnəŋ[ŋ]gəkkə
ガンナンガッカー

gənnə[ə]nnə
ガーナンナー

nəm[m]dəukəə
ほそくて

xudəə[ə]ŋjii
縫ったものをのす板の

siru[u]ktəjii
蟻の

gənnə[ə]ŋgəkkəə
ガンナーンガッカー

silo[o]punjii
焼きぐしの

sipsii[i]kaa
きりぎりすの

gənnə[ŋ]gəkkəə
ガンナーンガッカー

xu[u]manaakkoo³⁾
やせていて

da[a]rama[a]lloo⁴⁾
腰をして

xəŋ[ŋ]gəjə[ə]lləə⁵⁾
胴まわりをもつ

gənnə[ə]nnəə
ガーナーンナー

bə[ə]gji[i]lləə
足をして

joonopu[u]nnii⁶⁾
そりのかじ棒だ

gənnə[ə]nnəə
ガーナーンナー

佐藤チヨさんから 1959 年録音した。本来ウイルタ族のうただという。この xəəgə は中川カヨさんから採録したもの(本書の 26)とおなじものであるが、歌詞はそれよりながい。

1) xeedarga 人名(おとこ)。

2) をみたの意(佐藤による)。

3) xumanauka 《やせている》の意。

4) xudəə の上でたとえばくつ(utta)のかわのぬいめをこがたな(gisiruu)のえ(となかいのつのできている)でこすってのす。この行は腰に厚みがない意(佐藤による)。

5) おなじうたいてからそのときに録音したこの xəəgə のもう一つの原文では、この句のかわりに siru[u]ktəkkəə xəŋ[ŋ]gəjə[ə]nni 《蟻の 胴まわりだ》とある。

6) この行は足がほそいの意(佐藤による)。sipsii はきりぎりすの類の昆虫。joonopu はそりをひとがひくときその前部(čeembuwa~čeemboo)にむすびつける棒。これを手でもち、かじをとったり、制動したりし、一方そりにつけたおびを肩にかけてひく。

28. くずり(食肉目の獣)のばけもの

北川五郎(Gərgulu)口述

əsigdəə bəiŋdəəti taani nari. xaldəə čii bəičiməri čii
さて 獵に行った そうな、 人人が。 いつでも ずーっと 獵をし ずーっと

bəičuučiči. naači tari. gə geeda unnee
獵具をしかけている。 かれらの土地だ、 それは。 さて 一つの 川を

solootti taani čii anani anani putačimari. tari čii nari
のぼった そうな、 ずーっと 年 年 わなをかけながら。 そのころ いつも 人が

wəədəpčini. čii bujini čaa unnee putaččini¹⁾ tauni.
 みえなくなる。 いつも 死ぬ、 その 川(すじ)に わなをかける みなが。

ɲənnəewəri taunduni čii bujiči. gee narree silmačiti taani
 行く たびに いつも 死ぬ。 さて 人を えらんだ そうな

əsigdəələkkə maŋganneepa. ga čawa saabuddoori sik sikpuni
 いまや、 つよい人を。 さて そのことを 知るために ねむ ねむらない

sikpuni²⁾ sikpuni maŋganneepa silmačiči. gaa suun naalani
 ねむらない 眠らない つよい人を えらんだ。 さて 南の 地方から

geedanneekkə doro naalani geedanneekkə ɲənəxəni taani əsigdəələkkə.
 一人と 北の 地方から 一人が 行った そうな いまや。

suun naani gəl³⁾ naalani⁴⁾ ɲənəxənnəe bəkkə. gə putandamari
 南の 地方 地方から 行った人は せむしだ。 さて かれらはわなをかけに

ɲənəxəti čaa naatai⁵⁾ uni dərəttəini ɲənəəči. ga putačigati taani
 行った、 その 土地へ。 川の みなもとへ 行った。 さて わなをかけていた そうな

əsigdəə čii putačimari. gə liisini maŋaŋuči⁶⁾ utəkki
 いまや、 ずーっと わなをかけて。 さて いびきをかくのが 大きい人が 戸口へ

akpaččini taani əsigdəə. otoo utəduuji liisini maŋa narree
 ねた そうな いまや。 一番 戸口の近くに いびきをかくのが 大きい 人を

əksəəči taani əsigdəə. liisini takkuramjiči. čimai
 おいた そうな いまや。 いびきをかいている、 かれらの使用人が。 朝

təgəgəčceeri ittəjiči tariŋuči xaalanda buččini. taŋgamji.
 おきて みると それは いつかに 死んでいた。 こまったことだ。

əri⁷⁾ xai. pujiəni gəlləəjini pujiən⁸⁾ anaa.
 これは どうしたことか。 きずを さがせば きずは ない。

xaikeendəə pujiə anaa bučči. xooni toilakka əpsijigəči taani
 どこにも きずが なくて 死んでいる。 どう しようもなく 葬った そうな、

čakki čiidda. orkimba xai⁹⁾ xai təpəunjiini əpsijiləkkə.
 そこへ そのように。 つまらない人は なに なにか 粗末に 葬るのだ。

əri xaimidda ambalu billə təddəə əri.
 これは どうしても ばけものが いるのだろう、 本当に これは。

gə doronɲ¹⁰⁾ doro maŋgaannii suun maŋgaannii silmačiti taani
 さて 北の つよい者と 南の つよい者とを えらんだ そうな

əsigdəə. ga sikpuni sikpu. ga dəənnəe təəčiti taani əsigdəə
 いまや。 さて 一番眠らない者。 さて 二人は すわっていた そうな いまや、

baŋŋeetaalinŋi gaksee kaltaaduni bəkkə gaksee kaltaaduni doro
 向かい合って 片 側に せむし, 片 側に 北の

 maŋgannii. čii təəmŋee dolboni taldaani inneetəini laxəə
 つよい人が。 ずーっと すわっていて 夜 中 夜あけ 近くに

 doro maŋgani xawuus oččini taani. čadu utə kunduu
 北の つよい人は うとうと した そうな。 そのとき 戸口が はじがちょっと

 oččini taani. utə kunduu oiduni tari bəkkə garpaxani
 あいた そうな。 戸口が はじがちょっと あいたとき その せむしは 射た

 taani əsigdəələkkə geeda ailiga iixəmbəni¹¹⁾ ŋaalikkeeni
 そうな いまや, 一匹の くずりが 入ったのを。 かれの手から

 giltaramŋi. doro maŋgani uččini taani.
 はずれて(弓がおちた)。 北の つよい人は 言った そうな。

 andaxa xairisiga. anaa uččini taani. tolčičim¹²⁾ burigbi
 「お客さん 何するのか。」 「いや」 と 言った そうな。 「ゆめをみていて おれの弓が

 tuuxənee uččini taani. burigbi tuuxəni. xaiwaddaa əččimbi anu
 おちたのだよ」 と 言った そうな。 「弓が おちた。 なにも あの一

 waaraa. gəə čimai təəgəččeeri itəəti taani. nəəgəččeeri itəəči.
 とらなかつたよ。」 さて 朝 おきて みた そうな。 出て みた。

 geeda ailigamba bəkkə garpaxani. durani tas iixəni ləkkəni.
 一匹の くずりを せむしが 射ていた。 まんなかに 一気に 入った, 矢が。

 tari ailiga ambambani waaxani bəkkə. suun naani maŋgani
 かれが くずりの ばけものを 殺した, せむしが。 南の 地方の つよい人が,

 narree anani anani. tamaččukəə¹³⁾ tari¹⁴⁾ čawa¹⁵⁾
 人を 年 年 殺すくずりを。 それからは かれらは そこに

 putaččisal čii uliŋga. tamačču čii uliŋga. čii uliŋga.
 わなをかける人たちは ずーっと 無事だ。 それから ずーっと 無事だ。ずーっと 無事だ。

 čii səəppəə waarini. anani anani pulisini. tamačču tari
 ずーっと 貂を とる。 年 年 あるいている。 それから その

 ailiga ambani čii wəədəptuxəni. čalaa biččində tari təəlununi¹⁶⁾.
 くずりの ばけものは ずーっと なくなった。 そこまでだと, その 言い伝えは。

北川 五郎さんから 1959 年に録音した。このむかしばなしを北川さんはムイガッタ (Muigəttə) 氏族のジャワイじいさん (Jawai mapaačča) からきいたよし。もともとウイлтаの təəlunu であるという。ウイлта人から日本語で採録したおなじはなしが山本祐弘『北方自然民族民話集成』(1968) 54-57 ページにのる。くずりは食肉目の獣である。日本

語のクズリ(屈狸)の語はアイヌ語から来たものだが、さらにギリヤク語に由来するだろう。
なお、話の進み方としてみて、せむしが選ばれたのは使用人が死んだあとのことではないだろうか。佐藤チヨさんがこのテキストの語り方はへんだと言っていたが、この辺の事情を言っていたのではないかと思われる。

- 1) putaččini 《かれ(ら)がわなをかける》のかわりに putaččinne 《わなをかける人》とあるの
がいい(佐藤による)。
- 2) sik sikipun sikipun とくりかえしてから言いなおして sikipun と言っている。
- 3) naan gəl 言いそこない。
- 4) naalani は naaduuni と言うのがいい(北川, 佐藤による)。
- 5) naatai この語形は北川さんの教示による。naarree のようにきこえる。
- 6) liisini maŋgaŋuči 《いびきをかくのが大声のかれらの仲間》は使用人のことを言っている。
- 7) ər この語は佐藤さんの聴取による。
- 8) pujjəən は pujələとあるのがいい, また pujəni でもいい(佐藤による)。
- 9) xai くりかえし言っている。
- 10) doronŋ 言いそこない。
- 11) iixəmbəni この語形は北川さんの教示による。x が r のようにきこえる。
- 12) tolčičim 《自分でゆめをみて》のかわりに tolčiččiduwwə《おれがゆめをみているときに》とあ
るのがいい(佐藤による)。
- 13) tamaččukəə は tamaččukoo とあるのがいい(佐藤による)。
- 14) tari よけいなことば(北川, 佐藤による)。
- 15) čawa は čakki とあるのがいい(佐藤による)。
- 16) təəluŋuni この語形は北川さんの教示による。ni はきこえない。

第 2 部

まえがき

第 2 部に収録するウイльта語テキストは、ウイльтаの思い出話(1)や昔話(2-4, 追加 16)と歌(5-15)である。これらは 1990 年から 92 年にかけてサハリンにおいてウイльтаの下記の方がた(いずれも婦人)から採集した。しかし、これらの方がたはすべてすでに亡くなられた。御冥福を祈る。

小川ハツ子さん ポロナイスク市在住。1925 年、ワーレーッタ(Waaleetta)氏族に生れる。

金ナツ子さん ポロナイスク市在住。1924 年生れ。母はダーヒンネーニ(Daaxinneeni)氏族。

セミョーノワ・オリガ・ニコラーエヴナ(Semenova Ol'ga Nikolaevna)さん ワール在住。1910 年ガラマイ(ウイльта名 Gəraməi, ロシヤ名 Goromaj)川沿岸の地に生れる。バヤウサ(Bajausa)氏族。

ミヘーエワ・マリーヤ・ステパーノヴナ(Mikheeva Marija Stepanovna)さん ワール在住。1912 年トイミ(ウイльта名 Təəmə, ロシヤ名 Tym')川河口近くの地で、ゲーッタ(Geetta)氏族に生れ、バヤウサ(Bajausa)氏族に嫁す。

セミョーノワ・アンナ・ワシーリエヴナ(Semenova Anna Vasil'evna)さん ネクラソフカ在住。1919 年ナビリ(ウイльта名 ŋaabbēla, ロシヤ名 Nabil')に生れる。ムイガッタ(Muigəttə)氏族。

このテキストは、カセットテープに録音したものを音韻表記によって表記したものである。なお、ロシヤ語もまじっている。録音されている言語音声はできる範囲ですべて表記することにし、話し手の言い誤りやまわりの人へ発することばも、また、まわりの人が話し手に発する質問などのことばもテキストに記入した。テキストには日本語による逐語訳をそえてある。訳文中の()内は補足や説明である。なお、意味がまだ不明の語などは訳の欄を空白にしてある。

テキストの表記において、斜体ローマ字の部分は、その語の明確な発音では発音されるが、略して実際には発音されなかった部分である。なお、t のあとで i や ě が省略されている ti, tĕ は、その部分が省略されない語形では、それぞれ ċi, ċĕ となる。

また、[]のなかは、歌をうたう上でその語の通常の発音より特に音を長くのばした部分である。

下線を引いた部分は、ロシヤ語であり、ロシヤ字をローマ字に翻字して記してある。

()のなかは、言い誤りや言いかけて途中でやめた発音や内容に直接関係のないことば、たとえば聞き手への質問などである。

[]のなかは、話し手のまわりの聞き手が発したことばである。

…の部分は、小声か、不明瞭な発音で音がききとれない部分である。

歌謡(5-15)においては、一編の歌はほぼ同じ旋律のくり返しで歌われている。5-8 は、大きな間隔をおいて記された各句が、また 11, 15 は各行が、ほぼ同じ旋律で歌われている。一方、9(daaji siirokku 以下の 4 行を除く)、10, 13, 14 は、第 2 行のかしらをさげて記してある 2 行ごとに、12 は、第 2, 3 行のかしらをさげて記してある 3 行ごとに、ほぼ同じ旋律がくり返されて歌われている。その旋律は、歌によって、または歌い手によって異なる。

5-14 の歌は、おとなの間で歌われるものである。ウイльтаの歌謡には、ある一定の折り返し句をとまなうハーガ(xəəgə)という歌のジャンルがあり、やはり成年者の歌

であるが、5－14の歌は、その折り返し句がなく、これとはまた別のジャンルの歌である。5－10の歌は、内容からみて、叙情歌とよんでおく。15は、子もり歌であり、幼児に向けて歌われる。

録音の表記にあたって、ウイльта語については、語り手、歌い手のほか、ウイльта婦人のイ・ヤ・フェジャーエワ (I.Ja.Fedjaeva) さん、エ・ア・ビービコワ (E.A.Bibikova) さん、小川ウメさん、北川アイ子さんの助力をえたこと、ロシア語についてもロシア語を話す幾人もの方がたの助けをえたことを記して謝意を表わす。

1. くま祭りの思い出

M.S.Mikheeva 口述

(gorom)	goropčinne	uulta	uulta	bəjəŋŋəəri		
	むかしの人の	ウイльта	ウイльтаは	自分たちのくまを		
waapissaa	xupiddukki	biččiči	kadaara	dukkoo	anduwaččeeri	
殺して	くま祭りの遊びをして	いた、	大きい	家を	つくり	
aundakkoo.	daaji	dukkoo	anduwaččeeri	tari	dooduni	xuppiči.
円錐形家屋を。	大きい	家を	つくり	その	なかで	かれらは遊ぶ。
xurigaččiči.		musinjiči	musimba	[雑音]	goropčinne.	
かれらはくま祭りをする。		寄せものをつくる、	寄せものを		むかしの人は。	
gə	čowoččeeri	čəŋŋoori	anničee.		girapsaani	
さて	そして	自分らのそれを	えーとかれらはあれする。		その骨を	
dəptupissəə	(boo boo)	mootoi	siwwiči	girapsaa	čipaal	da.
食べると		棒へ	かれらはつき通す、	骨を、	全部	ね。
əsiči	məətəlləə	xailadda	xoottoidda.	ətəxuwaččeeri		
かれらは捨てない		どこへも	どちらへも。	大切においておき		
ətəxuwaččeeri	čəŋŋoori		ətəxuwaččeeri	čəŋŋoori		
大切においておき	自分らのそれを		大切においておき	自分らのそれを		
guluččiči		anu	ikpəə	iwakkačči		
かれらはいぶしてすす色にする、		えーとあれ	たき火を	たき		
bookki.	čowoččeeri	pəuləmbə	anduwaččeeri	lokkeetči	čaa	
そとで。	そして	もの置き台を	つくって	かれらは掛ける、	その	
girapsaŋŋoori.	tari	pəjjeekkeeni	annukkil.	ikpəə		
自分たちの骨を。	その	下で	えーとあれする。	たき火を		
iwambukkil		guluptubuddəəni		guluptubuddəəni.		
たく、		いぶしてすす色になるように		いぶしてすす色になるように。		

tariŋuči かれらのそれは	anu えーとあれ	pakkam まっ黒く	gulupčini いぶされてすす色になる,
tariŋuči かれらのそれ	bəjəŋuči. かれらのくまは。	bəjəŋuči かれらのくまの	girapsaani 骨を
girapsaani 骨を	dəptəəčceeri 肉を食べてから	(loo…)	looŋjiči. 掛けてもとの形にする。
looŋjiči かれらは掛けてもとの形にする,	uisəi. 上へ。	xuppiči. かれらは遊ぶ。	nooči かれらは
			čadu そこで
xurigaččiči. くま祭りをする。	pəččəŋəsiti. かれらは飛びはねる。	tuksauriči かれらは走らせる,	ulaaji. となかいで。
goropčinnee むかしの人は	čaraŋači そのようにして	(biu)	biččiči いた,
			bii わたしの
			nuuči 小さかつ
biŋəsseewwee. たころ。	čaa その(ことを)	sulaa なんとか	saariwi わたしはおぼえている,
			čaa その
biččimbəči. かれらがそうしていたことを。			

2. オンゲーガ¹⁾

M.S.Mikheeva 口述

(wa)	geeda ひとりの	oŋgeeŋa. [oŋgeenu] オンゲーガ。	əə ああ	geeda ひとりの	nari 人が	ŋəŋəxənee. 行ったよ。
ŋəŋəxəni. かれは行った。	ŋəŋəxəni. かれは行った。	čaa その	narree 人を	dapaxani つかまえた,	tari その	
oŋgeeŋa. オンゲーガが。	gə	dapaxanduni それがつかまえたとき	anu えーとあれ	anu えーとあれ		
anu えーとあれは	təəxəni こしかけた,	toowo 倒木の	ojoduni. 上に。	toowo 倒木の	ojoduni 上に	təəgətči こしかけ
oŋgeeŋa オンゲーガの	baaruni 方へ	urabi 自分のしりを	tupəm すっかり	somboligačči 脱いで		
təəxəni かれはこしかけた,	čadu. そのとき。	sinjeeni それが来る	baaruni 方へ	sinjeewani それが来るのを		
itəgəčči 見て	laxəə 近く	osiduni なると	nari その人は	poos プーッと一気におならをして	amuččini. 大便をした。	

tari その人が	amunʃiduni 大便をするとき	uččini. かれは言った。	əə 「ああ	kitaree ちきしょう	xai なんの
ambattaini ばけものと	xuppiwəə おれたちは遊ぶんだ。」	ŋokkee 「くさいなー	ŋənnisəə 帰ろう」	と	
uččiči. かれらは言った。	uččiči. かれらは言った。	čowoččeeri そして	ŋənuwəči. かれらは帰った。		
čowoččeeri そして	ŋənuwəči. かれらは帰った。	ŋənuwəči. かれらは帰った。	ŋənuwəči. かれらは帰った。		
ŋənuwəči. かれらは帰った。	tari その	nari 人は	duktakki 自分の家へ	ŋənuxəni. 帰った。	oŋgeəŋa 「オンゲーガは
ələə もうすこしで	waaxani 殺すところだった」と	unʃini かれは言う、	mimbee. 「おれを。」	čowočči そして	
suddəakki 「あくたれ	maŋee め」	unʃini と 言う、	tari その	oŋgeəŋa. オンゲーガは。	narree 人を
					waaʃil. それは殺せる。
tari それは	ələni おわり、	čar それは	čar それは	čar. それは。	[vse konec] おわり

1) オンゲーガ(oŋgeəŋa)は魔女。顔はきれいだが、まゆ毛がない。人間を殺す。オンゲーガにつかまったが、大便をしてそのにおいてオンゲーガが断念してたすかった話。

3. 老人のつくってくれた舟で無事帰った漂流者¹⁾

A.V.Semenova 口述

duu ふたり	duu ふたりの	nəumunə 兄弟が	nari 兄弟が	joosondooči. あざらしとりに行った。
joosondooči あざらしとりに行った、	ěto これは	okhotit'sja (ロシア語で)	na あざらし	nerpočku 猟に
poekhali. かれらは行ったってことだ。	joosondooči. あざらしとりに行った。	čowočči そして	oj あれっ	(…
ne nado 必要ない	ne nado 必要ない	pust' かまうな	oj あれっ	kak. ²⁾ なんて言ったつけ。
duu ふたりの				
nəumunə 兄弟が	nari 兄弟が	namutai 海へ	(ŋənə…)	ŋənəəči 行った、
pəəttəə あざらしを	waəŋdamari. とりに行くため。	i そして	tuman 霧	tu 霧
			tuman 霧	(a

oj ot menja to) tuman tu tuman. [tamna] (dajte snačala i.)
 あれっ 霧 霧 霧 はじめから言ってよ。

[tamna]³⁾ duu nəumunə nari ŋənəəči pəəttəə pəəttəə
 霧 ふたりの 兄弟が 行った、 あざらしを あざらしを

waandamari. i əto tamnaska tamnaluxani. i nooči
 とりに。 そして 霧が かかりはじめた。 そして かれらは

miigəči. čowočči ŋənəəči. ŋənəəči. i anu
 迷った。 そして かれらは行った。 かれらは行った。 そして えーとあれ

(ba) ostrov kak ostrov. (vot satana oročenskij)
 島 なんて言ったつけ 島。 ほら 悪魔め ウイルタの、

elki-palki ... n...)⁴⁾ buwaata buwaata. əto
 こいつはしまった … 島 島だ。 これは (ロシヤ語で)

ostrov. buwaattai ŋənəəči. i čadu geeda əəktəə
 島。 島へ かれらは行った。 そして そこで ひとりの 女に

baagači. tari tari əəktə noomboči noomboči xəwəčixəni.
 かれらは会った。 その その 女は かれらを かれらを 呼んだ。

tari oŋdo biččini. oŋdo əto čert.
 それは オンド だった。 オンド これは (ロシヤ語で) 悪魔だ。

i a a i tari narisal ŋəələluwəči noonjiti čaa
 そして そして その 人たちは こわくなりはじめた、 かの女が その

əəktəji. i goti ŋənəəči ugdaži. ŋənnəeči.
 女が。 そして また かれらは行った、 舟で。 かれらは行く。

ŋənnəeči. (p) opjat' baagači naawa. naatai tam
 かれらは行く。 ふたたび かれらはみつけた、 陸を。 陸へ そこに

xaakčiči čadu. a tam čadu duku biini.
 かれらは舟をつける、 そこに。 そして そこに そこに 家が ある。

a čadu dukuduu geeda mapa nəəxəni. a
 そして そのとき 家から ひとりの じいさんが 出てきた。 しかし

buu jeesilpu ŋəəlleəči čaa mapaji. jəə⁵⁾
 わたしたちの なかまたちは こわい、 その じいさんが。 この

mapa unjini. əjje ŋəəlləə, bii bii bakkaa suu
 じいさんは 言う。 「こわがるな。 わし わし も あんたらと

əččisu nari bii. unjini tari mapa. gə mapa
 同じ 人間 だ」 と 言う、 その じいさんが。 さて じいさんは

noomboči xəwəčəxəni duktakki. i čadu dəpəəččini
 かれらを 呼んだ, 自分の家へ。 そして そこで 食べさせた,
 noomboči. goro biččiči nooči čadu. potom tari mapa
 かれらを。 長く いた, かれらは そこに。 それから その じいさんは
 kəə anu čimai gəgdək wəədəptukki səksədələndə. tari
 さあ えーとあれ 朝 いつも いなくなる, 晩までだと。 その人は
 tunda inəŋi ili nuŋu inəŋi a da purəndu biččini tari
 五 日 か 六 日 しかも やまに いた, その
 mapa. a a mununijjəə əsiči saara nu tari
 じいさんは。 しかし わしらの者たちは わからない さあ その人が
 xaikki pulisiwəni. čowočči a geedara čimai itəxəni.
 どの辺を 歩いているかを。 そして そして 一度 朝 かれは見た。
 əččini undə noottoiči xaiwadda. potom (xəwəči) xəwəčixəni
 かれは言わなかった, かれらへ なにも。 それから 呼んだ,
 tari narilba. unjinində. annoo ugdamba
 その人は 人らを。 かれは言うんだと。 「えーとあれを 舟を
 gaduxambi duubə. suu əsi duktakkeeri
 わしは持って来た, 二そう。 あんたらは いま 自分たちの家へ
 ɲənniri ɲənurisu unjini. ugda dooduni dooduni an
 帰るのだ」 と かれは言う。 「舟の なかに なかに あの
 təəssəərisu. unjini. (ni tə) nu (akpam) akpanusu
 あんたらすわれ」と かれは言う。 「さあ (akpam) あんたらねろ。
 … i esli nari kəssəəni (dool) dooljimarī unjini.
 そして もし 人の 話しごえを (dool) 聞いたとき」 と かれは言う。
 əjjeesu əjjeesu anu jilleeri əurree.
 「あんたらするな あんたらするな あの 自分のくびを もたげることを」 と
 unjini tari mapa. čowoččeeri tarisal ɲənuwəči. o tom
 言う, その じいさんが。 そして その人たちは 帰った。
 yse smejut oj inəsiči. èto … narisal
 みんな 笑っている あれっ。 かれらは笑っている。 これは … 人だ。
 kak budto nu tari buu jeesilpu dooljiči
 さあ その人ら わたしたちの なかまたちは 聞く らしい,
 kəssəəči. geulliči ešče. ɲənnēči.
 かれらの話しごえを。 かれらはいいをかく, なおも。 かれらは行く。

ɳənnēēči. ɳənnēēči. ɳənnēēči. poka ɛto anu
 かれらは行く。かれらは行く。かれらは行く。 「当分 これ えーとあれ
 naa naa ugda ugda əččēeli annooduni əjjeesu
 陸 陸 舟 舟が まだ えーとあれしないうちは あんたらするな
 əjjeesu annoo. unjini. ne oj
 あんたらするな えーとあれを」 と かれは言っていた。 「 あれっ
 ne ševelit'sja. (笑い声) … oj xooni. ugdasu
 身動きをするな。 あれっ どのように。 あんたらの舟が
 naa giritai a an … oj giritai (anuwa)
 陸 浜へ あ あの あれっ 浜へ えーとあれして
 anuutaččee (xaawu) xaagduutaččee togda
 えーとあれしてから (着いてもどってから) そのとき
 təədussəərisu. unjini. a nooti xaakčiči.
 あんたらはおきろ」 と かれは言っていた。 そして かれらは 舟をつけた。
 nari anaa čadu. a a tari mapa ooronnee
 人が いない, そこには。 ああ そして あの じいさんが すこしまえに
 (noomboči) noottoiti uččini. mapa unjini. duktakkeeri
 かれらへ 言った。 じいさんが 言うのに, 「自分たちの家へ
 aaptupissaa mittəi duubə ulaaba waagaččeeri ugda dooduni
 着いたら わしへ 二匹の となかいを とり 舟の なかに
 əksəssəərisu geedamba. geeda taagda. staršij oj aagduma i
 おまえら置け, 一匹を。 一匹は 白い。 年上の あれっ 兄の方
 staršij aagduma taagda ulaaba waarini. nəudumə
 年上の 兄の方は 白い となかいを とる。 弟の方は
 peemura. nu oj anu aaŋni ɳənəxəni
 つらがまだらのとなかい。」 さあ あれっ えーとあれ 兄は 行った
 taani. ulaa baraa. (ta u) taagda ulaaba
 だろう。 となかいは 多い。 (た う) 白い となかいを
 dapaxani. waaxani. əksəxəni taani ugda dooduni. a
 かれはつかまえた。 殺した。 置いた だろう, 舟の なかに。 しかし
 nəuni əččini bakkaa peemura ulaamba. nooni
 弟は みつけられなかった, まだらづらの となかいを。 かれは
 saarimba waagatči əksəxəni. čowočči tari ugdamba anaači.
 黒いのを 殺して 置いた。 そして その人らは 舟を 押しはなした。

(…) a nooni nooni isuxani. ugda ilaalta xərəlixəni.
そして かれは かれは 帰って来た。 舟は 三回 まわった。

a aaŋni əto (jəə) svoemu devjat'
そして 兄は、 これは 自分のことばで(ロシア語で) 九

po-našemu xuju (je) xujultə xərəlixəni. krug dal
わしらのことばでは 九だ、 九回 まわった。 円を かいたことだ、

i əto. a potom tari nəudumə ilaamba
これは(ロシア語で)。 そして それから その 弟の方は 三

ananee (but) biččini. čowotči nooni buččini. a aaŋni
年 (but) 生きていた。 そして かれは 死んだ。 しかし 兄は

xujumbə ananee biččini. biččini. sama sama sama
九 年 生きていた。 生きていた。 巫者 巫者 巫者に

oččiči duutəŋəsə. čowočči a čadu giridu
かれらはなった、 ふたりとも。 そして そして そこに 浜に

puril tuksakčeeči duu puttə xusə puril.
こどもたちが 走りまわっている、 ふたりの こども 男の こどもたちが。

da aaŋni xəwəčixəndə purilbə, sii suu ŋui
兄が 呼んだんだと、 こどもたちを。 「おまえ おまえら だれの

purilni. amiččii əniččii biinii. unjiči. ii
こども。 父 と 母は いるか。」 かれらは言う。 「はい」 と

unjiini. bii buu amippu namutai ŋənəččeeri
こどもが言う。 「おれの おれたちの 父は 海へ 行って

miigəččeeri əččiči issoo. unjiini. (ət) əččiči issoo.
迷い 帰って来なかった」 と 言う。 「帰って来なかった」 と

unjiini. (əi) gə čowoččeeri tari aaŋni unjiini. suu
こどもが言う。 (əi) さて そして その 兄が 言う。 「おまえら

duktakki ŋənnusu. ənitəkkeeri unusu. čtoby
自分の家へ 帰れ。 自分らの母へ おまえら言え。 つぎのようにするため

anu siduli siduli dugdu əbuddəəni bee
えーとあれ 行者にんにく 行者にんにくが 家に おいてないようにするため

məətələssəərisu. unjiini. (ponjali.)⁶⁾ siduli
おまえらすてておけ」 と かれが言う。 あんたわかったか。 行者にんにく

po-našemu əto luk i čtoby dugdu
わしらのことばで これは luk ねぎ。 i つぎのようにするため 家に

<u>əbuddəəni</u> ないようにするため	<u>əbuddəəni</u> おいてないようにするため。	<u>bee.</u>	<u>oni</u> かれらは	<u>prišli.</u> 来た。		
<u>a</u> しかし	<u>čadu</u> そこでは	<u>nooči</u> ほかの人らが	<u>rodstvenniki</u> 血縁者たちが	<u>mamaŋulbači</u> かれらのつれあいを		
<u>gaččiči.</u> めとっていた。	<u>puril</u> こどもら	<u>ešče.</u> もさらに。	<u>a a</u> そして	<u>geeda</u> ひとりが	<u>kučigəmbi</u> 自分の小刀を	
<u>daparraa</u> つかんで	<u>nəəduxəni</u> 出て来た、	<u>geeda</u> ひとりの	<u>nari.</u> ⁷⁾ 人が。	<u>(noo)</u> かれらは	<u>duutəŋəse</u> ふたりとも	
<u>ŋənuwəči.</u> 帰った。	<u>puttəddəəči</u> かれらの子にするため	<u>nooči</u> かれらは	<u>əto</u> これ	<u>vmeste</u> いっしょに	<u>oj</u> あれっ	<u>ŋui</u> だれ
<u>mamaŋuldoori</u> 自分のつれあいと	<u>gəsə</u> ともに	<u>kamur</u> いっしょとなり	<u>otuwači.</u> もとどおりになった。	<u>konec.</u> おわり。		
<u>oni</u> かれらは	<u>i</u> また	<u>stali vmeste žit'</u> いっしょに暮らしはじめた、	<u>sem'ja ikhnjaja.</u> かれらの家族が。	<u>[ələ]</u> これで全部。		
<u>ələ.</u> これで全部。	<u>[ələ]</u> これで全部。	<u>ona</u> 家族は	<u>bol'se.</u> さらにふえ、めでたし、めでたし。			

- 1) この話は、『川村秀弥採録カラフト諸民族の言語と民族』(北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会 昭和 58 年) 58-61 ページにも、ギリヤークとオロッコから川村氏が採録した 2 編がのり、また山本祐弘著『北方自然民族民話集成』(東京 相模書房 昭和 43 年) 16-22 ページにも、同氏がウイльтаの北川五郎氏から採録した 1 編がオロッコの民話としての。しかし、話の細部は異なる。いずれも日本語で記されている。
- 2) ウイльта語が口からすら出ずこまっている。
- 3) ここでウイльта語の霧の語が思い出せず、話がすすまない。waanđamari から duu までの間ことばがとぎれて 1 分近くが経過した。聞き役の池上が思いあまって tamna (霧) と言っている。
- 4) ウイльта語の buwaata (島) の語がなかなか思い出せずにいる。
- 5) jəə (この) のかわりに əri (この) とあるのがいいだろう。
- 6) 聞き手の池上へ気を配っての質問。
- 7) 井上絃一氏が聞いたところによると、死んだと思った兄の妻と結婚した弟が殺されるかと思いい、小刀をもって出て来たのだという。ウイльта族でもおこなわれるレヴィレート婚の 1 例といえよう。

4. 石になった妻

O.N.Semenova 口述

<u>gə</u> さて	<u>nari</u> ある男が	<u>duuži</u> 二人	<u>mamaŋulu</u> つれあいをもって	<u>biččini.</u> いた。	<u>nuljixəni.</u> 引越しをした。
-----------------	---------------------	--------------------	-----------------------------	------------------------	------------------------------

ɲənəxəni unnee soloi. a tak gora gora duwweetəini adautai.
 行った、 川を 川上へ。 そうして 山 山の おくへ アダウ川へ。

əri bara ryby ndaxani. ¹⁾ [xurəə tawweetaini] xurəə
 これは たくさん さかな …しに行った。 山の 向こうへ 山の

tawweetaini. xurəə (ロシヤ語で) gora uččimbi. ga
 向こうへ。 山を (ロシヤ語で) 山と わしは言ってしまった。 さて

ɲənəxəni. ga geeda mamaɲuni poroktuuluxani.
 行った。 さて ひとりの つれあいが わがママをしだした。

əsini təərə. aundakkoo anduwačceeri (tə) aundagači. geeda
 起きない。 円錐形家屋を つくって 泊まったのだ。 ひとりの

molodoj mamaɲulu geeda sagji mamaɲulu. gə sagji
 若い つれあいと ひとりの 年とった つれあいとで。 さて 年とった

mamaɲulu aurini. [duuji asilu.] aurini.
 つれあいはい 眠っている。 ふたり 妻をもっている。 眠ったままだ。

duuji asilu. (ii.) ²⁾ ʃə aurini. aurini.
 ふたり 妻をもっている。 そうだ。 さて 眠りつつける。 眠りつつける。

aurini. čii əsini təərə. gə təəru. əsini təərə.
 眠りつつける。 ずーっと 起きない。 「さて 起きろ。」 起きない。

gə čii owočči dolbojillaa. ɲənneelapu.
 さて ずーっと して 「間もなく夜になる。 おれたちは行く。」

xəməə xəməə xaiwadda əsini undə. iidda aadda
 だまったまま だまったまま なにも 言わない。 うんとも すんとも

anaa. ɲənəxəni. ulaaba wəədəxəni nəəmə
 言わない。 かれは行った。 となかいを かれはおいて行った、 騎乗用くらを

məgdəmbə xaktaani. ɲənəxəni. aaptuxani
 つけたまま 雄となかいを。 かれは行った。 かれは着いた、

annoo kuʃəə kuʃəə ɲaəɲɲooni. taatawa adau
 えーとあそこに クジャー クジャー 川に。 あこそを アダウ川を

soloi waalu ³⁾ soloi kuʃəə ɲaəɲɲooni aaptuxani.
 川上へ ワール川を 川上へ クジャー 川に かれは着いた。

aundaxani. dugji čipal andučini aundakkoo.
 泊まった。 自分の家にするのに 全部 かれはつくった、 円錐形家屋を。

(akpat ak) akpakkačceeri čimai siir təəgəni. o ɲənneesu.
 かれらは寝て 朝 はやく 起きた。 「さあ 行こう。」

sərruuččini mamaṇubi. anaa əsini seetosi.
 起こした, 自分のつれあいを。 いや かの女はちつとも動かない。

xaixakka. nooni buččini xaixanneejjuu. anaa
 どうしたか かの女は 死んだのか どうしたのかしら。 いや

liisini ooronnee dolbo. gə oo
 いびきをかいている, 先刻 夜。 さて さあ

ɲənətəəl. xaktaani wəədəgəči
 かれらは行っちゃったのだ。 雄となかいを かれらはおいて行った,

nəəmə məgdə. ɲənəgəči geeda mama (asi)
 騎乗用くらを つけたまま。 かれらは行った, ひとりの つれあい

purigəndumə asimuna purigəndumə asijjəə. (ponimaeš.)
 若い方の 妻と, 若い方の 妻ともども。 おまえわかるか。

[ponimaeš. saarini. saarini.] (saarinda.)⁴⁾
 おまえわかるか。 かれはわかる。 かれはわかる。 かれはわかるんだと。

gə purigəndumə asimuna ɲənəxəni. (o radio somindau.)⁵⁾
 さて 若い方の 妻と かれは行った。 おー ラジオ とめに行け。

gə ɲənəxəni. gə aaptuwači. aaptuwači annoo.
 さて かれは行った。 さて かれらは着いた。 着いた, えーとあそこに。

ooronnee unini naa gəlbeəni xooni uččimbi bitəə,
 さっき その川の 土地の 名を どう わしは言った のだったか。

kujəə uṇaəṇṇooni aaptuwači. oo moonuṇji annoo
 クジャー 川に かれらは着いた。 さあ 自分の棒で えーとあれを

aundakkoo andubuṇji seesiṇṇee gəlbeeni.⁶⁾ mamaṇuni
 円錐形家屋を つくるため 骨組みの棒を かれは切る。 かれのつれあいは

anaa. əsini sindaa goroo goroo. gə təgəə
 いない。 かの女は来ない, いつまでたっても。 さて

guigətči dukkoori andučiči. akpaččiči.
 家のおおいをかけ 自分たちの家を かれらはつくった。 かれらは寝た。

anaa əččini akpanda. ɲənəxəni. itəndəduduxəni
 いや かれは寝なかった。 かれは行った。 見にもどった,

mamaṇubi. ɛto peryyji mamaṇuni bičči
 自分のつれあいを。 これは 最初にめとった かれのつれあい であった,

staryj. ɲənəxəni. ulaabi čiiččini. məəno
 年寄りの。 かれは行った。 となかいを かの女は放してあった。 自分は

anaa いない, əəktə. 女は。 gə さて xədə 風よけのおおいは xədəppulə 風よけのおおいをしたのは
 čitu すっかり biini. ある。 məənə 自分で čup すがたを消して əəktə 女は ɲənəxəni. 行ったきりであった。
 anaa. いない。 əri これは xoottoi どちらへ ɲənəxəɲə. かの女は行ったか。 gə さて
 əččini かれはさがし出せなかった。 gələktəə. ɲənuxəni かれは帰った, geedaduma 一方の mamaɲutakki. 自分のつれあいへ。
 aldurrilami. 「おれは知せるぞ。 ee いやでも sapsiirilami. 7) おれは知せるぞ。」 と mərəčixəni. かれは考えた,
 naadailtaini. 「かの女の男兄弟へ。」 brat'ja 兄弟だ nooči. かれらは。 aagiltaini 「かの女の兄へ aagiltaini かの女の兄へ
 aldurrilami. おれは知せるぞ。」 xaimi どうして taraɲači そのように oini. する。 daaxidu 8) ダーギに biččiti いたのだ,
 nooči. かれらは。 gə さて čup すがたを消して ɲənəəti. 行ってしまった。 gə さて
 gələəktəndəduduxəni かれはまた捜しに行った, čimanaani. 翌日。 ananee (翌)年 gələəktəxəni. かれは捜しまわった。
 əččini かれはみつけれなかった。 bakkaa. anaa. いない。 čowočči そうして goroo 長く bigəčči いて
 gələəktəndəduduxəni かれはまた捜しに行った, gočči 翌 ananneedda. 年も。 əjil omgoo. かれは忘れられない。
 mamaɲubi 自分のつれあいを xooni どうして oɲbollini. かれが忘れる。 gə さて araa あれまあ geeda 一つの jolo 石
 jolo 石が ərəɲəči こんなように xaiddaa 大きい jüini mootoi 木へ peeččilagatči よりかかって təəsini すわっている,
 jolo. 石が。 təəsini. すわっている。 gə さて uččini かれは言った,
 mamaɲutakki. 自分の(若い方の)つれあいへ。 ɲənuxəni かれは帰った bitəə. のだった。 əə 「ああ
 jeepu うちの者が jolo 石に oččinee. なったぞ。 jolosuxani かの女は石にした」と unjini かれは言った,
 məəpi. 「自分を。」 vse ravno いつまでたっても əɲə sindaa. かの女は来れない。 gə さて tari その

mama	əsigdəə	(čər)	tari	ǰoloŋuči	čəəwut	oččini	gəgdək
つれあいは	いまや		その	かれらの石は		…た。	いつも
čəəwuččiči.			əri	sinaxudu.		sinaxudu	
かれらは供えものをしている。			これは	シナホド氏族だ。		シナホド氏族が	
biini	ǰədu.	ŋui.	<u>Len'ka</u>	əmuukəə	goči.	<u>odin</u>	
いる、	ここに。	だれが。	リョーニカが	ひとり	ね。	ひとり	
<u>odin</u>	<u>čelovek</u>	<u>tol'ko</u>	<u>ostalsja</u>	sinaxudu		<u>Len'ka.</u>	
ひとりの	人が	ただ	残ったのだ、	シナホド氏族が、		リョーニカが。	
e	e	ěto	tarisal	pooči.	[…]	bii	xanđami
えー	えーと	これは	その人たちの	血縁者だ。		わしは	どうして
sinaxudu	sinaxudu		balǰixambiga.			<u>tol'ko</u>	
シナホド氏族、	シナホド氏族に		生れたか。(わしじゃない)			ただ	
ənəkə	sinaxudu	biččini.	sinaxudu	puttəni.			
かあさんが	シナホド氏族	だった。	シナホド氏族の	子だ。			
patalaŋuni.	uul	maŋga	mapala	puttəni.	gə	čowočči	
むすめだ。	ウール	マンガ	じいさんからの	子だ。	さて	そうして	
waalutai	əuduxəni.		aajiltaini	uččini.			
ワール川へ	かれは下つてもどった。		かの女の兄たちへ	かれは言った。			
anagəə	pundadusu	čup.		gələdumi			
「いないんだ、	あんたらの妹は	すがたを消して。		さがし出すことが			
albaxambi.	əččimbi	bakkoo.		gə	ǰolloo		
おれはできなかった。	おれはみつけられなかった。」			さて	「石を		
baaxambi	uččini	ǰolloo.	geeda	ǰolo	mootoi		
おれはみつけた」	と かれは言った、	「石を。	ひとつの	石が	木へ		
peeččilagačči	əraŋəči	təəsini	ǰolo	<u>kamen'.</u>	(ǰolloo		
よりかかって	こんなように	すわっている、	石が	石が。」	石が。		
utullisii. ⁹⁾	eeji.	ǰolo	oččini.	gə	čii		
あんたわかるか。	あれあれ。	石に	かの女はなった。	さて	ずーっと		
gəgdək	məətaččiči.	dəppee	gami	arakkee	olbimari		
いつも	かれらはなげ与えている。	食べ物を	買い	酒を	もって行って		
əwweedu	waaludu	olbimari	čəəwuččiči	čala.			
こっちに	ワール川に	もって行って	かれらは供えている、	そこに。			
anu	goropčinne	xaalanda	musimba	musikkaččeeri	čala		
えーとあれ	むかしの人が	ずっとまえ	寄せものを	つくって	そこに		

mæətəlleeci.	alukkutai	əksəəččeeri	əkseeči	čadu.	ɲussaa
なげ与える。	ちやわんへ	おいて	かれらはおく、	そこに。	はて

dəpturrə	dəpturrə	xaimi	xairraa.	gə	čii
食べたり	食べたり	なににして	なににしたりするのか。	さて	ずーっと

biini.	gə	tari	tari	ʃolo	əsərai	oččini	əsərai.
それはいる。	さて	その	その	石が	身重に	なった,	身重に。

[gəlbuni.]	anaa ¹⁰⁾	(put)	puttəni	tarika.	(a)	əʒini
その名まえか。	いや		子だ、	その女の。		かの女の夫が

andučini	biččini	taani.	daaji	oččini	<u>uže.</u>	gə	puttəni
つくったの	だった	ろう。	大きく	なった、	すでに。	さて	その子は

(bak) xamaruujī andučini. puttābi dapuččeeni
あとで つくったのだ。 自分の子を かの女はつかんでいる。

arəŋəɕi.	puttəlu.	dapuččeeni	puttəbi.
こんなように。	こどもがある。	かの女はつかんでいる、	自分のこどもを。

gə	čii	čəəwuččiči.	čii
さて	ず一つと	かれらは供えものをしている。	ず一つと

čəəwɯčči:či.	gə	əri	jədu	ɲuikəɳə	biččini.
かれらは供えものをしている。	さて	これ	ここに	だれが	いた

Ikèvkè. ¹¹⁾ ɲuikəno familjani. [əsiwi saara.]
イケフケだ。 なんていう 姓。 わしは 知らない。

Innokent'ev.	Ikèvkè.	əsiwi	saara	ənnə.	ooksee
インノケンチエフだ。	イケフケ。	わたしは知らない、		かあさん。	おや

xai	<u>Innokent'ev.</u>	¹²⁾	<u>Ikëvkë</u>	...	əri.	...	<u>Ikëvkë.</u>	tari
なに	インノケンチエフ。		イケフケ		これは。		イケフケ。	それが

gaduxani	jolloo.	jolloo	gaduwat <i>či</i>	museet <i>əi</i>	buux <i>əni</i> .	<u>vot</u>
もって来た,	石を。	石を	もって来て	博物館へ	かれは贈った。	ほら

<u>èto</u>	<u>kamen'</u>	<u>kamennoo</u>	<u>gaduxani.</u>	<u>tjaželo.</u>	<u>tari</u>	<u>puttəbi</u>
この	石	石を	かれはもって来た。	重い。	それは	自分の子を

çii	dapuččeeni.	museetəi	buuxəni.	naxulakkadu ¹³⁾	<u>ili</u>
ずーっと	つかんでいる。	博物館へ	かれは贈った。	ノグリキに	か

<u>Aleksandrovskdu</u>	biini	taani.	[puttæni]	jolloo
アレクサンドロフスクに	それはある	でしょう。	その子をも	石をも

mæəəə	jolloo	čipal	<u>celikom</u>	gaduxani.	buuxəni
自分で	石を	全部	そのまま残らず	かれはもって来た。	かれは贈った、

<u>Ikévké.</u> イケフケは。	[adau ... アダウ川	jolloo] 石を	a え	[xurigəndu tuu xur...] 山に		
xurigəndu 山に	xurigəndu 山に(あって)	taatari 遠くのそれは	jīŋ 大変	goro. 遠い。	waraska ワラスカ	uŋaa 支流
uŋaa 支流	təktə 断崖の	ojoduni 上に	əməččeeri 本流	uni いや	uŋaa 支流は	jəkki ここを通過して
xəjjeeni 流れている,	tawasai あちらへ	dərəl 川口の上の波のないところ		jəkki ここを通過して		
daarutai 支流の川口へ	unitai 本流へ	waalutai ワール川へ。	gə さて	waraska ワラスカは	gəlbuni その名だ,	
[uŋaa] (t) 支流の	uŋaa 支流の,	(ii) ¹⁴⁾ そうだ。	čadu そこに	biččini. かれはいた。	tari その	nari 人は
aundačixani. 寝泊まりしていた。	tari その	əəktə 女は	jolo 石に	oččini なった,	čadu. そこで。	čowoččeeri そうして
əri だれもが	ŋuiddə 行って	ŋənəməri 御馳走をした,	ugoščali そこで。	čala. 酒を	arakkee	
olbikkaččeeri もって行って	čala そこに	[xuuljiči] かれらはあける	xuuljiči. かれらはあける。	(də)		
musikkaačči 寄せものをつくり	musimba 寄せものを	əkseeči. かれらはおく。	dəppee 食べ物を	raznye いろいろの		
kašalba 御飯を	xailba なにかを	varigaččeeri 煮て	əkseeči かれらはおく,	čadu. そこに。	ŋussaa はて	
dəpčini 食べるのか	anaa 食べないのか,	tari その	əəktə. 女は。	yot ほら	čaa その	kammenoo 石を
gaduxani. かれはもって来た。	muzejtəi 博物館へ	buuxəni. かれは贈った。	əsi いま	məənə 自分のものは		
geedda ひとつも	anaa. ない。	orki. わるい。	naadu 土地に	biččimbə あつたものは	əburi dappaa. とらないことだ。	
grekh. 罪だ。	mundu わしらでは	[suŋnuuli] ばちがあたる	suŋnuuli ばちがあたる,	ənnəuri. ばちのあたることだ。		
[...] (ŋussaa はて	noomboni.) かれを。	[...]	a しかし	lilak リラク	mama ばあさんが	(bul)
bulkutənnēe 死んでから	gaduxanee かれはもって来たんだね。	goči. その	mama ばあさんが	biččini いたん		

bipee əjiləəni gaddoonda. əsi staryj jolo.
 だったら もって来させなかったろう。 いまや 年とった 石。

[lilak mama ŋui tari.] ačinika noonjini
 リラク ばあさんとは だれ それは。 妻の祖母 かれの,

Ikəvkəijəəŋi. ¹⁵⁾ amičči amičči amini ee amičči
 イケフケたちの。 かれらの父 かれらの父の 父 いや かれらの父の

ənini lilak mama biččini. məəno Katja ¹⁶⁾ gəlbulu. vot
 母が リラク ばあさん だった。 自分は カーチャの 名をもつ。 ほら

tari [xoʃixani] xoʃixani [təəluŋu gəə] gəə tari
 それは おわった おわった, むかしばなしは そら そら その

təəluŋu.
 むかしばなしは。

- 1) ここは完全な文をなしていない。
- 2) 聞き手のひとり M.S.Mikheeva さんがはさんだことばをくり返し言って肯定の応答をしている。
- 3) ワール(地名)。ウイльта名 Waalu, ロシヤ名 Val.
- 4) 聞き手のひとりの池上がわかるかとの質問と応答。
- 5) 隣室で音がしているラジオをとめに行けと言っている。
- 6) クジャー川に来る途中, 前の宿営地で年とった方の妻が寝たきり起きないのをおいて来たことが, ここまでに重複して語られている。
- 7) sapsii-は, ロシヤ語の soobščit' (知らせる)をウイльта語の動詞語幹にしたもの。
- 8) ダーギ(地名)。ウイльта名 Daaxi, ロシヤ名 Dagi.
- 9) 池上への質問。
- 10) M.S.Mikheeva さんの発言に対して否定の応答をしている。
- 11) Ikəvkə は I.Ja.Fedjaeva さんのロシヤ字表記による。ただし, ウイльта語の名まえか。
- 12) この人の名を, 聞き手の I.Ja.Fedjaeva さん(語り手の娘)や M.S.Mikheeva さんはそれまで知らなかったようである。
- 13) ノグリキ(地名)。ウイльта名 Naxulakka, ロシヤ名 Nogliki.
- 14) M.S.Mikheeva さんが言ったことばをくり返し, 肯定の応答をしている。
- 15) 聞き手からの質問への応答。
- 16) リラクばあさんの別名。

5. 叙情歌 1

金ナツ子 口唱

bii ui[i]ltaa[a] patala[a]nee[e].
 わたしは ウイльтаの むすめ。

(aund) siigəni kilto kilto[oo]. ana[a]ni[ii]
 耳かざりが キーラ キラー。 首かざりが

kilto	ki[i]lto[oo].	čaa	naritai[ii]
キーラ	キラー。	あの	人のところへ
ηə[ə]nə[ə]mee[e]		xooni	unjiwigəə[ə].
行って		どう	わたしは言うの。
ilamaugbanee[e].		duu	i[i]laa[a]
はずかしいわ。		二	三
anani[i]du[uu]		taniji[i]mi[ii]	
年のうちに		なれて	
ulingaji	bibuddəere[e].		
しあわせで	あるために。		

6. 叙情歌 2

小川ハツ子 口唱

bii	uilta	patalani[i]k	kə.	məŋumə	siigəmbi[i]kə
わたしは	ウイルタの	むすめ。		銀の	わたしの耳かざりや
suurakta	anaambi[i]kə		kilto	kilto[o].	
玉のついた	わたしの首かざりが		キーラ	キラー。	
čaa	gasattai[i]kə	miirəm	ηənəpeekuu		
あの	村へ	およめに	行ったら		
čaa	nariwa[a]ka	xooni	xəwəččiwiijjuu.		
あの	人を	どう	呼ぶかしら。		
mərəčimiddəəkə	ila[a]mausiwi[i].				
思っても	はずかしい。				
duu	ilaa	ananidu[u]ka	noottoini[i]		
二	三	年のうちに	あの人に		
taniji[i]wi[i]	ulingaji	baljibuddoori[i].			
なれるわ、	しあわせに	暮らすために。			

7. 叙情歌 3

金ナツ子 口唱

[ə]nə[ə]jje[e]	[x]akkaanusalee[e]
ああ	にいさんたちは

xaigakkaligəə[ə] どうしたか,	issiwari 帰って来ると	ukka[ə]ččee[e]ri 言って行って
go[o]rolonee[e]. 長い間。	aundama 冬の	doogdoo[o] ¹⁾ 家で
mambakka[a]ddoočee[e] ²⁾ あなたの手袋を		uttaddoočee[e] ²⁾ あなたのつくを
a[a]ndoomee[e] ³⁾ つくりながら		xalačči[i]wee[e]. わたしは待ってます。
aundau uttənee[e] 家の 戸口を		niigə[ə]ččee[e] 出て
əwəsəki こちらの方を	tawasakee[e] あちらの方を	ka[a]rga[a]mee[e] 見渡して
xalačči[i]wee[e]. わたしは待ってます。		

- 1) doog-は、家の意味の名詞語幹であろうが、ただし、通常形は dug-である。
2) mambakkaddoočee, uttaddoočee の-čee(かれらの)は、-see(あなたの)とあるのがよいという。
3) この動詞の語幹は andoo-とあるが、この動詞語幹の通常形は andu-(つくる)である。

8. 叙情歌 4

小川ハツ子 口唱

akkaanusa(la)li[ii] kə にいさんたちは	purən やまの	baaruni[ii] 方へ
ulaaba[aa] ka となかいを	oroskoondaaččeeri[ii] さがしに行って	
boo maṅgaduni[ii] kə 天気が ひどいとき	xooni どう	biičijjuu[u]. しているかしら。
mərəčimiddə[əə] kə 思っても	meewambi 心が	ənusini[ii]. 痛む。
xaiwaddaa kəə[ə] なにも	ittəuri[ii] kə ¹⁾ みえず	
puundə[ə] 地ふぶきが	maṅga. はげしい。	miigəčixəčijjuu[u]. 道に迷ったかしら。

(ulinga) čawa²⁾ saagačči[ii] kə mərəčixəčči[ii]
 それ(無事)を 知って ほっとし

aldoo kaa[a] ka saagačči[ii]
 便りを 知って

ulingaǵi mərəččiwi[ii].
 安心 しています。

- 1) ittəuriǵi は否定の意味をもつと歌い手は説明してくれたが、筆者はまだ分析ができていない。
 2) さきにひとりがもどって皆無事でいるのを知せたことが歌詞で省略されている。

9. 叙情歌 5¹⁾

O.N.Semenova 口述

taagda gaunai ojodu[u]nee xala[a]čiluxa biččinee
 白い 丘の 上に かれは(しかたなく)待つて いたのね

go[o]roo ənənəə. ə[ə]ččini xalaččee.
 長い間 きのどくに。 かれは待てなかったのね。

biiddəə əsiwi xalaččee. duktakki ɲənni[i]ləmi. suuŋubi
 わたしも 待てません。 家へ 帰ります。 お日さまが

tuuddəəkkəə. ə[ə]sibi xalaččee.
 落ちかかっています。 わたしは待てません。

(daaji sirokku) [əjʃee jəlləndə ənnə.] (笑い声) [daaji…]
 九月 だめよ うそ言っちゃ、 かあさん。 大きい

(daaji daaji gaunai ojodu[u]nee taagda. jəllə. ……
 大きい 大きい 丘の 上に 白い。 うそだ。

xaŋŋaasai ɲənnəumi. na[a]mu[u] goraduni taagda gaunaxi biini.
 まちがえ させて。 海 山に 白い 丘が ある。

əsi bee.) [jəllə.]²⁾
 そうじゃないか。 うそ。

[taagda gaunaxi ojoduniga.] (ii.) xala[a]čiluxa
 白い 丘の 上にだわよ。 そうだ。 かれは(しかたなく)待つて

biččinee go[o]roo ənənəə. biiddəə əsiwi xa[a]laččee.
 いたのね 長い間 きのどくに。 わたしも 待てません。

duktakki ɲənni[i]ləmi. suuŋubi tuuddoekkə. ə[ə]ləxə
 家へ 帰ります。 お日さまが 落ちかかっています。 これで十分で

taanee. ə[ə]lə[ə] jaajjeewi.
 しょう。 これで十分 わたしが歌うの。

anda[a]xa[a]sal doolʃusuu bii jaajjeewawwee. poslednij
 お客さんたち 聞いてください わたくしの 歌うのを。 最後の

golosibi taanee. sagda[a]mida xoʃixa.
 わたしの声 でしょう。 年とって しまった。

gə yse [anaa]
 さあ おしまい。 最後じゃないよ

- 1) 若い男女のデートが行きちがいになった歌。
 2) daaji siirokku からここまでは、歌詞をまちがえ、聞き手の I.Ja.Fedjaeva さん(歌い手の娘)から注意されるが、また二度まちがえるなどの聞き手とのやりとり。

10. 叙情歌 6¹⁾

O.N.Semenova 口述

so[o]roʃee soroʃee. a[a]ja[a] naalbaa²⁾ a[a]ja[a] narilbaa
 ようこそ ようこそ。 よき 人らに よき 人らに

əri baaččiwee.
 これに われは出会う。

so[o]roʃee soroʃee. tarigdaa ulingaa. mindu[u]ləkkə ulingaa.
 ようこそ ようこそ。 それは よき人。 われには よき人。

so[o]roʃee soroʃee.
 ようこそ ようこそ。

a[a]ja[a] ananinubi č[i]p]pal pəisəi tuuxənee. omokorom owoččee
 よき わが年年は すべて 消えうせり。 ひとり身と なり

amɲabi[i]mali kəsələə.
 わが口のみ ことばあり。

a[a]ja[a] biččimbii. ulingaji biččimbii. xaalanda
 しあわせに われはありき。 幸福に われはありき。 はるかなむかし

balʃiŋassaa ənəkəijəə amakaijaa
 世にありしとき 母上 父上

mumbeepə われらを	u[u]ŋi[i]gəčijjuu 育てしか	ŋui たが	u[ŋ]ŋi[i]xənijjuu. 育てしか。	ə[ə]nnəə 母上よ		
	dooljīroo. 聞きたまえ。	amakaa 父上よ	dooljīroo. 聞きたまえ。			
əri この	naa 地の	ojodunee 上に	əmœəkœə ひとり	dərəŋigəččee のこり	xaiddaa なにもかも	či[i]pal すべて
	əsi bee. なし。	biiməli ただわれのみ	taanee. ならん。			

gə
さあ おわり

- 1) この歌は、歌い手が祖母から聞いたものだという。
- 2) naalbaa の naal は naril(人ら)のこと。

11. そりをつくってワールへ行こう

O.N.Semenova 口唱

waalu ワールの	naataini 地へ	ŋənnēeləpœə おれたち行こう,		
oksoobi となかいぞりを	anduwaáččee. つくって。			
waalu ワールの	naataini 地へ	ŋənəbuŋjee 行くのに	oksoobi となかいぞりを	andusi[i]wwee. おれはつくる。
xaikambadda なんでも	təəwələriwwee 積む	oksoobi となかいぞりが	anaga. ないんだ。	

12. おれも いっしょに 連れて行け

A.V.Semenova 口唱

xailaa どこへ	ŋənnēesuwəə[ə] あんたら行くのか	əə[ə] よー
xailaa どこへ	gənnēesuwəə[ə] ¹⁾ あんたら行くのか	əə[ə] よー

xailaa gənnəesuwəə[ə]¹⁾
 どこへ あんたら行くのかよー

baisai dauri[i]poo[o] oo[o]
 向こう岸へ わたしたち渡るの よー

siduxumbə gatanni[i]poo[o] oo[o]
 こけももの実を 摘みにわたしたち行くんだ よー

siduxumbə gatanni[i]poo[o]
 こけももの実を 摘みにわたしたち行くのよー

mimbeeddə orogdusoo[o] oo[o]
 おれも あんたら連れて行けー よー

biiddə ɣənnəeləmee[e] ee[e]
 おれも 行く よー

biiddə ɣənnəeləmee[e]
 おれも 行くー

(əlipəə oogdo) əlipəə o[o]rogdoo[o] oo[o]
 わたしたち連れて行かない よー

ugdapu ələptuxənee[e] ee[e]
 丸木舟が 一杯になったんだ よー

ugdapu daluptuxənee[e]
 丸木舟が 一杯になったのよー

vse
 おわり

1) 語頭の g は ɣ の言い誤りであろう。

13. 踊ろう 踊ろう¹⁾

M.S.Mikheeva 口唱

məurii məurii məuriilə[ə]k[kə]
 踊る 踊る 踊るんだ

joŋʒee joŋʒee joŋʒeelak[ka]
 腰を振る 腰を振る 腰を振るんだ

tawasai poŋʒee əsələmbə loop
 あっちへ ボンジェー とかげを ロープ

	tawasai	ponjee	udalamba	loop ²⁾
	あっちへ	ポンジエー	かえるを	ロープ

loop	loop	məurisəə
ロープ	ロープ	踊ろうよ

məurii	məurii	məuriilək[kə]
踊る	踊る	踊るんだ

bəjəŋŋəəri	xu[u]pi[i]du[u]mə[ə]ree
くまと	戯れ

amba[a]ramjee	məurusəə
うんと	踊ろう

məurii	məurii	məuriilə[ə]k[kə]
踊る	踊る	踊るんだ

jojee	jojee	jojjeelak[ka]
腰を振る	腰を振る	腰を振るんだ

amba[a]ramjee	məurusəə
うんと	踊ろう

məurii	məurii	məuriilək[kə]
踊る	踊る	踊るんだ

jojee	jojee	jojjeela[a]k[ka]
腰を振る	腰を振る	腰を振るんだ

tawasai	ponjee	əsələmbə	loop
あっちへ	ポンジエー	とかげを	ロープ

tawasai	ponjee	udalamba	loop ²⁾
あっちへ	ポンジエー	かえるを	ロープ

loop	loop	məurusəə
ロープ	ロープ	踊ろうよ

loop	loop	məurusəə
ロープ	ロープ	踊ろうよ

amba[a]ramjee	məurusəə
うんと	踊ろう

məurusəə	məurusəə	məu[u]rusəə
踊ろう	踊ろう	踊ろうよ

u[u]liŋga[a]ji	məurusəə
じょうずに	踊ろう

bəjəŋŋəəri xu[u]pi[i]du[u]mə[ə]ree
 くまと 戯れ

ərii ĵiin inəŋidu[u]
 こんなに ながい 一日じゅうを

ərii təəsi[i]puu
 ここに すわっていつづける

ʃappaŋŋooree doodu[u]nee
 天幕の なかで

aundakkooree doodunee
 丸小屋の なかで

sugbuŋŋəoree monima[a]ree
 さけの皮 つぶして

musinŋooree andumaree
 寄せもの つくり

maŋgaa goroo təəsipugəə
 ずいぶん ながく すわっているなー

ərii duxuddooree
 この 家に

məuree məuree məureelə[ə]k[kə]
 踊る 踊る 踊るんだ

ʃoʃʃee ʃoʃʃee ʃoʃʃeelak[ka]
 腰を振る 腰を振る 腰を振るんだ

amba[a]ramʃee məu[u]ruu
 うーんと 踊れ

məuruu məuruu məu[u]ruu
 踊れ 踊れ 踊れよー

gə
 さあ おわり

- 1) くま祭りの踊りの歌。踊りは女子が屋内で踊る。
- 2) これよりまえに歌った同じこの歌では、əwəsai poŋʃee əsələmbə loop, tawasai poŋʃee udalamba loop とあり、このテキストのはじめの tawasai は əwəwəi (こっちへ) の言い誤りであろう。この句は、帯の模様のとかげやかえるを (umuldu biini.), 地面へふり落とす (naatai tukkini.) ほどに踊るの意だという。loop はその落すさま。なお tawasai poŋʃee udalamba loop の第2例は、旋律の上で後半を欠いたような形となっている。

14. 客をもてなす歌

小川ハツ子 口唱

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

andaxasali[i]
お客さんがた

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

sorojee[e]
ごきげんよう

agdapsee
ありがとう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

nimərixəsu[u]
あなたがた訪ねて来られ

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

andaxasali[i]
お客さんがた

sorojee[e]
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ba[a]ja[a]ma[a]ri[i]
ゆたかに

bissərisu[u]
お暮らしてください

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ulinga[a]ji[i]
心をこめて

jaajjeepu[u]
わたくしたちは歌います

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ulinga[a]ji[i]
心をこめて

məuri[i]pu[u]
わたくしたちは踊ります

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ulinga[a]ji[i]
無事に

ɲənuɕsərisu[u]
お帰りください

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

以下削除

15. 子もり歌

小川ハツ子 口唱

bəəbəə ねんねんよ	nəgəni[i] ぼうや	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ
nəəčēetəi 小鳥と	gəi[i]mi[i] 競争して	bəəbəə ねんねんよ	
aami[i]du 眠りに	duulta[a]mi はいつて	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ
amiččii おとうさんは	purən やまの	baaruni 方へ	ŋənəxə[ə]nii 行ったのよ
kəsilə[ə]mi[i] 安心して	auru[u] 眠りなさい	bəəbəə ねんねんよ	

16. 連れ去られた妻をとり返した話

M.S.Mikhēeva 口述

goropčinne 昔の人が	anu えーとあれ	anu えーとあれ	aundau ¹⁾ 丸小屋の	dooduni 中に	biččinində いたんだと、
geeda 一つ	poodu. 所に。	anu ²⁾ えーとあれ	mamaŋulu 女房持ちが	duu ふたり	geedan ひとり
geedan ひとり	geeda ひとり	geeda ひとり	mamaŋulu ³⁾ 女房持ちが	duu ふたり	duunnee ふたり
əə さて	čooččeeri そうして	čari ⁴⁾ その	dooduni 内に	jeembači ⁵⁾ かれらの連れ合いを	əəktə. 女が。
gaattaači 連れ去りに来た、	duunnee. ⁶⁾ 二人の人が。	goi よその	goi よその	narisal 人らが	noomboči かの女らを
aundakkoori 自分らの丸小屋を	wəədəəčči のこして	čadu そこに	məgdəmbə そのまま	məətələəčči すてて、	čadu そこに
aundakkoori. 自分らの丸小屋を。	əə さて	čooččeeri そうして	ŋənəəččeeri 行って	ŋənəəččeeri 行って	ŋənuwəči かれらは帰った
ŋənuwəči 帰った	gaduwači. 連れて行った。	mapaluŋu ⁷⁾ 亭主が	mapaŋuči かれらの亭主が	isuwači 帰って来た、	
duktakkeeri. 自分の家へ。	mamaŋuči かれらの女房が	anaa. いない。	ulaalčidda かれらのとなかいたちも	anaa. いない。	

čipal gaduwači. xaičidda ojoskomboči čipal gaduwači.
 みんな もって行った。 なんでも かれらの家財を みんな もって行った。

əə čooččeeri xamarakkeeči ɣənəəččeeri xamarakkeeri ⁸⁾ ɣənəəči
 さて そうして そのあとをつけて 行って あとをつけて 行った,

čoočči poktokkeeči. ⁹⁾ ɣənuwəči poktokkeeči ɣənəəččeeri
 そして かれらの足跡に沿って。 かれらの帰った 足跡に沿って 行って

ɣənəəči. čooččeeri ɣənəəččeeri iigəči. anuwači.
 行った。 そうして 行って ある家へ入った。 あーした。

aaptuwači. čoočči muuluututəkki. muuluxəmbi ¹⁰⁾ geeda əəktə
 着いた。 そして 自分の水くみ場へ 水くみに行った, ひとりの 女(妻)が

muuluutučəkki ¹¹⁾. čoočči əəktə iindəxəni. xandamari
 自分の水くみ場へ。 そして 女は 家へはいりに行った。 「何しに

sindaxasoo. xandamari sindaxasoo unjini. sumbeepə
 あんたら来たの。 何しに あんたら来たの」 と 言う。 「あんたらを

waarillaa sugdəəkki narisal unjini jədu. ¹²⁾
 殺すでしょう, ならず 者らが」 と 言う, 「ここで。」

sumbeepə waarillaal əsi. xandamari sindaxasuwa unjini.
 「あんたらを 殺すでしょう, 今。 何しに あんたら来たの」 と 言う。

su sugdəəkki ¹³⁾ ambasal əsi xuriaččiči unjini.
 「ならず者の ばけものたちは いま 獲物のけもののおまつりをしている」 と 言う。

xaiwakka waagaččeeri bəjəɣəori xaiwa ¹⁴⁾ waagaččeeri
 何かを 獲って 自分らのくまを 何かを 獲って

xuriaččičinda čaa dukuddoori ¹⁵⁾. oi čooččeeri
 おまつりをしているのだと, その 自分らの家で。 さあ そうして

ii iigəči ¹⁶⁾ čala. ¹⁷⁾ ɣənəəči. čadu əttəuwəčči biččiči
 夫らは入った, そこへ。 行った。 そこで 見まわりをしたうえ いた,

čadu. tari əəktə uččini. əjjeesu sindaa əsi.
 そこに。 その 女は 言った。 「あんたら来ないで, 今は。

sumbeepə waarillaa. səksə səksə biini. biini
 あんたらを やつらは殺すでしょう。 晩 晩 います。 やつらはいます」 と

uččini. səksəə sindassarisu. sindauri beeni səksə sindassaari
 言った。 「晩に あんたら来て。 来る ならば 晩に 来て」 と

unjini. səksəə daa. əsi bii ɣənupee dajjilami unjini.
 言う。 「晩 よ。 今 わたしが 戻れば 隠すつもりです」 と 言う。

lakkəlbəči lakkəlbəči dajjilami¹⁸⁾ xuriaččiduči.
「やつらの矢を やつらの矢を 隠すつもりです、 かれらがおまつりしているときに。」

čooččeeri¹⁹⁾ anuxani taan. iixəni tari. anuxani. iiduxəni.
それから あーした だろう。 入った、 かの女は。 あーした。 戻って入った。

duktakki ɲənuxəni. čoočči xəmə²⁰⁾ xəmə biini. əsini
自分の家へ 戻った。 そして だまって いる。 かの女は

aldurree xaiwadda. čoočči čoočči²¹⁾ geeda nari unjini.
知らせない、 なにも。 そして そして ひとりの 人が 言う。

geeda əəktə mama mama unjini²²⁾ əəwu čootči kučigəmbi
ひとりの 女が 妻 妻が 言う。 さて そして 自分の小刀を

dapaačči kučiləxənee tawakki. tawakki kučiləxənduni²³⁾
取って 刺した、 たき火のなかへ。 火のなかへ 刺したときに

čis sikkəxəni tawani. suɲnee unjini. suɲnuuli
パツと音をたててはじけた、 たき火が。「ばちが当たるよ」と 言う。「ばちが当たることは

anaa əsi unjini tari nari²⁴⁾ suɲnuuli anaa əsi
ない、 今は」と 言う、 その 人が。「ばちが当たることは ない、 今は」

tari. əjje undə. əsi čii sinjeellaal unjini.²⁵⁾
その女が。「言わないで。 今 すぐ やつらは来るでしょう」と 言う。

sinjeellaal²⁶⁾ tari narisal. əə čooččeeri xuraačigaččeeri
「やつらは来るでしょう、 あの 人ら。」 さて そうして おまつりをして

duxuddoori ooččeeri čooččeeri dəptuwəččeeri čawa bejəmbə²⁷⁾
かれらの家で やって そうして 食べ それを くまを

waagatči bitčini taan. xaigatijjuu čawa waagačijjuu.
獲って いたん でしょう。 何してたものか それを 獲ってたものか。

oi čooččeeri diligečee²⁸⁾ tari dəpčiduči bəičixənee
さあ そうして その かれらの食べているとき しのびよった、

tari nari. gə bəičigəči. bəičigəči. bəičigəččeeri
その 人ら(夫)は。 さて かれらはしのびよった。 しのびよった。 しのびよって

čaɲoori garpanačiči. čooččeeri garpanaxaččeeri²⁹⁾ geeda geeda
自分らの相手を なんども射た。 そうして なんども射て ひとり ひとり

geedaduma³⁰⁾ waagači. geedaduma duktakki tutaxani tutami
ひとりの方を かれらは殺した。 ひとりの方は 自分の家へ 逃げた、 逃げて

ɲənəxəni xailakka. tutaxani aundau xopsii³¹⁾ saɲakkeeni nəəgəčči
行った のだから。 やつは逃げた、 丸小屋 穴から 出て

čootči	geedaduma	nari	xasačini	čaŋŋooni	čaa čawa ⁴⁰⁾
そして	(夫の)ひとりの方の	人は	追った,	かれの相手のやつを	その それを
narree.	xasačini	taan	waanɖaxani	xailaxa ⁴¹⁾ .	xasačini xamarakkeeni.
人を。	追った	だろう,	殺しに行った	のだから。	追った, あとから。
čooččeeri	iiduwətči	iiduxəni.	duktakki	əkkəlɓə	gaduxani
そうして	戻って入り	戻って入った。	自分の家へ	女らを	連れ戻した,
duu	əəktə. ⁴²⁾	geeda	nari	ŋənuxəni	duktakki,
ふたりの	女を。	(夫らの)一	人は	戻った,	自分の家へ,
tari	duktakki	ŋənuwəčči.	čadu	biččičee.	ŋənuwəččeeri
その人が	自分の家へ	戻って。	そこに	かれらはいた。	かれらが戻って
biiduči	isuxani	nariŋuči.	xaakpaččimbi		
いるところに	帰って来た,	かれら(夫ら)の一人が。	「おれは追いついた」	と	
unjini.	waaxambi	noomboni.	tari	ələ.	
かれは言う。	「おれは殺した,	かれ(ならず者の一人)を。」	その話は	終り。	
čalaa	biini.				
それまでで	ある。				

この話は 1991 年サハリン北部の Val 村でウイлтаの婦人 M.S.Mikheeva さんから録音採録した。

- 1) anu と言いかけ, 改めて aundau と言った。
- 2) anu mamaŋulu から duu əəktə までが, どんな意味を表わすかは, はなはだあいまいである。この話は一つの家に同居する二組の一夫一妻の話とみるが, あるいは一夫一妻とは異なる関係にある男女らが一つ家に住んでいたのかは, 二三人のウイлта婦人にもこの録音を聞いてもらったが, 明快な答は得られなかった。
- 3) lu のつぎに li のような音が不鮮明に聞こえる。複数を示す接尾辞か。
- 4) 指示代名詞 tari(それが)やこれと同根の語の頭音の t [t] は, 対格の čawa(それを)などの斜格形の頭音と混同して č [tʃ] と発音されることがある。
- 5) jeembači と noomboči の間に短く一語あるが, その語がなにかはいまだ不明。なお, tari dooduni とそのあとの jeembači 以下との文法的関係が, 不明であるが, その語がわかれば解けるかもしれない。
- 6) goi goi の前に一語あるが, 小声で聞きとりにくい。duunnee(二人)か。
- 7) mapaluŋu は言い間違い。
- 8) ここの xamarakkeeri(自分らのあとを)は xamarakkeeni(かれらのあとを)の誤り。
- 9) ŋənuwəči の前に[j]のような音が聞こえるが不鮮明である。
- 10) muuluxəm- には第 1 人称単数語尾 -bi が付くので, ここは muuluxəni(-ni は第 3 人称語尾)であった方があとに自然につづく。
- 11) muuluutučəkki の -čəkki は muulututəkki の指向格語尾 -təkki の t が č に発音されたものであり, 注 4 も参照。
- 12) jədu と sumbeepə の間に xo のような音がある。
- 13) su と言いかけて, 改めて sugdəəkki と言っている。
- 14) xaiwa のつぎに l のような音がある。

- 15) ただし dukuddoori の k は明瞭には聞こえない。
- 16) ii と言いかけて、改めて iigəči と言っている。
- 17) čala と ɣənəəči の間に e の音がある。
- 18) dajjilami のあとに d ではじまる音連続がある。
- 19) čooččeeri と anuxani の間に on のような音がある。
- 20) xəmə のまえにすでに一回 xəməらしい小声が聞こえる。
- 21) čoočči のあとに音があり、čoočči のくり返しだろう。
- 22) geeda nari (ひとりの人が)をəəktə(女が), さらに mama(妻が)と言い改めている。
- 23) čis のまえに小さく[te]の音がある。
- 24) tari nari は、刺した人(女)をさす。
- 25) unjini と sinjeellaal の間に音があるが、言語音ではないだろう。
- 26) sinjeellaal と tari の間に音があるが、言語音ではないだろう。
- 27) bəjəmbə は、はじめの b も明瞭には聞こえない。ここの語意は広くけものであるかもしれない。
- 28) ここの語がどんな語か同定できていない。
- 29) garpanaxaččeeri (かれらがなんども射て)の x の音は注意に値する。
- 30) geedaduma がなかなか口に出ず、geeda をくり返したあとその語を発している。ここでは geedaduma は形容詞であって、名詞の対格形ではないとみる。つぎに narree のような対格の名詞が落ちていとみられる。
- 31) ここにある語の語形・意味はまだ確定できない。
- 32) əčči のような音のくり返し。擬態語か。
- 33) tari nari と言ったのを言い直して tari əəktəと言っている。
- 34) gadu と言いかけて切り、改めてその語の全体を発音している。
- 35) gadu gadu と二度言いかけて切り、改めてこの語の全体を発音している。
- 36) pulim(歩いていて)は、聞き手のウイльтаは、pəlim(急いで)と言った方がいいと言う。
- 37) 聞き手のウイльтаたちは、このような前後関係では oččini(なった, した)とは言わないと言う。
- 38) ɣuiddə(だれも)は、聞き手のウイльтаによれば、対格形の ɣuiwəddə(だれをも)を使うところであると言う。
- 39) čawa(そこを)のつぎに小声で ki の音がある。これは čawa を改めて直して言った čakki(それに沿って)の čak が聞こえず、そのあとの ki だけが聞えるのであろう。
- 40) čaa(その)を言い替えて čawa(それを)と言ったが、さらに čaa につなぎ直して narree(人を対格形)と言ったのだろう。
- 41) xailaxa と聞こえるが, xailakka のことだろうか。なお、聞き手のウイльтаは、普通こうした文脈では waɣdaxani taan, xaixanijjuu(かれは殺しに行ったろうか、どうしたろうか。)と言うと言った。
- 42) geeda の前に či のような音が小さくある。

第 3 部

Orok Texts

with English Translation

Preface

Orok (=Uilta) is a dialect of Tungus, which is spoken in Sakhalin. The present Orok texts were collected by me in Hokkaidō from two Orok women, Napka and Kayo. They were both born about 1910 in southern Sakhalin and emigrated to Hokkaidō in 1947. They speak Orok and Japanese. I present here the texts which I recorded with a tape recorder in 1955 and 1956, and supplement them with some parts of the same texts dictated to me in 1949, 1950 and 1951.

Orok has the vowel phonemes /ə, a, o, ɐ, u, i, e/ and the consonant phonemes /p, t, č, k, b, d, ʃ, g, m, n, ɲ, ŋ, l, r, s, x, w, j/. On the phonemics and grammar (morphology) of Orok, cf. the following works:

A.NAKANOME, *Grammatik der Orokko-Sprache*, Osaka, 1928.

J.IKEGAMI, *Uilta-go Jiten (A Dictionary of the Uilta Language Spoken on Sakhalin)* (Sapporo, 1997), pp.xi-xxi.

———, *Tungūs-go Kenkyū (Researches on the Tungus Language)* (Tokyo, 2001), pp.3-135.

In Orok a word-final phoneme, especially *i*, or word-finals which exist in a word said by itself are often dropped when the word is said together with other words, especially in fast speech before another word. The following are examples from the present texts.

kongor=*kongori* ‘a kind of seal’, *um*=*umi* ‘while saying’,
puttəb=*puttəbi* ‘one’s own child’, *gorop*=*goropči* ‘old-time’.

Besides, *t* appears often instead of *č* which is immediately before the dropped word-final or word-finals. E.g. *mapaat* = *mapaačča* ‘old man’, *mooluutudut* = *mooluutuduči* ‘at their fire-wood cutting places’.

The Orok ending *-nda* (∼*-ndə*) ‘it is said (that), I am told (that)’, which we find usually at the end of a sentence in these texts, is left untranslated throughout in the English translations below.

1. A Fox

The informant Napka.

1. goropčinnee saxurixani saxurindamaa 2. daa xaǰilaččee 3. geeda
suli namu kirraani dөөrөхөніndə 4. geeda wasaa gasa sindaxanindaa
5.sullee taapalarraa nammoo taisai orokčiniindaa 6. nammoo taisai orokkočči

namu buwaatattain tugbuxənindəə 7. suli namu kirataini əurrəə soḡoxonindaa 8. ammaijaa ənnəijəə naaduči biwwiləxəmbə sijoo sijoo wasaa əpəə pukuuxəni sijoo sijoo um soḡoxoninda suli 9. geeda koḡori agbiččinindaa 10. jeeji sulee xaim soḡeese 11. soḡeewii bii 12. jaajjaamee goči 13. čaəḡaamee goči uččinindəə 14. koḡor čuup iidxənindəə 15. suli gočiddaa soḡoxonindaa 16. ammaijaa ənnəi naaduči biwwiləxəmbə sijoo sijoo wasaa əpəə pukuuxəni sijoo sijoo um soḡoxonindaa 17. koḡor gočiddaa agbinduxanindaa 18. jeeji sulee xaim soḡeese 19. soḡeewii bii 20. jaajjaamee goči 21. čaəḡaamee goči uččinindəə 22. koḡoree ĵeesilči barai 23. min ĵeesilbi nammoo čakkagəə biiči 24. sulee ĵeesilči barai uččinində koḡori 25. min ĵeesilbi jəə buwaatamba čakkaa biiči uččindəə 26. koḡoree ĵeesilbi gaanduu 27. biiddəə ĵeesilbi gaanĵittaa uččində suli 28. koḡor čuup iidxəndəə 29. suli čakki bultai pukčixəndəə pokto baramban andumi 30. tədəddəə koḡori nammoo čakkagəə agbiččičindaa 31. saa sulee ĵeesilči uččinində koḡori 32. simbee xalačimĵee idamar gəəm ḡənuwəči uččində suli 33. koḡoree xoonee baraččoo 34. bii taunĵittaa 35. əmmənĵəər əmmənĵəər um tauččinindaa 36. əmmənĵəər əmmənĵəər taumi məən naatak dauduxanindaa koḡorree taumi

37. gočiddaa namu kirraan dəərəxənindəə suli 38. geeda əmməə baaxanindaa 39. dəptuitəxənindəə 40. simbee əsiw dəpəəndə uččinindəə 41. dəənnəe gəjjisuu 42. sinĵii dabdapee dəpəəḡittə uččinində əmə 43. suli bultai pukčixənindəə 44. əmə suli xudutəin liḡasi daksaxanindaa 45. pukčigəəččə pukčigəəčči xamasai itəduxənindəə 46. taa dulleeləni əmə saa sulee mimbee dabĵisi uččinindəə 47. tamačču suli gočiddaa guuliččindəə suli 48. gočiddaa suli xudutəin liḡasi daksaxanda əmə 49. suli bultai pukčixəndəə 50. pukčigəət pukčigəəčči xamasai itəduxənindəə 51. xamasai moris itəduxənindəə 52. əmə gočiddaa taa suli dulleeləni saa sulee mimbee dabĵisi uččinindəə 53. suli əmməə əm dəpturəə xoĵixaninda 54. əməĵi dabdaxanda suli

55. tamačču ĵobbee mapaačča kaattuwanbi itəndəduxəmbən baaxanindaa akpaččimbani itəndəduwəčči 56. ĵobbee mapaat buččinii boglosi 57. booktonĵeeduu boglosi 58. naa illuumbənii boglosi um soḡoxonindaa 59. lalunĵ buččini umbummii mauriḡulluu suḡunĵi buččini umbummii nauktanullu soḡoxonindaa suli 60. bəjə baran bəjə sindaxanindaa 61. sirə baran sirə səəpə baran səəpə məədəə baran məədəə xələ baran xələ sindaxačindaa 62. xaiddəə bəjəni mastaa bara sindaxačindaa 63. mapaaččamba ĵilin niruktəni taundun ḡaalan taundun ḡaalan kotoon taundun bəḡĵini taundun bəḡĵini kotoon taundun xosiktan taundun dapaačindaa tətəwən taundun 64. čakkagəə dapagaččeeri duktain iraduwačindaa 65. ĵobbee mapaat duktaini čakkaa iigəčindəə 66. mamaḡun nəərrəə čokkombii utəbbii gəəm dakkačixanindaa 67. mamaḡumuna paačimari waagačindaa mastaa baramba 68. čikəə biččinində goropč saxuri

Translation

1. The following is a fairy-tale which men of old told. 2. *Daa xaŋilaččee*.⁽¹⁾ 3. A fox prowled about for food on the seashore. 4. A bird, a *wasaa*, came. 5. It clutched the fox and brought him out to sea. 6. It brought the fox out to sea and dropped him on an island in the sea. 7. The fox went down to the seashore and cried. 8. The fox cried, saying, "I wish I were in the land of my father and mother, *sijoo sijoo*."⁽²⁾ Yet a *wasaa* has carried me off, *sijoo sijoo*." 9. A seal⁽³⁾ appeared. 10. "Hallo, Fox! Why are you crying?" 11. "Am I crying? 12. I am singing. 13. I am *čaŋa*-ing,"⁽⁴⁾ said the fox. 14. The seal popped in. 15. The fox cried again. 16. He cried, saying, "I wish I were in the land of my father and mother, *sijoo sijoo*. Yet a *wasaa* has carried me off, *sijoo sijoo*." 17. The seal appeared again. 18. "Hallo, Fox! Why are you crying?" 19. "Am I crying? 20. I am singing. 21. I am *čaŋa*-ing," said the fox. 22. "Seal! Have you many companions?" 23. "I have my companions all over the sea. 24. Fox! Have you many companions?" said the seal. 25. "I have my companions all over this island," he said. 26. "Seal! Fetch your companions. 27. I will also fetch my companions," said the fox. 28. The seal popped in. 29. The fox ran there with all his might, leaving many tracks. 30. Really! Seals appeared all over the sea. 31. "Fox! Well, what about your companions?" said the seal. 32. "Having waited for you in vain, they have all gone back," said the fox. 33. "Seal! How many of you are there? 34. I will count. 35. One,two. One, two," he said and counted. 36. Counting the seals: "One, two. One, two," he went back across the sea to his country.

37. Again the fox prowled about for food on the seashore. 38. He found a shell-fish.⁽⁵⁾ 39. He set about eating it. 40. "I will not allow you to eat me," said the shell-fish. 41. "Let us two race. 42. If I am beaten by you, I will allow you to eat me," said the shell-fish. 43. The fox ran with all his might. 44. The shell-fish stuck fast to the tail of the fox. 45. After having run and run, he looked back. 46. Far away in front of him the shell-fish said, "Well, Fox! You will beat me, eh?" 47. After that the fox started again. 48. The shell-fish stuck fast to the tail of the fox again. 49. The fox ran with all his might. 50. After having run and run, he looked back. 51. Turning round, he looked back. 52. Again, far away in front of the fox, the shell-fish said, "Well, Fox! You will beat me, eh?" 53. The fox ended without eating the shell-fish. 54. The fox was beaten by the shell-fish.

55. After that he found a poor old man who had gone back to look after his trap (for catching foxes), who had gone back to look after it and had lain down. 56. "The poor old man died, *boglosi*. 57. *Booktonŋeeduu boglosi*. 58. *Naa illuumbānii boglosi*,"⁽⁶⁾ the fox said and cried. 59. "Although one may think that he died of hunger, he has slices of fish. Although one may think that

he died of cold, he has dry grass in the boots (for keeping out the cold),” the fox said and cried. 60. Many bears came. 61. Many wild reindeer, many sables, many otters and many squirrels came. 62. All kinds of beasts came in very large numbers. 63. They held the old man by each hair on his head, by both of his hands, by each finger of his hands, by both of his feet, by each toe of his feet, by each nail and by each piece of his clothing. 64. They held him by every part and carried him back to his house. 65. They entered the house of the poor old man and crowded into it. 66. His old wife went out and covered both the smoke hole and the doorway. 67. He and his old wife struck and killed a great many beasts. 68. So that was the old fairy-tale.

Another text of the same fairy-tale dictated to me in 1950 gives the following more detailed account: *koŋgori j̄iliduni taasumi pukčimi tauččini* ‘Treading and running on the heads of the seals, he counted.’

This fairy-tale is also found in :

M.TAKAHASHI 高橋盛孝, *Karafuto Giryaku-go* 樺太ギリヤク語 = The Gilyak Language of Sakhalin, Osaka, 1942, pp.128-129, 131-133.

On the first part of this fairy-tale, cf. the tale of the White Hare of Inaba in *Kojiki* 古事記, one of the Japanese classics.

- (1) The introductory words of a fairy-tale (*saxuri*).
- (2) *sijoo* is the cry of the fox. *əpəə* in the text is obscure in meaning.
- (3) *Phoca hispida ochotensis Pallas*.
- (4) *čaaŋa-* is obscure in meaning.
- (5) *Cryptochiton stelleri Middendorff*.
- (6) *boglosi*, *booktonjēduu*, and *naa illuumbəni* are obscure in meaning but cf. *boo* ‘heaven’, *naa* ‘earth’.

2. Devils’ Doing

The informant Kayo.

1. ənijjəətəkki nimərimi ɲənəxənindəə ulaaʃi puttəbi oroŋmi 2. ulaabi bookki uigəčči puttəb atuwačči iiwuxənindəə əmuwə məgdəmbə 3. nari mastaa bara biččičindəə 4. tutadumi ɲənuxənindəə 5. čimanaan čimai itəndəduxəni 6. xaiddaa anaandaa 7. soŋomi ɲənuxənindəə

Translation

1. She went to visit her own mother and her mother’s family on a reindeer, bringing her own child. 2. She tied her reindeer outside the house, unbound

her child and let it in with the cradle. 3. A great many people were there. 4. Fleeing back, she returned. 5. She went back to see it early on the next day. 6. There was nothing. 7. She returned with tears.

This incident was caused by *čagdu* ‘a kind of devil’,⁽¹⁾ which ate the child.

(1) Kayo uses this form, but Napka uses another form *čagju* with the same meaning.

3. The Conflict between Ainus and Oroks

The informant Napka.

1. goropčidu kuujjii uiltəə waaligači təəluŋundəməə 2. goropčinne uilta geeda duxu biččinindəə 3. puttəni dəə xusə puttə biččinindəə 4. nəudumə puttəni duridu biččinində 5. aagduma puttəni ambaa daajindaa 6. andailli kuuji nimərixənindəə 7. təjəbuŋji čaiwa puijuuxənində 8. čaiwa puijuuwəčči təjəxənindəə 9. ulaa numissəəni təjəxənində 10. əmiddə dəptə ŋənuxənindəə andailli andaxa kuuji 11. tar xamarakkeen puttəmunə niməribuŋji dəəbə ulaaba dapaxanindaa 12. dəə ulaaji nimərigəčindəə puttəmunə kuuji gasattain 13. kuuji gasambani aaptuwačindaa 14. aaptuwat kuuji bookkeekkeeni əksəxənindəə ulaabi 15. puttəb əttəuwəəččində 16. puttəb əttəuwəə andailbi duxutaini iixənində 17. iigəčči təəŋdəxənindəə 18. geeda mama soŋomii əəktənnə alimattoon miinəččinindəə 19. tamačču ulaabi itəndəŋŋiləmi uččində 20. aapumb dapaduxandaa 21. tamačč nəəduxəndə 22. ulaatakki isuxanda 23. puttəmunə məən məənə ulaatakkeeri uuduwačindaa 24. tamačču tuksaudum tutaduxanda 25. isuxan 26. čaa dolbonne kuuji kaalčičindaa 27. kaalkaččeeri gidaji gidamar waaričindaa 28. gidaji gidamar waariduči aagduma puttəni kəikkəi nilau əltələkki pəččəxənindəə 29. tuksam ŋənəxəndəə ulaab okkotoin 30. ulaabi doom tuksaanda 31. kuuji taagda soondoo pukčīn uməri itəčigəčindəə puttə tukseewan 32. tamačču kuuji ŋənuxənduči duktakki isuxanindaa 33. aminnii əninni xaaan buččil 34. duridu bii nəuni bultai soŋoxonindaa 35. nəuwi təəwuxəndə duriduuni 36. nəuni kosonji anaalundaa 37. kuuji gidani kosondulan turpaččinda 38. tamačču ulaa kəəmbəni kəkkəuxəndəə 39. ulaa xumambani kəkkəuxəndə 40. kəəččəəčim uŋixənində 41. nəun ambaa daaji oččindaa 42. ulaa ojoduni təəluxənində 43. tamačču doro naataini ŋənnəenindəə 44. dorolo ŋənəgəčči nəuw uŋixənində 45. nəuniddəə daaji oččinda 46. nooniddaa daaji oččindaa 47. nari suuwani aaptuwačinda daaji omori 48. tamačču naatakki isubuŋji ulaabi silmačinda kəələ ulaaba 49. geeda xaktawwəə geeda namiwwəə silmačininda 50. aŋdainneepa geedanneepa ŋeelaččinindaa doro

naalani aldoo gadubuddooni 51. tamačču xakta ulaa puḡḡapukkeeni əninə səəppəə uixənindəə 52. nami ulaa puḡḡapukkeeni amina səəppəə uixəndə 53. tamačču dolbonjin inəḡijin dolbonjin inəḡijin tuksauduxanda xamačikkaaddaa lamussooddaa xamačikkaaddaa boowoddoo gəəm luktulimi 54. tamačču isumi səəktə naataini isuxanindaa 55. tamačču saudaanula manaxanda kuujjee 56. tamačču mutudumi kuuji nəətəin manaxanda 57. suḡdattaa ločokkeenneepa siikkeeč gidam waaxanda 58. moo moolisinneepa mooluutudut waaxanda 59. čadu geeda kuuji biččinindəə 60. buččinnee xoldoskotoini ḡənəxənində 61. geeda burigbəə geeda tadawwə dapaxanindaa 62. dapiččinda garpabuḡji 63. xulin təktəsi xətudəxəndə 64. tamačču tau duwətəin manneeduči geeda mama kəsəni biččinindəə 65. nimmaa naaxuu kəttəḡ kəttəḡ um činəpundəm soḡoxonda duxu dooloni 66. geeda patala biččinindəə kuuji xaapan patala ajani patala 67. čaa patallaa pulləuwəčindəə kuujjee manamari 68. čaa patallaa pulləuwəččeeri doro naataini gaduxandaa 69. doro naataini gaduwačči əəktəə bəəmi əəktəə činəpulləuččindəə 70. čikəə biččində gorop təəluḡu

Translation

1. The following is the legend about the conflict between Ainus and Oroks in old times. 2. There was an Orok of old in a house. 3. He had two sons. 4. The younger child was in a cradle. 5. The older child was somewhat bigger. 6. A friend of his, an Ainu, visited him. 7. He made tea in order to treat the visitor. 8. He made tea and treated him. 9. He offered him the stomach of a reindeer. 10. His friend, the visitor, the Ainu, went back without eating it. 11. After that he caught two reindeer in order to visit the Ainu with his child. 12. He and his child visited the Ainu village on the two reindeer. 13. They arrived at the Ainu village. 14. They arrived and left their reindeer outside the house of the Ainu. 15. He had his child watch them. 16. He had his child watch them and entered the house of his friend. 17. He entered it and went to sit down. 18. An old woman was weeping and cutting the uterus of a woman. 19. After that the Orok said, "I will go to look after my reindeer." 20. He took his cap again. 21. After that he came out. 22. He came back to his reindeer. 23. He and his child each remounted their reindeer. 24. Then making them rub back, they fled home. 25. They came back. 26. During the night Ainus stole up to the Oroks' house. 27. They stole up and, piercing them with spears, killed them. 28. While they were piercing them with spears and killing them, the older child leaped up, stark-naked, through the part above the doorway. 29. He went running to the pasturage of his reindeer. 30. He ran among his reindeer. 31. The Ainus saw the child run, saying that a white fawn was galloping. 32. After that, when the Ainus had returned, he came back to his own house. 33. His father and mother were already dead. 34. His younger brother who was in the

cradle cried bitterly. 35. He helped his younger brother rise from his cradle. 36. The younger brother has a necklace with metal ornaments. 37. The Ainu's spear had been stopped by the metal ornaments. 38. Then he made him drink reindeer milk. 39. He made him suck reindeer marrow. 40. He made him drink and nursed him. 41. His younger brother grew somewhat bigger. 42. He began to get on a reindeer. 43. Then he goes to the northern region. 44. He went to the northern region and brought up his younger brother. 45. His younger brother grew up. 46. He also grew up. 47. They grew up and reached man's estate. 48. After that they selected their reindeer — speedy reindeer — so as to come back to their native place. 49. They selected one male and one female. 50. He had a man — a man belonging to a different clan, to keep company — in order that he bring word to the northern region. 51. After that they tied a female sable to the whip for the male reindeer. 52. They tied a male sable to the whip for the female reindeer. 53. Then making their way all through deep snow and any weather, they made them run back night and day, night and day. 54. Then coming back, they returned to Shisuka.⁽¹⁾ 55. Then they exterminated Ainus to Niitōi.⁽²⁾ 56. After that turning back and advancing towards the Taraika-gawa,⁽³⁾ they exterminated them. 57. Spearing them, they killed the men who were angling for fish and pushed them into their ice holes (for fishing). 58. They killed the men who were cutting fire-wood at their fire-wood cutting places. 59. There was an Ainu there. 60. He went to the coffin of a dead person. 61. He took one bow and one arrowhead. 62. He drew the bow in order to shoot. 63. The bowstring snapped off. 64. After that, while they exterminated Ainus, advancing towards Cape Kita-shiretoko,⁽⁴⁾ the words of an old woman were heard. 65. She said, “Still *naaxuu*,”⁽⁵⁾ and wept, walking *køttøŋ køttøŋ*⁽⁶⁾ with a stick inside the house. 66. There was a girl, an Ainu beauty, the prettiest girl of girls. 67. They exterminated Ainus but spared the girl. 68. They spared the girl and took her to the northern region. 69. They took her to the northern region and made her attend a woman when she was given in marriage. 70. So that was the old legend.

According to another text of the same legend dictated to me in 1951, the Oroks exterminated Ainus and burnt their houses. The passage of the text is as follows :.....*kuujjee manamari dugbači dægjičiməri*..... .

This legend is also found in:

S.ISHIDA 石田収藏, *Orokko to Ainu to no Ikusa Monogatari* オロッコとアイヌとの戦物語 = Story of the War between Oroks and Ainus, *Jinruigakuzasshi* 人類學雜誌 (*The Journal of the Anthropological Society of Nippon*), No.294, Tokyo, 1910, pp.476-477.

A. NAKANOME 中目覺, *Karafuto no Hanashi* 樺太の話 = Essays on Sakhalin, Tokyo, 1917, pp.78-83.

J. BATCHELOR, *Ainu Life and Lore*, Tokyo, 1927, pp.29-33.

T.SEKIGUCHI 関口龍嗣, *Orokko Soga Monogatari (Taraika Ainu to Orokko no Tōsō)* オロッコ曾我物語(多來加アイヌとオロッコの闘争) = The Soga Story of the Oroks—The Conflict between Taraika Ainus and Oroks, *Karafuto Jihō* 樺太時報, No.38, Toyohara, 1940, pp.62-67.

E. ISHIDA 石田英一郎, *Hōryō Minami-Karafuto Orokko no Shizoku ni tsuite*(1) 邦領南樺太オロッコの氏族に就いて(一)= On the Clans of Orokko of Sakhalin(1) [*Minzokugaku-nempō* 民族學年報 (Annual Report of the Institute of Ethnology), Vol.Ⅲ, Tokyo, 1940-1941], pp.369-371.

- (1) Поронайск.
- (2) Новое.
- (3) The water-course which connects Lake Neva (озеро Невское) and Patience Bay (залив Терпения).
- (4) Cape Patience, мыс Терпения.
- (5) According to the informant, this word is a corruption of the Orok word *naaluu* 'raw'.
- (6) The sound of tapping with a stick.

4. Riddles

The informant Napka.

goropčinneē gajauxani gajaundamaa

I . 1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. boo toptonŋoor 3. naa toptonŋoor 4. xaigəək 5. toksiik unuu 6. boo unigərinnee suŋdatta xəsiktənnii 7. toksiik

II.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. nammoo taisai geeda xočči taptaččini 3. tari xaigəək 4. dargi laaxuniik

III.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. xujunnee jilimačigači 3. xaigəək 4. toksiik unuu 5. aundau čokkoniik

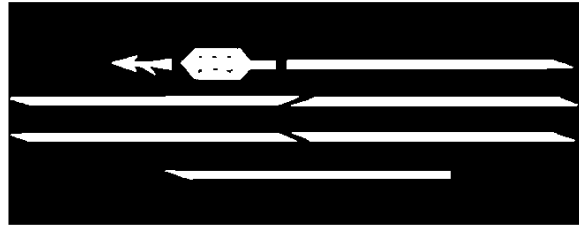
IV.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. amimbii ənimbi andučimbani doorimmaa əmi itəṛəə sagdaččini 3. tari xaigəək 4. atta doorimaniik

V.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. axaa xalačču 3. nuxəə xalačču 4. tari xaigəək 5. giraxxuriik

VI.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. geeda omoo kiraduni xujunnee xuju urəktəji sapčigaači 3. xaigəək 4. isal sirumuktaniik

VII.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. dəə kada aldaakkeeni iirəə geeda koŋgori buunixəni 3. xaigəək 4. peumburiik

VIII.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. amimbii ənimbi andučimbani jawaamba əmi itəṛəə sagdaččini 3. xaigəək 4. seenkəək



Figures of a harpoon for catching seals — the head of a harpoon (*Jogbo*) (upper left), a board for floating (*laaxu*) (upper center), and shafts (*dargi*) — after cut-outs by Napka.

IX.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. nammoo taisai tangu daa maatuŋi maatulapula
3. xaigəək 4. piiriktəək

X. 1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. taagdannee moo iwəčirräə səəgdənee
moo iwučirräə 3. tari xaigəək 4. kərəktuu sinnuu

XI.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. geeda omoombo čakkagəə xujuu bəkkə
čolmoowoči 3. tari xaigəək 4. ənuwə puisiniik

XII.1. gaŋ gaŋ gajawoo 2. pəduu kumultə poktoni nəmdəə uuwu kumultə
poktoni darammii 3. tari xaigəək 4. pəduu kipərruu uuwu kipərruu

Translation

The following are the riddles put by men of old.

I. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!*⁽¹⁾ 2. In heaven there are spots. 3. On earth there are spots. 4. What are they? 5. Riddle me. 6. The stars in heaven and the scales of fish.⁽²⁾ 7. Correct.

II. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. A merganser fluttered out to sea. 3. What is it? 4. The board (float) attached to the harpoon (for catching seals).⁽³⁾

III. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. Nine men bumped their heads together 3. What is it? 4. Riddle me. 5. The smoke hole of a conic hut.

IV. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. He grew old without seeing the path which his own father and mother had made. 3. What is it? 4. The path on the back (the furrow down the middle of the back).

V. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. Wait, older man (elder brother). 3. Wait, younger woman. 4. What is it? 5. Walking.

VI. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. Nine men whipped the border of a pond with nine willow sticks. 3. What are they? 4. Eyelashes.

VII.1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. A seal went between two cliffs and howled. 3. What is it? 4. Breaking wind.

VIII. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. He grew old without seeing the *ǰawaa*⁽⁴⁾ which his own father and mother had made. 3. What is it? 4. The ears.

IX. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. A lasso a hundred fathoms long has been thrown out to sea. 3. What is it? 4. A crack in the ice.

X. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. A white man cleaves wood and a red man puts in wood. 3. What are they? 4. Teeth and tongue.

XI. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. Crowding in a pond, nine hunchbacks bend and stretch their bodies. 3. What is it? 4. A pot bubbles.

XII. 1. *Gaŋ gaŋ gajawoo!* 2. The trace of the lower fur-lined ski is narrow and the trace of the upper fur-lined ski is wide. 3. What are they? 4. The lower rack (over a fire for making smoked fish) and the upper rack.

Gilyak and the other dialects of Tungus have some riddles which are identical with or similar to the Orok riddles given above. They are found in the following:

1. P. SCHMIDT, op. cit., pp. 232-233.

2. Г.М.Василевич, Сборник материалов по эвенкийскому (тунгусскому) фольклору, Ленинград, 1936, pp.133-135.

3. М.ТАКАНАШИ, op. cit., pp.113-116.

4. Т. ХАТТОРИ 服部健, *Giriyāku—Minwa to Shūzoku* ギリヤーク—民話と習俗 = The Gilyaks—Their Legends and Customs, Sapporo, 1956, p.129.

On I, cf.No.3 in 1.

On II, cf.No.16 in 3.

On III, cf.No.29 in 2.

On IV, cf.No.12 in 3.

On V, cf.No.5 in 1 and No.17 in 3.

On VI, cf.No.12 in 2, No.9 in 3 and No.3 in 4.

On VII, cf.No.17 in 3.

On VIII, cf.No.11 in 3.

On IX, cf.No.10 in 3.

On X, cf.No.2 in 2, No.1 in 3 and No.1 in 4.

Dr.R.AUSTERLITZ has shown me a manuscript of Gilyak riddles he collected in 1954 and 1956. Among these some are identical with or similar to III, V, VI, X and XI.

(1) Introductory words for riddles. *gajawoo* is the exclamatory form of *gajau* 'riddle'. *gaŋ* is a kind of reduplication of *gajau*.

(2) In 1949 and 1955, I received another answer to this riddle: *boo unigərinnii naa siduxunnii* 'the stars in heaven and the berries on earth'.

(3) See the figures on page147.

(4) The informant seems not to know the meaning of *ǰawaa* with certainty. She said that it may mean 'ear'. Cf. Olcha *džaua* 'hats or coverings for the ears in cold weather' according to P. SCHMIDT (ŠMITS), *The Language of the Olchas* [Acta Universitatis Latviensis VIII. Rīgā, 1923], p.248.

初出

第 1 部

- 1, 2, 3, 6, 23, 26 —— オロッコ族の民話とうた数例 (民族学研究 27/4 1963 年 11 月 30 日), pp.21-32.
- 5, 8, 15, 16, 20, 21, 22, 25, 27 —— オロッコ族の口頭文芸 (ユーラシア文化研究 1 1965 年 11 月 5 日), pp.137-171.
- 10, 17 —— オロッコ語研究のための資料 (北海道大学文学部紀要 25 1970 年 3 月 30 日), pp.29-55.
- 7, 9 —— オロッコ民譚 (金田一博士米寿記念論集 三省堂 1971 年 10 月 15 日), pp.866-886.
- 24 —— オロッコ族の歌謡 - オロッコ語歌詞の韻律論的分析 (北方文化研究 8 1974 年 3 月 27 日), pp.1-12.
- 14 —— ツングース語学入門 (古代の東アジア世界 読売新聞社 1975 年 11 月 10 日), pp.225-267.
- 4, 11, 12, 13, 18 —— ウイルタ口頭文芸原文集 [池上二良採録・訳注 北海道教育委員会および網走市北方民俗文化保存協会 1984 年 3 月, x ページ+100 ページ].

第 2 部

- 1-15 —— ウイルタ語テキスト (サハリンの少数民族 [文部省科学研究費補助金 (国際学術研究) 研究成果報告 (1990-1992) 研究代表者 村崎恭子 (横浜国立大学教育学部) 1993 年 3 月]), pp.73-103.

第 3 部

- 1, 2, 3, 4, 第 1 部 19 —— Orok Texts (*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 17 1958), pp.85-95.

増訂 ウイルタ口頭文芸原文集（ツングース言語文化論集 16）
（「環太平洋の言語」成果報告書A2-013）

**Uilta Oral Literature: A Collection of Texts (Publications on Tungus
Languages and Cultures 16)**
(ELPR Publications Series A2-013)

発行日	平成14年 3 月31日
刊行責任者	大阪学院大学情報学部 文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究（A）『環太平洋 の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』」 領域代表 宮岡伯人 総括班代表 崎山 理・遠藤 史（編集担当） 〒564-8511 吹田市岸部南 2 丁目36-1 TEL: 06-6381-8434 （代表）（内線5058）
採録・訳注	池上 二良
印刷	中西印刷株式会社 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 TEL: 075-441-3155 （代表）

Published: March, 2002

Project Director: MIYAOKA, Osahito

Editorial Board: SAKIYAMA, Osamu, and ENDO, Fubito (Assistant)

Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Areas (A)
The Japan Ministry of Education, Science, Sports and Culture
Endangered Languages of the Pacific Rim
Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University,
2-36-1 Kishibe Minami, Suita, Osaka 564-8511, JAPAN
TEL: +81-6-6381-8434 (extension: 5058)
E-mail: elpr@utc.osaka-gu.ac.jp

Translation and Annotation: Ikegami, Jirô

Printed by Nakanishi Printing Co., Ltd.

Shimotachiuri Ogawa Higashi, Kamikyoku, Kyoto 602-8048
TEL: +81-75-441-3155

ISSN 1346-082X

Copyright is jointly held by all the authors.